紙のプロレス RADICAL

No.8

この春、マット界に何かが起こる!
格闘技世界大戦、前夜!!

驚 ヒクソンとの再戦が実現!
高田延彦・独占激白!!

4・4
ドームに集え
“イノキ者”!!



桜庭和志・凄玉の微笑
戦闘スマイル全開!!

アントニオ猪木
脳髄に刻み込め!
現役最後の過激な闘魂!

殺りくの
絶好調
連載!!

前田日明
のメガバトル人生相談

格闘家から見たプロレス!
エンセン井上

村浜武洋

パンクラス
革命始動! 柳澤龍志

バトラーツ、みちプロネタも味わい深く掲載中!!

●アンケート大特集●
リアル・四角いジャングル!
本格的ボーダレス時代到来!
マイク・タイソン
プロレス登場を解剖せよ!

昭和の新日魂
ここにあり! 木村健悟

女子プロ蔑視をブチ破れ!
玉田凛映&府川唯未

紙のプロレス RADICAL No.8
格闘技世界大戦、前夜!!

発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-0014 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体648円+税

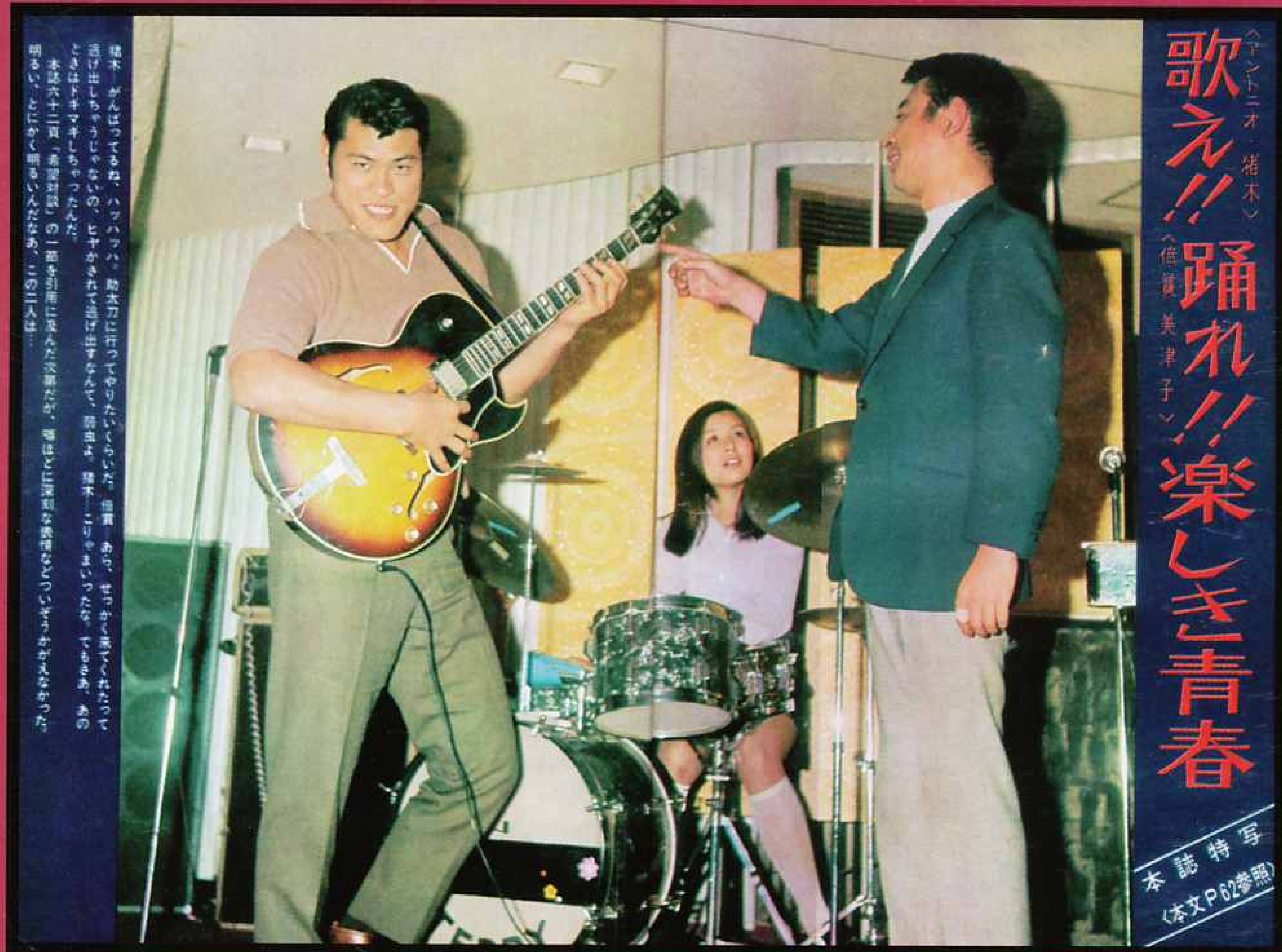

格闘技界、再び動く。
1998年3月15日(日)/横浜アリーナ
開場15:00 試合開始17:00
主催:KRS 後援:PerfecTV! 協力:メディアファクトリー
◎入場料金(全席指定・消費税込み)●RRS<ロイヤルリングサイド>100,000円(特典:リングサイド3列以内を必ず確保、公式パンフレット・オリジナルグッズ付、専用入場口有り、記念入場パス進呈、フェアウェルパーティー参加券付)●SRS<スペシャルリングサイド>30,000円(4列〜11列以内)●RS<ロイヤルシート>20,000円●SS15,000円●S10,000円●A 7,000円●B 4,000円
ただいま、チケット絶賛発売中!!
■ローソンチケット 03-3569-9900(Lコード=37449)
■チケットセゾン(スポーツ専用) 03-3250-9911
■板橋大山アメリカン 03-3962-6443
■後楽園ホール 03-3817-6092
■チケットぴあ 03-5237-9999
■CNプレイガイド 03-5802-9999
■書泉ブックマート 03-3294-0011
■公武堂 052-241-2511
■チケットぴあ(スポーツ専用) 03-5237-9977
■レッスル渋谷 03-3464-0078
■チャンピオン 03-3221-6237
■サークルK 052-585-3666
■チケットセゾン 03-3250-9999
■レッスル池袋 03-3989-0056
■チケットトラベルT-1 03-5275-2778
■横浜アリーナ 045-474-4000
◎お問い合わせ:KRS 〒108-0074 東京都港区高輪2-17-13 テイケン東京ビル7F TEL:03-5475-5800 FAX:03-5475-5801
※PerfecTV! 111chにて独占生放送決定!お問い合わせは、カスタマーセンターTEL:0570-039-888 ペイ・パー・ビュー方式(¥2,000)
※(株)メディアファクトリーよりドキュメント完全検証版オフィシャルビデオ「KRS-PRIDE,1の証明」を1/18より全国格闘技ショップ、大手書店にて発売中
また、オフィシャルビデオ「KRS-PRIDE,2全試合結果速報版」、オフィシャルブック「KRS-PRIDE,2オフィシャル速報ブック」を発売予定
参戦決定選手
RENZO GRACIE
ヘンゾ・グレイシー[ブラジル]
VS
SANAE KIKUTA
菊田 早苗[日本]
AKIRA SHOJI
小路 晃[日本]
VS
JUAN MOTT
ジュアン・モット[アメリカ]
RALPH WHITE
ラルフ・ホワイト[アメリカ]
VS
WILLIAM ROOSMALEN
VERNON "TIGER" WHITE
TASIS "TOSCA" PETRIDIS
MARCO RUAS
VS
GARY GOODRIDGE
桜庭和志 電撃参戦決定!!
KAZUSHI SAKURABA
桜庭 和志[日本]
KRS
PRIDE.2
初代K-1王者
Branko Cikatic
ブランコ・シカティック[クロアチア/チャクリキ・タイガージム]
VS
第14.15回UFC王者
Mark Keer
マーク・ケアー[アメリカ/フリースタイル・レスリング]
KRS代表幹事
黒澤 浩樹
KRS
PRIDEシリーズサポーターズソング
by. Hound Dog
伝説の拳は、リアル・アメリカン・ヒーローに届くのか?


ANTONIO INOKI

格闘技
世界大戦
前夜!!

4・4ドーム！
プロレス者よ、
渾身の力を込めて
アントニオ猪木との
最後の"闘い"に挑め!!

バンドにいそしむ「元気」なアントン＆ミッコ元夫婦。ミッコは最近、ガン手術を克服していたことがわかった。しかし、つくづくエネルギッシュな二人の人生である（1970年発行の『プロレス＆ボクシング』誌より）





格闘技世界大戦前夜!!

アントニオ猪木

gefrom anton

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／浜田孝一
photographs by Koichi Hamada



21世紀へ


98・4・4——"イノキ"は絶滅せず!!

闘魂つるべ打ち!!

我々の細胞に無数のドラマとハプニング、そして夢と感動を刻み込んだグレイテスト・レスラー、アントニオ猪木が遂にリングを降りるときがやってきてしまった。闘魂伝授か、お祭りか、それとも以前から言われているように、本当に猪木はマットに這いつくばって死んでゆくのか——。当日はモハメド・アリをはじめ猪木とゆかりのある人物が勢揃いしそうな雰囲気だが、単にしんみりして終わりということは絶対にないはずだ。むしろ最後だからこそ何が起こるかわからない！　4・4ドーム！　プロレス者よ、渾身の力を込めて、アントニオ猪木との「最後の闘い」に挑め！

the last&first message f

the last&first message from anton
アントニオ猪木



格闘技世界大戦前夜!!

――実は、4月4日に猪木さんが引退試合を行うと発表されてからも、現時点ではなぜか不思議と感慨というか寂しい気がしないんですよ。

猪木　ンムフフフ。

――で、今日のテーマは、実は猪木さんの今後ってことなんです（笑）。

猪木　いいですよ！　佐山もタイガーキングになったように、俺も**イノキング**にでもなろうかと思ってね。**ダーッハッハッハ。**

――ガハハハハハハ！　イノキングですか！　で、まずは世界格闘技連盟がマット界でどんな渦を巻き起こして、どんな広がりをもっていくのか非常に興味があるんです。

猪木　まあ、何かを立ち上げる時、**全部が出来上がってからスタートするっていう人生観じゃないんでね。**アクションあるいは言葉が先になるというか、そっから踏み出すっていう感じになるんでね。だから、まぁ、今日も佐山が来てましたけど、**「いいんだって好きなことやりゃあ」**って言ってね。

――ガハハハハ。好きなことやりゃあ。

猪木　最初から手を決めちゃうとこれからの広がりが苦しくなるでしょ。ただ、基本的には**21世紀型の格闘技**とでもいうのかな。プロだかアマチュアだかわかんなくなってきてしまった時代の中でピラミッド型とでも言っていいのかね。**要するに最高のプロの格闘家がいて、その下にセミプロ的なものがあって、みんなそれぞれが大きな夢を持ってると。**例えば「もうちょっと背が大きかったらプロレスラーになりたかった」とか、そういう夢は持ってたけど諦めたというか。それをまったく体験できないような環境がいままであってね。やっぱりそういうものも自由に体験できるような環境作りをしていこうと。でもそれが営業的に成り立っていかなきゃいけないだろうし、そういう「連盟」という構想が一つできて、それから**衛星放送時代**というものとマッチすることによって、いろんな格闘技を紹介することができるんじゃないかと。それが考えてたことなんですが。

――佐山さんという貴重な人材もいますが、佐山さんは元気ですか？

猪木　**少し太り過ぎ**かなあ（笑）。

――ガハハハハハ。やっぱり（笑）。

猪木　ただ、いま彼はいろいろ格闘技方面で自分が体験してきて、いわゆる情報屋とでも言うのかね。

――格闘情報屋ティグレって感じですか（笑）。

猪木　そう、格闘情報というかね。俺なんかそういう面では非常に疎いというか、無関心というか。そういう意味では大変いい刺激をもらってるんですよね。と同時に、やっぱり彼の世界はまだまだ視野が狭いというか。ある時に「あっ！　そんな可能性があったんだ」という**気づき**をさせてくれる出会い、あるいは生まれてきた喜びを感じさせてくれる出会いがある。それはアントニオ猪木との出会い、あるいは小川という存在を含めてね。そういう出会いの中で、**小川直也**というものを**これ**からアドバイスしながら、そういう喜びを感じるとこにようやく差し掛かってるのかなと。

――相変わらず、甘い物は食べているんでしょうか（笑）。

猪木　でしょうね、内緒で。それもだから、自分との闘いというね。非常に厳しい、妥協は許されないね。俺なんかも**4月4日に引退興行なんかしなくてもいい**んですけどね。

――いや、ぜひマット界とかファンの細胞を叩き起こしてほしいですね。

猪木　しなくてもいいんだけど、一つの区切りというか。これはやはり皆さんに対しても、新日本に対してもある意味の恩返しと言っていいのかな。でも、その時に自分に対して課されるものっていうのは凄く厳しい！　ただ非常に厳しいけど、**俺は糖尿病とい**

元気があればなんでもできる！ 健康でなくちゃ絶対ならんというか！

う大病を一回経験したことによって、大変自己コントロールというものを学んだ。自己コントロールって何だって言ったら食べるものだろうね。あるいは運動であったり。そういうものに対する欲望をある意味では制限できる体験をしたしね。佐山にとっても、**あのまま太ったまま**でいたら当然成人病が起きる可能性もあると思うし。そういう意味では、**「健康」でなくちゃ絶対ならんというか！「元気」があればなんでもできるというか！**

――元気があればなんでもできる！

猪木　そういう意味で**元気が売り物**じゃないと。いくら「強い」とかなんだとか言ったたって、見るからに「なんだこいつ、病気じゃないの」っていうのがいるじゃない？

――ガハハハ。いますね（笑）。

猪木　名前は挙げないけどね（笑）。それじゃあ**夢を売る商売**としては、うん。

――その夢っていう部分でいうと、格闘技連盟は何を仕掛けていくんですか。

猪木　より絞り込んでいけば、**アルティメットであるとか、K―1であるとかがプロレスと交わえるようなイベントができたら面白ぇんじゃねぇかなと。私はもともとプロレスですから、**いまのプロレスに対して、まあ、かつては不満も言いましたけども、不満を言うよりも、要するにプロレスというものが隆盛になればなるほど、そこにあった**本来の魂というか精神みたいなものが薄れていく。**これは俺だけじゃなくて、周りのマニアックな人たちが強く感じてることだろうと。しかし、現実にいま我々が、その世界にいるとそういうものを半分わかって半分わかってないというか。要するに**防衛していくために、そういう批判的な言葉に対して耳を傾けない**というか。

――つくってきたものを発展的な意味で壊すという発想がないですね、いまのマット界には。

猪木　もっと言い方を変えりゃあ、「興行ができてるんだから、いいじゃねえか」という結論に達してしまうんだけど。まあ、それも一理あるんです。興行が成り立ってるんだから。ただ、忘れてはいけないことが、魂の部分、まあ最近になって猪木イズムみたいな形になってますけど。もともと**格闘の原点を遡っていくとローマ時代**の頃になりますけども、それを細かく紐解いていくといまとまったく変わりない！　もともと異種格闘技なんだね。剣を持った奴、弓を持った奴、槍を持った奴と、それぞれが自分に合った武器を持ってね。

――おのおの得意なスタイルで。

猪木　うん。それは非常に参考になったというか。結局これから格闘技というかプロレスが繁栄を続けていくとすれば、何を忘れちゃいけないかというと多分**スピリットの部分。**これはまあ、力道山プロレスというかアメリカと違うね。やっぱりアメリカは何回か日本に仕掛けてきましたよね。WWFもWCWも。ある意味、魅力的な市場であるけども、それを入れさせない。我々が入れさせないんじゃなくて、ファンがね。

――100％受け入れられない部分がありますよね。

猪木　そこんとこがね、多分、文化の違いだろうって気がするんですよ。我々はその**格闘文化**というものがなんであるかということを忘れなければ、彼らがいくら**世界戦略を狙ってきても**動じる必要はないだろうし。ただ、それを見失った時にそれこそアメリカのプロレスに駆逐されるというんであれば、まだいいんだけど、そうじゃなくて**衰退していく可能性を非常に**強く感じるんだよ。だから、これは一つの例として言えば、彼らがヨーロッパへ進出していきました





よね。これが繁栄していく形であれば俺たちも認めるんだけど、結果としてプロレスが衰退していくというか。この前も**インド**に行ってきましたけど、WWFが興行を打って、4000人しか入らなかった。

——4000人！　謙虚ですね、WWFも！

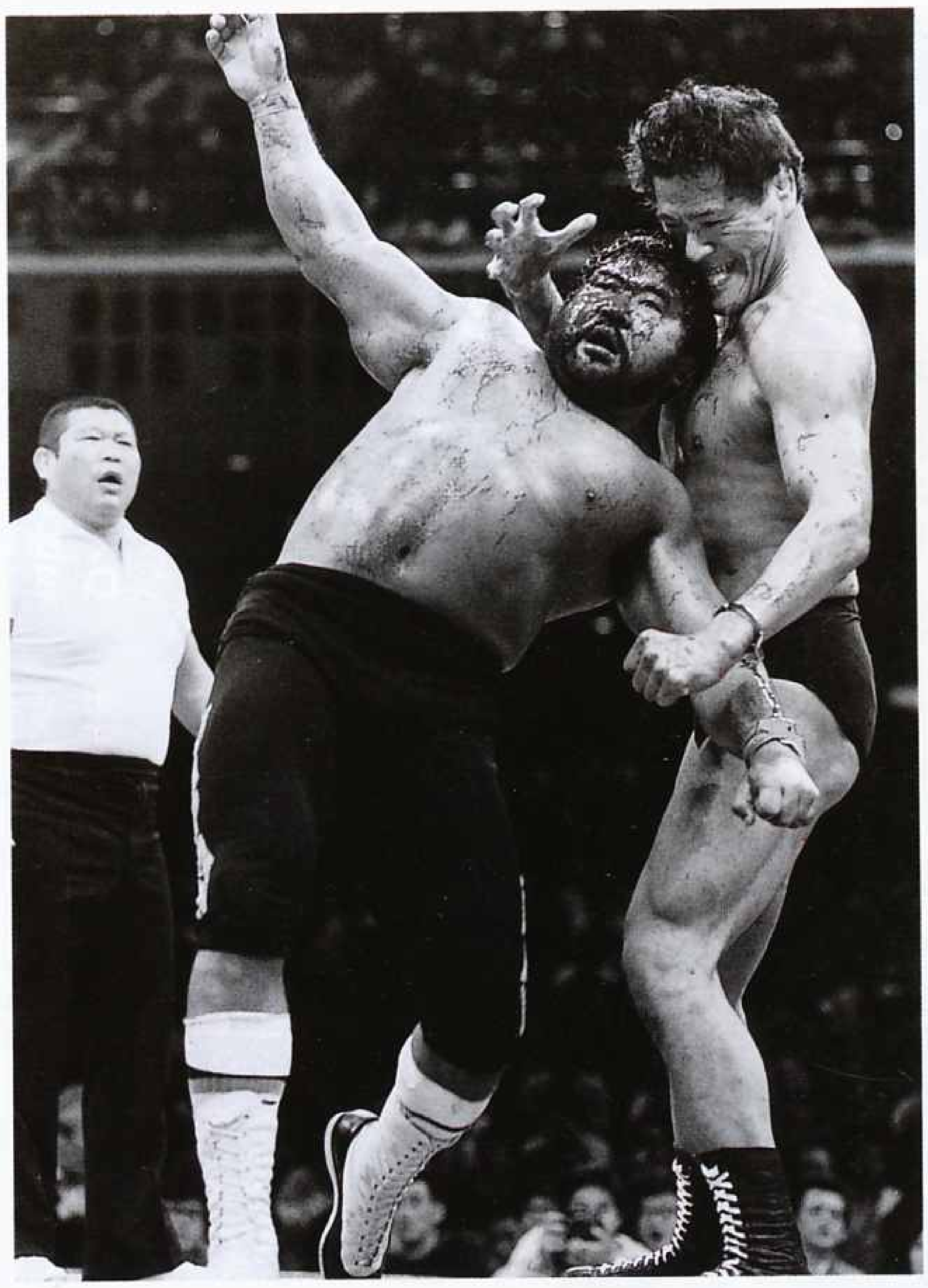
猪木　まあ、これは値段の問題もあるかもしれないけど、それにしても、我々が海外に出ていった時には必ず何万人っていう規模で、中東でもやってきましたしね。そういう意味で一番忘れてはならないものがあるというか。それがいま、俺が新日本プロレスの先頭に立って**「お前ら！」**って言っても効果が薄いんだろうと思うんですね。この間、幹部の選手と話す機会があって、彼らは彼らで真剣に考えてはいるんですけどね、ただ、その気づき方が早いか遅いか、あるいは**角度が違ったり**すると思う。

——角度が違う！　わからないわけですね、コツが（笑）。

猪木　その中でもともと俺が持ってた**「プロレスラーとはこうあるべき」**という一つの路線が自分の中にずっとあってね。まぁ、「べき論」はあんまり嫌いなんだけど。「そっから外れてもいいよ」「最終的にそこに戻ってくればいいよ」と前々から言ってたんだけど、外れたら外れっぱなしで**ドンドンドンドン**進んでってしまった時に、いま言ったような結論になっていくんじゃないかと。そういう結論にならないために格闘技連盟というか、新しい形というか。まあこれも本来あった形なんだけど、**10年サイクルで言えば新しいスタイルを生み出していけたらね。**その起こした渦によって新日本プロレスあるいはプロレス界全体に**「気づき」**が起きればいいというか。

——例えば実際の戦争は、社会に溜まってる膿を出すためには必要悪であるという考え方がありますが、アルティメットあるいはバーリ・トゥードの出現は、プロレスも含めた格闘文化に溜まった膿を出す。そういう効果もあったんじゃないかと思うんですが。

猪木　まあ、これは**かなり深い部分に入って議論をしない**とっていうね。まあ、プロレスっていうものが、興行的、ショー的要素以外の、**人間が持ってる心理的なもの**にまで入っていった場合に、そこだけでけっこう時間を取らなければいけないんで、**なんだけども。**でも、我々がいままで経験してきて、いま自分が立ってる位置というのが多分そういう位置に達しているだろうと。いままではただ**「俺が強い」**とか、**「馬場プロレスはとんでもない」**とか言ってきた時代から、もうそういうことを超越した上で、格闘技全体を**世界規模**で考えた場合は、その中で**日本の格闘文化が唯一これからは世界に通用すると。**他にもいろいろあるけど現実に説得力のあるのは格闘技だと思うね。言葉がいらないし。映画にしても音楽にしても難しいのはそこに言葉のハンディがあったり、音楽なら民族的なものがあったり、映画



the last&first message from anton

アントニオ猪木

にしたら人情とかそういうものであったりね。**寅さん映画は世界に通用しないと思うんですね！　俺は！**

——ダメですか、寅は！（笑）。

猪木　でも、日本では「通用した。凄い」って絶賛するんですけどね。でも、それがいままでの戦後の社会だと思うんですね。だけど、これからは、いままさに俺たちは**ある意味での真剣勝負**っていう部分で世界に飛び出していける！　それが本物か、より本物かというね。

——はい！

猪木　あるいは、それが**国際的に通用するものなのか、そうでないのか。**

——はい！

猪木　で、よく「世界に通用した」ってなんだって新聞の大見出しになるよね。でも、現実には通じてないんですよ！　国内の**情報操作**とでも言うのかな、それに満足してるファンもいるだろうし。しかし、これからは現実に「世界が凄ェな」と思うものを発信していかないと。**いま金融不安が起きている。**こんなこと誰も予測しなかったけど、ちょうど10年前に俺は**「世の中が乱れ、混乱した時にこそ俺の出番！」**っていうことを言ったけどもね。予測したわけじゃないけど、必ず乱れ、混乱した時代が来るだろうと思ってね。でも、当時の人は「バカなことを言うな」「日本はそんな愚かじゃないよ」と思ったわけです。でも、それは政治や経済の世界だけじゃなく、格闘技界にも同じことが

格闘技世界大戦前夜!!

起こした渦の中で新日本、あるいはプロレス界全体に「気づき」が起きれば



通ってきた道に自信が持てて、哲学的なものがあれば魂を伝えられる

起きるだろうと。

——猪木さんのやることは、いつも10年早いって言われる所以ですね。

猪木　ンムフフフ。だから**21世紀型プロレス**っていうものを、いま立ち上げておかないと、必ず衰退する時が来る！　その時に止められる準備をしておかないと遅いよ、というのが自分の中で起きてることなんですね。

——猪木さんのやることなんで、到底全部はわからないんですが、格闘技連盟の理念の尻尾くらいは掴めました（笑）。でも、もともと猪木さんの思想の中にはプロレスと格闘技は一緒というものがあるじゃないですか。でも、関係者の中では決して交わるものではない、まったくの別物であるという考え方があって、それがけっこう根を張ってる部分もあるんですよね。

猪木　そうねえ。これは一概には言えないけど、闘い方が違うんでね。アルティメットが出てくることによって、**ある新しい見方**を世の中に示したよね。あれがいいとは思わないけど。要するに我々は**強さを求めていく格闘技の原点というかね、それがやはり、プロレスというものが絶対的であったものから、そういう地位を譲りつつあるみたいなこ**とが、ファンにとっては非常に不満だろうし。

——まったくその通りです。

猪木　それにつれて、俺たちが言うことに**説得力が薄れてくる**みたいなね。だから、これからそういう選手を**プロレスのリングに上げていきゃあいい**んですよね。それでどう違うの？　と詰めていった場合に、まあ、誰かわからないけど、どういう答えをするのかなと。そこんとこまで誰も詰めていないじゃない。遠慮してるのか、何か知らないけど。結局、理論武装なんて話じゃなくて、要するに我々が世界に出ていった時に**背中合わせに八百長論**というのがいつも背負わされて。プロレスという名前がつくと、ドイツへ行こうと、どこへ行こうと。

じゃあ、自分のプロレスとはどういうものかということを**明確に訴えなきゃいけない**んですね。それを訴えられなければ、結局、議論にも負けてしまうというか。でも、結果的に言葉上手でもないわけだから、自分の本心から出た部分で、自分のやってきたプロレスはこういうものですという主張が成された時に、みんな納得してくれるわけだよね。**ロシアであろうとどこであろうと。**その体験から



俺はモノが言えるから。たまたまそういう体験がない、いまの選手、ある意味では**温室の中で闘ってきた選手**というのは、その主張がどうしても弱くなるね。だから、八百長論を言われた時に、**「やあ、私、実は3人殺しちゃったんですよね！」**と言うと、**「エッ！」**って。

——エッ！

猪木　そのままもう返事が出ないでしょ？　ンムフフフ。でもこれはやはり、人間の心理というかな。有無を言わせない。例えば、批判する人は**「ロープに飛ぶのはあーだこーだかーだ」**と、それこそもう、次から次へいろんな批判を向けてくると思うんですね。その時にプロレスというもののステージが、多分、俺たちの場合は闘いが絶対である！　しかし、それをエンターテインメントとして、要するに観客を手のひらに乗せるというか、**スポーツの領域を越えた「格闘芸術」**と言っていいのかな。リングで闘っていく一つ一つがメッセージであったり、あるいは掛ける技の一つでも芸術的であるというかね。そういうような捉え方をしてもらうと、プロレスというのはより幅が広くなってくるし、面白くなる！　だから、そういうような**自分が通ってきた道に自信が持てて、あるいは哲学的なものがあれば、**どういう形であれ、相手に闘いの魂を伝えることは可能だと思う。それが伝え切れないというのは、多分どっかに自分の心の中に整理がついてない、あるいは後ろめたさがあるというかね。

――猪木さんの凄さっていうのは、リング上から全てを伝えきっちゃうってことですよね。リング上から、いま言った哲学が伝わってくる選手が、いま少なくなってきてるというか、皆無というか（笑）。
猪木　まあ非常に、スターになりたいっていう意識は誰しもあるわけですよ。でも、そのスターになりたいって意識が**非常に小賢しい**んじゃないかと。
――小賢しい！（笑）。
猪木　多分、これを聞いた奴はまた怒るかもしれないけどね。ンムフフフフ。
――ここは怒らしときましょう（笑）。
猪木　だから、少年よ大志を抱けじゃないけども、**大望**を持ってくれればいいと思うね。長州力じゃないけど「天下を取る」ってことも自分がその業界の中で多くの人に幸せを与えるという発想に立てば悪いことじゃないですよね。だから、うちの新日本プロレスにも、もっともっとそういう雰囲気が高まってもらっていいと思うしね。「馬場、猪木がいまだに存在することは寂しい限りである」とかよく言われますけど。ただ、俺なんかはそういうのが**出れば出るほど自分のテンションを高めていくというか。そういうことを刺激にしていく**という人生観を持ってますから（笑）。
――ホントに安住の地を求めないですね（笑）。今度の引退試合にしても、だからあまり寂しいっていう感じがしないと言ったのもそこで、逆にこれからも猪木さんがオンモしれェことをやってくれるだろうな、という期待を持っちゃうんですよ（笑）。
猪木　**期待されても困るんですよ（笑）。**もっと楽に生きたいというかね。ダーッハッハッハ。
――作り上げたものを堅く守っていくという発想、言ってみればジャイアント馬場的発想というのは似合わないですよね（笑）。
猪木　いや、一般的にはそれの方がウケがいいのかもしれないです。ただ、俺はそう思ったことがない！　やはり、自分の生き様というか、あるいは先輩が築いてくれたもの、そういう中で、**プロレスという職業が一体何なのかという部分では、やはり大衆に夢を提供していく！**　そういう職種の中で、我々は選ばれた人間なんだという誇りを持つ！　そうすると大衆より一歩も二歩も先を歩かなければいけないし、ある意味で**危険も**起こさなければいけないというね。だから、これは俺の勉強不足かもしれないけども、プロレスラーとしてのジャイアント馬場さんのいま現在を見た時に**「ジャイアント馬場さんは素晴らしいんだ」と評価する人もいる。**人間的にどうとかは別として、リング上に出てくる馬場さんをね。老獪と言っていいのかな？
――はい（笑）。
猪木　そういうものを見た時にプロレスラーとして評価しちゃう。だから、もしかしたら、どこかこの国の全体が病んでるんじゃねえかと。



the last&first message from anton
アントニオ猪木

――あちゃあ！
猪木　いや**これは悪口じゃないんだよ！**
――はい。わかります（笑）。
猪木　一つの例として。
――一つの例として（笑）。
猪木　一番わかりやすい例として言うなら、ジャイアント馬場という看板を世界に持っていったらわかりやすいと思うんだよね。馬場さんには悪いけどさ（笑）。いいモノはいい、悪いモノは悪いということが正当じゃなくて、なんかそういうモノが歪んでるんじゃないかと思うんだよね。いや、**馬場さんだってやめたいと思いますよ。俺はよくわかるよ。**ただ、やめるわけにはいかない事情、あるいは全日本の事情があったり、あるいは奥さんとの関係であったり。**「奥さんがやめちゃダメ」って言うからとか。**いや、聞くところによるとね（笑）。ガーッハッハッハ。
――ガハハハハハ。そういった部分での情報屋もいるわけですね（笑）。馬場さんはともかく、一時隆盛を誇ったUWFの系統っていうのもいまはなかなか元気がないんですよ。高田選手がヒクソンに敗れたってことにも一因があるのかもしれないんですけど。
猪木　結局、もっと遡ってね、**UWFと新日本が最悪の状態になってね。**ある人の仲介で当時の佐山を筆頭に前田とかと会ったことがあるんですよ。ちょうど金銭的に苦しくなって、そん時に俺たち幹部がみんな頭を下げたというか、要するに「プロレスの発展のために力を合わせようや」と。

本物の大きさを持った奴が、UWFに一人存在したら時代は変わってた

だけど、彼らはそんときは血気盛んで、自分たちの敗北を認めることができなくて結局決裂しちゃったんだけれどもね。でも、そういう経過を見ていくと、結局**本物の大きさを持った奴がUWFに一人存在したら多分時代は変わったろうなと。**結局、人間模様の中でね、「自分が正しいんだ」ということしか見えない、あるいは状況に対して我慢ができないというかね。そういうものに対して耐えることができる、辛さをかいくぐれる器量を持った人がいたら多分、**新日本っていう存在はなかったかもしれない。**でも、残念ながら我慢させるまでの理想っていうものが存在しなかったと思うね。その理想のためには、どんな苦労も堪え忍ぶっていうね。結局、理想ってものが非常に小さかったのかなって。だって、**猪木を食おう**と思えば、それでいいし。ただ、食うだけじゃなくて、食ってお前たちはどういう格闘技を作るの？　ってことに、もっともっとオーラが発散すればね。やはり若い者の方が強いですよ！　その**オーラ**をもっともっと強くすれば**大衆を引きつけると**いうことは可能だったと思う。

——高田選手が負けた時に、猪木さんの「よりによって一番弱い奴が出ていった」というコメントは、また大きな波紋を呼んだんですけども。

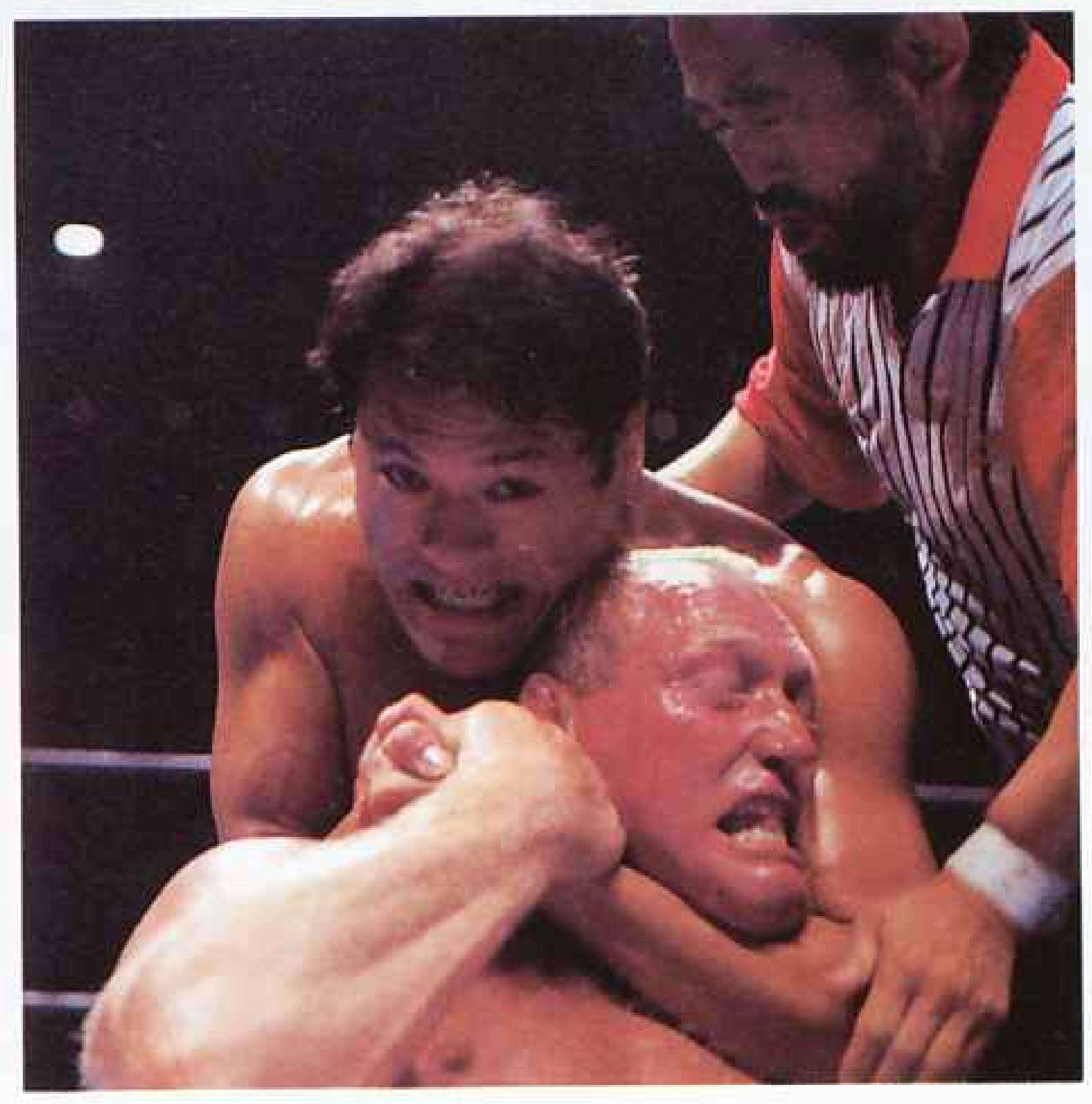
猪木　**ホントに弱いもん！**

——あちゃあ。

猪木　いや、ホントに弱いです。**うちの若い衆の誰がやっても高田には負けないです！**　だから、俺は**ヒクソン**っていうのは評価しますよ。実際に闘ってないからわからないけど。ただ、やはり柔術というか、あるいはその一族が持ってる血筋みたいなものを守ってきたってことは評価しますしね。ただ、**非常に宮本武蔵的**というか。剣豪っていうのは頭脳的にも優れていたんじゃないかと。要するに**歴史に残るってことは必ずしも純粋でないというか、非常に世渡りがうまいということもある**と思うんですよ。だから、宮本武蔵って人がもし生き続けていたら絶対誰かにやられていたでしょう。ところがある瞬間にどっかへスッと消えてしまった。それまでは絶対に**自分より弱い相手としか闘わない**というね。ヒクソンっていうのは、そういう要素を持ってるんじゃないかなと。だから、誰でもかれでも挑戦を受けるとは彼は言わないでしょ。

——ヒクソンに関しては、その哲学の見せ方という意味でも、いまのプロレスラーがなくした"たたずまい"を持ってますよね。それが人気に結びついてると思うんですが。





the last&first message from anton

アントニオ猪木

猪木　ただ、アメリカでは誰も知らないからね！　こういう現象っていうのは！

——ああ。

猪木　だから、面白いというか、彼は残念ながらどんなに頑張ってもその殻を破っていけない。それこそドン・フライでもなんでもいいや。彼らを**ブッ飛ばしていけば、**そうすりゃあヒクソンっていうのは世界が認めるでしょうけどね。要するに、聞くところによれば7000万円とか、高額なギャラを取るということに味をしめちゃったから（笑）。また、それを商品にしようとする輩がいるわけだから、大変だね、日本っていうのは。

——不思議な国・ニッポンってところですか（笑）。

猪木　そう（笑）。

——今度、ヒクソン・グレイシー・ブランドっていう服まで作ったそうですよ。

猪木　へぇ〜ェ（笑）。いや、それは、いろんなことが可能になってく時代だから、それはそれで。**そういう発想は昔からありましたけどね。猪木ブランド**みたいなものも。

——猪木ブランド！　ゼヒ着たいですね（笑）。で、ちょっと、戻りますけど「よりによって一番弱い奴が出ていった」っていうのを聞いて、前田日明という非常に敏感な人が「猪木さんの理念を一番クソ真面目に守ってきたのが俺と高田なのにその言い方はなんや！」って激怒してたんですけど。

猪木　（身を乗り出して）だってそれは矛盾してるじゃない！　心の中には多分あったと思うんですよ。だから、それは評価するとしてもね、**彼らはどの部分を忠実に守ったか**っていう部分でね。俺らが彼らに期待したことは、本当に**猪木以上に世界に羽ばたいてくれる**こと、タイガーマスクっていうのはああいうキャラクターだったけど、ハルク・ホーガンと前後して出てきて、ニューヨークに2回登場させて大変な反響が出たと。それがこのまま続いていったらば、まったく違う世界を確立できたというね。前田にしても高田にしても、佐山が抜けたあとで、それ以上のキャラクターとして大きく羽ばたいてもらいたいってことが**本音**だったから。だから、言葉なんかあんまり気にしませんからね、俺は。本当に強いと思うのなら**新日本の選手を全部倒してから出りゃあいいじゃねえか、と。**一番簡単なことを言えばね。

——ただ、前田日明のあの鋭いナイーブさっていうのは、僕は個人的には非常に好きなんです。

猪木　だから、身近な部分では先生に反発するって部分は俺たちにもあったしね。親に反発するっていうか。前田日明なんかは生涯、人間が変わらない限りは**俺に反発する**と思うのね。反発するってことは結局、彼は苦しい世界から抜けれないわね。だって猪木という影を背負って生きていかなけりゃいけないから。さっき俺が言ったのは、俺には高田という影がないから、全然。だから、好きなことをおやりなさいよという。前田日明も同じようなもので、**「前田日明が俺に噛みつきました」**って俺を刺激しても、そんなに怒りが出てこないしね。だから、前田日明もだんだん人間が成長してバランスが取れてくると思うんだけど、前田日明ファンっていうのは、そこの部分で寂しい思いをしてるんじゃないかなあと。あんまり人のことまで評論する必要はないけどさ（笑）。

——はい（笑）。

猪木　敢えて引退を前にして言わせてもらえばね、そういうような。

——でも、前田選手は猪木さんがいまやってる格闘技連盟構想を指して、「それを俺たちが新日本にいる頃にやってくれてれば新日本を出ていく必要もなかった」って言ってましたよね。

猪木　だから！　勘違いしてもらったら困るけど、**俺はプロレスラーなんですよ！**　ボクサーと闘ったのもプロレスラーという看板のもとにやった！　俺は**看板を変えてねぇんですよ、**いまだに。だから、これからも格闘家・猪木とか、そういうレッテルを貼る必要もないし、**プロレスラーとして育ってきたし、誇りがあるし。**だから、プロレスに、ある意味では目覚めをしてもらうことの刺激でもあるしね。一方でもともと持った自分の中にあるもの、それを**そういう枠にとらわれないで、何かやらしてもらってもいいじゃないか**っていうのが、これからの歩みだろうと思うしね。高田もまたヒクソンとやるなんて話もあるけど、ズバリ言ってあんまりコメントしたくない



んだよね、高田っていう部分では。**眼中にない**って言った方がいいのかなあ。なんでも好きなことやりゃあいいし、「どうですか?」って聞かれりゃ、やる以上は勝ってほしいしね。だけど、いつもそこに引きづり戻されること自体がね。逆に言えば俺が怒るんじゃなくて他の若い選手が高田に向けて怒ってもいいっていうのかな。もう怒りたくもないしね、俺は俺の人生だから。**前田も怒るんだったら、テメェがやればいいじゃん!って。**もうそれだけね!「10年前にやってくれたら」って言うけど、**お前がやればいいじゃないのって。**俺らはハッキリ言えば卒業生ですよ、もう。それこそ隠居に向かう奴ですよ。そんな奴をなんでみんなが引っ張りだすの(笑)。

――でも、ヒクソンに対して噛みついたのが前田日明ただ一人であるという状況は寂しくないですか?

猪木　いや、**小川も噛みついた**でしょ。**小川がやったら、やられないですよ**、体力が違うから。ただ、ピタッと下に入られちゃう弱点がありますから。柔道はどうしても引きつけて投げるっていうね。これさえ解決できれば絶対に下にならないし、上から被さっちゃいますからね。それはもうあと少し。いや、もう**大丈夫**かもしれないけどね。ただ、この一年の間に可能性として五分五分じゃ困るから。やる以上は100の世界が見えた方がこちらとしても安心できるからね。小川もやっぱり方向性が決まったと思うんですね。やはり新日本としてはプロレスラーとして育てたいという方向性があって、従来の教育の仕方というか、そっちに入っていった時に、確かに小川という大輪は咲いたかもしれないけど、いまの格闘マニアが要求する方向とは違ってくるというね。それだけに、いまバーッと並べて、まあ、ヒクソンでもいいや、**バーッと並べて、**こいつなら期待が持てる選手っていないじゃないですか!　います?

――う～ん。

猪木　前田日明は噛みついたかもしれないけど、実際にはその可能性は薄いですよ。それはともかく、いま高田が負けましたと。それに代わる人なんかいないでしょ。

――だから、猪木さんの言う「元気」がないですよね。噛みつくのも猪木イズムの側面という部分はありますし。

猪木　うん。

――その辺を発揮してくれる選手がいないのが寂しいというか。格闘技連盟ではどうですか?

猪木　(身を乗り出して)昔は**まだ見ぬ強豪**っていうのがよくあったけどね。

――まだ見ぬ強豪!　いいですね。

猪木　情報化時代で、**まだ見ぬ強豪は出切ったと思われてるんですけど、現実にはまだ眠っているんですね。**そこにいま、ちょっと目を向けてるんですね。だから必ず凄いのがバンバン出てきますよ。それを**発掘**して育てるという役割も出てくるしね。そういう意味では面白い展開があるでしょうね。具体的にはまだ何もないんだけどね(笑)。

――あ、教えてもらえないんですか。非常に残念です(笑)。じゃあ、既存のプロレス団体との関わり方っていうのはどうなっていくんですか。

the last&first message from anton

アントニオ猪木

猪木　うん。プロレスが向上するように変化していくために、**仕掛け**をしていかなきゃいけないってこともあるし、と同時に選手自体には俺はいま手に負えないって言った方が正解かな。もう、そこに降りていって手を取って「どうですか」って言うほど俺も若くないというか、あるいは時間がないというか。もっと**ズバリ言えば「俺をプロレス界に引き戻さないで」**というのがある。正直言えばね。愛情が無くなったとか、そういうことじゃなくて、やりたいことがまだ山ほどあっても、どうしても鎖を外してもらえなかった。今回、その**鎖**をやっと外してもらえるというか、自ら鎖を断ち切るわけだから、なんか**ウキウキ**してる気分なんですよ。

――いいですね、そのウキウキしてる気分っていうのは(笑)。やっぱり猪木さんは無関心というか、好奇心が欠如した人たちとの闘いをいままで繰り広げてきたんじゃないかなという気がするんですよ。

猪木　そうなんですね。**無関心な人をこっちに向けさすっていうの**



俺はプロレスラーなんです！看板を変えてねぇんですよ、いまだに


が、ある意味では俺の闘いの歴史なんですよね。要するに300人しか入らない会場の中で、普通だったらそこにいる300人に対してメッセージを送るんだけど、まったくそこにいない**見えない部分に対してメッセージを送る。**これは本能的なものと言ってもいいんだけどね、理屈じゃないから。かつて力道山のころにはプロレス界が非常に活発に動いていた時代があった。それを引っぱたいても目を覚まさせないとね。そん時に、若い人たちに向けてリングの上からメッセージを訴えかけた。それが伝わってプロレスっていうものがもう一回人気が出てきたというね。そっからまあ、最近、なんでこうマニアックな人というか、音楽関係にしてもそうだけど、雑誌記者の中にもマニアックな人が多くなってきましたよね。その現象がなんなのかなっていうか。例えばちょっとした火付けによってイメージがガラッと変わってしまう。例えば**モハメド・アリ**という人もアトランタ・オリンピックにああいう形で出なければ、もうそのまま消えていった存在でしょ。ところがあそこに出てきたことによって若い人からなにから**モハメド・ブーム**が起きちゃうわけ。

——はいはい。映画まで作られちゃいましたからね。

猪木　じゃあ、モハメド・アリがどう変わったの？　なんにも変わっていない。パーキンソン病がよくなったわけでもないし。だから、そういう仕掛けをやれるアメリカは**凄ェな**って思うわけ！　絶対、日本だったらあの人を上げないよね。ああいうことが自由にできるというか、あるいは発想するというブレーンがいるということは凄ェなと思うんですよね。だから、非常に大統領選一つをとってしても、全てがエンターテインメントとして**お祭り**にしていく発想を心の底から理解してるのかな、国民がね。しかも、それに乗っかってくる！　だから、これからの政治にしてもなんにしても、やっぱり**お祭り**っていうのかな。「面白い」ってことになるとすぐに政治をバカにしてるとか、愚弄してるとか。**アントニオ猪木が選挙に出ただけだって随分批判があったじゃない？**　だから、そういう部分で日本ではまだまだ国民のレベルが達していない。逆に**ギャップが大きくなってきてる**んじゃないかと思うんですね。例えばいま、若い人たちの感性は非常にアメリカナイズされてきたり、世界の情報とマッチしてきてるけど、いまだにそこに到達しない層がある。ズバリ言ってマスコミだね、あるいは評論家というかね。まあ、そういう意味で、プロレスというものがいままではマイナーで肩身の狭い部分でプロレスを語っていた。それがいまは逆に若い人の中でプロレスはファッションだとね。これを見ないと、これを語れないとカッコが悪いみたいなね。そういうことが存在する、あるいはそれを仕掛けようとしてる人が存在するってことは、時代というものが凄く面白いなと。だけど、最近俺に**「出てくんな」**って声が少なくなったのはどうしてなの？

——そんなにあったんですか？

猪木　あった、あった！**「早くやめろ！　そんな老体さらして」**っ



ズバリ言って「俺をプロレス界に引き戻さないでくれ」というか

て。 ずいぶん批判を浴びたけどね、ダーッハッハッハ！

――それはやっぱり、なんだかんだいっても、猪木さんが一番元気だってことになるんでしょうね（笑）。

猪木　いやいや、そんなことないよ（笑）。だから、**前田の話に戻るけど、「やれよ」って、「応援するよ、なんでも」って。もう夢はもっともっと膨らませて**ほしい。だって現状を維持できる団体なんてないじゃないですか、いま。強いて言えば新日本がそういう域に達したかなあっていうぐらいでしょ。まあ、これで満足しちゃ困るけど。もともとレスラーっていうのは自分の力を試したいってものが一つあるでしょ。俺は**ブラジルに行って俺より強い奴がいなかったし、大きい奴がいなかった。**それで自分と比較できる対象を求めていった時にプロレスと出会ったわけだから。だから、お金が欲しいとか、名声を得たいとかっていう意識は非常に低かったわけですよ。

――そのお金や名声を得たいという部分でもいまの選手は非常にスケールが小さくなってるんですよ。

猪木　だから、今日も何通か手紙が来ててね。大学の先生とか結構多いんだよね。結局、猪木イズム論とか、難しいテーマで書いてきてるんですけどね。俺たちはそんな難しいことじゃなくて、一日一日を精一杯生きてきたってことの積み重ねみたいな部分でしょ。でも、そういう人たちから見るともっと解剖していくというか、突っ込んでいって本質を捉えるみたいだいなね。プロレスラー・猪木ではなくて、**「猪木とは何か？」**みたいな部分でね。この『紙のプロレス』でも取り上げたと思うんですけど。多分、そういう目が非常に多くなってきたのかなあと。**生き様の部分を猪木を通して楽しんでいる、**あるいはそれを参考にしてるというか。まあ、迷惑な話なんだけどね。

――ガハハハハハ。迷惑ですか！　でも猪木イズムは根源的、本能的なものですからね。そういう人たちも、猪木さんがリングを降りても、猪木さんの今後には注目せざるをえないんじゃないですか。

猪木　猪木の未来はストロング・コンゴウ!!

――へ？

猪木　**猪木の今後はストロング・コンゴウ!!** なーんってな、ダーッハッハッハッハ!!

――ガハハハハハハハハハハ！　ダジャレというもう一つの猪木イズムも出たところで、4月4日の相手というのはまだ決まりそうもないんですか。

猪木　決まらないですよ、最後まで。いろんな名前が挙がってますけどね。藤波選手も引退に向けてってこともあったし、蝶野も橋本も挙がってきたりね。それは相手にとって不足とか、そういうんでもなんでもないんですね。ただ、自分で**ワクワクするもの**をやらしてもらいたいなという。だから、最後まで決めない方が自分自身でもね。もしかしたら最後でガッカリするかもしれないけど（笑）。でも、そういう方が**自分のテンションを高めていける**なって。誰かに決まっちゃうと、それに集中して見えてきちゃう部分があったりしてね。

――最終試合に向けて猪木さん自身がワクワクしたいってことですね。

猪木　うん。なんか自分で**ハプニング**ってものを要求してみたいと思うし。

――猪木さんがリングに上がるだけでハプニングとドラマとリアリティーが三すくみになって、瞬間的に重なりあいますからね。

猪木　この間、誰かが言ってたけど、**「まさか猪木寛至さんで、その後登場しませんよね？」**ってな（笑）。

――ガハハハハ。で、世界格闘技連盟という発想を現時点でまとめると、一度眠っていたものを起こすには必ずショックが必要っていう言い方を猪木さんはされますよね。そういう意味でファンも関係者もマスコミも含めて眠りから覚まさせる、ある意味で「気づき」をテーマに進めていくということになりますね。

猪木　はい。だから、あんまりこれも格闘技連盟がどうですかこうですかっていうと、だんだん興ざめしていくというか。もっと**オンモしれェこと**をやろうと！　あんまりいま、形を決めちゃうとつまんなくなっちゃうんじゃないの？

――もう見事に僕らは手の平に乗せられてますよ（笑）。猪木さんの引退試合の相手は誰だってことだけで一晩語り明かしちゃったりして（笑）。いま



昭和47年。新日本プロレス旗揚げ当時の写真。藤波もトルコもいる！　4・4には日本プロレスの懐かしい面々も勢揃いする予定だ！

the last&first message from anton アントニオ猪木

のマット界に一晩語り明かせるくらいのパワーが戻ってきたら面白いこともたくさん見れるんですけどね。

猪木　そうね。だから、まあ世界っていうとなんか掴みどころがないんだけど、なんていうのかな、**アメリカのプロレスファンだってファンですから。**この間、ラスベガスで会ったんですけど、工科大学あるじゃない。**マサセッチュウ？**

―マサチューセッツですかね？

猪木　うん。何だっていいんだけど、あれの優等生っていうのとあったんですけどね。そいつを紹介されたんですけど、またそいつがオタクでね（笑）。WWFとWCWの比較論みたいなね。で、まぁこういう時代ですから、日本の動きにも非常に興味を示してる。そういう意味では、ホントにもう**ボーダレスというか。**だから、その時思ったのは、ドン・キングがやるような興行じゃなくてさ、**市民参加の大興行**ができたら面白ェなと。多分そんな時代が来ると思いますよ。要するに**世紀末プロレス**って前に話したことがあるけどね。

―はい。観客はタキシード着た紳士淑女ばかりで、なぜか観客も飛び入りでリングに上がれるという（笑）。

猪木　そう、デカイ会場でね。でも危険だから外には**救急車を何百台**も用意しといてね。だってもういまは人間がこんだけ裕福になって、欲望の限りを尽くしたって時代でしょ。その中で最終的には**闘いのロマン**というか、人間の持ってる格闘本能というものだけが生き残ってくる。それを満たしてやるというね。これを勝手に自分で思いついて、最初に藤波に話したら**藤波はポカン**として、「またバカなことを言ってるな」って顔されてさ、そのうち木村健悟に話したら、「なんだかわかんないけど、なんだかな」って反応があってね。ところがマスコミに話したら、けっこうウケてね（笑）。



―ガハハハハ。

猪木　結局、形は違うけれども、市民が、ファンが参加できるイベントっていうか。だから、お客さんがリングに上がんなくても、自分がそこに参加していきたい意識っていうのは凄く育ってるっていうか、進行してるんじゃないかなぁと。

―ホントに猪木さんの発想っていうのはボーダーレスですよね（笑）。

猪木　でも最近、**俺にホラ吹かせてくれないからさ。**俺も最近、真面目な話しかしねえしね（笑）。だから、俺なんかはマスコミに**「飛ばしていいよ」**っていうわけですよ。"飛ばす"っていうんでしょ、記事を飛躍させることを。だから根も葉もないものは困るけど、飛ばしたら**その通りにしてあげるよと！**

―飛ばしたらその通りにしてあげる！　凄い！

猪木　それがいい発想だったら、**その通りに俺たちが実現に向けて走ればいい**んだしね。大ボラでも何でも実現させりゃいいんだろってね。ンムフフフフ。

―それはお互いがワクワクしますね。

猪木　ま、こんなところでいいですかッ！

―はい。長い間どうもありがとうございました。非常に元気が出ました！

【2月4日、六本木アートセンターにて収録】

※4・4アントニオ猪木の相手は、8人によるトーナメントを行い決定することがその後発表された。

前田さんには試合前の状況を含めて感謝してる。でも、「俺が前に進むことが、この業界のためになる」と思ってるからね！

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／松永源さん
photographs by Gensan Matsunaga



”魔の10・11“から1年後！ヒクソンとの再戦決定!!
高田延彦・独占激白！


格闘技
世界大戦
前夜!!
nobuhiko takada

nobuhiko takada

「高田延彦とヒクソン・グレイシーが10・11に再戦決定！」という発表が2月2日に行われた。確かに唐突だった。

「えっ!?」という感じだった。

実現するしないはともかく、「前田vsヒクソン戦」へと気持ち的にはスライドしていたからである。

高田延彦が「打倒、ヒクソン！」に向けて再始動したとしても、ある程度の助走があってからの話だと勝手に思っていた矢先の電撃発表だった。

〝魔の10・11〟は「プロレスファン」vs「ヒクソン」の対決の図式が強く、「高田延彦」は、好むと好まざるに関わらずプロレスファンの思いを背負い込む形になった。

そこに「高田延彦」個人はいたのかどうか、それを確認するために今度の闘いはあるという。

ならば、プロレスファンはこの〝世紀の再戦〟をどう見ればいいのか――。

高田を一点の曇りもなく応援してきた本誌にとっても、まずは、高田本人の〝ナマの声〟を聞かなければならない。話せるなら、バカ話でも何でもいい。まずはナマの声こそが重要なのである。

高田本人の了承も快くもらったものの、2・2の記者会見後、道場設立に伴って動き回る高田の時間が取れたのは2月の13日。締切ギリギリもギリギリである。

「高田さん、時間はどれくらいあるんですか？」「うーん、20分くらい！」に、20分!? たった20分で本誌も〝10・11〟に落とし前をつけなければならないのか？ いや、つけろといえばつけましょう。つけて、また高田延彦を応援しようではないか。ただし、それには高田延彦が〝ムキ身〟になっているかどうかを、まず確認しなければならない。新たな〝10・11〟に向けて厳しい目を向けるもよし！ 温かい目を向けるもよし！ ただ、いずれにしろ〝ムキ身〟の高田延彦を直視することからしか、我々もまた始められないのである。



――で、早速なんですが、以前、高田さんは「やる気のある、なしが割と表情に出やすい」って自分で言ってましたよね？

高田　うん。

――2月2日の「ヒクソンとの再戦決定」と、その後の「高田道場設立」の記者会見では表情が明るく見えたんですよ。これは、気持ちの整理がついたということですか？

高田　少しでも曇りがあったら、そういう決断って出さないでしょ。いまはもう、快晴状態だから。

――再戦はいつ決心したんですか？

高田　再戦は……だから、あの日（97・10・11）とかじゃなくて、徐々に徐々にね。再戦するかしないかの前に、リングに上がるかどうか、そっから始まるわけだから。そこから自分の中で試行錯誤して、ひと月半……ふた月ぐらいモヤモヤして、「もう辞めようかな」っていう考えもあったし。

――やっぱり「辞めようか」という考えもよぎったんですね。

高田　もちろん。と同時に「いや、まだだ」っていうの繰り返しですね。

――無責任なようだけど、高田延彦がこのまま辞めちゃダメですよ。

高田　だから、こういう結論を出したのも運命だしね。ただそれはボクの中での結論だから。それが自分の思うように叶うとは限らないわけで。それが今回、（再戦という形で）叶ったわけですよ。ボクが望んでたことだからね。

――それにしても電撃的でしたね。

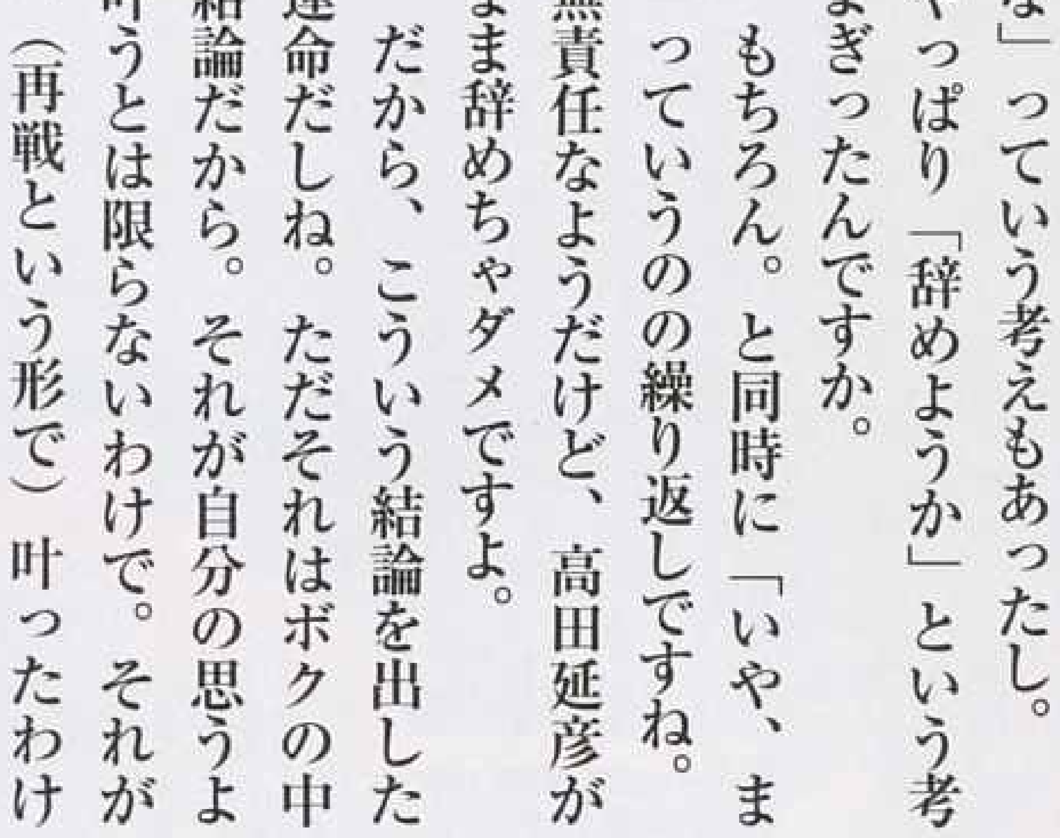
高田　電撃的でしたね。いきなり決ったみたいですからね。

――実際にヒクソンという選手と肌を合わせた感触を振り返ってみるとどういう感触だったんですか？

高田　う～ん……そうね……「こんなもんかな」っていう。「このぐらいか」っていう感じだね。いや、これは敗者の言う言葉じゃないことは十分わかってますけど、率直な意見ですから、しゃあないなと。

――いままで当たった格闘家やプロレスラーの感触とは明らかに違いました？

高田　そうだね。あそこまでいく人間っていうのは、それぞれオリジナリティーを持ってますから。その人その人のセールスポイントとか、強さってものがあるわけですよ。だから、ヒクソンにはヒクソンなりの強さっていうか、他の人間と比較できないものを持ってるわけで、オリジナリティーを持ってるわけですよ。そういうものは確かに感じたね。



昨年の10・11では「ヒクソン・グレイシー」という幻想に飲み込まれてしまった高田。本当の「高田延彦」は今年の10・11ドームに姿を現すのだろうか？

――となると、自分自身で敗因を分析すると何だったんですか？

高田　よくわかんないよねえ……。

――気持ちの部分？ 技術的な部分？ それとも肉体的部分ですか？

高田　並べりゃキリがないからね。自分でわかってる部分だけじゃないと思うんでね。ただ、記者会見でも言った通り、あれが自分じゃないような気が

ヒクソン？…そうね…敗者の言う言葉じゃないけども「こんなもんかな」っていう

するんでね。だから今回こういうことになったわけで。そういう意味では精神状態も含めて、アレがベストだったんだろうか？　コンディショニングの面に関しても、言い訳はしたくないけど、あれがベストじゃないはずなんだけどなっていうことだよね。もう一回ああいう目に遭えばね、自分の中でも納得がいくと思うんですよ。あの試合に至るまでの時間の使い方っていうのも納得してないし。だから、リングの中に入ってやったことが、たった4～5分だけど、それをバネにできる確信があるから、今回踏み出したわけですから。今度はおそらく違ったモノになるね。

――なるほど。あの試合を見てのボクの個人的な感想は、「ヒクソン・グレイシーっていう幻想に高田延彦が呑み込まれた」ということが一番悔しかったんですよ。

高田　……うん。

――でも、そういう展開の中でも、当然、負けて何かを学んだってことはあるわけですよね。

高田　それが、次の試合に生きる生きないは別としてね。試合はナマものだから、どうなるかわからないけども。また封じ込められるかもわからないけどね。また、それだけのものを持ってるから彼はここまで来たわけだから。ハッキリ言えば、柔術家なんか、そこらにゴロゴロいるわけだけど、彼は柔術界の中の"王、長嶋"なんだからさ。だからこそ、逆に今度は彼の方が、ボクよりプレッシャーかかるかもしれないからさ。オレはもう失うものは何もないから！　そういう意味では、一回惨敗して、みっともない姿を晒して。みんなもそういう風に見てるわけだからね。「あの試合で終わったわけじゃない」というところから始めるわけで、前よりは楽といえば楽だよね。

――でも、ある格闘家が、「負けると『負けました』というフダを背中にベッタリと貼ることになる。精神的な痛みばかりが続く」って言ってたことがあるんですよ。それを考えると、高田さんが、樹海から抜け出て再戦を決意したというのは素直に凄ェなと思うんですよ。



「ヒクソン・グレイシー・ブランド」なるものまで発表し、ジャパン・マーケットを席巻する400戦無敗男。この時のプロフィールには450戦無敗とあったが、一体どっちが本当なのだろうか。グレイシー一家に新たな謎が広がり始めた

高田　凄いよね（笑）。

――自分でも思いますか？（笑）。

高田　負け方が負け方だしね。

――いま高田さんが言ってくれたんで言いやすくなったから言っちゃいますけど、ズバリ言って「次やったら、いける」っていうのはまったく見えなかったですよ。

高田　だから、それはもう、自分の中での闘いであって、今回やるのも自分の中の葛藤の中で下した結論でね。それは何かと言えば、ファンに対してとかじゃなくて、結果的にファンに返ってくるだけであって、あくまで自分に対しての確認のために。「17年間やってきたものが果たしてあれだけのものだったのか？」っていうね。オレの中では「ああじゃないだろう」「他に展開があるんじゃないだろうか」と。それを確認することで、自分の結論っていうんじゃないけど、一つの納得というか終結というものが見えてくるだろうと。ただ、それだけなんです。

――1年前に高田さんにインタビューした時に「ストレスはないんですか？」って聞いたことがあるんですよ。そしたら、「ストレスを転嫁してプラスのエネルギーにしていきたい」って言ってたんですよね。

高田　それはね、自分に言い聞かしてたね。だから、そういうインタビューに関しても、そう言って自分に言い聞かせるっていうか、そう言って"鎧"を作っていくっていう部分が強かったね。でも、今年は余計な鎧は着けないでいくよ、と。自然体でね。

――確かにあの大きな敗戦をプラスに転嫁するには莫大なエネルギーが必要だと思うんですよ。それに対しては評価されて然るべきだと思いますよ。

高田　葛藤があったからね。「このまま下がるのか、それともまだ行けるのか」というね。

――ああ。で、あの一戦が終わったあと、前田日明選手が「ヒクソンとやる！」って断言しましたよね。そのことについてはどう思ってますか？

高田　そうはもう試合前から言ってましたよね。だから、「え！」っていう

格闘技世界大戦前夜!!

ふざけるなって！　何考えて仕事してんだ！　書いたものをオレの前で読み上げてみろ！

格闘技世界大戦前夜!!

ことじゃないでしょ。ただ今回の試合に限らず、選手側から言わせてもらうと、一つのファイトを成立させるのは、あるラインからは完全にウエイティングの状態に入るわけ。泣いても笑っても、あとはエージェントの交渉まかせ。ジッと答えを待つ身なんです。まさにこの2カ月間、ズッとネガティブ・ウエイティングでした。ただ、出てきた答えが白でも黒でも悔いはないと思ってたね。これだけは自分にはどうにもできないことだし、運命として受け取ればいいから。ただ、潰れた気持ちをもう一回やるところまで持ってこれただけで、俺の中ではOKなんだよね。ただ、試合に対する欲求やこだわりは現役でやっている以上、抑えられない宿命なんだよ。それが、結果として、前田さんの障害になってしまったことに関しては……なんとも言いようがない気持ちです。

――こういったドライな時代に、前田さんが「高田が負けたら仇を討つ！」っていう、ある種、時代遅れ的なウエットな感情を思いきりぶつけたと。その前田さんの感情の持っていき方自体について、高田さんはどう思ってるのかと思って。



高田　それは、嬉しいし、ありがたいし、いろんな意味も含めて前田さんらしいと言えば前田さんらしいし。試合前からの状況を含めて非常に感謝してますね。

――前田さん一人だけでしたからね、ああいうナマなぶつけ方をしたのは。

高田　そうだね。

――じゃあ、あの一戦を終えて「プロレス業界」というものに関してはどういう思いがありますか？

高田　う～ん……関係ないってことはないけど、何も感じてないね。関心がないね。

――無関心！（笑）。高田さんの方で突き放してる部分もあると。

高田　こっちからは別に突き放してないからね。自分としては、「自分が前に進むことがこの業界のためになる」と思ってるしね！　それに対して、業界がどういうスタンスを取るかという好みの問題だから。そのスタンスによって距離が開くのか、それとも縮まるのかってことだよ。それをオレとしては作為的にやる必要はないし、まったくやってないわけ。まったく無関心っていうのは、そういう自然の状況から出てきた結果だと思うんだよね。

――まあ、今回の再戦発表は確かに唐突という感じもありましたよね。業界の中からも、A級戦犯とか戸惑いとか反発とか違和感を感じるとか、そういう声も上がってるんですよ。

高田　ふざけるなって！　オマエら何考えて仕事してるんだ！　何で、誰でメシ食ってるんだ！　書いたものをオレの前で読み上げてみろ！　自分の書いた文章に責任を持てって！　自分たちが何でメシを食ってるのかまったくわかってないな。悪い結果、あるいは結果を出してない者に対してマスコミが叱責するのは当然だよ。

――プロの世界ですからね。

高田　だけど、共存共栄の中で生きてることをわかってないよ。

――で、その業界も注目してる高田道場の設立会見では、「既存のプロレス団体は視界に入ってない」って言ってましたよね。

高田　格闘技とプロレスってオレの中では区別してないから！　自然の流れです！

nobuhiko takada

──今回は運命と自然の流れっていう言葉が多発されそうですね？
高田　いや、途中で変わるかもしれないけどね（微笑）。
──変わるんですか！（笑）。でも、Uインター時代には組織のトップとして試合に集中できない現実もあったわけだけど、今回、団体経営よりもジムという方向を選んだのはその辺にも理由があるんですか。自分が選手として集中できる環境を作りたいというか。
高田　うん。それもあるし、試合を中心に考えるんじゃなくて、道場の中での位置というか、そういうものを中心に物ごとを考えていく。普通は興行を中心に考えていくところからは離れて、完全に原点に戻っていくと。
──でも、そうなると今度は道場経営のプロとして頭を痛めることになるんじゃないですか？（笑）。
高田　でも、目の行き先は道場の中だけですから。マッチメイクとか興行面での悩みはまったくなくなります。あれは一番大変なことです！　お客さんが入る入らないを含めてね。当然、そういうこととリンクしてくる部分はあるけども、考える体力の持っていきどころはまったく変わっていくよね。
──脳味噌の筋肉の使い方も違うと。
高田　いや、俺は脳味噌には筋肉付いてないからね（笑）。
──ガハハハハ！　そこで笑わないでくださいよ（笑）。
高田　だって、まじめに言ったらシャレにならないじゃない（笑）。
──田村（潔司）選手やパンクラスもジムを持ってますが、このジム化は、そういった流れに合わせてという部分もあるわけですか？
高田　いや、一つの道場の中で、「強くなりたい」でもいいし、「対人関係でハートの自信を持ちたい」でもいいし。いろんな人たちがいろんな目的を持って、頭を使って体を使ってトレーニングして絞り出す。悪いモノを絞り出して、いいモノを吸収して出していくと。またはつくっていきたいね。そういうものが自分の範疇の中で、それは子供たちも含めてね。子供たちの育成に強く関わっていくことも核の一つだよね。それによって必ず何かが生まれるんだよね！　そういう意味では既存のプロレス界とは違う方向性で進めていくことになるだろうね。
──そういう中でも、高田さん自身はヒクソン戦のみに照準を絞っていくわけですか？



2月2日「ヒクソンとの再戦決定会見」のすぐ後に行われた高田道場設立会見。桜庭、佐野、松井、豊永、安達コーチらの顔も見える。高田道場は2月下旬に東京都・大田区、東急池上線の池上駅近辺でオープンする

2月2日、『PRIDE―2』に桜庭が出場するという発表の後に、突如として発表された『PRIDE―4』。日時、場所は『1』と同じく「10・11東京ドーム」だという。ヒクソンが同じ相手と2度もやるなど考えられなかったのだが



高田　そんなことないよ。今回は鎧は着けないと言ったじゃない（笑）。自然体でいきますよ。やっぱり道場のことも考えなきゃいけないし。
──ヒクソン戦前に試合を組むこともあると言ってましたね。
高田　そういう可能性もありますしね。物ごとを考えるということに関して言えば、試合のことだけを考えていくってことじゃないと思う。去年はそのことだけを考えていたから。
──去年よりは、ある種の余裕はあるっていうことですね。
高田　試合の1ヶ月くらい前からかな、集中してヒクソン戦のことだけを考えていくっていうのは。前回は1年以上考えていたからね。アホみたいだよね！　で、5分で終わっちゃうんだから。そんなの嫌じゃない！
──考えすぎたんですかね？
高田　真面目になりすぎたね。真っ正面から真面目に取り組みすぎ。恋愛でも何でもそうだけど、真面目に取り組みすぎるっていうのは周りが何も見えなくなるってことだから。100%の力を出せないでしょ。それはかなりマイナスだったんじゃないかなと思ってるね。
──高田さん、胸のあたりにご飯粒が付いてますよ！
高田　……ほら、見えないでしょ？
──ガハハハ！
高田　真面目に話してると、今年36歳にもなる男がね、ご飯粒も見えないわけ。それが去年のオレ（笑）。
──顔ならともかく胸に付いてたら気が付きませんよ（笑）。
高田　でも、ちょっと首を回せば見えるんだから。
──あの一戦を見て「これは高田延彦じゃないだろう」っていうのは、見てるボクも感じましたね。「じゃあ、誰やねん？」って突っ込まれたら、ボクは答えられないですけど（笑）。
高田　誰なんだろうね（笑）。あの日、高田延彦は家で寝てたんじゃないの（笑）。どっかに置いてきたんですよね。
──高田さん自身はヒクソン戦の前に「オレの肩書きは、どんなときもプロレスラーだ」って言ってましたけど、「格闘技」というものに対してコンプレックスはありますか？
高田　いや、ないですよ！　なんでそんな質問が出てくるのかわからない。
──いや、その真面目になり過ぎたってことでいうと、そういったコンプレックスが凄く狭い方向に集中しちゃっ

格闘技世界大戦前夜!!



“魔の10・11”――肉体面の故障もさることながら、メンタルな部分に敗因があった高田。これを克服するためにこれからいかなるハードルを自分に課していくのだろうか。高田の言う自然体が本当に自然体であればチャンスは大アリなのだが

前回は1年以上ズッと考えてね。アホみたいだよね。で、5分で終わっちゃうんだから

たのかなって思ったもんですから。

高田　というか、名前に対してそうなっていたと思うよね。「ヒクソン・グレイシー」という名前に対して。そこは別に考える必要はないはずなんだけど、彼の名前があまりにこの業界で大きくなりすぎて。情報も輪をかけて大きくなって入ってくるし。

――あの一戦の後に、報道とかで「この言葉だけは許せない」っていうのはありました？

高田　それはない。そういうものに触れてないし、何にも見てないから。

――逆に一番励みになった言葉とか、出会いとかはありますか？

高田　そうだね。え～……九州の知り合いの方にこういう話を聞かされたんですよ。山で猟師がイノシシを狩る時、チームで狩るわけ。中には新人の猟師もいる。でも、新人の猟師だと突然イノシシが出ちゃうと逃げたりとかするわけさ、撃たないで。「オマエ何やってるんだ！」って先輩に言われるよね。そうすると「だってイノシシが大きくて凄く大きいんですよ。あの山ぐらいありました」って言うわけ。

――新人にとってはイノシシが山ぐらいに見えたわけですね（笑）。

高田　でも、イザ、そのイノシシを仕留めてみると、わずか1メートルぐらいだったと。要するに「キミは相手を必要以上に大きく見てしまった」と。「その時点で負けてる」と言われたわけですよ、その例え話のあとで。「すべては"気"の持ちよう、メンタルな部分だ」って言われたんですよ。それもね、その人がボクの試合を見たのは、ヒクソン戦が初めてだったんですよ。

――その人の言うことは非常に的を射ているというか。

高田　うん。それで「なるほどな」って。「キミは別に死ににいくわけじゃないんだから。必ず死ぬ闘いなら別だ」と。その人のお父さんは昔、町の名士だったらしくて、「戦争中は、これから戦場に行く人がニコニコしながら挨

nobuhiko takada

拶に来た」って言うわけですよ。「明日死にに行くのに、なんていい笑顔なんだろうって思った」って言うわけですよ。「それを思えば、オマエの闘いなんか、ションベンみたいなもんだ」と。「自分の力を封じ込めるような緊張感を持つこと自体バカげているだろう。それは全部捨ててしまわなあかん」と、そういうようなことを言われましたね。特攻隊に比べたら単なるゲームですよ。それはまったく観点は違うかもしれないけど、闘いに行くことに関しては同じですよね。

――そうですね。

高田　「片っ方は絶対に帰ってこない闘いだけど、オマエは必ず帰ってきてメシを食うやないか」と。「明日も面白いこと考えることできるやろ」と。「それを考えりゃプレッシャーがかかるなんてもったいない」って言われたんですよ。それを言われて、去年1年間って、その連続でしょ？　アホみたいに。一年間「ヒクソン、ヒクソン」って、悪いことじゃないけれども、そういう表現をされると「何やってたんだろ、オレ?」って。

――ヒクソン戦の2カ月前にインタビューした時に、凄く明るく見えたんですけど、あの時は張りつめたものを表に出さないように努めてたんですか?

高田　それはその時にどういうことを言ったのか、いま言葉を憶えてないし、どういう雰囲気だったのか雑誌を見てみなければ思い出せないけど、もともと明るいからね、オレは。ただ、明るさと緊張感っていうのは別問題だから。深層心理の中はどういう状態かっていうのはわからないからね。

――とにかくもう時間もなさそうなので、最後に聞きますが、高田さんはいままでのプロレス人生で決定的な恥を掻いたことってないと思うんです。だからこそ〝恥を掻きたくない〟という気持ちが大きくなって、あの日は高田さん本来の持ち味を封じてしまったということはないですか。

高田　……己が好きこのんで挑んだことには、結果が白と出ようが黒と出ようが、最後には気持ちの帳尻が合うようにできているんだよ。自分の失敗を恥と解釈してたら何もできないでしょ。だから、今度の10・11も恥を掻きにいくんじゃないよ。白か黒かをつけに行くんだよ！　持ち味が消えたかどうか、その中から確認してください。

――とにかく、あの敗戦を経て〝ムキ身〟の高田延彦が見れることを期待しますよ。じゃあ応援してくれたファンに対してでもいいですし、罵った連中にでもいいし、プロレス界に対してでもいいし、ヒクソンに対してでもいいし、最後に言っておきたいことを〝ムキ身〟の部分でお願いします。

高田　はい。自分を応援してくれる人のためにも、高田道場として10月11日のヒクソン戦頑張ります。「365分の1」、まさにこの日しか東京ドームは空いていなかったようです。これを運命といわずに、どう解釈したらいいのかわかりません。時も場所も同じ。日本人として初めての2度目のヒクソン戦のチャンスを得たものとして、その日を楽しいゲームのつもりで望みたいと思ってます。



アントニオ猪木曰く「あんなに腰が引けちゃってさあ」という試合開始直後の場面。この日の高田にとってヒクソンは山のように見えたのだろうか。「必ず勝つ」というファンの期待も巨大なる〝ヒクソン幻想〟の前に砕け散った

nobuhiko takada

――え、ゲームですか！

高田　いや、そのゲームっていうのは、さっきの特攻隊に比べればばっていう意味と、そのくらいのつもりで自然体で挑むという意味でね。とにかく！　自分を応援してくれる人のために、そして自分の17年間の確認のために頑張ります!!

【2月13日、東京プリンスホテルにて収録】

以上が高田延彦・独占インタビュー（20分予定・実質32分）の全容である。この日の高田は寝不足で、こちらは時間不足だった。まだまだ聞きたいことは山ほどある。いや、聞きたいというより、話したいといった方がいいかもしれない。

一つの問いに対して一つの答えをするという形式ではなく、双方向での「会話」をしたいのである。しかし、その時間を取るには現在の高田の脳味噌と肉体は多忙過ぎるらしい。

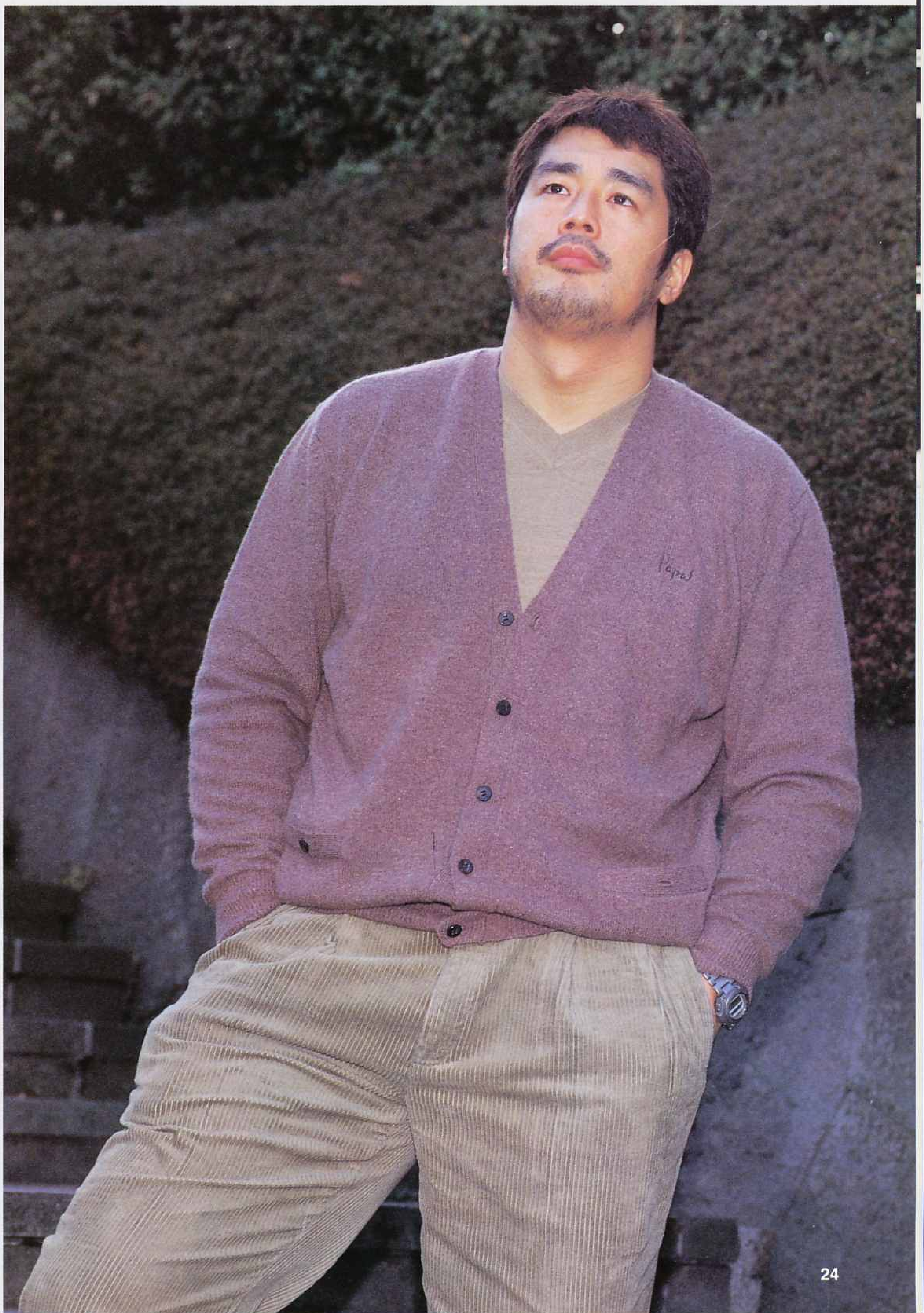
会話。プロレスファンもまた、高田への一問一答ではなく、あるいは高田からの一方的なメッセージではなく、会話を望んでいるはずなのだ。

しかし、励まし、罵詈雑言とファンの声が様々なように、マスコミやファンに対して、どういうスタンスを取ろうとも、それは高田の自由である。

だから今年の10・11に再戦が決まった以上、高田延彦が樹海から抜け出れるのか、あるいはもう抜け出てるのか。元気が売り物の本誌は、それを確認するために高田延彦との会話の機会をこれからも追うことにしようと思う。

こんなところでどうですかーーッ！

今度も恥を掻きに行くんじゃやない！白黒つけに行くんだよ!!




格闘技世界大戦前夜!!

格闘技世界大戦前夜!!

ヒカルド・モラエス

RADICAL CLOSE UP

Interview



史上初！ GAOOOO!!

柔術怪獣の咆哮

撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

RICARDO MORAIS

Interview

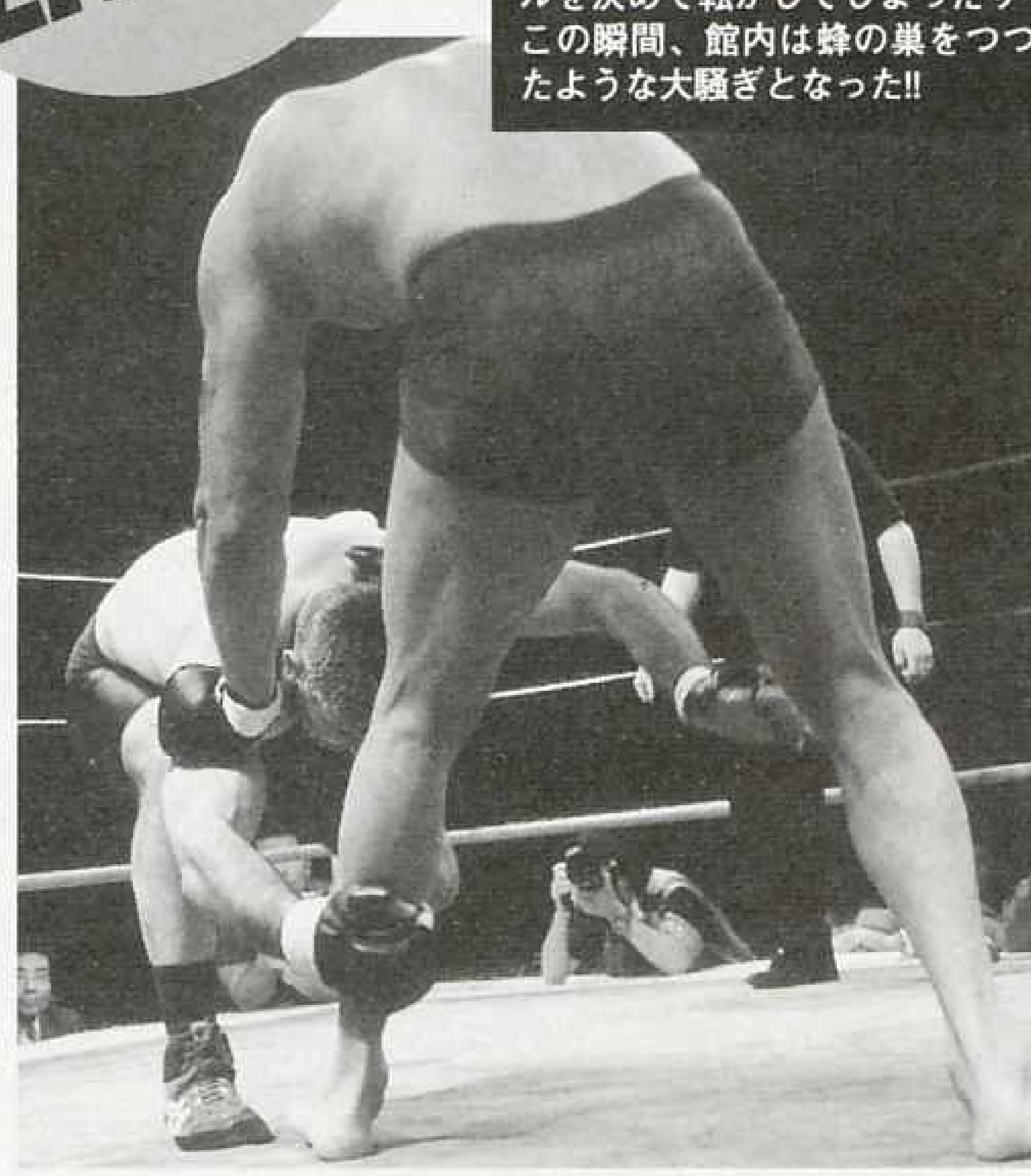
のはずだったのが、ザザに完敗でインタビュー・ボイコット!! ならば、ザザを讃えてしまえ!!

97・12・23福岡

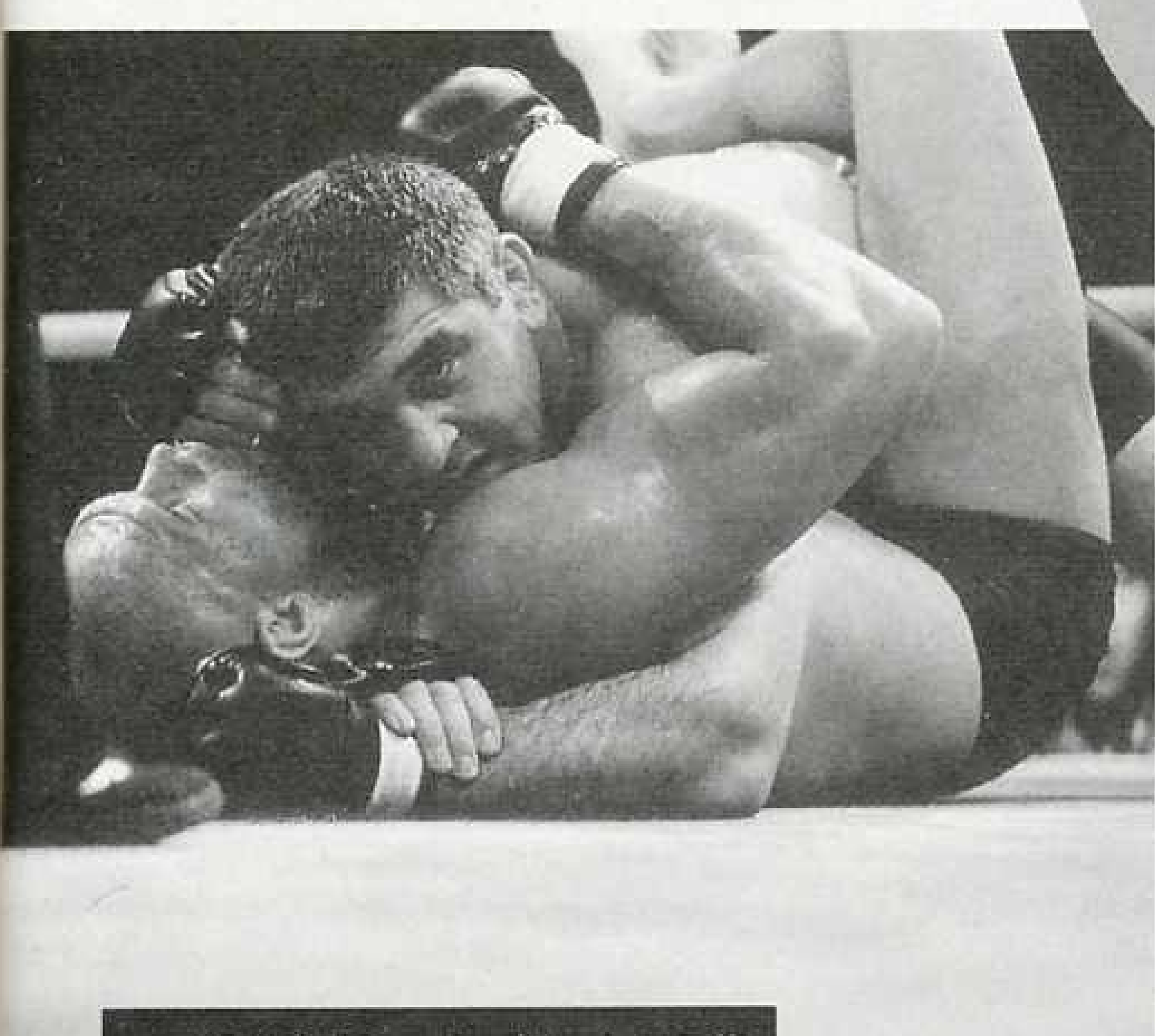
格闘技世界大戦前夜!!



▲V・ハンらの祝福とファンの「大ザザ・コール」を一身に浴びるザザ。97・12・23は地味なリングス・グルジアに今世紀最大の光が当たった「最初」の日である。「二回目」はいつになるのか、これからのザザの動向は要チェックだ



▼山本宜久、K・ユーリーを連破し、リングス・マットを蹂躙してきた205cmの柔術怪獣。その柔術怪獣に試合開始早々、足首へのタックルを決めて転がしてしまったザザ。この瞬間、館内は蜂の巣をつついたような大騒ぎとなった!!



▲柔術出身とはいえ、根っからの荒くれバーリ・トゥーダーである柔術怪獣は下になったら何もできなかった。史上最大の柔術家、史上最大のピンチである。試合はアマレスでオリンピック出場経験を持つザザが終始、上になってコントロール

昨年の暮れ、プロレス界で、もっともっと評価されていい出来事が二つ起こった。

一つは、桜庭和志が「プロレスラーはホントは強い」ことを証明する形となった、あの12・21アルティメット・ジャパン優勝劇。


もう一つは、その2日後の12・23に起こったリングス・グルジアの強豪、グロム・ザザによる〝柔術怪獣〟退治劇である。

確かに、桜庭が勝利したアルティメット大会はプロレスのリングではない。ましてやブラジルに一矢報いたザザとなっては、プロレスラーでもなければ、リングス・ジャパン所属でもない。既存の「プロレス」とは縁が薄すぎる。しかし、それにしてもこの二つの出来事に対する専門週刊誌、新聞等の扱いは不当に小さすぎたと思うのだが、どうだろう。

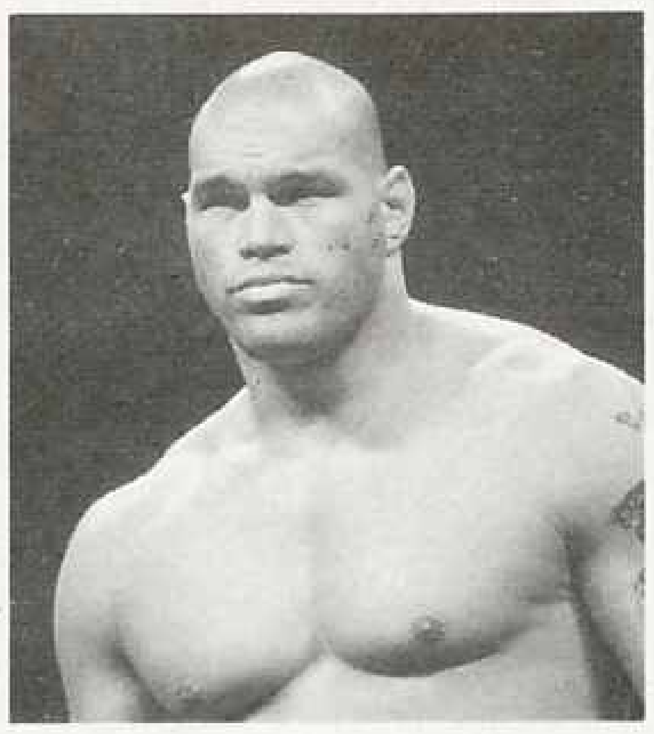
ある局面においては「プロレスはプロレス、格闘技は格闘技」という考え方があって当然である。

しかし、「プロレス」とは「プロレスとは何か?」を考え続けることであり、その根っこに「強さとは何か?」というものを掘り下げる方向がなければ、「プロレス」が本来持っている「広がり」の芽さえ摘まれてしまう、というのが私の非常に大まかな見解である。

逆にいえば、「プロ格闘技」とは「プロ格闘



ブラジル幻想を弾き飛ばしたザザザ!!



ヒカルド・モラエス
〈ブラジリアン柔術〉
1967年2月、ブラジル出身。
205cm、115kg！ デカイ、強い、怖い！ まさに3拍子揃った"柔術怪獣"である。ロシアのアルティメット大会といわれる「第2回アブソリュート大会」で優勝した実績を持つ。
18歳の頃からヘンゾ・グレイシーのもとで柔術を始め、現在はリオ・デ・ジャネイロにあるカーロス・グレイシーの道場で練習に励んでいる。96年8月に山本宜久を僅か46秒でKOし、戦慄のリングスマット・デビューを果たした後、昨年の6月にはリングス・ロシアの極真空手家、コーチキン・ユーリーをボコボコに！ 今回が3回目のリングスマット登場だった。しかし、「柔術では紫帯だが、バーリ・トゥードでは黒帯」ということを逆の意味で証明してしまうことになった



▲リング下に落ちそうになると、「フリーズ」がかかり、メインとサブのレフェリーが二人がかりで中央に引き戻す。なにせ柔術怪獣がデカイので、それだけで大変な作業である。それにしても、柔術怪獣のセコンドはリング下をうろちょろし、非常にうるさかった

技とは何か?」を考え続けることではないのだろうか？ その視界に「プロレス」という概念が1ミリたりとも入っていないと言い切れる人は、「闘いを通じて、観客の前に自らの哲学を提示する」ということを考えたことがないということにもなる。

どうですか!〝格闘技側〟のみなさん!!

というわけで、本誌では、アルティメットもバーリ・トゥードも「対岸の火事」ととらえることはできないわけで、敢えて冒頭に「プロレス界」という言葉を使わせていただいた次第である。

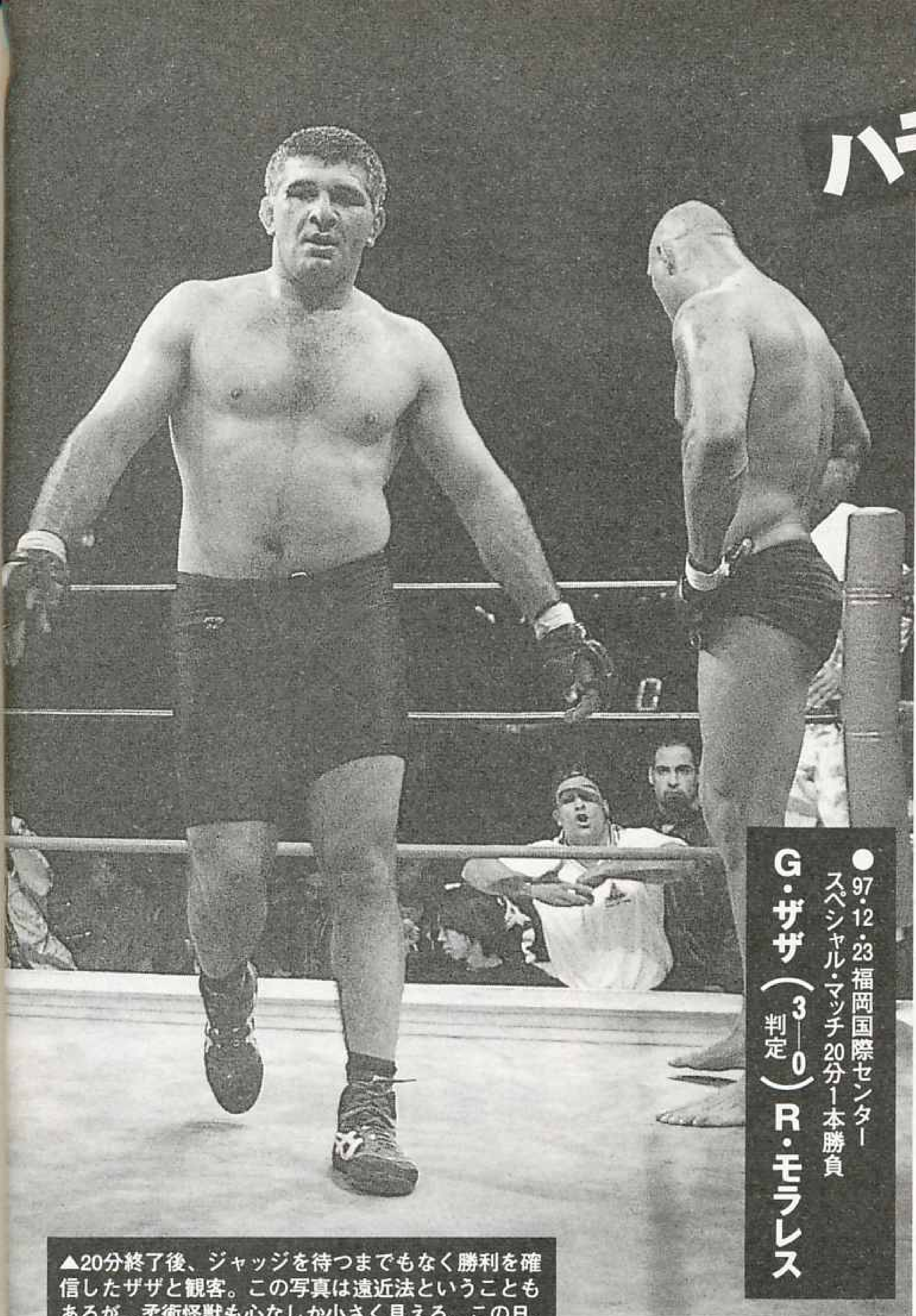
いま怒ってるみなさんにおいては、謝りませんので、そこんとこよろしくお願いいたします。

まぁ早い話が、例えそれがプロレス以外のジャンルであっても、「強くて面白い人」を私

今世紀最大の「ザザ・コール」に乾杯!!

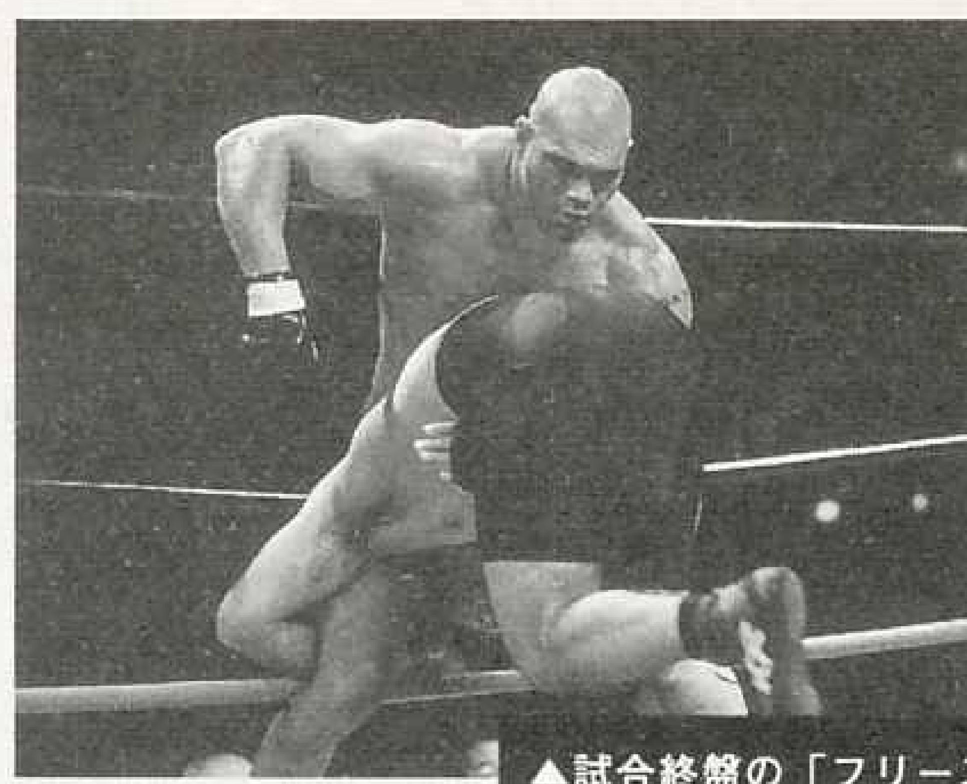
格闘技世界大戦前夜!!

ハラショー!!



●97・12・23福岡国際センター
スペシャル・マッチ20分1本勝負
G・ザザ（3−0 判定）R・モラレス

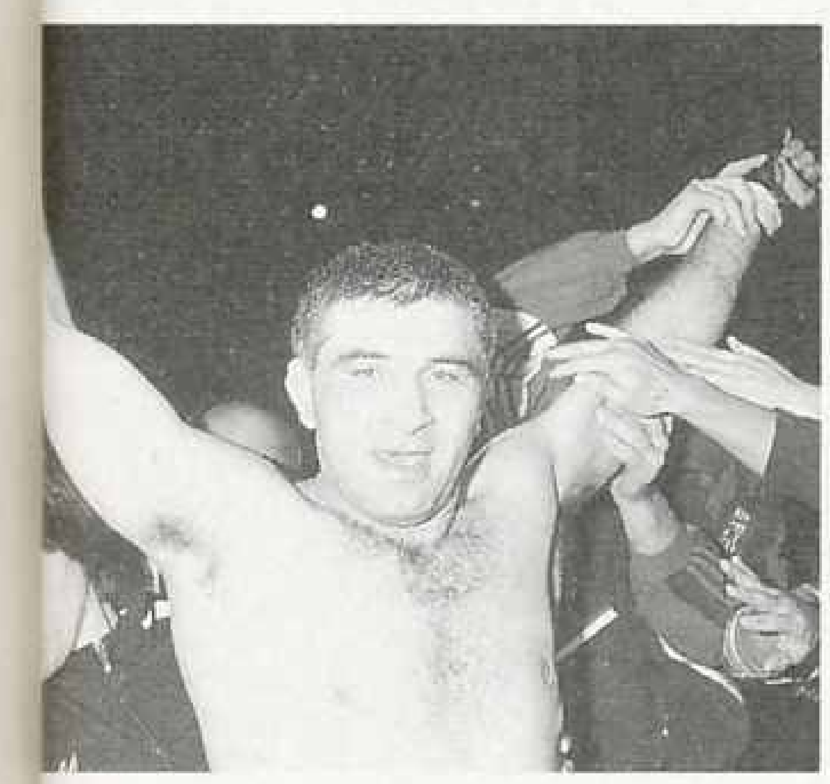
▲20分終了後、ジャッジを待つまでもなく勝利を確信したザザと観客。この写真は遠近法ということもあるが、柔術怪獣も心なしか小さく見える。この日、試合後に予定していた世界初の柔術怪獣インタビューはこれによってパーとなってしまった



▲試合終盤の「フリーズ」では「フリーズ」前の体勢もとらずに、ズルして少しでも不利な体勢から逃れようとした柔術怪獣。立ち上がりそうになるだけで恐怖感がつのるが、それでもザザは落ちついてテイクダウンを取っていく



▼前田日明総帥を前にしても、なんとこれだけデカい柔術怪獣。キャラ的にもバツグンな柔術怪獣にはぜひ、また来日してほしいものだ。それに、ザザが勝ったとはいえ、リングス・ジャパン勢はまだリベンジを果たしていないのだ！



グロム・ザザ〈リングス・グルジア〉
1966年3月、グルジア共和国トビリシ生まれ。
86年フリースタイルレスリング・ヨーロッパ選手権優勝。
87〜90年フリースタイルレスリング・ソ連選手権優勝。
96年にはアトランタオリンピックにもグルジア代表として出場。1回戦で惜敗したものの、そのレスリング・テクニックの下地と地力には定評がある。
今回のモラエス戦はバーリ・トゥード・スタイルでの試合は初めてながら、その下地と地力を存分に活かして、実力者ぶりを発揮した。
モラエス戦後のコメントは「レスラーとしてのテクニックは私の方が上。私も試合中ミスをしたが（モラエスが）レスラーとしての十分なテクニックを持っていれば、そのミスを逃さなかったはずだ」というものだった。実に次回の来日が楽しみな選手である

は「プロレスラー」と呼びたいし、「凄くて面白い試合」を「プロレス」と私は呼びたい。……なんて話をしている場合ではなく、ザザを讃えなければ。

さぁ行きます！　ハラショー、ザザ！

そういえば、この日のザザは会場に着いても「今日の相手は誰？　ルールは何？」と笑いながらとぼけ続け、プレッシャーのかかる大試合に挑むとは思えないほどの余裕を見せていた。つまり、その試合ぶり同様、精神的な緊張を見事にコントロールして、〝ジュージュツ幻想〟も〝モラエス幻想〟も〝ブラジル幻想〟も、一度受け入れた上で、すべて吹き飛ばすことに成功してしまったというわけだ。

このあたりは、世界で初めてオクタゴンに入る前に居眠りをし、花道で笑みを見せた男・桜庭和志とよく似ている点だろう。強者（つわもの）には微笑（ほほえ）みもまたよく似合う——。

どんな相手の〝幻想〟にも飲み込まれない術（すべ）を身につけているという点で、二人は実にプロフェッショナルなファイター、いや「プロレスラー」らしいではないか。

ところで、今年4月で、第二次UWFが旗揚げしてから丸10年経つ。

前田日明は、1・21のトーナメント表彰式で、「UWFをやってきたからハンやミーシャとの出会いもあった」と言ったが、今回の「大ザザ・コール」も、UWFから派生したリングス・ネットワークの地道な地盤作りと広がりがあったこそ起きたことなのである。

〝魔の10・11〟以降、「UWFの理念は崩壊した！」「UWFは終わった」などと言われているが、この日のザザの勝利も、Uの蒔いた種子の萌芽であることに変わりはない。

そして、刮目して見なければならないのは、やっぱり過去よりも未来なのである。おやすみなさい。

（山口日昇）

応募総数589通の中から選ばれし者たち!

ファンが一日記者で取材？

ええ度胸しとるやないけ！



決勝進出者を当てろクイズ

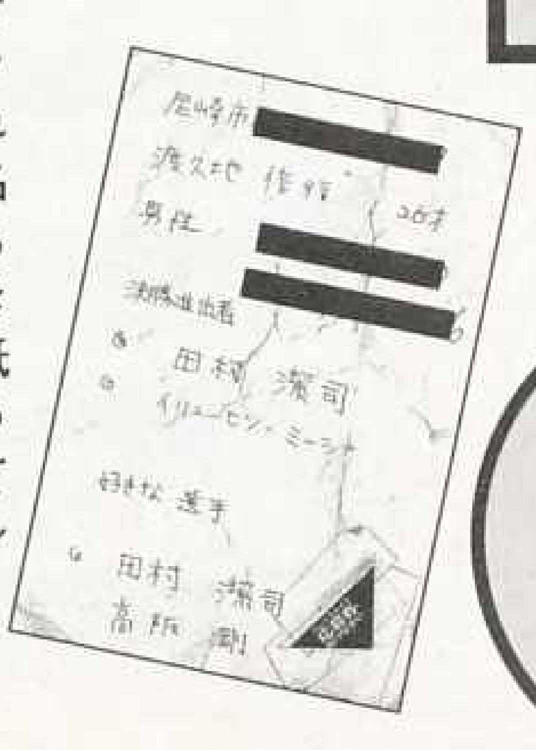
ワールドメガバトル・トーナメント1997

バックステージ&最前列にようこそ!

本誌NO.6で華々しく幕を開けた『リングス　ワールド・メガバトル・トーナメント1997優勝決定戦進出者を当てろクイズ（略して“当てろクイズ”）』。息切れしそうな長いタイトルのこのクイズには、本誌始まって以来最多の589名の応募が寄せられた。その中から、決勝進出者をただ1人ズバリと当てた強運者が1・21の日本武道館にやってきた。このページは、その幸せ者どもがリングスのバックステージに『紙プロ』1日特派員として潜入し、さらに最前列で試合を観戦した模様を報告するものである。はずれた人も、「来年こそは！」と心に期するものを感じて頂ければ幸いである（来年もクイズをやるかどうかはまったく未定）。

クイズ正解者はたったの1名!

このクイズの賞品は、当選者をペアで武道館大会にご招待するというもの。さらに当選者のみバックステージパス進呈＆リングサイド最前列で観戦という超豪華絢爛な特典付き。さすがリングスです。さらに、さらに「読者様は神様です」がモットーの本誌は応募数のあまりの多さに心を打たれて『紙プロ賞』としてハズレた中から抽選で1名様をご招待させてもらった。かくして、尼崎から来た田村ファンの渡久地信行さん（当選者）、付き添いの村上さん、そして杉並区から金子さん（『紙プロ賞』）が武道館に集結しました。手ぶらというのも無粋なので、皆さんにはお土産を持ってきてもらいました。ん～、ドキドキしますね。ドーンとリングスの雰囲気を味わってください！





日本でただ一人クイズに正解した選ばれし者
渡久地信行さん

ハズレの中から抽選で選ばれし者
紙プロ特別賞
金子さん

付きそい
村上さん

原タコヤキ君以来の惨劇！本誌記者がデコピン制裁くらう！





そして遂に、リングス・ジャパンの総帥、前田日明の控室にも潜入成功した。記念撮影を終え、不用意にも筆者が「記念にデコピンでもしてもらえば？」と口にしたのが運の尽きだった。「なに？　デコピンされたいんか？」と日明兄さんは筆者の頭をむんずと掴み、１００発以上ものデコピンを左右に散らしながらお見舞いしてくれた。タコ兄さん以来のデコピン禍にその場に居合わせた者は青くなったが、日明兄さんは太陽のような笑顔で指を弾きまくっていた。筆者の顔面は無惨にも変形してしまった。こんな貴重な場面を見れるのも、クイズを当てたからこそである。

前田日明とご対面！





バックステージパスをもらう！



ちょっと緊張気味の３人だったが、本誌の２代目カタブツ君・松澤チョロＱのチンプンカンプンなトークでやっと笑顔がこぼれた。緊張もほぐれたところでいざ中へ。受付でパスをもらう渡久地君の手は小刻みに震えていた。そんな彼の野望は「タリエルに抱かれてみたいっス」とのこと。夢はしっかり叶ったようだ。



なんて豪華なんだ！幸せすぎて怖い



選手とこんな近付けるのもめったにない事です！



3人と記念撮影をしたハンは、ごく自然な動作で金子さんを控室まで誘拐！



リングスのレフェリーも務める男・島田裕二。3人は生シュートサインを見れて、さぞ嬉しかっただろう。

せっかく当てたんだから決勝前の2人を明石焼きで激励せよ！





激励のために渡久地さんには地元の特産品を持ってきてもらった。

そうこうしてるうちに試合が始まった。この日の試合は内容の濃いものばかり。渡久地さんも、他の２人もかなり興奮した様子である。しかし、何と尼崎に帰るための終電の時刻が迫っているという。そして、尼崎の２人はメイン直前に「悔しいです。メインは家に帰ってWOWOWで見ます。今日はレスラーの方の大きさにびっくりしました」とコメントを残して泣く泣く家路についたのであった。メインでは田村選手が見事に優勝。『紙プロ賞』金子さんは表彰式終了後に、祝福の花束を田村選手に渡した。これは平均的な日本人の一生分の運を使っています。「ＲＩＮＧＳと『紙プロ』には感謝してもしきれないです。ホントにありがとうございます」とホントに満足そうだった。かくして、読者的には夢のような、本誌記者には悪夢のような１日が暮れていったのだった。









リングサイド最前列の記者席の真横に座った渡久地さん。589名の頂点に立った瞬間だ。ペアの村上さんはスタンドで観戦。

嗚呼 なんて太っ腹なんだ！ RINGSから当選者へのおみやげです。



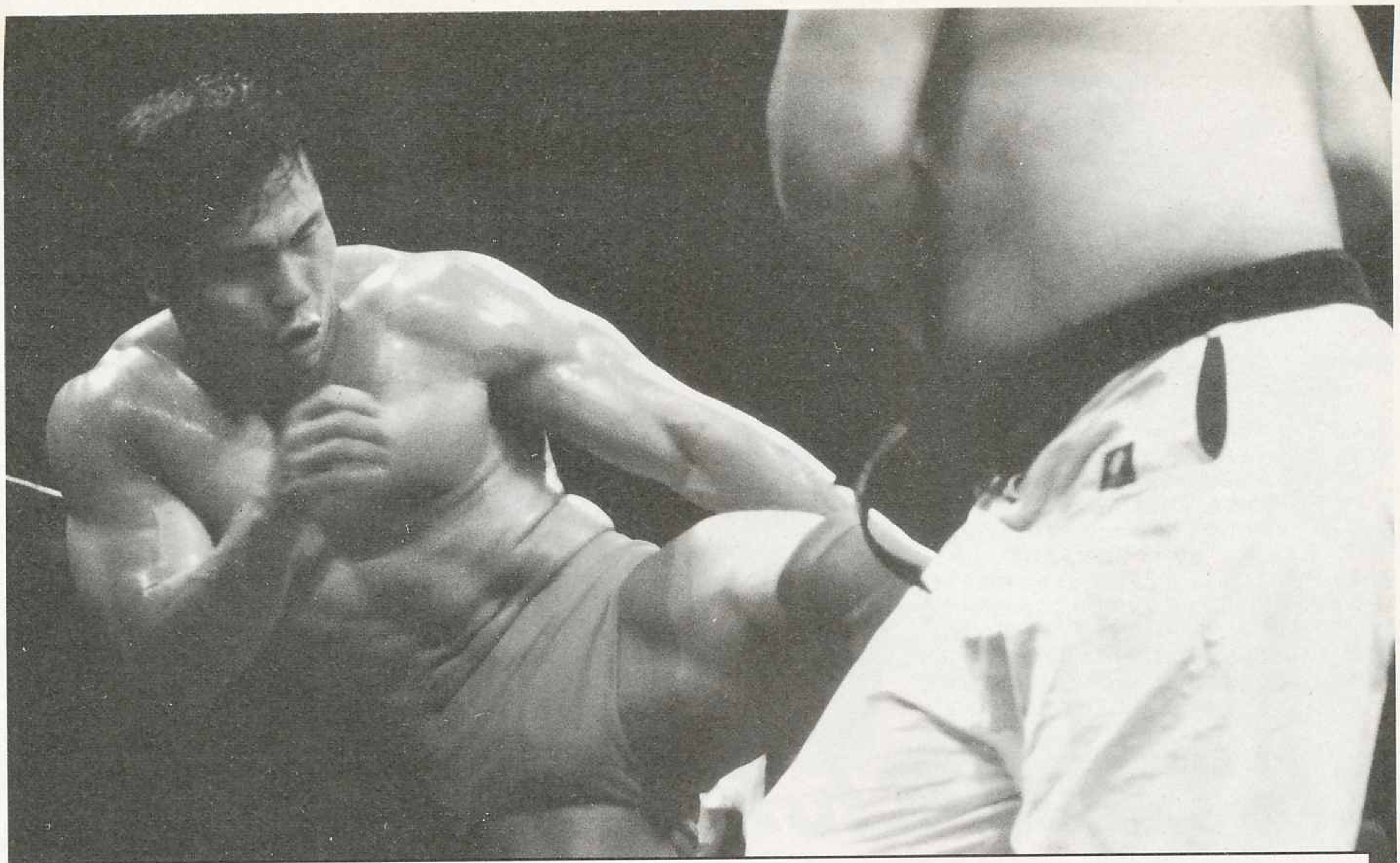
熱い男に似合うリングスTシャツ4タイプ

シャレとるやんけ98年カレンダー

タフな男のためのキャップ、キーホルダー、タオル

こんなにあるぞビデオ各種

ビデオ以外のグッズはRINGSで通販やってます。問い合わせ：03-3461-0257　RINGSまで。



BATTLE GENESIS VOL.3

3.3(TUE.)後楽園ホール

●OPEN 18:00 | START 19:00●

◉入場料金
特別席（3列目以内）…￥10,000／S席…￥8,000／A席… ￥6,000

◉発売場所
チケットぴあ ☎03-5237-9999／チケットセゾン ☎03-3250-9999
CNプレイガイド ☎03-5802-9999／ローソンチケット ☎03-3569-9900(Lコード37523)
オデッセー ☎03-3796-9999／後楽園ホール ☎03-5800-9999
レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078／レッスル池袋店 ☎03-3989-0056
書泉ブックマート ☎03-3294-0011／大山アメリカン ☎03-3962-6443
ビデオショップ・チャンピオン ☎03-3221-6237／フィットネスショップ水道橋店 ☎03-3265-4646

◉お問い合わせ
オデッセー ☎03-3796-9999



決定！

VS



NOW ON SALE!

坂田　亘　vs　アレクサンダー大塚

3.28(SAT.)東京ベイN.K.ホール

●OPEN 16:30 | START 18:00●

◉入場料金
ロイヤルリングサイド…￥20,000／アリーナリングサイド…￥15,000
リングサイド…￥10,000／スタンドS…￥7,000
スタンドA…￥5,000／スタンドB…￥3,000
学生特別優待席A…￥2,000／学生特別優待席B…￥1,000

◉発売場所
チケットぴあ ☎03-5237-9999／チケットセゾン ☎03-3250-9999／CNプレイガイド ☎03-5802-9999／ローソンチケット ☎03-3569-9900(Lコード37492)／オデッセー ☎03-3796-9999／後楽園ホール ☎03-5800-9999／レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078／レッスル池袋店 ☎03-3989-0056／書泉ブックマート ☎03-3294-0011／大山アメリカン ☎03-3962-6443／ビデオショップ・チャンピオン ☎03-3221-6237／フィットネスショップ水道橋店 ☎03-3265-4646

◉お問い合わせ
オデッセー ☎03-3796-9999

NOW ON SALE!

FIGHTING NETWORK RINGS

主催
WOWOW BS-5ch
FIGHTING NETWORK RINGS

紙のプロレス RADICAL

1998 no.8

『紙プロ』の今後は
ストロング・コンゴウ!
なーんつってな。ダーッハッハッハ!
元気と健康が一番なんですッ!!

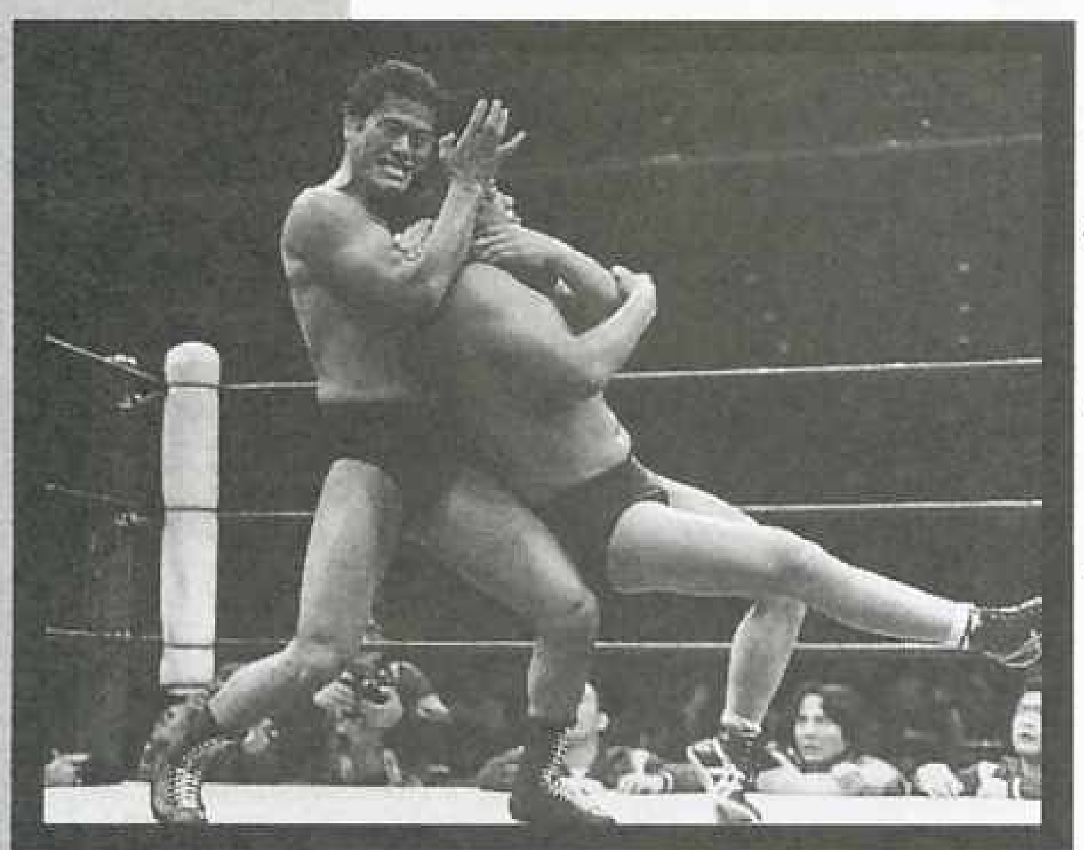
紙のプロレス・ラディカル

CONTENTS

●NO.8 MAIN-EVENT

4・4ドームに集え"イノキ者"!!
21世紀への 闘魂つるべ打ち! 1

格闘技世界大戦前夜!!



アントニオ猪木
ANTONIO INOKI

TAKADA DOJYO
ヒクソンとの再戦へ独占激白!
高田延彦 16
NOBUHIKO TAKADA

TAKADA DOJYO
冬の時代に奇跡の微笑!
桜庭和志 65
KAZUSHI SAKURABA

PANCRASE
"柳澤革命"始動!
柳澤龍志 76
RYUSHI YANAGISAWA

格闘家から見たプロレス!
WORLD-SHOOTO / SHOOT-BOXING
エンセン井上/村浜武洋 126
ENSON INOUE / TAKEHIRO MURAHAMA

RADICAL大アンケート企画
プロレスラーマイク・タイソンははたしてアリ、なのか!? 38

RADICAL COLUMN
世界格闘技大戦、前夜 34
――プロレスという概念'98

GRACIE JIU-JITSU
ヒカルド・モラエス初インタビュー? 25
RICARDO MORAIS?

RINGS
ときめきの殺りく連載!
前田日明の人生相談『人生は語らず』 121
AKIRA MAEDA JINSEIWA KATARAZU

昭和の新日魂ここにありPART2
木村健悟 89
KENGO KIMURA

● SCANDAL&SCOOP

男プロファンに根強く残る「女子プロ嫌い」の正体を暴け!
男プロファン300人アンケートの回答に玉田凛映&府川唯未、大激怒!! 82

アレクとのものもはホントに結婚したんです!
アレクサンダー大塚&のものも独占手記 140

リングス「ワールド・メガバトル・トーナメント1997」
決勝戦進出者を当てろクイズ報告果報者はこいつだ! 30

格闘探偵団・旗揚げ2周年記念立体企画
バトラーツの「B」を解読せよ!&岡本衛インタビュー 44

みちのくプロレス情報満載の新聞
『岩手紙風呂』号外 47

● RADICAL FIGHT

紙プロ的・RADICAL観戦記っちゃー観戦記なんです!
『RADICAL BOUT REVIEW』―― 57
唐突に始まった、マット界記者会見&催し物ウオッチング
『PRESS REPORT』―― 62
これまた唐突に始まった、カレンダー式マット界トピックス
『ちょうの出来事』―― 50

● SPECIAL NOVELS

格闘プロレス小説第8回『無比人』 100
真樹日佐夫

● COLUMNS

帰ってきた椎名基樹&せきしろの『ザ・検証ヒクソン98』―― 118
RADICAL MYSTERY TOUR
暴露本の根城「サンボ浅子の店」に潜入せよ! ―― 104
金髪鬼・吉田豪の『プロレスマスコミ観察雑記』―― 53
コラム・ツイスト
花くまゆうさく/X-GUN/藤本かずまさ ―― 116
必読! 石川雄規の『闘いの美術館』―― 98
毒々! 日佐夫クン人生劇場『書評の星座PART2』―― 113

● ANOTHER

大胆不敵な我流読者ページ『ハガキン太』―― 106
大河ドキュメント完結編!『バカ日誌』―― 108
発足! 世界プレゼント連盟 ―― 142

※ピンポンパンポーン。葛飾区の山本隆司様、山本隆司様、いらっしゃいましたら『紙プロ』1F受付までお越しください。ピンポンパンポーン

Art Director
出田さん●San Ideta

Design/two-three
村松さん●San Muramatsu
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
古川ふるーる●Furuuru Furukawa

表紙モデル/桜庭和志
撮影/松永源さん(本名・勉)
スタイリング/Kazushi Sakuraba
ヘア&メイク/Kazushi Sakuraba


※えー、最後にシメさせていただきます!!「RADICAL」は「根源的」「根本的」という意味でとらえてくれると非常に嬉しいというか!!

プロレス、U系、
バーリ・トゥード、
グレイシー、シューティング、

そしてまだ見ぬ強豪たち……へ──。

夢の「格闘技世界大戦」へ
焼け跡闇市のマット界を復興せよ!!

山口日昇



元気ですかーーッ!!

えー、今号もいろんなプロレスラーや格闘家の方々に登場していただき、たいへんありがとうございます。

実は、このモノクロ巻頭ページでは、「プロレスと格闘技は地続きである」という本誌の理念をさらに理解していただくための大論文を、400字詰め原稿用紙にすると約20枚も書こうとしました。

しかし、3分の2以上書いたところで、私はハッと気がつきました。

ここは、私があらためてゴタゴタと理屈を並べるよりも、特集の各インタビューや各記事を熟読していただければ、それだけで十分理解していただけるのではないか、と。闘いに理屈はいらないというか。

そこで、いっそ難しい話は抜きで、『紙プロRADICAL』からのご挨拶という形で、皆さんの前に立たせていただいたらどうかと、こうしてマイクを取らせていただいた次第です。

えー、そしていつの日か、リングス、キングダム、パンクラス、K—1、シューティング、アルティメットおよびバーリ・トゥード系、各プロレス団体、そして世界格闘技連盟といった世界に誇るべき布陣が、お互いの利害を超越し、現実的な諸問題を乗り越え、世界中を熱狂させるような格闘文化を築き上げていってほしいなという思いを乗せて、「格闘技世界大戦、前夜」という特集タイトルをつけさせていただいたわけです!

いまこの日本は、"見えない戦争"が終わり、焼け跡闇市を見ているようだという声もあります。

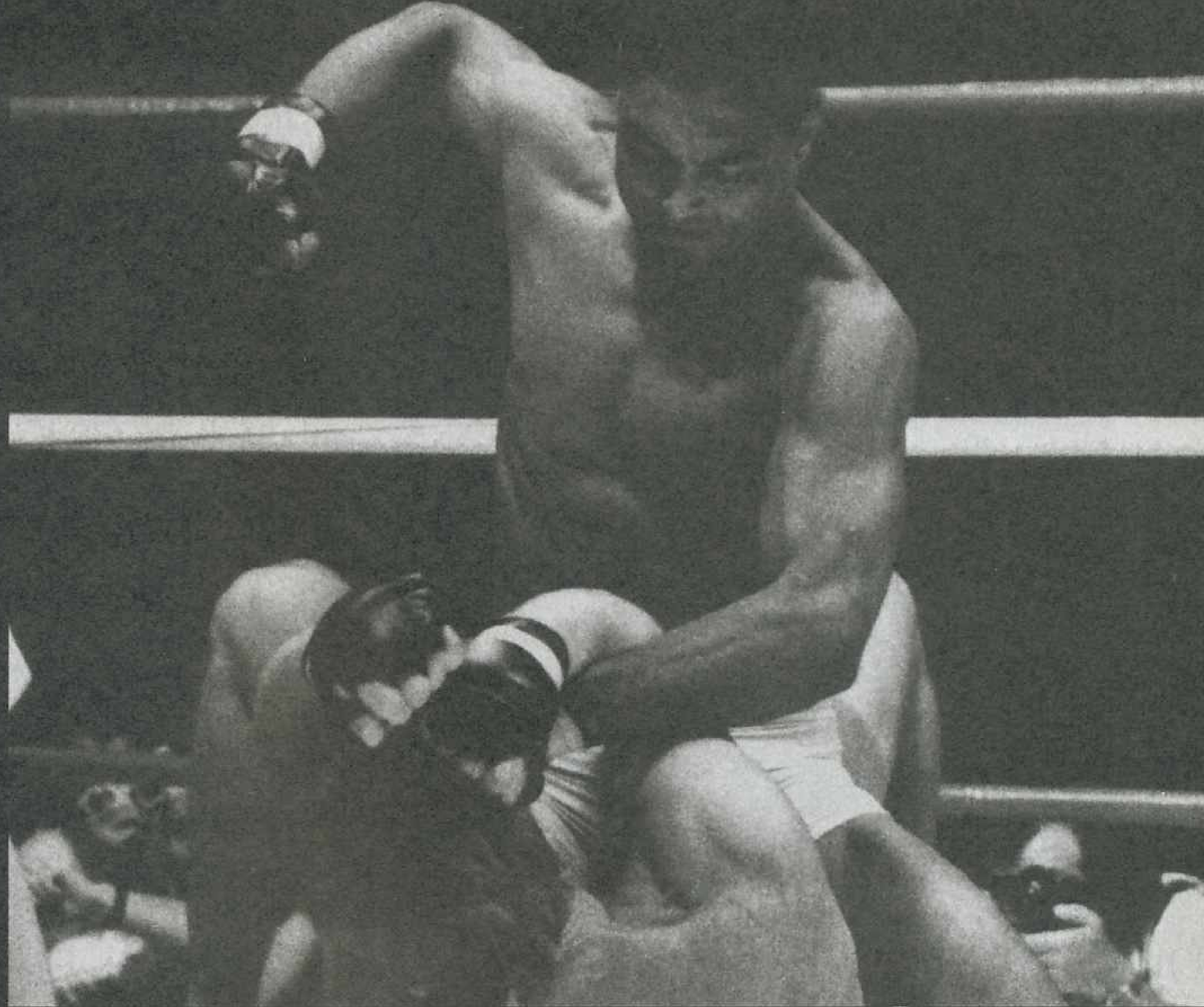
マット界に目を転じて見ても、わずかに隆盛を誇っているのは、新日本プロレス、K—1といった巨大なお祭りを繰り広げているところしかありません。

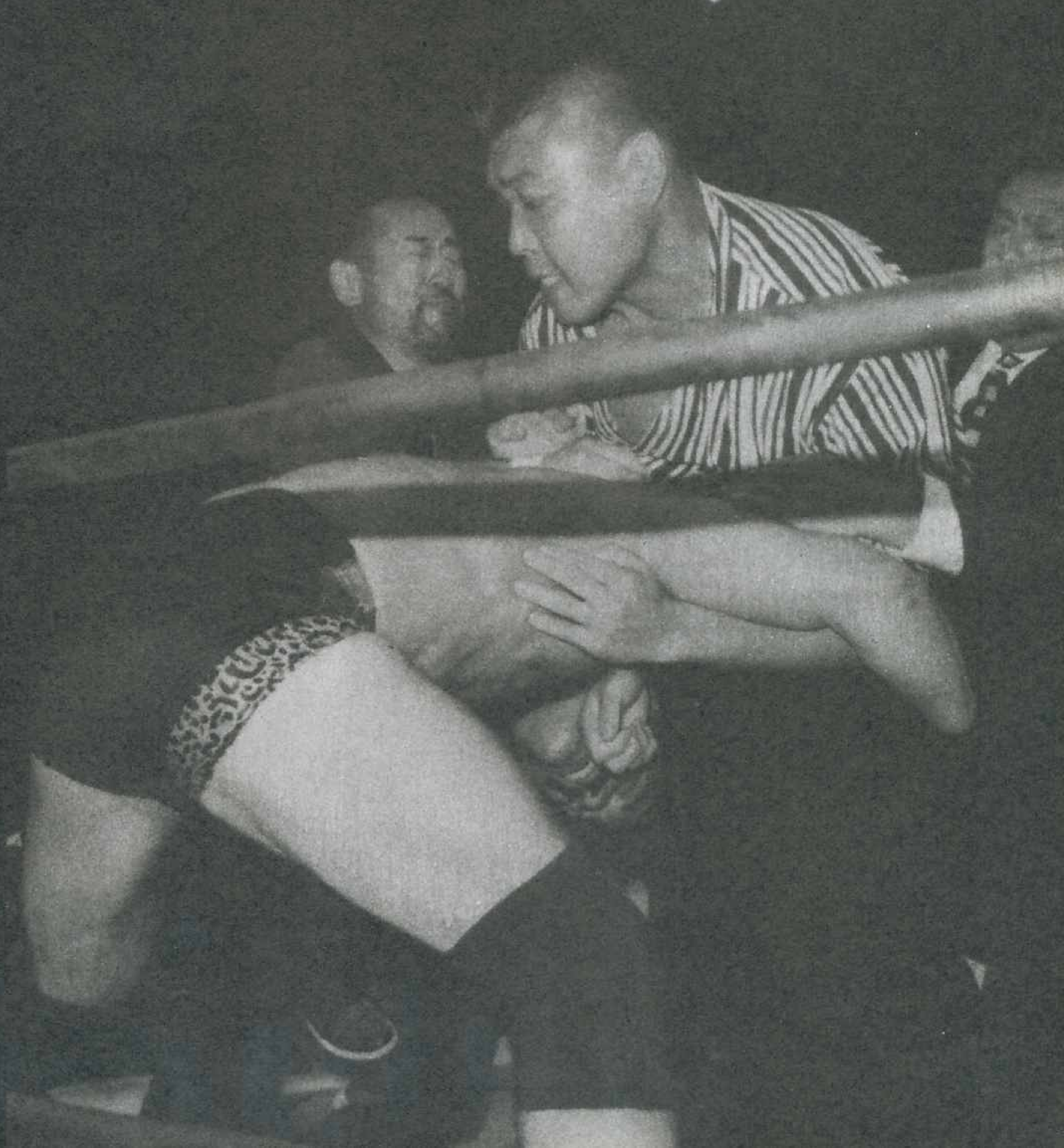
えー、こんな話があります。

映画館が5館、一つの街にあったとする。「なんでこんなところに映画館が5館もあるんだ」と思っても、かつてはすべて満員だった。

しかし、そこから1館潰れ、2館潰れ、となっていくと、そこはもう盛り場ではなくなり、結局最後の1館まで潰れてしまったと。

だからこそ、ここは「ライバル心」という熱いエネルギーを狭い方向に持っていくのではなく、底辺拡大、そして世界を相手にエネルギーをぶつけていか





なければというか！　マット界は焼け跡闇市の状態からいままさに立ち上がろうとしています！　最大のピンチは最大のチャンスなり！

世界中の一流の格闘家、そしてまだ見ぬ強豪がジャンルを超えて、人々を感動させる、ロマンある闘いの元に集結する、あるいはボーダレスにリンクしていく。

そんな日が来ることと、みなさんの元気と健康を願い…いきますかーッ！

イーチッ
ニーッ
サンッ
よいしょッ
マンセ―――ッ!!

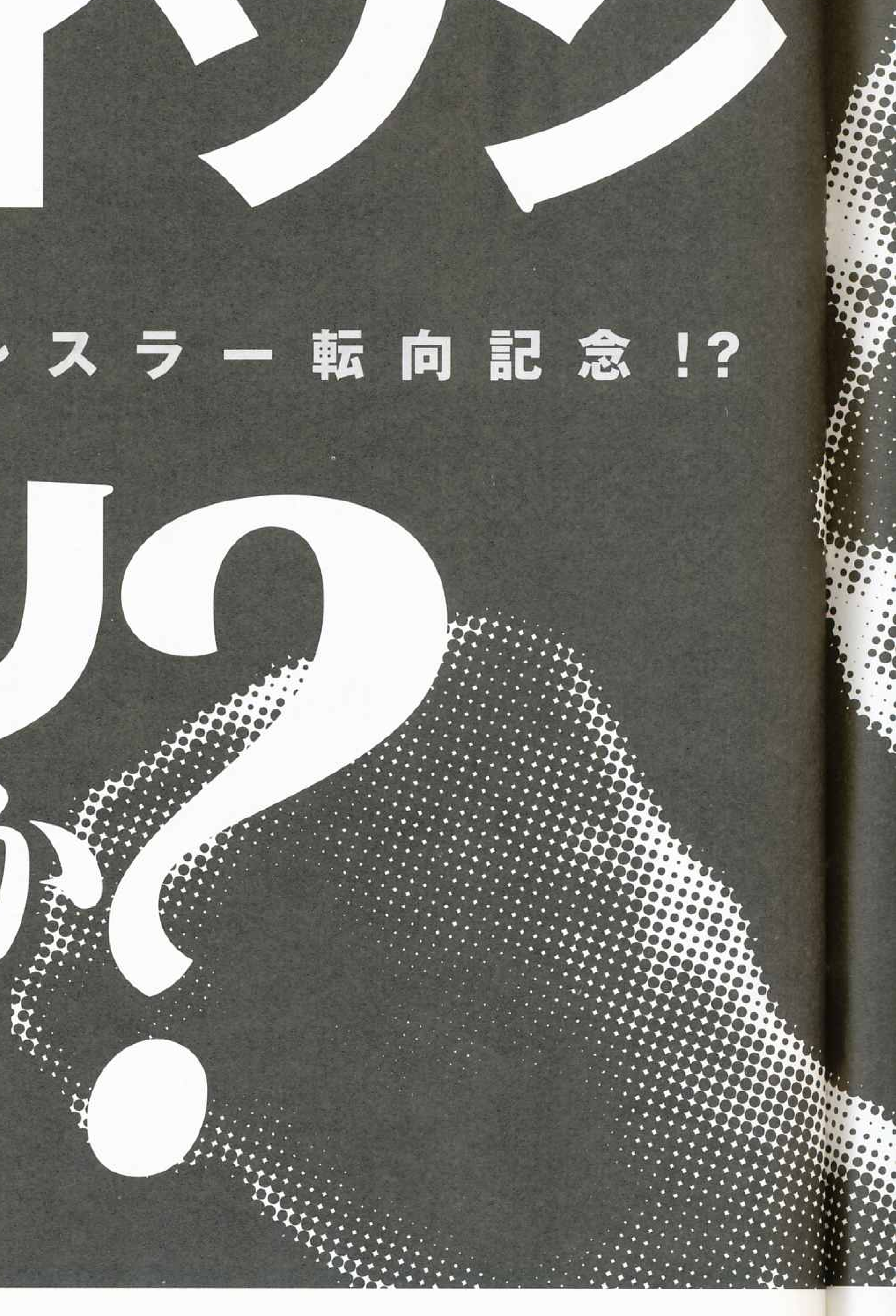


ボクサー……………50人
プロレスファン……50人
道行く人……………50人
アンケート結果
雪崩式発表！！

世界中を駆けめぐった「マイク・タイソン、プロレス入り」報道。皆さんは心ときめきましたか？ そこで今回は、プロレスファン、ボクサー、そして世間の人々に聞く3ウェイFUCK'Nアンケート！『プロレスラーマイク・タイソンはアリなのか？』をお届けします。みんなタイソンは好きかい？ タイソンはプロレスをしていいのかい？ タイソンはプロレスラーより強いのかい？ 今だから聞く『マイク・タイソン』!!

プロレスラー マイクタイソンはアリなのか？

◎プロレスラー転向記念!?

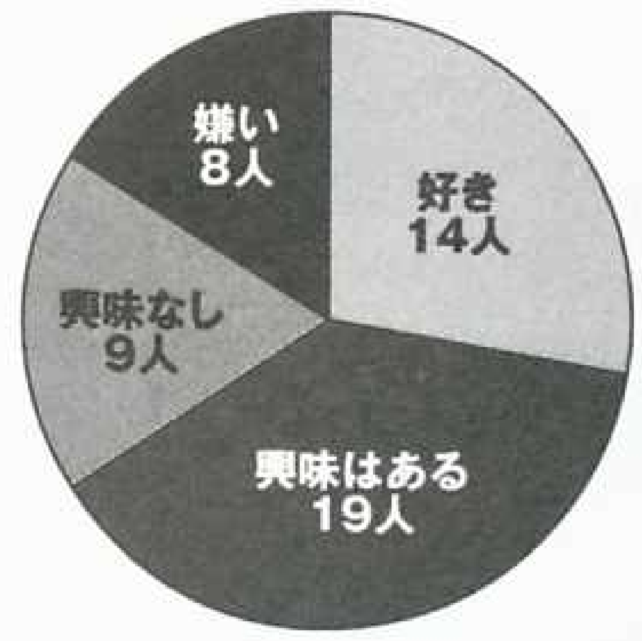




プロレスファン50人に聞く！

3ウェイFUCK'Nアンケート・プロレスファン！

Q１　マイク・タイソンは好きですか？



Q２（Q１で「好き」または「興味はある」とこたえた人のみ回答）マイク・タイソンのどこに興味を惹かれますか？

●前田もやりたがるほどのビックネーム。ある意味アリと同じ。ずいぶん「プロレス」のテリトリーに入ってきたと思う。（３４歳・男・会社員）●圧倒的なパワー。太い首。（23歳・男・フリーター）●入れ墨モンスター（24歳・男・ミュージシャン）●ギャングみたいなとこ（22歳・男・専門学生）●女癖（25歳・男・サービス業）●存在がプロレスラーそのものだから（27歳・女・フリーター）●常識がなさそう（25歳・女・ＯＬ）●あんだけ有名で、いろいろあったのにあの大一番で耳をかんじゃう所（23歳・男・会社員）●今後の人生（19歳・男・予備校生）●レイプマン（23歳・男・調理師）●生まれ持った危なさ。悪人ずら。人を絶対に殺してそうな雰囲気。（22歳・男・アルバイト）

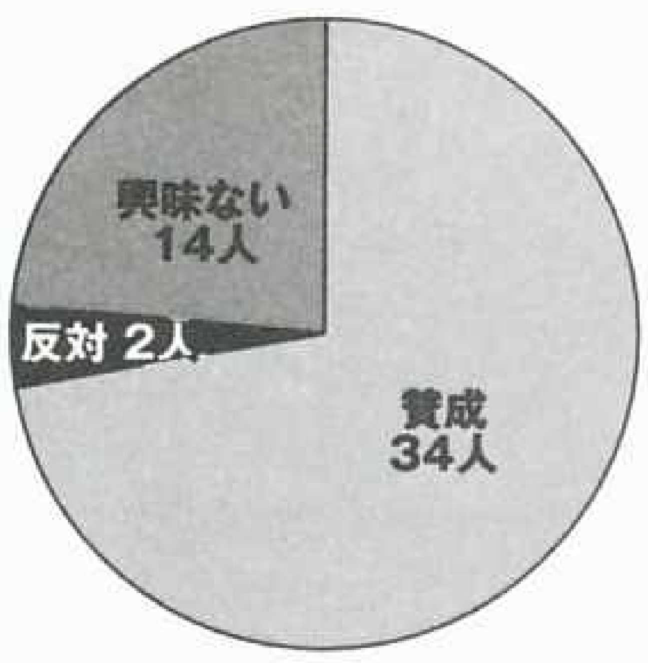
Q３（Q１で「嫌い」または「興味ない」とこたえた人のみ回答）マイク・タイソンのどこが興味を失わせている原因ですか？

●顔（19歳・女・販売員）●ギャラが無意味に高い。（18歳・男・高校生）●ボクサーだから（19歳・男・学生）●あさはか過ぎる（26歳・女・アルバイト）●う〜ん、なんとなく（23歳・男・無職）●あらゆる社会的なトラブル（38歳・男・会社員）●試合をしないから（16歳・男・高校生）●金をいっぱい持ってるから（32歳・男・自営業）●ドン・キングがいないと試合が出来ないから（22歳・男・大学生）●悪いことをしても反省していないところ（19歳・女・学生）

Q４　タイソンがプロレスのリングで試合をする、あるいはレフェリーをするのは知っていますか？



Q５　タイソンがプロレスのリングに上がることはどう思いますか？　また、その理由を書いてください。



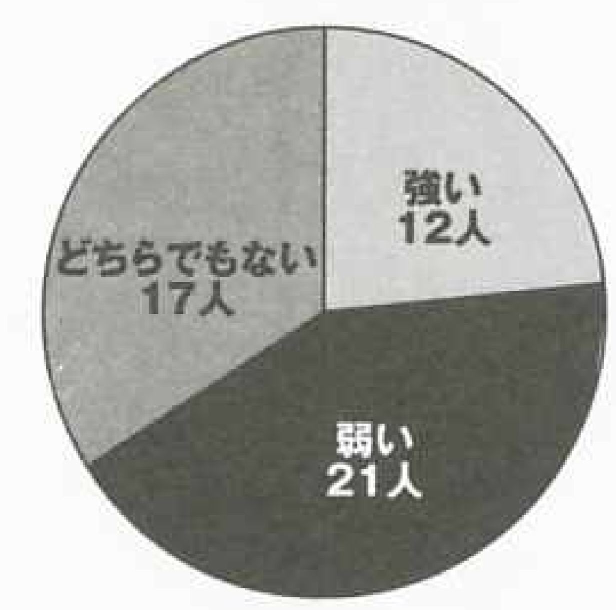
【…………………理由…………………】

賛成●グローブをつけなければいい。（15歳・男・中学生）●客がはいる（17歳・男・学生）●本人、ドン・キングの自由（27歳・男・会社員）●プロレス界が注目される（26歳・男・サラリーマン）●みてみたいから（28歳・男・普通の会社員）●前田とやって欲しいから（37歳・男・会社員）●オースチンにぜひ倒して欲しいので。でも多分、試合は成立しないと思う。（22歳・男・アルバイト）●常々、タイソンがボクサー以外と闘ったらどうなるのか？と考えていたのでどれくらい強いのか？　非常に楽しみ。（23歳・男・フリーター）●普通には働けないからきっと。（22歳・男・専門学生）●夢の対決連発（25歳・男・大学生）

反対●プロレスラーが負けるような気がするから（28歳・男・販売員）●あまり意味がないと思うから（19歳・女・学生）

興味ない●おれは全女ファンだから別に関係ない（18歳・男・高校生）●ＷＷＦは面白いがタイソンがどうなろうが関係ない（19歳・男・学生）●タイソンよりタイトンでしょ（23歳・男・プー）●海の向こうの話だから（28歳・男・公務員）●どうせ日本に来ないから（21歳・女・美容師）

Q６　マイク・タイソンはプロレスラーより強いと思いますか？　また、その理由を書いてください。



【…………………理由…………………】

強い●プロレスのリングならプロレスラーが強いとよく言うが、プロレスでもタイソンは強いと思うのだ。（27歳・男・フリーター）●タイソンより弱いレスラーはたくさんいる（28歳・男・会社員）

弱い●ルールを理解できない（23歳・男・フリーター）●スタナーをくらったことはないから。（22歳・男・アルバイト）●巡業についていけなくなり脱落しそう（26歳・男・公務員）

どちらでもない●プロレスは弱いけど格闘技戦なら勝つ。（38歳・会社員）

Q７　タイソンと試合をして欲しいプロレスラーは誰ですか？

●前田日明５票　●アントニオ猪木３票　●田上明３票　●小川直也３票　●ヒクソン・グレイシー３票　●スティーブ・オースチン２票　●フランシスコ・フィリョ２票　●二瓶組長２票　●田村潔司２票　●桜庭和志２票　●高田延彦２票　●船木誠勝２票　●長州力２票　●ピーター・アーツ２票　●三沢光晴２票　その他　●椎名由香１票　●ウルフ・ホーク・フィールド１票　●サンボ浅子１票　●鶴見五郎１票　●アレクサンダー大塚１票



日明兄さん、ヒクソンよりタイソンでしょ、タイソン。

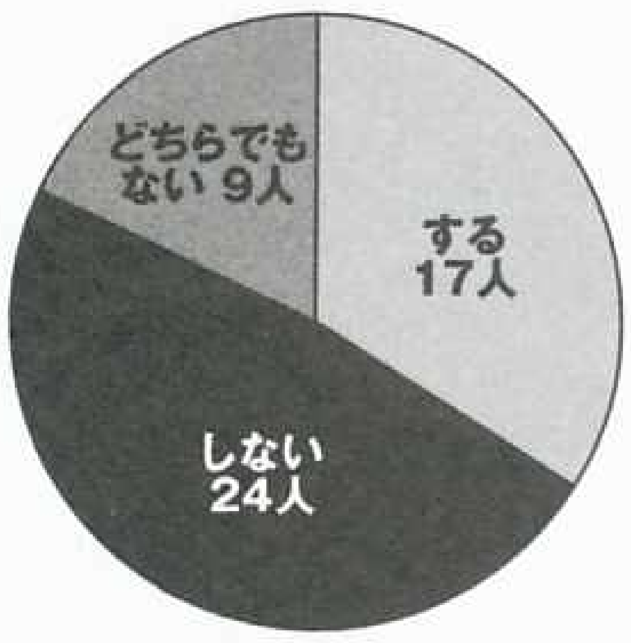


「構わねぇけど、失敗したらタイソンだぁガッハッハッ！」

Q８　タイソンのプロレス用の必殺技は何だと思いますか？

●ベアハッグ（28歳・男・会社員）●ガウジング攻撃［ＢＹ倉持アナ］（27歳・男・会社員）●みところ攻め（19歳・男・学生）●かんでないよ〜（17歳・男・高校生）●ボストンクラブが似合いそう（28歳・男・接客業）●木戸クラッチ（27歳・男・料理店勤務）●キン肉バスター（24歳・男・ミュージシャン）●ダイビングヘッドバット（19歳・男・予備校生）●コブシ（16歳・男・ハイスクール）●ドン・キングの乱入（26歳・男・サラリーマン）●スイングＤＤＴ（25・女・ＯＬ）●かみつき……と思いきや監獄固め（23歳・男・会社員）●ブルドッキングヘッドロック（25歳・男・サービス業）●トペ・アトミコ（18歳・男・専門学生）

Q９　タイソンはプロレスのリングで真剣勝負をすると思いますか？　またその理由を書いてください。



【…………………理由…………………】

する●手加減できなそうな頭（28歳・男・会社員）●負けず嫌いだから（27歳・男・板前）●そうあって欲しい（26歳・男・公務員）●ブレーキの壊れた男は止まらない（18歳・男・予備校生）●しないと全く面白くないから（23歳・女・販売員）●プロレスはすべて真剣だ。（23歳・男・会社員）●熱くなりやすいタイプだし、ボクサーとしてのプライドもあるから。（26歳・女・アルバイト）

しない●プロレスだから（29歳・男・会社員）●人間性（38歳・男・会社員）●今の彼に必要なのは強さじゃなくてステイタスの復活なのだから（36歳・男・会社員）●ＷＷＦだから台本通り（24歳・男・旅人）●気が向いたときは真剣（16歳・男・高校生）●真剣にやったら殺しちゃうから（23歳・女・無職）●女相手じゃないと真剣にならないと思う（26歳・男・飲食業）●高額のアルバイト感覚だと思う（25歳・男・サービス業）●タイソンはプライドが高いので自信がつくまでは、本気で取り組まないと思う。言い訳できるし……。（23歳・男・フリーター）

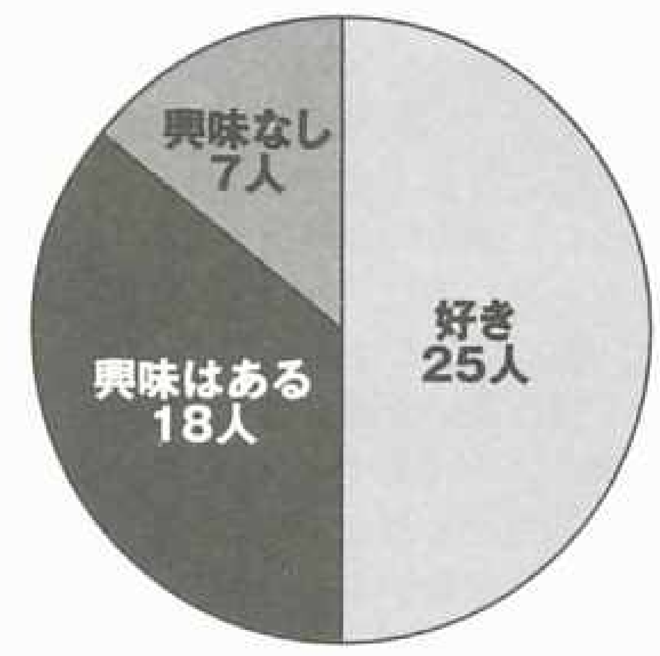
どちらでもない●ギャラによる（27歳・男・会社員）●やってみないとわからない（19歳・男・大学生）

アマチュアボクサー50人に聞く！



3ウェイFUCK'Nアンケート・ボクサー！

Q1　マイク・タイソンは好きですか？



Q2（Q1で「好き」または「興味はある」とこたえた人のみ回答）マイク・タイソンのどこに興味を惹かれますか？

●ファイトスタイル（21歳・男・販売員）●顔、体つき（23歳・男・フリーター）●センス（22歳・男・無職）●強さ（23歳・男・美容師）●ハードパンチャー（18歳・男・学生）●黒人特有の天然パワー、センス＋キャラクター。（22歳・男・学生））●悪いところ（21歳・男・フリーター）ＫＯが多い（23歳・男・学生）●ボクシングが強いから……人間的には？（57歳・男・著述業）●野性的で迫力のある攻撃力。レイプ事件以前の一番動きの良い時がすばらしかった。（33歳・男・ボクシングトレーナー）●人間とは思えない迫力（22歳・男・学生）●着こなし（25歳・男・デザイナー）練習してもおいつけそうな気がしないから（17歳・男・学生）

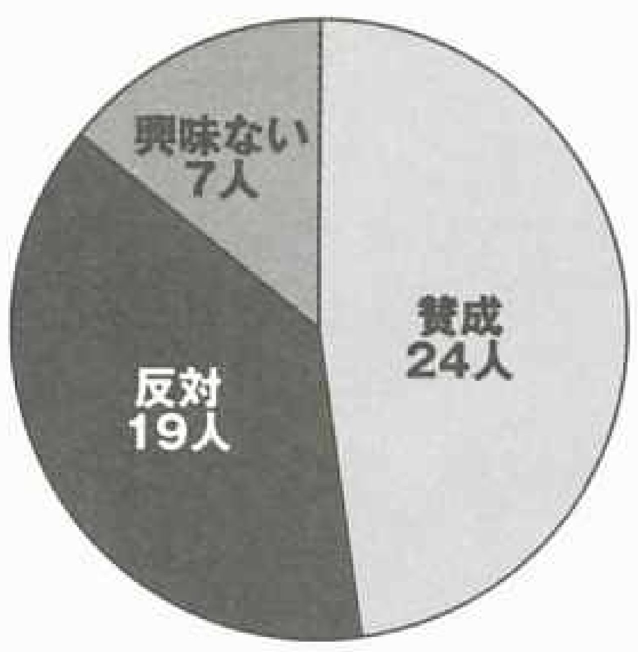
Q3（Q1で「嫌い」または「興味ない」とこたえた人のみ回答）マイク・タイソンのどこが興味を失わせている原因ですか？

●むかしの強さがなくなり、逃げている所（20歳・男・学生）●ゴシップが多すぎる。（25歳・男・ヘアドレッサー）●過去の人（23歳・男・警備員）●体力的に落ちてきているから（26歳・男・会社員）●すっかり練習もしなくなり、金のためにプロレスをやるところ（20歳・男・フリーター）●タイトルマッチで相手の耳を噛むというのはボクサーとして認めたくない（18歳・男学生）

Q4　タイソンがプロレスのリングで試合をする、あるいはレフェリーをするのは知っていますか？



Q5　タイソンがプロレスのリングに上がることはどう思いますか？　また、その理由を書いてください。

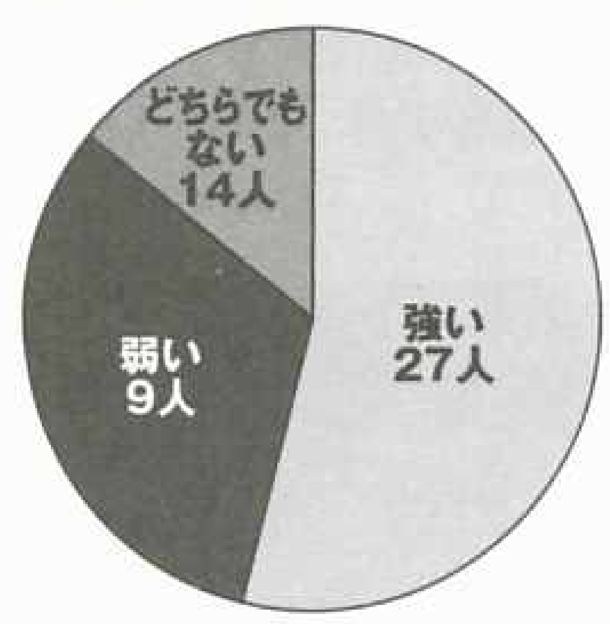


【……………………理由……………………】

賛成●再就職（23歳・男・警備員）●本当ならばボクシングファンを裏切らないように（25歳・男・サービス業）●どっちが強いかはっきりさせればいいんだ（23歳・男・フリーター）●そちらの路線の方が向いていると思う。（22歳・男・学生）●タイソンなら何をしても許される（17歳・男・高校生）●好きだから。でもスピンクスやデュランのようになってほしくない。（23歳・男・職人）●WWFではなくアルティメット系や日本のU系団体にあがって欲しい。ギャラ等の金銭・政治的なカラミは抜きとして（27歳・男・会社員）ボクシングで頂点を極めた人間がエンターテイメントのプロレスで何をするか（31歳・男・会社員）

反対●いいように使われるのがミエミエだから（21歳・男・販売員）●プロレスよりＫ－１に出て欲しい。いまのＫ－１なら勝てる。（22歳・男・無職）●ケガをしそうだから（24歳・男・アルバイト）●プロレスと一緒にされたくない。（19歳・男・学生）●タイソンに限らずあっちこっちへ気が移る人はきらいである。特にタイソンは世界チャンピオンとして築いたものを失ってしまうと思うから。（33歳・男・ボクシングトレーナー）

Q6　マイク・タイソンはプロレスラーより強いと思いますか？　また、その理由を書いてください。



【……………………理由……………………】

強い●ボクシングが強いと思ってるのでやってます。（24歳・男・アルバイト）●理屈でなく真剣勝負ならば圧倒的に強い（31歳・男・会社員）●プロレスラーはタイソンのパンチをガードできない（25歳・男・サービス業）

弱い●鍛えてる筋肉が違う（21歳・男・学生）●プロレスラーの方が頑丈（23歳・男・警備員）

どちらでもない●ボクシングは他の種目と比較出来ない。明確なルールに基づくすばらしいスポーツがボクシングである。プロレスは興味ない。（33歳・男・ボクシングトレーナー）●くらべるのはおかしい（19歳・男・なし）

Q7　タイソンと試合をして欲しいプロレスラーは誰ですか？

●ヒクソン・グレーシー４票　●前田日明４票　●橋本真也４票　●マイク・ベルナルド３票　アントニオ猪木２票　●船木誠勝２票　その他●ガッツ石松１票　●大仁田と電流爆破１票　●桜庭和志１票　●長州力１票　●やっぱりホリフィールドと再戦するべきだ1票　●高田延彦1票　●ホイス・グレイシー1票　●プロレスラーじゃないけど俺と1票●鈴木みのる1票　●グレート・ムタ1票　●ハルク・ホーガン1票　●小川直也1票　●アンディ・フグ1票



もし二人が闘ったら……チケット高いだろうねぇ。

タイソンを破壊出来たら、破壊大王の称号を与えるよ。



Q8　タイソンのプロレス用の必殺技は何だと思いますか？

●パワーボム（24歳・男・アルバイト）●五秒以内の反則（19歳・男・大学生）●ドン・キングの乱入（23歳・男・飲食業）●頭突き（17歳・男・高校生）●ジャーマン（23歳・男・フリーター）●ジャブでＯＫ（19歳・男・学生）●ロープに跳ね返ってストレート（18歳・男・学生）●耳かじり、殺人パンチ（17歳・男・学生）●DDTと見せかけてしめる（19歳・男・学生）●ショルダータックル（20歳・男・大学生）●トップロープからのロケットパンチ（17歳・男・学生）●プロレス用ではないがパンチ。かみつきはダメ（57歳・男・著述業）●パワースラム（22歳・男・無職）●ウラカン・ラナ（17歳・男・学生）

Q9　タイソンはプロレスのリングで真剣勝負をすると思いますか？　またその理由を書いてください。



【……………………理由……………………】

する●ファイトマネーが高いから（25歳・男・ヘアドレッサー）●負けず嫌いそうだから（21歳・男・学生）●芝居は出来なそうだから（22歳・男・アルバイト）●タイソンは真剣、レスラーは違う。（18歳・男・学生）●プライドが高そうだから（19歳・男・学生）

しない●ケガをしたら困るから（19歳・男・大学生）●プロレス自体が１００％の試合をしていないから、例えば１００％に近いリングスやパンクラスなら本気に近い力を出すが……。参戦する団体による。(57歳・男・著述業）●真剣勝負はつまらないものです。（29歳・男・サラリーマン）●言い訳になるから（23歳・男・理容師）●プロレスのリングに上がるのだからプロレスをしなければならないから（23歳・男・アルバイト）●勝負が目に見えているし、真剣勝負でなくてもギャラがよいと思うから（31歳・男・会社員）●途中まで真剣でやるが、これまでボクシングで使っていた動きと根本が違うので投げ出すのではないか？「やってられない」というふうに（33歳・男・ボクシングトレーンナー）●リングの上はファンタジーワールド（23歳・男・職人）●したら殺すことになるから（WWFのルールで真剣勝負＝殺し合いもOKだから）（22歳・男・ボクサー）



世間の人々50人に聞く！

3ウェイFUCK'Nアンケート・道行く人々！

Ｑ１　マイク・タイソンは好きですか？



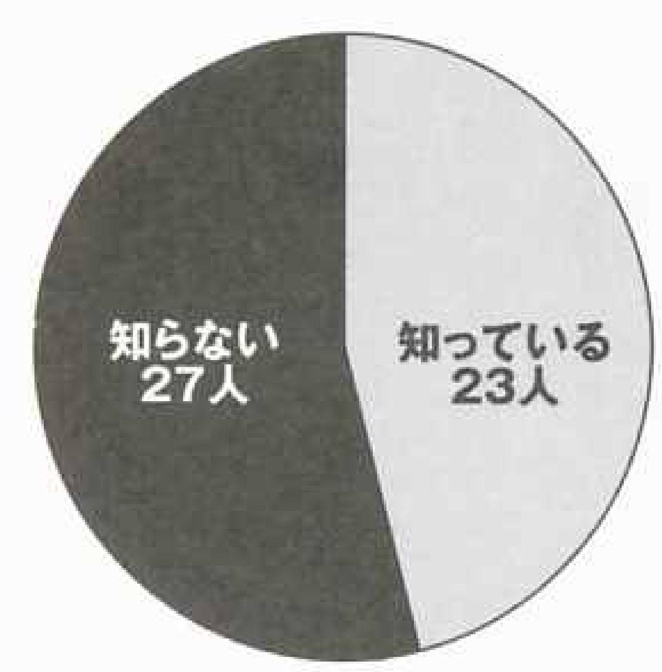
Ｑ２（Ｑ１で「好き」または「興味はある」とこたえた人のみ回答）マイク・タイソンのどこに興味を惹かれますか？

●いぜん、とても強くて格好良く見えた時があった。（24歳・女・社会福祉業）●顔（15歳・男・中学生）●よく名前を聞くので（23歳・女・フリーター）●体つき（19歳・女・学生）●いい試合が多い（49歳・男・会社員）●プロレスで通用するか（21歳・男・水道業）●生き様（21歳・男・学生）●プロレスで通用するのか（28歳・男・飲み屋勤務）●知らないうちにプロレスをやるということ（27歳・男・公務員）●思ったことは、なんでもやってしまうところ（19歳・男・大学生）●ドン・キングとの本当の関係（25歳・男・美容師）●金の使いみち（18歳・女・短大）●女性関係（23歳・男・暇人）●ヒマな時は何をしているのか（26歳・女・イラストレーター）

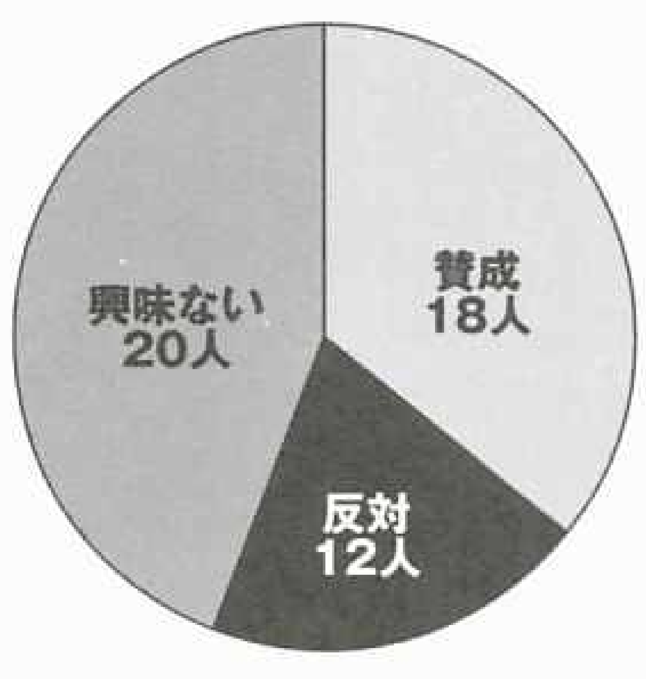
Ｑ３（Ｑ１で「嫌い」または「興味ない」とこたえた人のみ回答）マイク・タイソンのどこが興味を失わせている原因ですか？

●ボクシングに興味がない（40歳・女・公務員）●悪いことをしてるから。レイプとか（27歳・女・ＯＬ）●暴れるから（25歳・女・トリマー）●スポーツなのにフェアじゃない（18歳・男・学生）●犯罪者だから（24歳・男・フリーター）●よく知らないが顔が悪人（24歳・男・大学生）●最近名前を聞かないから（26歳・女・OL）●試合を見たことがないから（21歳・女・販売員）●凄さを知らないから（18歳・女・学生）●目つきが怖い（17歳・女・学生）

Ｑ４　タイソンがプロレスのリングで試合をする、あるいはレフェリーをするのは知っていますか？



Ｑ５　タイソンがプロレスのリングに上がることはどう思いますか？　また、その理由を書いてください。



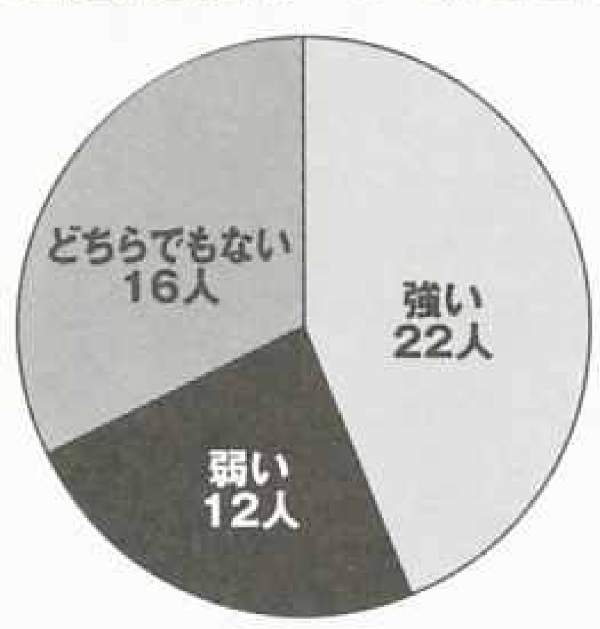
【……………………理由…………………】

賛成●好きにすればいい（21歳・女・美容師）●やられて欲しい（24歳・男・フリーター）●凄く見てみたい（21歳・男・建設業）●本人がやりたいというなら、俺の力では、どうにもこうにもならない（21歳・男・会社員）●とりあえず暴れて欲しいから（22歳・男・会社員）●働くことはいいことだ（21歳・男・無職）●のちのちアルティメットに出てヒクソンとかをブン殴って欲しいから（21歳・男・ウェイター）

反対●やっぱりボクシングで輝いていたので、そのまま頑張ってる方がよい（24歳・女・社会福祉業）●いい加減この手のにはあきた（28歳・男・会社員）●何かのスポーツで優れているからといってほかのものでも成功するとは限らないし、名前だけで人気をひきそうだから（18歳・女・フリーター）

興味ない●どうせ見せ物で終わるから（23歳・男・空調設備工）本人の勝手。（21歳・男・大学生）●プロレスもボクシングも見ないから（18歳・女・大学生）●私には、あまり関係ないことだから（16歳・女・高校生）●どうも思わないから・ごめんなさい（19歳・女・家事手伝い）

Ｑ６　マイク・タイソンはプロレスラーより強いと思いますか？　また、その理由を書いてください。



【……………………理由…………………】

強い●名前が強そう（21歳・女・美容師）●動物っぽい（15歳・男・中学生）●全盛期ならワンパンで勝てそう。（21歳・男・調理師）●ファイトマネー（28歳・男・会社員）

弱い●ボクサーは足腰が弱いので倒されたらヤバイ！（29歳・男・レコード屋）●プロレスラーより技をよく知らないのではないか。パンチだけでは相手を倒せないのではないか（24歳・女・保母）

どちらでもない●やらなきゃわからない（21歳・男・居酒屋）●ケンカなら勝ちそう。パンチも凄そう。プロレスではわかんない（24歳・女・芸人）

Ｑ７　タイソンと試合をして欲しいプロレスラーは誰ですか？

●ジャイアント馬場６票　●獣神サンダーライガー５票　●アントニオ猪木４票　●高田延彦３票　●タイガーマスク２票　●橋本真也２票　●長州力２票　その他●デニス・ロッドマン１票　●アーネスト・ホースト１票　●ブッチャーとかジェット・シン１票　●大仁田厚1票　●タイガー・ジェット・シン1票　●矢吹ジョウ1票　●武藤敬司1票　●チャック・ウィルソン1票　●nwo蝶野1票



ライガー、タイソン相手にキレてくれー！感動させてよ！

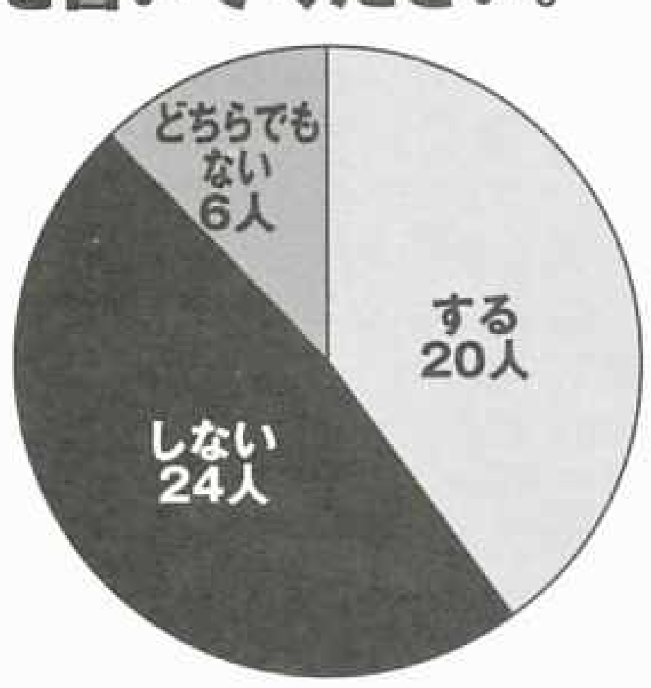


「G・馬場対M・タイソン」行くしかないでしょ。

Ｑ８　タイソンのプロレス用の必殺技は何だと思いますか？

●凶器攻撃（21歳・男・学生）●ババチョップ（23歳・女・フリーター）●ロープエスケープ（25歳・男・ＴＶ局勤務）●パンチ・パンチ・パンチ（24歳・女・モデル）●グーで殴りまくる（16歳・男・高校生）●わからない（17歳・女・高校生）●パンチ力をいかした新しい技（24歳・女・保母）●かみつき、凶器攻撃（19歳・男・アルバイター）●ローキックから関節技（21歳・男・専門学生）●にらみつける（19歳・女・フリーター）●お金を、ちらつかせる（20歳・男・学生）●ドロップキック（25歳・男・会社員）●タイソン・アタック（19歳・男・大学生）●コブラツイスト（18歳・男・フリーター）

Ｑ９　タイソンはプロレスのリングで真剣勝負をすると思いますか？　またその理由を書いてください。



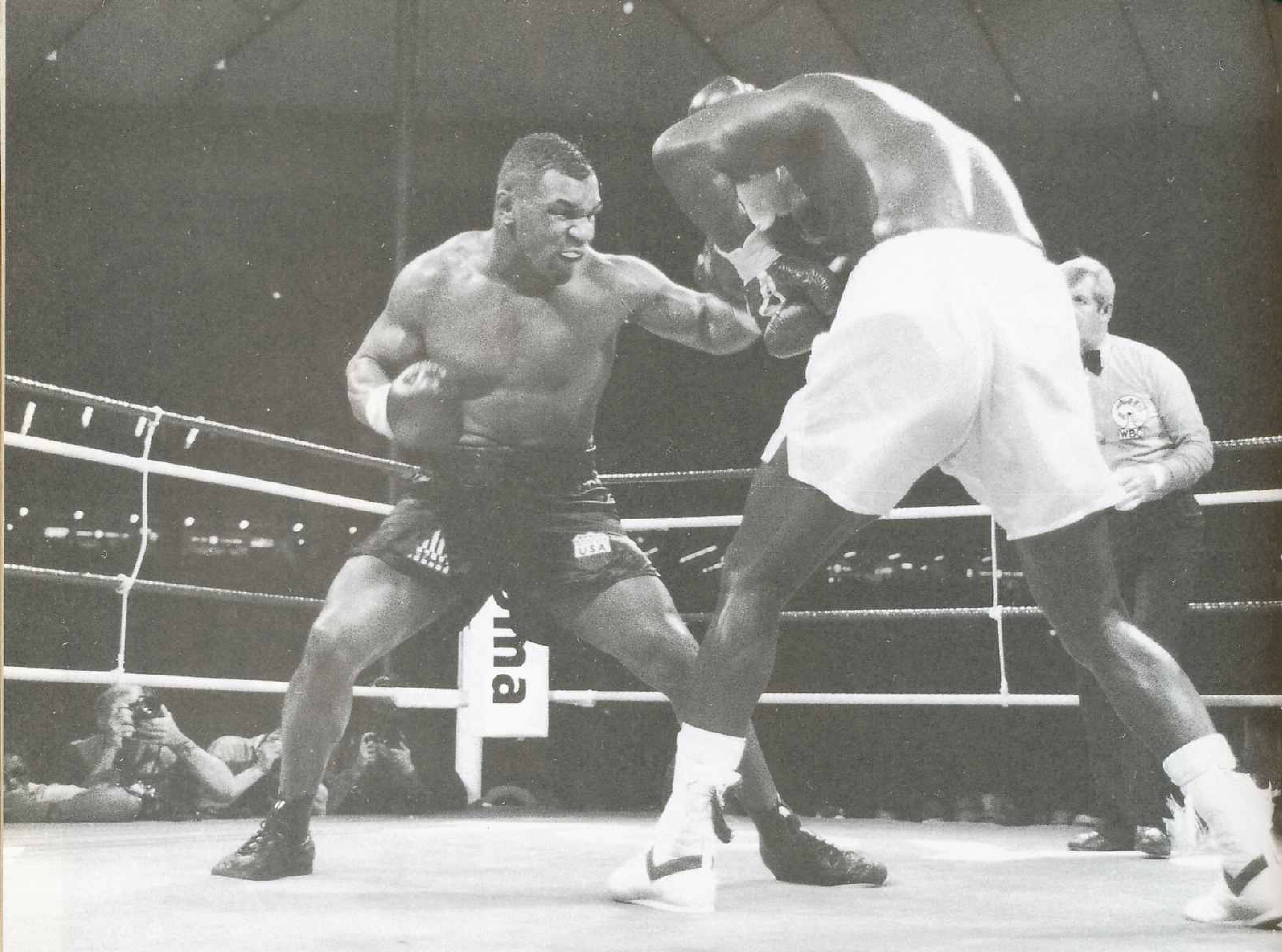
【………………理由…………………】

する●プロレスの選手がマジだったらタイソンもマジになると思う（18歳・男・学生）●仕事だから（21歳・女・美容師）●真剣勝負しないのはプロレスの方だと思う（27歳・女・デザイナー）●大金貰ったら真剣にやるべきです。（37歳・女・主婦）●適当に試合してたら、怪我をすると思う（16歳・女・短大）●もともとボクサーだから八百長は出来ない（24歳・男・内緒）●タイソンは何をするにも全力投球（21歳・男・大学生）

しない●耳を噛んだのを反省してるから優しくやる（20歳・女・大学生）●悪い奴っぽいから何か適当なことしそう（24歳・女・塾講師）●ひきょうだから（25歳・男・会社員）●全く動きや技が違うから（40歳・女・公務員）●お金次第（22歳・男・調理師）●ボクシングを知らない相手とやったら危険だから（27歳・女・店員）●プロレスラーと試合したら、いつものようには出来ないから、相談する（20歳・男・学生）●本気になったら相手が恐がるから（21歳・男・失業中）

どちらでもない●適当に真剣（19歳・男・学生）●その時にならなきゃわからない（27歳・男・会社員）●本人しかわからない（23歳・男・大学生）

アンケート収集地●渋谷／新宿／新大久保／下北沢／三軒茶屋



タイソン次の来日は、海援隊の抜けた「みちのく」なのか？　それとも上田勝次、引退後の「ＦＳＲ」か？



東京スポーツ

3・29は　マイケルズVS オースチンの王座戦

レフェリーに　タイソン急転

レスラーは断念

将来は本格転向の可能性

「やめろ！」。タイソンはマイケルズ㊧とオースチンの乱闘を制止し早くも"レフェリーデビュー"した（5日、ニューヨークのブロードウェイ45丁目の「オールスター・カフェ」で＝中原光雄特派員撮影）

豪腕早くも発揮　記者会見で乱闘止めた!!

タイソン　破産寸前だった

15日フライ戦は猪木直伝の必殺技で勝つ　小川

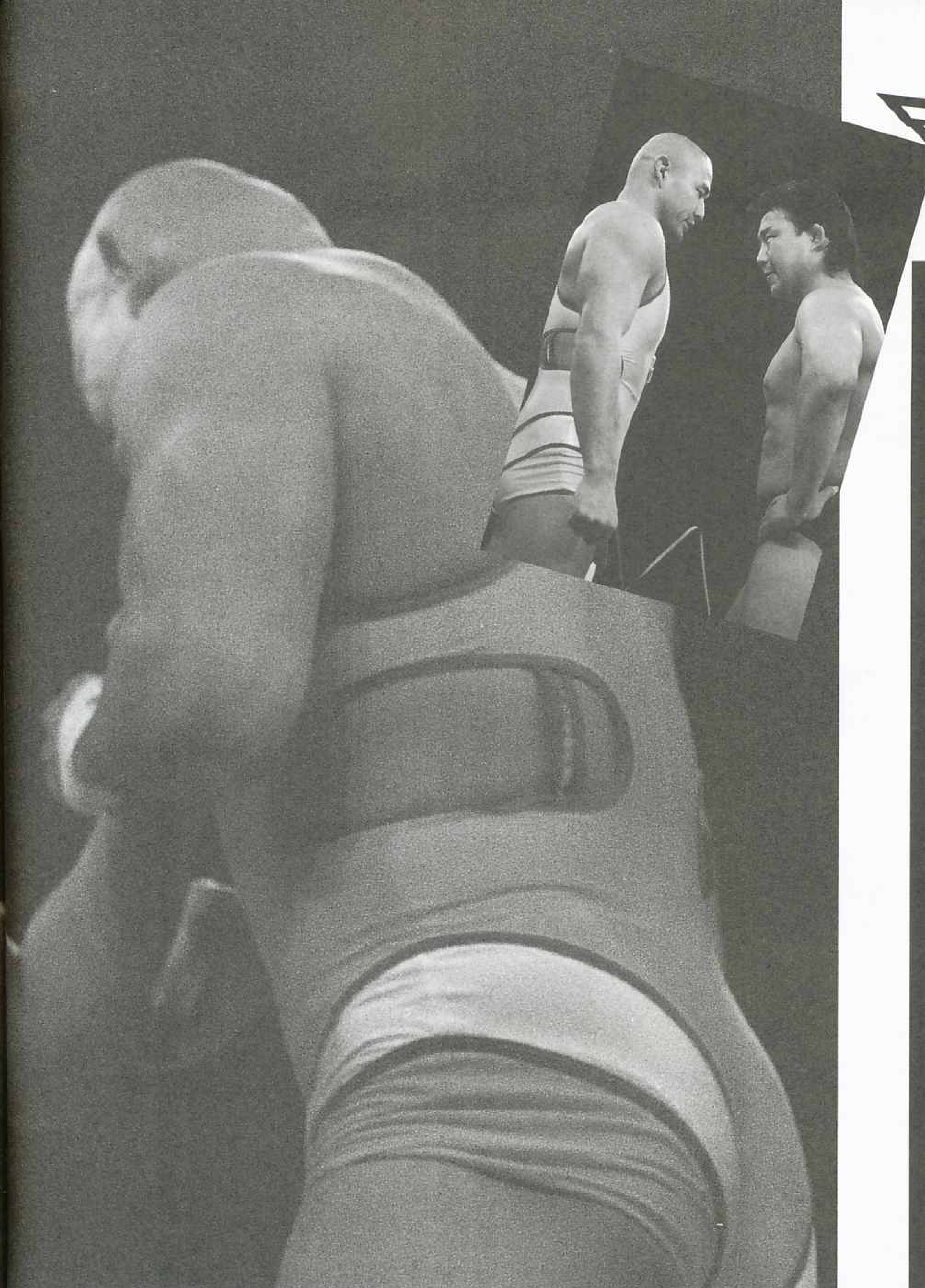
3・29『レッスルマニア14』でのタイソンレフェリー決定を報じる『東スポ』。レフェリーデビューを前にタイソン予行演習か？

『マイク・タイソン』の人気者で行こう！

個人的には『マイク・タイソンプロレス入り』というニュースは、同じ悪童仲間『デニス・ロッドマンプロレス入り』よりも衝撃的でした。

今回のアンケートで改めて感じたのは、「マイク・タイソンは人気者」ということである。勿論、そのニュースを発信したWWFのパワーも、素直に認めなければならない。強さの象徴である元ボクシングヘビー級チャンピオン・マイク・タイソンが、アメプロのWWFに上がるということに対して、一部の人達は不満の声をあげているようだが「金も用意出来ない奴がガタガタ言うな！」である。WWFのパワーをなめちゃ困るんである。——しかし、プロレス界にパワーだけを求めてもいけないのである。テクニックやパフォーマンスも然り。不況が続くマット界、一番求められているのは、ズバリ『元気』なのである。タイソンはどこから見ても『クソ元気』な男である。引っ張りだこになるわけである。ファンが望むのも『元気が売り物・アントニオ猪木』戦であり『還暦を迎えてなお元気・ジャイアント馬場』戦だったりするのだ。そう、『元気』な男は何をしたって許されるのだ。

……だからってレフェリーはないだろ、タイソン！　警告1！



奇跡の格闘探偵団・旗揚げ2周年記念立体企画

バトラーツの「B」を解読せよ

旗揚げ当初は「半年で潰れる」と囁かれたバトラーツがこの4月で旗揚げ2周年を迎える（いや、これホント）。今年は「わ〜お！」と「ぷあ〜！」の世界からどうバージョンアップしていくのか非常に楽しみである！（意味不明）

て　きたこの2年。今年は勝負だ！

そもそもバトラーツとは何だろうか。

『愛』だろうか？『挑戦』だろうか。

でも、『愛』ならば「A」だ。

『挑戦』なら「C」だ。

となると、少し違う。

バトラーツは、私の中では、やっぱり「B」でなければならないのだ。

もちろん、頭文字がBだから「B」だと思っているわけではない。

言葉遊びをしているわけでもない。

石川雄規社長、島田裕二レフェリー、アレクサンダー大塚、臼田勝美、モハメド・ヨネなど、団体内にやたらとB型が多いからというわけでもない。

ならば私が、バトは「B」でなければならないと感じる理由が何かしらあるはずだ。それを考えるのが、目下の私の日課となっていたのである。

そんなある日、私はこんな話を聞いた。

アディオス島田レフェリーは、"たまごっち"のバッタもんの"ぎゃおっぴー"とか"いぬっち"とかを買い込み、「ボクは『バッタもん』が好きなんですよー、ん〜、サイキョッ！」と言いながら遊んでいるという。



昨年は飛んでいったアイスラッガーが戻って来なかった臼田勝美。しかし、1・20今年最初の後楽園大会では、大日本の本間、藤田を相手にバチバチの奥の深さを示すようなファイトを披露した。今年のバトは、この人のやる気にかかっているといっても過言ではない

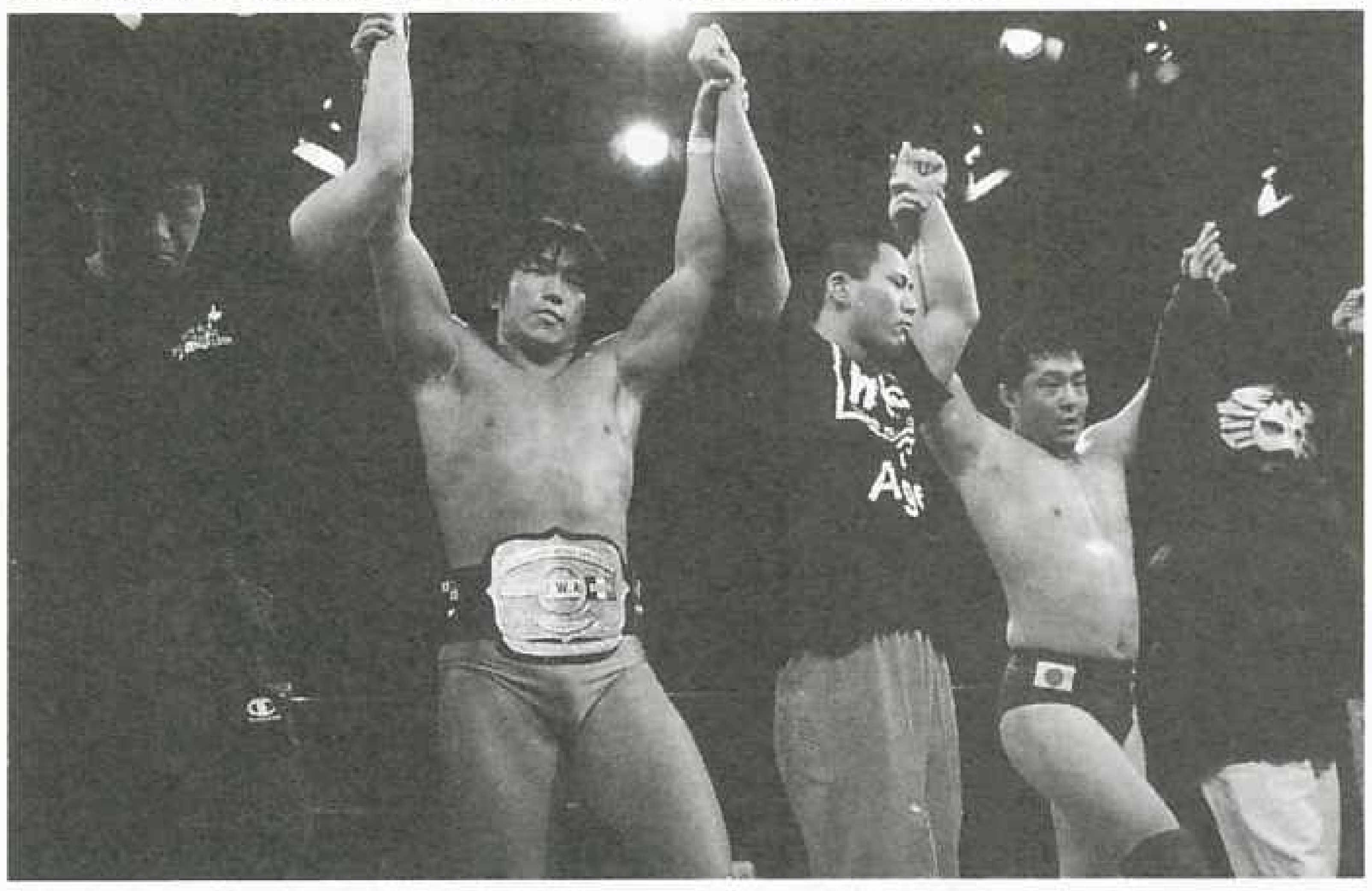




全日本マットへの"王道探偵"を続ける池田の大ちゃんと、みちのくに生息する虎狩りに精を出す小野武志。安定した実力と人気を誇る「チーム・タコ」だが、ここからどう頭ひとつ抜け出るか。もっともっと弾けろ、タコ！



1・20後楽園。ファンの間では「バトのベスト・バウト」の呼び声も高い熱戦を、大日本の田尻義博と繰り広げた田中稔。「僕らでジュニアを変える」のか、それともリングス・マットでのリベンジを図るのか。98年は稔にとってかつてないほどの勝負の年になる





昨年は、田中、小野、池田から勝ち星を挙げ、さらには『ヤンジェネ』を制し、あげくの果てには元『紙プロ』の邪道姫・のものもまで制覇してノリに乗るアレク。が、1・20後楽園では石川社長が高い壁となりアレクを撃破！ ピカチュウも悪くないが、今年の石川社長も悪くない。98年は"情念"が大爆発する！

各団体に格闘探偵しながら"バトの世界"を構築して

「バッタもん」とは、要するに戦後闇市時代の隠語のようなもので「まがいもの」「本物に似ているが安いもの」「本家を真似た粗悪品」とかをいう。

その「バッタもん」という言葉の響きを聞いてピン！ ときた。

そうだ！ バトラーツの「B」とは「バッタもん」の「B」だったのである!!

UWFのバッタもん、ストロング・スタイルのバッタもん、ルチャのバッタもん——。それらのバッタもんが渾然一体となり、実に怪しげで魅惑的な光を発しているのがバトラーツなのだ。

しかし、先ほどの「バッタもん」の説明のままだと、バトファンにブッ飛ばされるので補足させてもらう。

いまの時代、「ブランド」ものでもディスカウント・ストアに行けば安く買える。

つまり、バトラーツというディスカウント・ストアに行けば、様々な「ブランド・プロレス」も実にお安く堪能できるわけである。おまけにブランド品ではないけれども、バトでしか買えない超お買い得の「バチバチ」までが置いてある。

♪女の子なら少しでも〜、安くて、いいものが好っき〜。この真理に乗っ取れば、バトに若い女性ファンが多いのもうなずける話ではないか。

もはや、粗悪品が「バッタもん」として通用する時代は終わった。いまや「バッタもん」にも「品質」が備わっていなければ通用しない時代なのである。

見てくれはオモチャのようにカワイク、中身のジツリョクと個性はブランド品を凌ぐ。それが現在の「バッタもん」の定義かもしれない。

見ための重厚さにあぐらをかくブランド・プロレスへの異化作用を起こす存在。それこそがバトのバトたる所以なのである。

98年も頼むぜ、バッタもん！

〈世田谷区在住=日本一のバッタもんウオッチャー・君仁菌太郎〉

旗揚げ2周年記念 岡本衛スペシャル・インタビュー



【おかもと・まもる】95年にFMW入門。97年にバトに移籍。極真空手出身だけに、以後、水を得た魚のように「ぷあ～」とバトという海を泳ぎ回っている。特技は、日明兄さんにも受けた永ちゃんのモノマネと六本木のキッチンでつくる料理

昨年5月、FMWから円満移籍した極真空手経験者の岡本。日高との第1試合名勝負数え唄をはじめ、昨年後半は上位陣との対戦にも食い込み始めた。以下は、岡やんの世界初のスペシャル・インタビューである。

――今夜は？

岡本　サイコー！

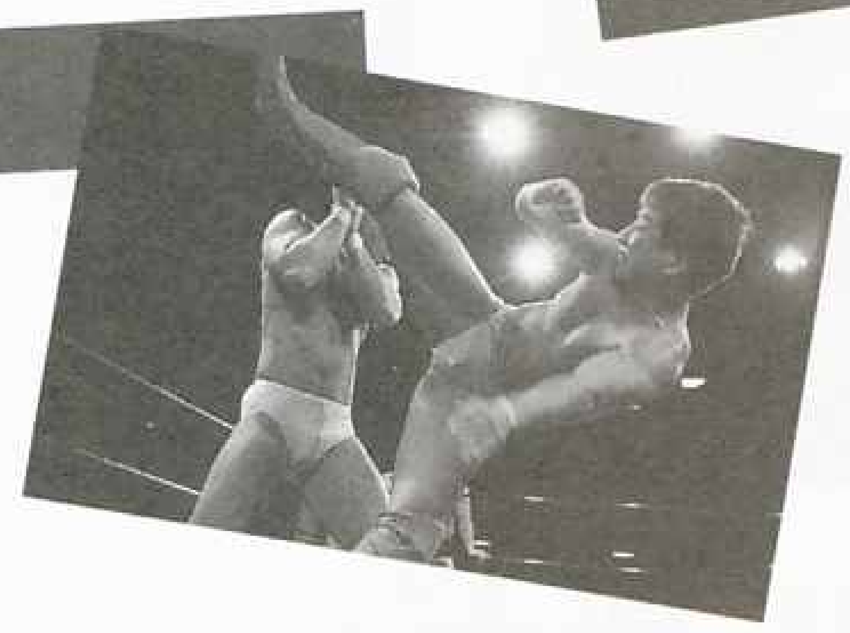
――そこんとこ？

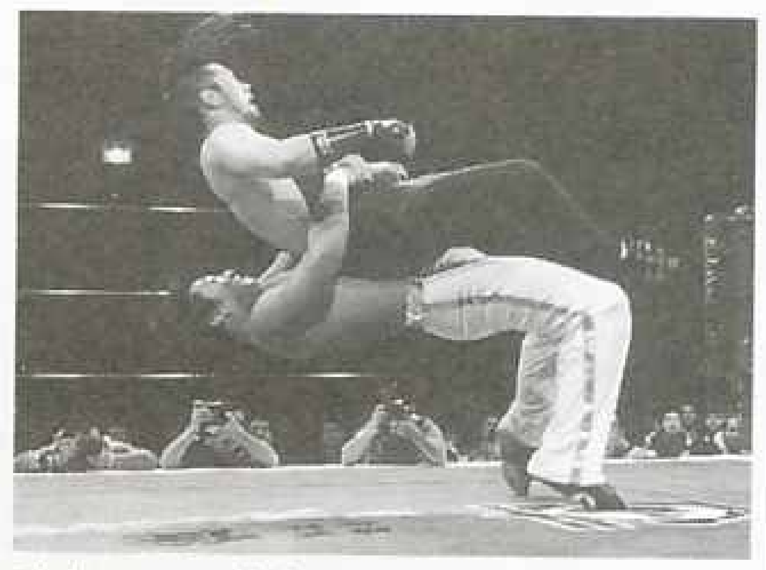
岡本　ヨロシク!!

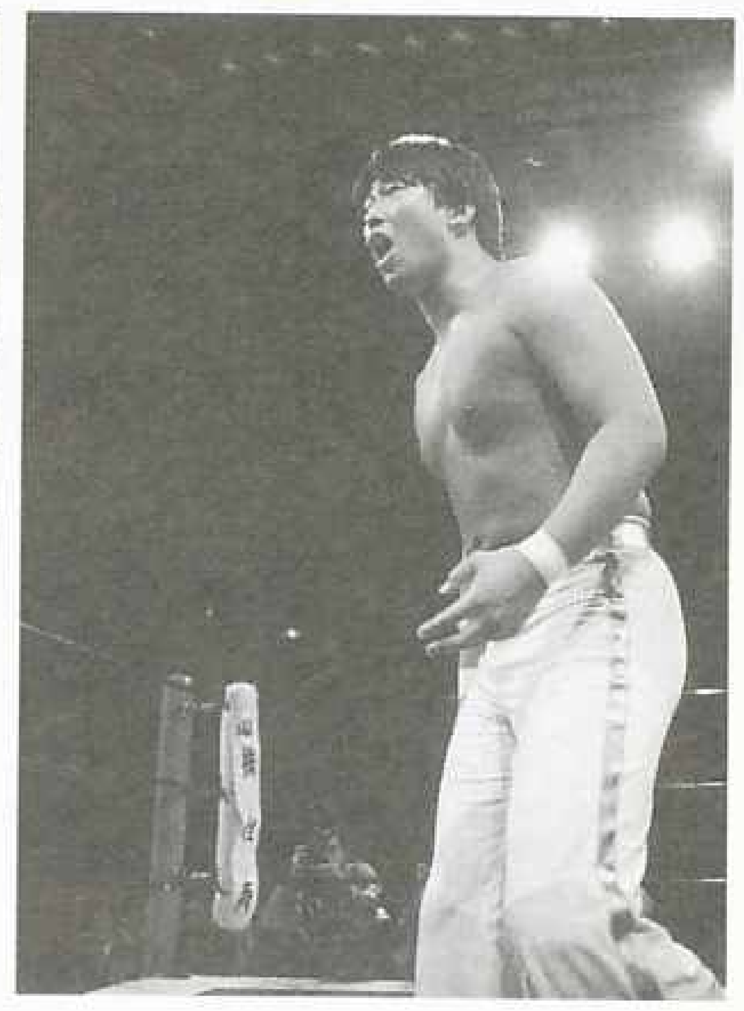
〈以下、次号〉

というわけで、まだまだこれでは岡やんの魅力のすべてをお伝えできない。はたして岡本衛とはいかなる人物なのか？　続きは次号で掲載する予定である。アディオス！　ぷあ～!!









昨年11・5後楽園大会で、約8カ月ぶりにバトのリングに戻ってきたモハメド・ヨネ。11・20にはリングスのマットにも上がっている。そして今年の1・20には折原昌夫と激突。今年は"モハ・スタイル"を確立して、ライバルレースに大きく水を開けられたアレクを追い越さなければならない。ゆけ、モハ！





デビュー前には現パンクラスの美濃輪と対戦し、昨年はリングスの坂田、キングダムの金原とも対戦した日高。実は一番、格闘探偵しているのが日高なのだ。そして今年一発目には藤原組長の胸を借りたが、まったく歯が立たず。この悔しさをバネに這いあがれ、日高！（って、これ『紙プロ』のキャプションじゃないな）

3年目のバトはどう変貌するかそれが問題だ！

3・3 リングス後楽園大会にアレク出場決定！なんと対戦相手は坂田亘!!日の出の勢い対決を制するのはどっちだ！

岩手紙風呂

盛岡支局
〒020 盛岡市リオデジャネイロ100-38
電話　糸電話
FAX　紙飛行機

北上支局
〒024 北上市ハバロフスク120-18
電話　お猿の駕篭屋
FAX　同上

みちのくプロレス
〝春闘シリーズ〟開幕
選手組合一丸で興行続行

「みちのくプロレス」（略称・みちプロ＝本社・盛岡市）が、今後も大会を継続して行っていくこととなった。

みちプロは、昨年後半、社長でエースのザ・グレート・サスケ選手（28）の膝の故障に加え、東北地方での観客動員の伸び悩みからくる経営悪化で選手のファイトマネーも遅滞。社長への不信感から主力選手（TAKAみちのく、海援隊DX）の離脱問題が起こるなど激震が続いていた。昨年暮れには「サスケ選手の膝が完治するまで活動休止」の方針を固めたが、全国のファンからは「みちプロを潰すな！」という声が昨年中だけで千通以上も届いたという。



「データを分析して赤字の出ないところに絞ってやる」と、“ID興行”をぶち上げたデル社長代理。この作戦でみちプロは蘇生するか

今年1月16日の札幌大会で"事実上の崩壊"という噂もまことしやかに流れたが、その札幌大会後に、主力の一人であるスペル・デルフィン選手（30）を中心とした選手組合が結束。会社とサスケ社長の了解を得て活動を再開することを発表した。中には「活動再開が早すぎる」「騙された」「どぁぁぁー！」というファンの意見もあったが、2月上旬に行われたサスケ選手の手術は無事成功。みちプロは再び荒波のプロレス界へ船出し、ファンの決断を仰ぐこととなった。

エンセン村浜ら
格闘家も応援
格闘界にみちプロファン増殖中

格闘界にもみちプロファンは意外と多い。デルフィン・ファンとして有名なシュートボクシングの村浜武洋を筆頭に、リングスの田村潔司も「みちプロは面白いです」と発言。昨年の10・10両国大会を観戦したパンクラスの船木誠勝も「感動しました」と感想を漏らしていた。そして最近は、あのエンセン井上までもが「サスケはカッコよかった」と驚くべき発言をしている（『紙プロRADICAL』NO8）のだ。みちプロの何がプロ格闘家の目を引きつけるのか。このテーマは、世界中のみちプロ研究家にとって格好の研究材料となろう。

今後のスケジュール決まる

『さくらさくら'98』
2月28日（土）　徳島・徳島市立体育館（19：00）
※入場料金　6000～3000円（当日500円増し）
3月1日（日）　大阪・高石臨海スポーツセンター（19：00）
※入場料金　一般5000円　小中学生2000円（当日500円増し）

『TOMORROW NEVER DIES』
3月10日（火）　東京・大田区体育館（18：30）
※入場料金　5000～3500円（当日500円増し）

『ルチャバカ日誌`98』
3月14日（土）岩手・矢巾町民総合体育館（18：30）
3月15日（日）秋田・秋田テルサ（15：00）
3月17日（火）山形・余目町総合体育館（18：30）
3月18日（水）秋田・横手市平鹿広域圏民体育館（18：30）
3月19日（木）岩手・北上市和賀多目的催事場屋内ゲートボール場（19：00）
3月20日（金）青森・弘前市河西体育センター（18：30）
3月21日（土・祝）青森県民体育館サブアリーナ（15：00）
3月22日（日）福島・福島南体育館（15：00）
3月24日（火）宮城県下予定
3月25日（水）岩手・宮古市千徳地区体育館（18：30）
3月26日（木）福島・原町市体育館（18：30）
3月27日（金）福島・小野町多目的研修集会施設（19：00）
3月28日（土）山形・上山市体育文化センター（18：30）
3月29日（日）宮城・ニューワールド仙台テニスクラブ（15：00）
※入場料金　全席自由＝ゴザ席　一般3100円
小中学生1100円（当日500円増し）
【チケットに関する問い合わせ先】
みちプロ　019・626・1333



復帰が待たれるサスケ社長



進境著しい星川尚浩



再建の鍵を握る虎仮面

池袋コミュニティ・カレッジに 特報!!
『青空プロレス道場』開設!!



ナマの『紙プロ』見せたろか!!

ふだん、読者を突き放すことしかしない『紙プロ』が、なんと豪快にプロレス講座をやってしまうというのだから実に驚きです！　今回は西武の池袋コミュニティ・カレッジからの要請ということで、まぁ、要請があればいつでも出ていくというか、いつ何時誰の挑戦でも受けるというか。で、何をやるかというと、とにかく40名前後の人数相手に、プロレスについて、こっちが一方的にしゃべってしまおう、あるいはインタ…インタタ…インタラクティブに双方で会話なぞしてしまおう、あるいはこっちが一方的に質問責めに遭うとかね。そういう意味で非常に何が起こるかわからない！　まぁ、そういう企画です。つまり、様々なテーマとアプローチから「プロレスとは何か？」を考える、というか。先方からは「文化的に」なんて言われてますが、とことん真面目になるのか、ハチャメチャになるのか、私たち自身も非常にワクワクしています。まぁ、この5回を「元気」と「健康」で乗り切る！　そして皆さんと一緒に理屈を超えた部分でプロレスを考える！　それが『紙プロ』のロマンであるというかね。それではみなさん、受けますかーーーッ!!



講座名 青空プロレス道場！

講師 『紙プロ』編集長 山口日昇＋『紙プロ』編集スタッフ 吉田豪、坂井ノブ 他
＋特別講師 or 特別ゲスト（プロレスラー）

講座内容	日時（毎回 第2 or 第4水曜日 18:30〜20:15）
1 プロレス者(もの)って何だ？ 「プロレスは哲学である」などと言うインテリゲンチャもいれば、ただ大騒ぎするだけの人もいる。そもそも人はなぜプロレスに入れ込むのか。プロレスの生命力と神秘に迫るツッコミ講座。特別ゲスト有り！	4月22日
2 猪木とは何か？ 今世紀最大のプロレス本『猪木とは何か？』を手掛けた本誌編集部が、4・4後にいま一度“イノキ”という概念をとらえにかかる。アントニオ猪木を見て育ったあのレスラーもいまから情念を燃やしてます	5月13日
3 UWFとは何か？ 今年4月で第2次UWFが旗揚げして丸十年。その記念に、Uの理念と功績を通してプロレスを考えます。もちろん「マエダアキラとは何か？」という大命題もあります。Uに縁の深いあの人も登場します！	5月27日
4 プロレスマスコミの現在と未来 プロレス村とは何か？　世間とは何か？　プロレスマスコミとは何か？　プロレスが様変わりしていく中でプロレスマスコミはいま現在どうなっているか。プロレスマスコミといえばあの人です！	6月10日
5 「格闘技」と「プロレス」の愛憎関係！ アルティメット、バーリ・トゥード、K−1。新日本、全日本、FMWにみちのく。そしてUWF。そこにはどんな関係があるのか。その謎を解けばプロレスがますます面白くなる。最後はあのお方が来ます!!	6月24日

必ずお読みください

受講料 【5回通し】　一般16.000円　CC会員14.500円
【1回】　一般・CC会員共通4000円 ※消費税別

※それだけでもお得な、レアなお土産付き！　もしかしたら、アレクに嫁いだのものもの生出産も見れるかも、なんてことはありませんが、生力タブツでいいんであれば、いつでも見せます！

申込み方法 池袋コミュニティ・カレッジ8F総合受付にて受け付けます。申込書に必要事項をご記入の上、受講料を添えてお申し込みください。定員になり次第締め切らせていただきます。
受付時間　10:00〜18:20（日曜は18:00まで。祝日は休館）

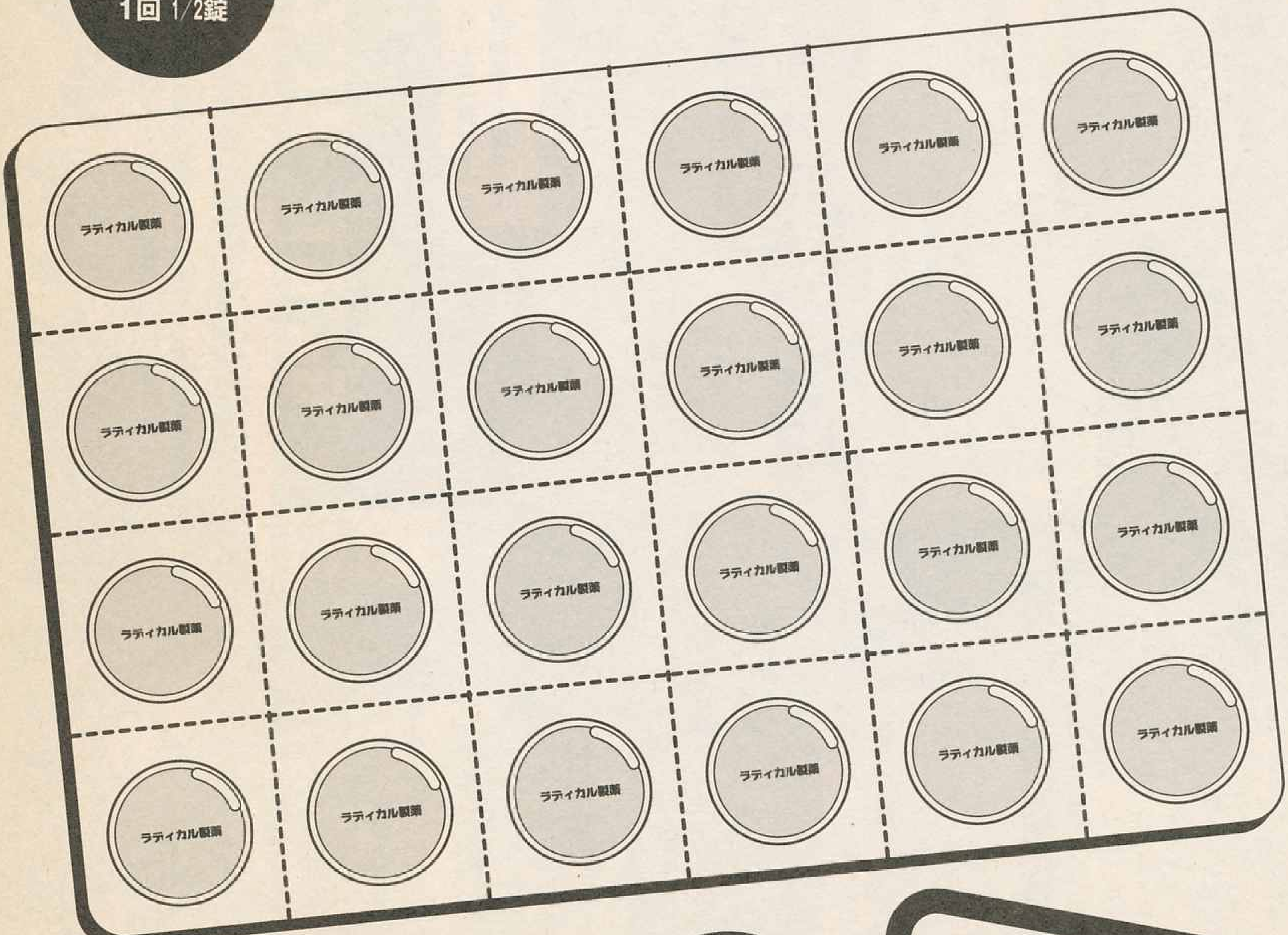
えー、上の講座内容はあくまでも予定です。受けたとたんに講座内容が変わってるなんてことは、『紙プロ』だったらありえるし、それで文句を言われてもたまらないので、講座を1回づつ受けようと思ってる人は3月中旬以降に問い合わせてからにしてください。順番も変わるかもしれないし。第1回の講座までに次号が出せれば告知するけど、まだ発売日決まってないし……でもね、あーた、これね、5回の間にどんどんどんどん面白くなっていくあるよ！　ゲストだって誰が来るかわからない方がドキドキするあるね。だから5回まとめて受けた方が得あるよ！　私たち絶対損させない自信あるある！　ダイジョブよ！　お土産も付けるあるよ！　ササ、ホラ、コッチアルヨ、コッチ!!

★問い合わせ　池袋コミュニティ・カレッジ　TEL.03-3988-9281★

nちょうの(プロレス界)出来事!

ここ最近プロレスを
見始めた方のための処方せん
3分でプロレス界の流れが
ピタッとわかります。

【用法・用量】
3～11才未満
1回 1/2錠



【用法・用量】
20才以上
1回 3錠

刺激が強いので
小児ファンの手の届かない
所に保存して下さい。

プロレスマスコミ観察雑記

池袋コミュニティ・カレッジに **特報!!**

みちのく（プロレス界）の出来事!

オラッエッツー最近のマット界の流れっちゅうのをナァ教えてやろうじゃネェかアッツーなコーナー!

1997 12.18～12.26



元気ですか……。はじめまして、新弟子のチョロQです。名付け親は、本誌お勘定・一枝さんの一言「この子ちょっとブチ入ってるぅ～チョロブチだよぉ～」ということからチョロ。Qは、カッコいいかな～と思って付けました。でもカタブツ君(34歳)は誌面で見るより面白い人ですよ。まあ、誌面で見るよりドジな人っていうのも間違いない! 僕も負けないように、おつかい行って来ま～す。(成功率50%)

18(木)【みちのく】『ルチャの国から'97～かけ落ち～』後楽園ホール［観衆2150人］T・みちのくが船木勝一を破り、インディペンデントワールド世界ジュニアヘビー級王座を防衛するもすぐさま返上。

19(金)【FMW】駒沢オリンピック記念体育館［観衆5200人］T・ファンク、サンドマン、B・R・ダッドリーによる「3ウェイFUCK' Nダンス!」、A・コングがS・土屋に勝って3ヶ月の**抗争**終結。

19(金)【武輝道場】『'97ザ・最強格闘技 i n 秋田』［観衆2519人］アルティメット戦で北尾光覇がダグ・フィッシャーを裸絞めで破る。ダグ・フィッシャーはシカゴで**用心棒**。

20(土)【パンクラス】横浜文化体育館［観衆5900人］船木誠勝が近藤有己を破り、第6代キング・オブ・パンクラシストに。B・ルッテンこの日を最後に、しばし休養。**金宗王**、国奥を秒殺。

21(日)【UFC】横浜アリーナ［観衆11850人］**桜庭和志**がマーカス・コナンを破り、ヘビー級トーナメント**優勝**。安生洋二はT・アボットに判定負け。ありがとう桜庭!

22(月)【ビッグフォール】鷲宮体育館［観衆500人］徳田光輝、青柳組が、G・センセイ、C・ハリケーン組に勝利。**太陽神**ヘリオスがアルカトラスでムゲンを破り、白星デビューを飾る。「プロレスを、人生を大技で勝負して勝つ!」団体名の由来。

22(月)【FMW】後楽園ホール［観衆2150人］スクランブルバンクハウス金網ウォーゲーム。ハヤブサ、人生、田中組VS大仁田、雁之助、金村組は、ハヤブサが大仁田をフォール。**泣き虫**エンジェル、里美和引退。引退後は宣教師に!

23(火)【リングス】福岡国際センター［観衆6800人］『ワールドメガバトルトーナメント』田村が前田に初勝利、決勝に進出。同じくI・ミーシャがV・ハンを破り、決勝に進出。G・**ザザ**がR・モラエスに判定勝ち。一躍ヒーローに。試合後、ザザコール「ザザザザザ……」

23(火)【力道山OB会】後楽園ホール［観衆1627人］『上田馬之助君を激励するプロレス大会』と銘打ち、15団体のレスラーがひとつのリングに集結! 福田雅一が藤原喜明の**脇**固めで破れる。会場一番人気は、デビルVS鶴見五郎。試合前、福田と石沢常光がスパーリングをしていた。ちょっといいものを見た。



25(木)この日、街は陽気なクリスマス。僕は呑気に『紙プロ』の面接を受けていた。2時間にも及ぶタフネス・マッチの後、山口編集長は言ったよ。「キミに条件をだそう。その条件とは……原付の免許を取る事だ。取れたら再び来るがよい。ガッハッハッハッ!」「ガッハッハッハッ!」じゃねえだろうとも思ったが、あまりにも厄介な条件に、正直チビってしまったのは事実である。全く無理難題を押しつけられたもんだ。こんな会社入るもんかと思ったよ。……帰りがけ、原付の問題集を買った。

26(金)【JWP&全女】後楽園ホール［観衆2000人］尾崎JWP所属ラストマッチ。「みんな仲良し! バトルロイヤル」はC・ボリショイが優勝。大隅VS中原の不良番長対決は、**スクールボーイ**で大隅の勝利。スクールボーイはないだろう、オイ。

RADICAL

1998 1.2～1.16

2(金)【全日本】後楽園ホール［観衆2100人］新春恒例ヘビー級バトルロイヤル。馬場さん遅刻！優勝は泉田純。嬉しい賞金**100万円**獲得。

2(金)【全日本】後楽園ホール［観衆2100人］新春恒例ヘビー級バトルロイヤル。馬場さん遅刻！優勝は泉田純。嬉しい賞金**100万円**獲得。
これじゃ上と一緒だっちゅうの。

2(金)【大日本】後楽園ホール［観衆2100人］メインはエニウェアストリートファイト６人タッグデスマッチ。松永光弘の復活でW☆ＩＮＧ**フリーク**が集結。当日券売り上げが後楽園ホール過去最高の320万円を記録する。

4(日)【全女】後楽園ホール［観衆1820人］新春お年玉企画として、渡辺智子がポーク・ウォリアーとなる。北斗と組み、中西、元川組と対戦。ダブルインパクトで元川をマットに沈める。

4(日)【新日本】東京ドーム［観衆６万５千人］この日で引退の長州力。ライガーをラリアットで下し、24年間のレスラー人生にピリオド。注目の西村修凱旋帰国試合。アントニオ**猪木**リング上で4・4引退を宣言。「元気ですかーッ！」



1・16【KRS PRIDE−2記者会見】ホイス右手っ右手っ!! ホイスの欠場により『1・18 PRIDE−2』が3月15日に延期になる。

7(水)【ZEN】後楽園ホール［観衆2150人］世界ストリートファイト６人タッグ王座挑戦者決定戦＝４コーナーハンドカフ・エニウェア・ストリートファイト6人タッグマッチは大仁田組が勝ちました……。長いっちゅうの。

13(火)【FMW】島根出雲ドーム［観衆1420人］『ブリーフ・ブラザーズ』**発祥**の地。ハービバドンドン。

13(火)【IWA】後楽園ホール［観衆1250人］ＩＷＡ世界ヘビー級王座争奪・有刺鉄線ラダー・エクストリーム・ランブル。ＩＷＡ期待の新人・山下義也、世界チャンピオンまであと10ｃｍ。結局、第３代ＩＷＡ世界ヘビー級王者はダグ・ギルバートの手に。この日、Ｇ・カブキ**ご立腹**。そして、早退。

14(水)【みちのく】ニューワールド仙台テニスクラブ［観衆828人］『男たちの挽歌～最終章～』Ｍ・テイオーが船木勝一を破り、スーパーウェルター級王座を防衛。新崎人生がマジックマンを超秒殺。5秒クッキング。

14(水)【WAR】後楽園ホール［観衆1950人］日本Ｊ１選手権トーナメント決勝。天龍が荒谷を顔面ラリアットで破り、初代日本Ｊ１選手権者となる。「ＷＡＲファン！**ハッピー**・ニューイヤー！」

16(金)【みちのく】中島体育センター［観衆5326人］『札幌ＳＮＯＷＹ'98～雪の中の**素顔**見せたい～』この時点では、みちプロ休業前の最終興行。Ｍ・テイオーがＳ・デルフィンに破れ、スーパーウェルター級王座防衛失敗。試合後、海援隊が正規軍に一礼。その頃、Ｇ・サスケ病院へ直行。

16(金)【大日本】川崎市体育館［観衆1530人］山川竜司がシャドウＷＸの２階席からの投げ捨てパワーボムにより病院送りとなる。Ｇ・ポーゴがＪ・ザ・テリブルにＫＯ勝ち。Ｋ・ナガサキ、**キレる**。

16(金)【パンクラス】後楽園ホール［観衆2250人］ランキング戦、柳澤龍志がＪ・ゴドシーをカウンターの右ヒザ**一撃**で倒す。Ｓ・シュルトが鈴木みのるをヒザ蹴りでＫＯ。大きいことはいいことだ。



11日にパンクラスに入団した大型新人渡部謙吾。一方『紙プロ』に入団した小型新人松澤チョロQ。パンクラスみたく俺の入団発表も華々しくやってくれよ、と駄々をこねていると背後から「サイキョッ！！」と島田レフェリーがやってきた。「チョロは覇気がないから駄目。クビだよ～。」さすがにレフェリーだけあって、注意するのがお好きなようだ。その度、ハキハキしようと誓う二十六の夜。

池袋コミュニティ・カレッジに 特報!!

1998 1.18〜2.6

のちょうのプロレス界出来事!

18(日)【新東京】①後楽園ホール［観衆2100人］19(月)【新東京】②湘南大庭市民センター前広場［観衆180人］①G・高野が、この日で引退の上田勝次にKO勝ち。維新力3年半振りに復活するもザ・ふーちゃんにラ・マヒストラルで破れる。石川孝志引退イブにCCWタッグ王座を防衛。②石川引退試合。愛弟子、奥村茂雄のラリアット連発により20年間のプロレス人生に幕。

20(火)【バトラーツ】後楽園ホール［観衆1829人］『〜**宴**から戦そしてSHURABA〜BONJO—B』。藤原喜明が日高郁人を腕固めで破る。田中稔が田尻義博を飛びつき腕ひしぎ逆十字で破り、UWA世界ミドル級王座を防衛。

21(水)【リングス】日本武道館［観衆9200人］『ワールドメガバトルトーナメント』決勝は、田村潔司vsI・ミーシャ。田村がミーシャを破り、初代王者となる。前田がV・ハンを破り、トーナメント3位となる。高阪が**トンガ**より初参戦S・ラトゥーを破る。

23(金)【全日本】後楽園ホール［観衆2100人］『G・馬場還暦記念試合』6人タッグで川田、小橋、渕組と対戦。自らランニング・ネックブリーカードロップで渕をフォール。ハッスル馬場。



19日、僕の飼っていたハムスターが死んだ。この日の石川の引退試合の観衆ぐらい淋しかった。淋しいと言えば20日にボボ・ブラジルが亡くなった。彼のココ・バットはホントに痛かったとお爺ちゃんが言っていた。

26(月)【全日本】大阪府立体育会館。［観衆4350人］三冠ヘビー選手権試合は三沢光晴が秋山準を破り、7度目の防衛に成功。

26(月)【新日本】大田区体育館［観衆2850人］何かと話題の**南条**隼人、新日初参戦。IWGP前哨戦、健介と**西村**が6人タッグで対戦。NWOにビッグタイトン加入。犬WOの後藤、小原は維震軍に再加入。ブラック・キャット。本名ビクトル・マヌエル・マル。

27(火)【キングダム】『高田離脱！キングダム**崩壊**』報道流れる。

27(火)【WAR】世田谷WAR事務所　武井社長が所属全選手の**解雇**を発表。同じ頃、北原タッグパートナーにニーハオを指名。

28(水)【キングダム】後楽園ホール［観衆2150人］全試合後、高田のキングダム脱退の釈明を求めるファンで会場は暴動**寸前**。安生よく頑張った。

1(日)【全女】後楽園ホール［観衆1830人］怪覆面の度重なる凶行、試合内容にファンが**激怒**。しかし怪覆面サイコーだ。

2(月)【KRS会見】【高田会見】KRS会見で『3・15　PRIDE−2』に新たに、桜庭和志、ホイラー・グレイシーなどの参戦が発表される。同時に『10・11　PRIDE−4』での高田VSヒクソンの再戦が発表される。直後の高田会見にて高田道場の開設が発表される。同時に、『**NOBU・TAKADA**』なるファッションブランドが発表される。

6(金)【パンクラス】横浜文化体育館［観衆4800人］道場対抗戦は横浜道場が2−1で勝利。S・シュルトが長谷川悟史に破れる。大きいことはいいことばかりでもない。



RADICAL8号の発売も近づき周りが慌ただしくなってきた頃、編集長が失跡した。こんな大変な時期に消えてしまうとは、さすがに高田を二度も表紙にした男だけはあると、妙に納得させられた。後で聞いたことだが失跡の原因はズバリ『バイオハザード2』。この会社の先行きは不安というか、不安じゃないというか……。

RADICAL

プロレスマスコミ観察雑記

これはスポーツ新聞、プロレス専門誌、一般雑誌、ミニコミ、パソコン通信、インターネットなどに掲載されたプロレスネタの数々を勝手に観察して勝手に報告する、人のフンドシで相撲を取るかのような雑記帳である！

文／吉田豪　え／マッくん



三冠王の営業活動

（『読売新聞』97年11月9日号より）

全日の東京ドーム進出で揺れる激動の世紀末マット界に、松永光弘のスッポンエキス広告以来の衝撃走る！

なんと、日本一危険な受け身によって平成の「過激なプロレスラー」として知られている我らが三冠王・三沢光晴が、大手新聞全国紙で堂々の全面広告デビューを果たしたのだ！

それも、こんな意表を突く形で……。

「さすが三冠王。実力も最強ですが、姓名鑑定でもすばらしい成功運です」

宗家日本印相協会代表取締役会長であり、開運学印鑑総本家当主でもあるという坂本光氏に文句なしのお墨付きを貰った実力最強の三冠王は、胸を張ってこう言い出すのであった。

「体力と技は訓練で上達できますが、相手も同じように頑張っているわけですから、あとは気力と運の勝負です。その気力も運も大きな支えを持った時に人一倍強くなれると思います。私にとってそれがこの宗家で開運鑑定して頂いた印なのです」

なにィ!?

じゃあ、三沢が三冠王になれたのも、一歩間違えれば廃人になりかねない危険な受け身で過激なプロレスを続けられるのも、全てリングネームの画数と開運印鑑のおかげだったのか？

そしてあくまでもボクの勝手な憶測に過ぎないのだが、これはもしかして単に三冠王と印鑑王を引っかけただけのダジャレでしかないのだろうか？

疑問が尽きることない今日この頃なのである。



精魂こめた手彫りの宗家の印誕生を見守る三沢選手

幸せ・生命力と金運・健康運を念じ一刀一刻に精魂を込める鮲石先生



天地自然の理に叶う八方発展の開運鑑定

…の権威の先生方も、三沢選手は素晴らしい成功運の持ち主と絶賛



池袋コミュニティ・カレッジに

特報!!

私、反文プロレスの味方です

（『週刊プロレス』98年1月27日号より）

突如として**「ファンはバカです」**ということとん意表を突いたアピールを始め、藤波に「ファンにバカなんて言っちゃいけない！」と怒られたらしい無我の次期エース（＝将軍？）・西村修。

つまり、言わんとすることは**「いまの日本のプロレス界は、さらなるものさらなるものを要求する。お客さんもさらなるものを求めて、核質的なものを見ようとしない」**（おそらく核心的という意味）ということなのだが、これは明らかに『パラダイム・シフト』という概念（人間は一度進歩してクサビを打ち込んだら、そこから後ろには戻れないとかいうような意味）を念頭に置いた、西村らしいクレバーな発言だろう。

そこで西村は**「ラリアットのレスリング**（＝進化）**よりもブリッジを使ってホントに基本的な技だけでお客さんを楽しませるレスリング**（＝核質的？）。**文明の発展は罪だという考えに達したんですね」**というバック・トゥ・ザ・ネイチャーな発想をプロレスに持ち込むわけなのだ。

「ボクは生まれたときからみんなと同じことができないんですよね。集団行動がものすごい苦痛なんですよ」という理由で反文明集団・アーミッシュの元へ飛び込んだ西村。

とりあえずボクも西村の考え方には全面賛成なのだが、いちいち主張が「レスリングの基礎重視で大技嫌い」「人と同じことが嫌い」「日本が体質的に合わない」と語ってきた悲しき天才セッド・ジニアス（UNW）チックで実にイイ感じなのである。足りないものは、ただひとつ。ルー・テーズ道場での経験だけなのだ。その姿勢で突き進め、西村！


「文明の発展は、もういい。核質的なものを求めていく」

衝撃発言

「ファンはバカです」

「中西&小島とのトリオ？ 自分が浮くのはわかっている」

RADICAL


Letter from Rickson Gracie: Win or Wi

RICKSON GRACIE
AMERICAN JIU-JITSU ASSOCIATION

Edition No. 5
Fall/Winter 1997

Contents

Letter from Rickson Gracie 1
Tournament Plays to Full House 1
Tournament Results 2
Tournament Results 3
Second Thoughts 4
Rickson Defeats Takada 4
Thoughts on The Tournament 4
Official Representatives USA 5
Official Representatives 6
International 7
News Take Downs 7
New Ranked Blue Belts 7
Upcoming Seminars 7
Lifestyle
Tournament Inside Look 8

First I would like to give my appreciation to everyone who participated in the tournament. We set out to create a competition of the highest level. The tournament was a great success and everything met our expectations. With no exceptions, I saw a great demonstration of respect, fraternity and friendship at the tournament. It fills me with pride and excitement to continue my work towards our success.

To the athletes who were victorious in their respective belt and weight divisions, my congratulations. Keep training hard. While you reached success this time, your technical, physical and mental attributes always have room to improve. The same advice goes to the ones who didn't win the gold this time. After a competition it is time to start a more specific type of training which will explore the most vulnerable aspects of your game. Developing the technical combinations, emotional control and physical attributes should be a life long process. By focusing on your progress, each step should earn you great satisfaction.

Like a professional athlete during the off-season, you should alter your training to a more relaxed process, free from intense competitive energy. This allows the discovery of comfortable and uncomfortable positions, free from pride, stress or urgency. It will enable you to develop your natural abilities playfully, like a child. The lion cub, for example, in order to become a great predator, he does not have to kill the cubs in his own den. They develop their ability by just playing with each other. Make your training a playground. When you start to train intensely again, you will be surprised with the results.

The growth process must be exclusively an individual one. Don't compare yourself or your development to those around you. Each person's development is unique, and each one of you can improve 500% with respect to yourself.

Good Luck,

Tournament Plays to Full Ho

More than 300 competitors, from white belt to black belt and from countries around the world took part in the First International Rickson Gracie American Jiu-Jitsu Association Tournament held August 30-31 at the UCLA John Wooden Center in Los Angeles.

Pre-tournament events included a referee clinic, taught by Royler Gracie who explained points, rules, and conduct for officials. In addition to event referees, official representatives of the Association also took part.

The tournament … Saturday and continued … afternoon. All proceeds … admission fees were … organizers to DARE A… Abuse Resistance Ed… course of the two-… more than 400 … fought, following … the Association …

One of … event was a … Gracie. Also parti… Gracie's four children, and … Royler Gracie.


Tournament Inside Look

Opening ceremony hosting the competitors.

Kron flips Rickson

Rickson introduces the representatives.

The French team in Los Angeles

Megaton defeats Mario Aiello.

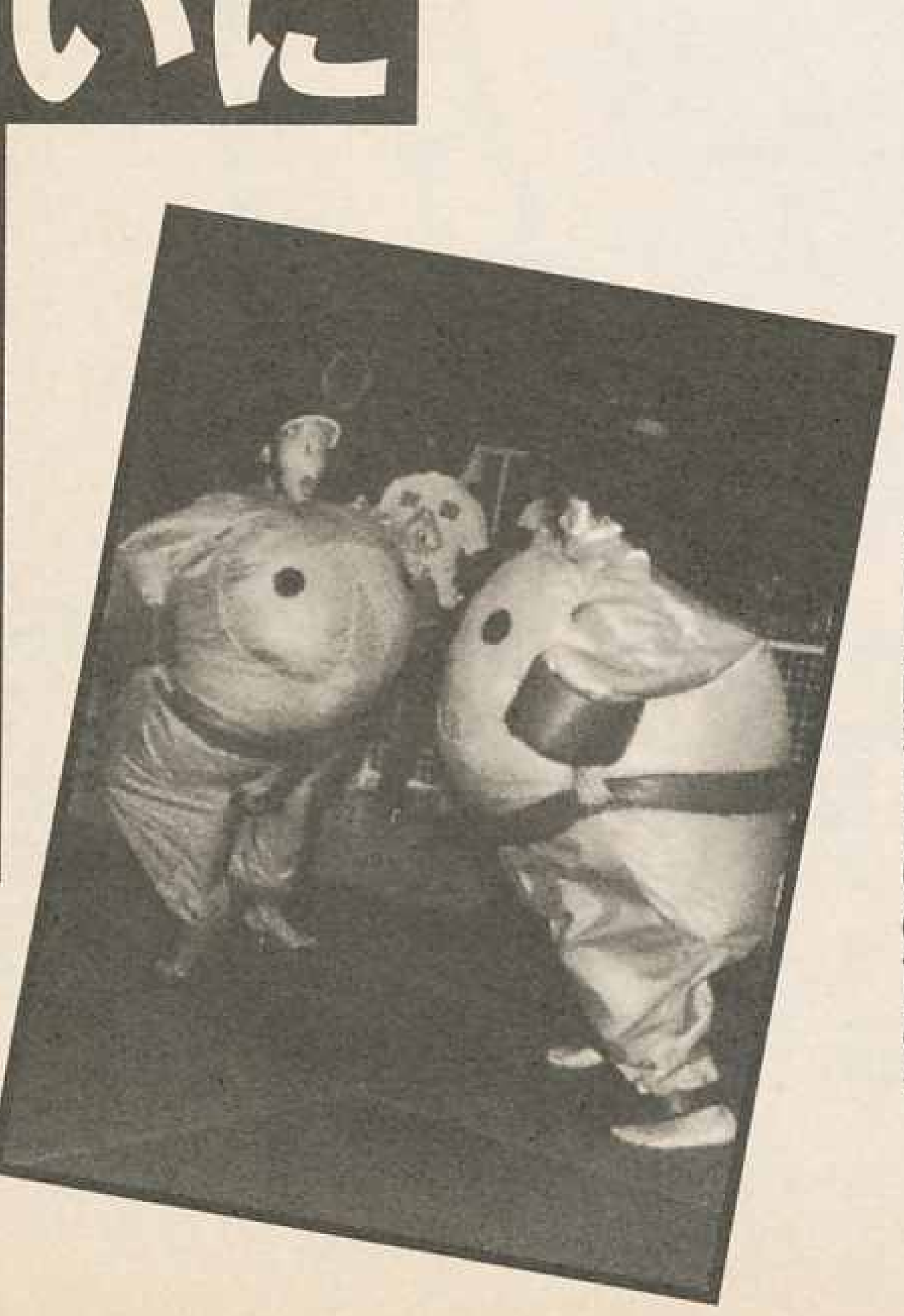
日本人以上に日本人らしいブラジルのサムライ？

（『ヒクソン・グレイシー通信（？）』5号より）

私事で恐縮だが先日、ボクは『SMART』（宝島社）という雑誌（椎名基樹先生もプロレスコラムを執筆中）でヒクソン・グレイシーの取材をさせていただいた。

そこでボクの念願だった「ヒクソンに下ネタをぶつける」ことにも無事成功し、おかげでいつものように眉間にシワを寄せたひたすら真剣な表情で「確かに私は人よりも女性が好きだ」などと赤裸々に語るヒクソン、という歴史的な瞬間も拝めたわけなのだが、問題はそんなことではない。

なぜかあの年齢でヘソ出しルック（それも2月初旬に）というチャレンジ精神溢れるキム夫人が我々にヒクソン印のバンダナと共にプレゼントしてくれた、あちら版のヒクソン・ファンクラブ会報チックな謎の小冊子の中に、とてつもなく衝撃的な写真が掲載されていたのである。



プロレスマスコミ観察雑記

そう、肉襦袢を着た白人のガキがぶつかり合うドリフのコントのようなふざけきった写真に、直訳すると**「チビっ子相撲競技」**とかいう謎の英文が添えられていたのである！

日本人以上に日本人らしいサムライとして知られるヒクソンの道場では、前田光世から受け継がれてきた日本の技術と魂をアメリカでも広めるために、日本の国技・相撲までわざわざ肉襦袢着用で教えているのだろうか？

別にこれをとやかく言う気もないが、彼氏が日本を勘違いしていることだけは間違いないのである。

池袋コミュニティ・カレッジに

特報!!

紙のプロレス読者に告ぐ!!
『中身はいいから買え!! ……以上』

買え覆面、参上!!

1 闘いのドンキホーテ!!



今一番熱いレーベル「紙のプロレス」より、幻のみちプロ&バトラーツ合同ライブOR第1回ターザン山本追悼ライブを完全収録! 全5試合ノン・ストップの有無を言わせぬド迫力! おまけにターザンのハイ・テンション・パフォーマンスも収録! サスケ&ワカマツのUFO喧嘩も傑作! そしてなんといっても、バトラーツ初の6人タッグ。攻撃的でストレートな爆発ライブ! アーミッシュじゃ見れません!(プロレスファン超スイセン作!)

【サプライズな内容】

- ザ・グレート・サスケ&石川雄規VS山賊男ガリバーX&山賊男ガリバーXX
- 池田大輔&アレクサンダー大塚&米山サトシVS臼田勝美&小野武志&田中稔
- 初代タイガーマスクVS獅龍
- グラン浜田&スペル・デルフィン&薬師寺正人VS ディック東郷&MEN'Sテイオー&TAKAみちのく
- 新崎人生VS愚乱・浪速
- 日本版のみボーナストラック収録・ターザン山本の棺桶マッチ&狂い咲き場面や、豪華弔電陣(船木誠勝、タイガー・ジェット・シン、豊田真奈美、松永光弘、剛竜馬)、今はなきUインターの、今はなきゴールデンカップス突如来襲の様子も収録。出るとこ出たら、プチ・オールスターな内容です。

2 トンパチ



日本が世界に誇るトンパチ・イレブンを完全収録した名作オムニバス!「アントニオ猪木の死に水を取るのは俺だ」(サスケ談)「全日本のテスト受けて、受かったんですよ、ボク。」(松永談)「東京ドームでデビューっていう話もありましたし。」(ジニアス談)「今日はオフレコ。」(ジョージ談)などなど全トンパチファン必読と断言出来る内容! アーミッシュでもよめるはず!(トンパチ全11人限定!)

【ブラボー(ディノ)な内容】

- 「シュートトンパチ」折原昌夫(格闘集団メビウス)
- 「宇宙パワートンパチ」将軍YKワカマツ(どさんこプロレス道場「元気」)
- 「高学歴(バークレー音楽院卒)トンパチ」矢口壹琅(新格闘十字軍SPWF)
- 「妄想トンパチ」ターザン山本(フリー)
- 「(東北限定の)カリスマトンパチ」ザ・グレート・サスケ(みちのくプロレス)
- 「ミスターデンジャートンパチ」松永光弘(フリー)
- 「悲しき天才トンパチ」セッド・ジニアス(UNW)
- 「コブラトンパチ」ジョージ高野(FSR)
- 「叩き上げトンパチ」邪道・外道(冬木軍プロモーション)
- 「悲しき天才トンパチ」セッド・ジニアス(UNW)
- 「アンタ一体何者だ!? トンパチ」レッドマン

☆スペシャルインタビュアー
●大槻ケンヂ●浅草キッド●吉田豪(紙のプロレス)

また商品番号①「闘いのドンキホーテ」は世界を股にかけて、特別通販も行うんです!

①現金書留、②郵便振替　00130-3-769154　名義:(株)ダブルクロス

①・②いずれかの方法で下記住所へビデオの料金を送ってください。送料&税込みで大出血価格7500円です。その際、住所、氏名、年齢、電話番号を明記していただかないと商品が届かない場合がありますので、忘れずに。(郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に記入)

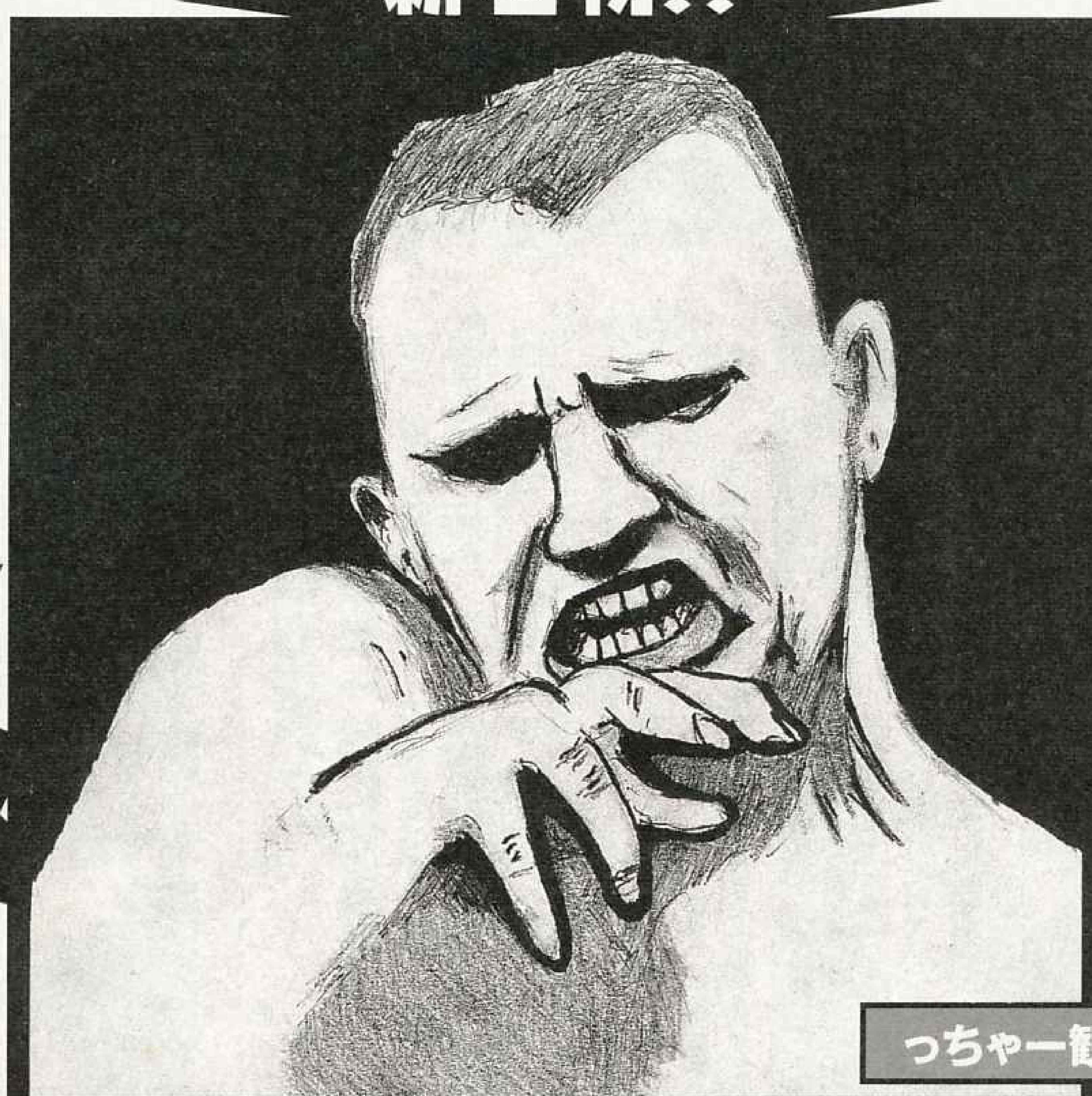
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ケ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス『ドンキホーテ通販係』まで。
TEL03-3403-5188 FAX03-3403-5187



RADICAL BOUT REVIEW

紙プロ的 RADICAL観戦記

新名物!!



っちゃー観戦記なんですけどね

道場対抗戦【東京VS横浜】PART1

2／6（横浜文化体育館）PANCRASE

プロの髙橋"らしい"國奥ラジオ解説の大々的宣伝を!!

「大谷さん、やられちゃった（苦笑）」。山宮恵一郎との先鋒戦に引き分けた柳澤龍志が私に言った。別に負けたわけではないが、どうやら先鋒としての役割を果たせなかったことを言っているらしい。柳澤としては山宮に「キメに来てほしかった」のだという。惜しくも「柳澤革命」（本人にはそのつもりはないだろうが）は失速してしまった。提案だが「道場対抗戦」だけは、来たるべき他流試合解禁に向け、セコンドからの指示を認めては？　なぜかと言えば、まだうまい具合にパンクラスの見方が伝わっていないからだ。でなければ、もっと大々的にラジオ解説の存在を宣伝すべき。見方がわかればパンクラスは絶対に面白い。ただ、今回も「テストケースの一貫」と考えて、次回に期待しよう。

さて、二連続ドローの雰囲気を察してか、中堅戦に出てきた髙橋義生は、結果的に渋谷修身に敗れたものの、役割を認識した積極的なファイトを展開。アルティメット大会初勝利から丸一年。髙橋は完璧に（見る側にとっても）プロのパンクラシストとなった。

ところで全試合終了後のこと。広尾道場所属の國奥麒樹真が横浜道場勢の控室に顔を見せ、次鋒戦で闘った近藤有己と言葉を交わしていた。試合中、國奥の放ったミドルキックをサバいた近藤の右手が気になったのか、「右手は大丈夫？」と聞いていた。『盾－TATE－』のなかでも國奥は「（日本人同士で）対抗することと自体、どうしてかなと思う」と言っていたが、國奥らしさが感じられた心の暖まるシーンだった。本当は、これこそが船木誠勝イズムの真骨頂なのかもしれない、とふと思った。

なにはともあれ、「この対抗戦から、"新しい道場論"が確立される」（鈴木みのる）のに違いない。

（"Ｓｈｏｗ"大谷泰顕）



極私的ベストバウト

1位　長谷川悟史vs セーム・シュルト
（長谷川の金星に1万点!!）

2位　5・12後楽園ホール決定!!
（新生UWF旗揚げ丸10周年）

3位　柳澤龍志の入場時のコスチューム
（差別化意識の向上）

SUN賊にかたよって振り返る全女の2・1後楽園大会！



新生全女"誓"'98

2/1（後楽園ホール）

全日本女子プロレス

極私的ベストバウト

1位 中西&脇澤&納見 vs元川&西堀&小山

2位 SUN賊組 vs豊田&貴子

3位 SUN賊のセコンドとして散らかった凶器を1人で回収する中原

噂の怪覆面2人組（以下、SUN賊）を批判する記事がさまざまな媒体に書かれていた（評価していたのは『東スポ』のマシン眼のみ）。叩くべき要素はいくらでもある。しかし、見るべきところも非常にたくさんあったし、何よりも客入りが期待を反映していた。ここでは臭いものにはフタをして、徹底的にひいきのひきたおしでSUN賊を振り返ってみることとする。

SUN賊は入場する際、いつ、どこから、どうやって入場してくるかわからないという。この時点で会場全体が楽しみにSUN賊を待っていた。そして、豊田&貴子が業を煮やして入場してきた瞬間に、SUN賊が爆竹を鳴らしながら登場してきた。この入場には100点満点さしあげたい。試合が始まると、凶器のみのプロレスに客席からはブーイングが飛ぶ。次第にブーイングは「試合しろよ」と罵声となってリング上に降り注いだ。

この日の観客はSUN賊に何を期待していたのだろう？ 素晴らしい技と技の攻防だろうか？ ボクはそんなものは一切期待していなかった。ただ単純に見たかった、正体が知りたかった、それだけだ。あれだけ技の少ないプロレスも近年珍しい。試合が組み立てられないヒールという前時代的なキャラクターではあるものの、観客の心を引きつけた。ファンの足を会場に運ばせた。その功績は評価するべき。「正体がばれるから技かけるな〜！」というヤジも飛んだ程だ。もちろん、正体をバラすような不届きなヤジも一切飛ばなかったのだ。試合内容を期待したファンもいる。負債10億とも言われている全女に、なぜ、どうして、何のために出てきたのかを考えればSUN賊を楽しみに来たファンもいるように、時代錯誤なSUN賊を楽しみに来たファンもいる。負債10億とも言われている全女に、なぜ、どうして、何のために出てきたのかを考えればるほど面白い存在だと思うのだが。

（ノブ）

ガチプロが嫌い？ 格闘技と一緒にするな？



RV-G

1/28（後楽園ホール）

KINGDOM

極私的ベストバウト

1位 桜庭和志vsラリー・パーカー

2位 山本健一vs ダニエル・ロペス・ロドリゲス

3位 金原弘光vsリック・ルセーロ

キングダムは金原、桜庭、山本とそれに続く若手の団体だ。世界の強豪たちに挑み、プロレスの威信を回復させるという難作業に挑んでいった。Uインターとは、闘いの質も、テーマも、光を放つレスラーたちも完全に入れ替わっている。その結果、外敵に対して立ち上がるという実験的な団体になった。そういう姿勢を打ち出すには、海外の強豪ビッグネームを倒すことだ。イズマイウが来なかったことで、プロレスファンに、あるいは環状線の外にいる人たちに届かせるだけのイメージを作り出せなかったのは残念なかぎりである。

この日の金原、桜庭、山本の試合を見れば平成10年現在のガチプロがどんなものだかわかると思う。キングダムに出稽古に通うエンセン井上は「プロレスと格闘技、練習はまったく同じ」と言い切った。プロレスの根源的な部分を言い表している。格闘技側のガチプロ批判ばかり聞かされて、ファンとしてはたまったものではない今日この頃。この日のような試合を見せてくれるから、ファンも胸を張れる。この3人の勝利は、普段よりも重い会場の空気を払拭するほどの完勝だった。

全試合終了後、観客の大半は帰らないので、マイクを掴んだ鈴木健氏が全選手を呼び寄せた。安生のハイテンションなマイク・アピールは観客に届いた。野次にひとつひとつ答えていったのは良かったと思う。キングダムになってからの安生のマイクは力強さと悲壮感が混ざりあった、味わい深いものになった。高田はリングに上がらなくて正解だ。あの場で「うるさいな、お前ら！」などと言ってたら、確実に暴動が起きていただろう。暴動が起きなかったのは、安生のおかげである。

（ノブ）

Jリーグやプロ野球で見れる顔にはなってほしくない

WORLD MEGA-BATTLE TOURNAMENT 1997 GRAND-FINAL

1/21（日本武道館）

RINGS



極私的ベストバウト

1位 田村潔司vsイリューヒン・ミーシャ

2位 高阪剛vsシオン・ラトゥー

3位 坂田亘vsヘルマン・レンティング

最近の格闘家やプロレスラーは、ズバリ言って非常に顔が悪い！ もちろん、ハンサムだとかカワイイだとかカッコイイだとかイケてるだとか、多くは異性を引きつけるために活用される"造形"としての"顔"のことを言っているのではない。

これも時代の流れなのだろうか、格闘する顔というか、"闘う顔"！ それに出会った時の密かな熱いヨロコビ。そういったものを感じることが少なくなってきているような気がするのだ。

しかし、リングスでは、現役引退を決めたものの、イザとなったらゴンタ顔に変身する大将を始め、田村、高阪、欠場中だが山本、ロシア勢、オランダ勢と、"闘う顔"をたくさん見れるのが嬉しい。

ゴツい、コワい、ツヨい——。リングに上がるとそう見えるということは、身体の内側から闘争心というものが溢れ出し、"闘う顔"をつくり上げているということだろう。

Jリーグやプロ野球では決して見ることのできない顔が、1vs1で闘う男の顔である。それもまたリング上の闘いに顕微鏡の焦点を合わせるときには、実に重要になってくる。

人形のヨシトクも顔が命なら、格闘家も顔が命なのである。

さて、この日、トーナメントを制しベルトを巻いた田村が、名実ともに"リングスの顔"となった。ベルトも大切だが、この、"リングスの顔・争奪戦"というものも白熱してもらわないと非常に困る。

弱い、と田村に言われてしまったリングス・ジャパン勢がJリーグやプロ野球でも見れるような顔の持ち主には、絶対なってほしくないからである。

（日昇）

RADICAL BOUT REVIEW



BONJO-B
～宴から戦、そしてSYURABA～
1/20（後楽園ホール）
格闘探偵団バトラーツ

極私的ベストバウト
1位 藤原喜明vs日高郁人
2位 田尻のセンス
3位 猪木が宿った石川社長

ギラリと光った前座の鬼！ キラリと光ったクールアイの涙

正直言って藤原組長に日高を当てるというマッチメイクに合点がいかず、あまり行く気もしなかった興行だったのだが、試合後の感想は久しぶりにいいプロレスを見せてもらったという一言である。

組長が練習用のコスチュームで登場しただけですでに日高はカチンときていたようだが、それを嘲笑うかのように組長はニヤニヤしながら関節を極めては逃がす。それも何度も何度も、である。

この「悔しさ」や「怒り」を、日高はいつ爆発させるのか？

そんな観客の期待が高まりきったところで日高が繰り出したのは、なぜか得意のドロップキックなのであった……。どうやら現パンクラスの美濃輪すら破った関節技が通用しないことに対する「焦り」が、「悔しさ」や「怒り」を上回ってしまった様子である。

客席にいた船木勝一も急遽セコンドと化し、ついでに観客までセコンド状態になってアドバイスを送るが、客に「張れ！」と野次られて言われるままに頬を張れば、数倍のパワーで張り返される始末。結果的には日高の完敗だったが、試合後に悔しくて涙ぐむ感情が見られただけでも良しとしよう。組長が相手のスタイルに合わせずに済んだ（孫弟子でしかない日高相手なら当然）ことで誕生した、前座の鬼の昭和プロレス・チックな名勝負であった。

だが、しかし。ファンのハートを掴んだのは田中稔対田尻だったそうである。あれは確かにいい試合だが、バトラーツの試合ではない。田尻の良さを引き出した結果生まれた「田尻的な名勝負」でしかないのだ。ああいうカウント2・9の攻防を好むファンを黙らせるようなバトラーツ的な名勝負をボクは期待している。（豪）



プロフェッショナル修斗公式戦Vol.48
1/17（後楽園ホール）
プロフェッショナル修斗

極私的ベストバウト
1位 朝日昇vsデニス・ホール
番外1 魅惑の尾崎允実社長
番外2 会場の外で関根勤の本のビラを配る『スコラ』青柳氏

”プロレスラー“が注目する修斗 朝日の快勝に素顔の4代目は？

衝撃の「柳澤革命」（詳しくはP76参照）から一夜明けた後楽園ホールは、前夜のパンクラスと色合いの違うシューティング98年第一戦。メインイベントは”奇人“朝日昇の復活戦。あのホイラー・グレイシーに敗れて以来、1年半ぶりの試合になる。

観客席には、いつものようにシューティング出身のパンクラシストである山田学の姿があり、この日は柳澤龍志、國奥麒樹真もいた。他にもキングダムの金原弘光や桜庭和志、前日の札幌中島体育センターでの試合を終えた、素顔の4代目タイガーマスクの姿も見えた。

結局、朝日は、見事にアトランタ五輪銀メダリストの肩書きを持つデニス・ホール（rAwチーム）に快勝!! これを見ていたサダハルンバ谷川氏は「”ミスター・シューティング“だなあ」と言っていたが、確かにそう思えるような試合だったように思う。

試合後、見事に復活を果たした朝日の控え室に行くと、多くのプレス関係者が周囲を囲んでいた。その後ろに、素顔の4代目がいたので、「なんて言ってます？」と尋ねると、「”奇人“だから言葉がわかんないんですよ、アハハハハァ」と答えた。かなり佐山イズムが入っているようだ。なおかつ「（筆者が執筆している）『スコラ』で女の子と対談させてくださいよお」とも言われてしまい、「僕はそういう遺伝子も受け継いでますから」との言葉もちゃんと付け加えていた。やっぱり4代目は、なるべくしてタイガーマスクになったことが確認できて嬉しかった。

それにしても、前年の年間タイトル『レコンキスタ（失地回復）』から今年は『ラス・グランデス・ヴィアヘス（大航海）』とは、いったい誰がつけているのだろう。（”Show“大谷泰顕）


©M・GIGIE

PANCRASE 1998 ADVANCE TOUR
1/16（後楽園ホール）
PANCRASE

極私的ベストバウト
1位 柳澤龍志vsジェイソン・ゴドシー
2位 稲垣克臣vsキム・ジョン・ワン
3位 セーム・シュルトvs鈴木みのる

誰がためにShow氏は泣く？ 柳澤革命の狼煙は上がった！

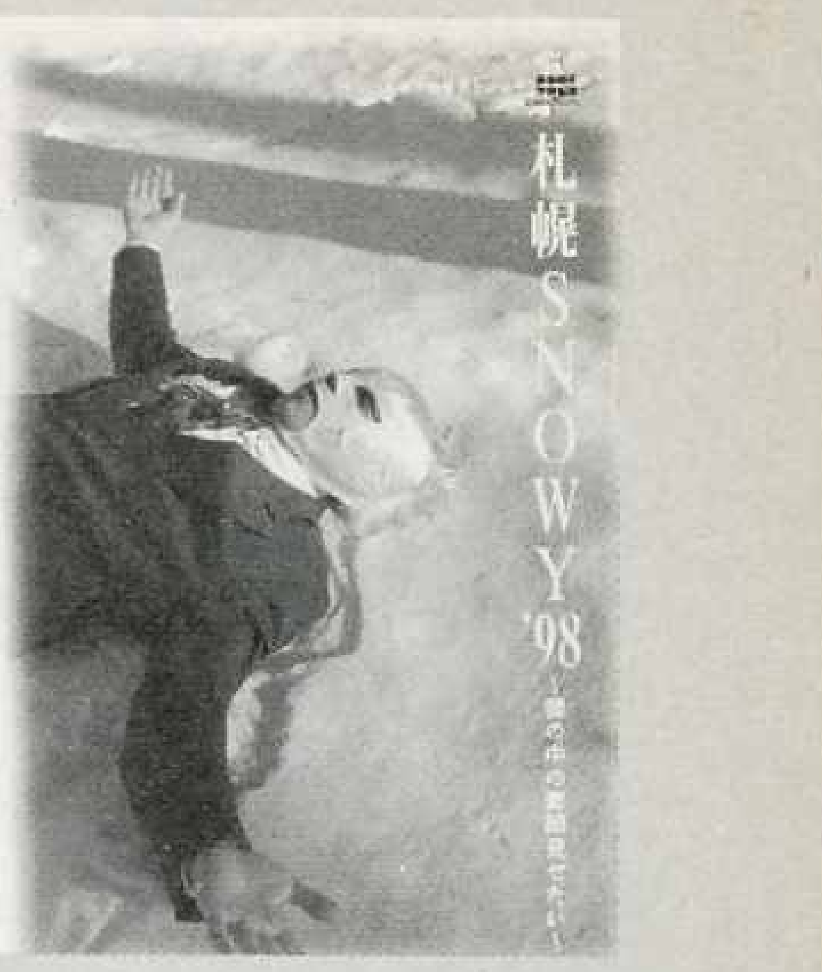
この日は、パンクラスの年頭1発目の興行だった。入場式で噂の新人・渡部謙吾がリング上から入団の挨拶をした。この日はわりとおとなしめの格好だったが、とある筋からの情報によれば、学校内ではギャングスタ・ラッパーのようなファッションで歩いていたらしい。現在のパンクラスは、その手の荒々しさを感じさせる選手がいない。果たしてデビューした後に、リング上で普段の渡部謙吾が出せるのか？ それともおとなしめの、よそ行きの渡部謙吾になってしまうのか？ 見たいのは断然、前者である。すでに2月6日からは、セコンドに付いているようなので、じっくり見ていく必要がある。

さて、この日は個人的に注目しているキム・ジョン・ワンは復帰戦の稲垣克臣と対戦。割といいところまで攻め込んだ感じはしたのだが、稲垣の落ち着いたレスリングの前に敗れ去った。昨年末12月には國奥を秒殺しているだけに、「今年はキム旋風が吹き荒れるか？」と期待していたのだが、まだまだ道のりは険しいようだ。

ゴドシーをヒザ1発で沈めた柳澤がこの日は出色だった。パンクラス内のnWoとはいかないまでも、少なからずリング上で爆発した。革命を起こすには爆発が必要である。船木が否定した「プロレスの持つ爆発的なもの」以外で、柳澤がどんな爆発的なものを提示できるのだろうか？ この日の勝利は「革命の始まりかな？」とも思えたが、本人は今号のインタビューで、いたって普通に「たまたま」と言うだけ。柳澤が本気で革命し出すのは、もう少し先のようだ。この試合後に、横を見れば、Show氏は号泣している。何が何だかわからない。（ノブ）

札幌SNOWY'98
～雪の中の素顔見せたい～

1/16（札幌中島体育センター）
みちのくプロレス



極私的ベストバウト

1位　G・サスケ&G浜田&タイガーマスク vsディック東郷&船木勝一&Sボーイ
2位　MEN'Sテイオーvs スペル・デルフィン
3位　愚乱・浪花vs ザ・マジックマン

「ものをつくる人」サスケのパワーは不滅であってほしい

みちプロ〝最後〟といわれた札幌大会観戦後、リングパレスの〝磁場〟日野さん、『週プロ』の浜部編集長、いい方の鈴木の健ちゃん、ボンジョビ島田レフェリー、キメイチと鍋を囲んだ。

最近どうもギョーカイの人と席を共にする機会が多くなってきて、恥ずかしがり屋のボクチンとしては非常にドギマギしてしまう。NOVAのCMじゃないが、〝入ろっか、やめよっか、どーしよっかな〟という気分になるが、ちっちゃい『紙プロ』とは違って、『RADICAL』だとやめるわけにはいかない局面も出てきちゃうわけだ。

しかし、あまりギョーカイにどっぷり浸かると「ものをつくる人」としてはヤバイという危機感も当然あるわけで、いつも「トロピカーナ、アディオス！」と決心を決め、なかば強引に飛び込んでいくことにしている。

今回のみちプロの一連の騒動は「ものをつくる人」としてギョーカイ外に目を向けるサスケの〝孤独〟と、「プロレスラー」としてギョーカイ内に目を向ける所属選手たちの〝連帯〟が、目に見える部分と見えない部分でぶつかり合って噴出してきた「物語」である、とボクは捉えている。

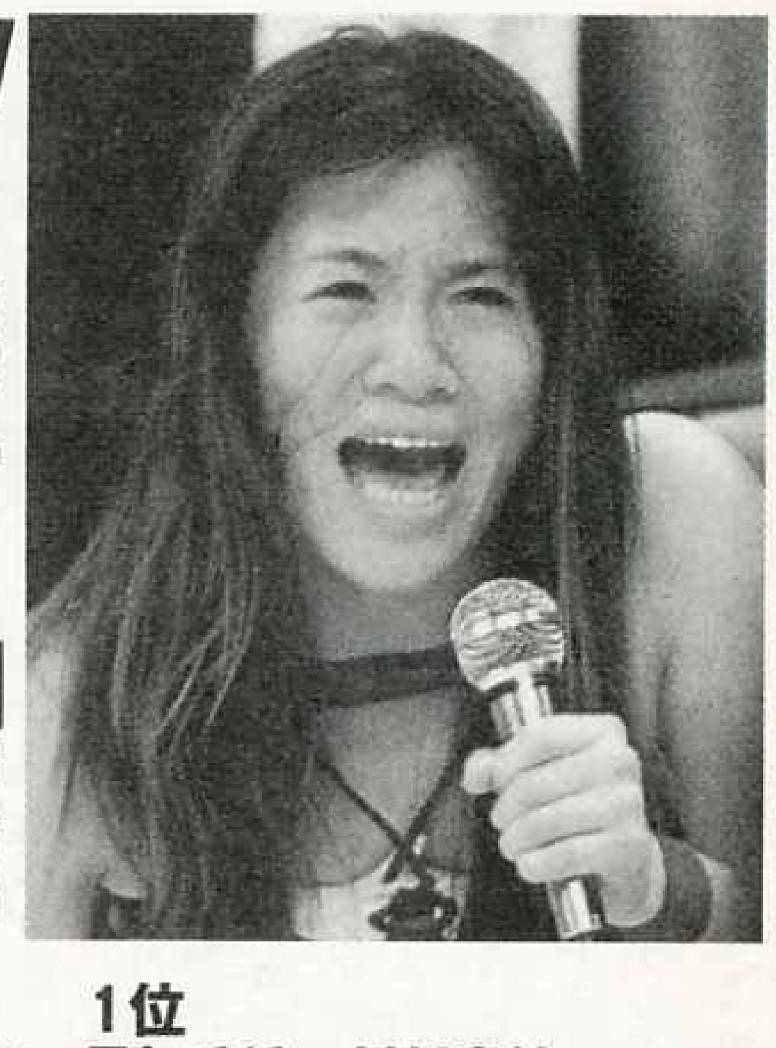
「プロレスラー」として見た場合、ディック東郷の方がリング上では遥かに大きく逞しく見えるのだが、いつ何時みちプロを見ても、〝サスケだったら大丈夫〟と思ってしまうから不思議だ。

しかし、サスケの「ものをつくる人」としての能力を枯渇させないためにも、ここは思いきって みちプロの『原作』を〝壊し〟にかかってほしいのだが――って意味わかんないよな、これじゃ。頭打っちゃったかなぁ。

（NOBBY）

WILD TIMES

1/15（後楽園ホール）
GAEA JAPAN



極私的ベストバウト

1位　長与千種vs植松寿絵
2位　広田 vs永島vsS・佐藤
3位　里村&加藤（園） vsラス・カチョーラス・オリエンタレス

はたしてGAEAは一見さんには難しい団体なのか？

いきなり広田紗久良の2連戦が組まれていた。Ozアカデミーの永島、S・佐藤と立て続けに対戦するというものだ。広田の気迫は見えたが、あっさり終わった。こういう意味深なカードはGAEAの流儀なのだろう。一見さんにはわかりづらい展開ではある。以前、亡霊落武者と呼ばれた男は「世間のわからないことをやってる方が、ある日、パァ～ンと弾けて世間に届くんですよ！今の世の中ですぐに世間に届くようなものは、すぐに風化しちゃいますよぉ！」と語った。いま現在、団体が次々淘汰されていく中で、世間に届けようとせずに電波を発する団体が元気である。男子ならパンクラス、女子ならばGAEAということになる。それをキャッチするのは、根気のいる作業ではあるが、これを放棄しては面白味が理解できないままだ。GAEAの若手がパァ～ンと弾けて世間に届くまで気長に見続けてみようと思う。

さて、長与は、ジャングル・プリンセスこと植松寿絵とシングルマッチで対決。植松の攻撃を受け切って、ビシッと決める貫禄の勝利。そして、試合後には植松が号泣しながらGAEA改でデビューをさせてくれと訴えた。それを諭しながら、飛び技の重要性を説いた長与。そのマイクアピールの途中、某誌カメラマンがマイクコードに足を引っかけて抜いてしまった。そこで長与がさすがなのは「あ、ページ多く取ってね」と切り返し、その場を笑いで収めてしまうところ。長与千種の魅力プロレスもマイクアピールもひっくるめて堪能しなければならない。長与の試合は、歌と説教がセットになったさだまさしのような独自の世界だ。会場全体を支配する空気を作り出せる者を本物のプロレスラーと呼びたい。一見さんでもわかりやすいはずだ。

（ノブ）

NEW YEAR FESTIVAL'98

1/11（後楽園ホール）
J'd



極私的ベストバウト

1位　ジャガー横田vs ライオネス飛鳥（セコンドの乱闘込み）
2位　中西百重（全女） vs坂井澄江
3位　ザ・ブラディー vs薮下めぐみ

「♪ファイティ～ング・ジャガ～愛は惜しみなく奪うもの～」

まず、驚いた。試合開始前にDJコーナーがあるのだ。これはTMレボリューションやらSPEEDやらを大音量で流しつつ、2組ぐらいのゲスト（選手）とフリートークをするというもの。そのDJコーナーにゲストとして登場した柔道コンビの1人、坂井澄江は自分から「どうしても歌いたい」とジャガー横田の『愛のジャガー』をフリ付きで熱唱しだしたのだが、歌詞を忘れて途中で中止。それを見守る客席が呆気にとられていたのは言うまでもない。こういう今まで誰も思いつかなかった、新鮮な突き放し方は評価したい。再考すべき余地はあると思うが。

さて、この日のメインは、ジャガーvs飛鳥。この試合で、飛鳥率いる裁恐軍が大暴れ。裁恐軍のブラディーは特に光っていた。

この試合を見て思ったのは、長与と飛鳥&ジャガーのプロレス観の違いである。J'dと同じように若手が活躍するGAEAでは、若手は新人離れした技の攻防と真に迫ったマイクアピールで客を魅了する。対するJ'dも試合はもちろんだが、セコンドや乱入においても光る。マイクアピールはどこかのんびりしている。もっと言えば、GAEAは押さえ込みを否定し、J'dは押さえ込みを肯定した。GAEAは押さえ込みを否定し、UWFからインスピレーションされ、GAEA改に挑戦する長与と、プロレスラーとしてではなく、北村智子としてアルティメットに挑戦する飛鳥。どこまでも相反する2人ではあるが、どちらも全女イズムを基調に、それを否定したり、拡大解釈しながら確固とした独自の路線を開拓しつつある。

イズムやイデオロギー闘争とは無縁だった女子プロ界に新しい対立概念が生まれた。が、そういうトップを見ながら育つ若手は往々にして呑気だったりする場合も多かったりする。

（ノブ）

RADICAL BOUT REVIEW



FINAL POWER HALL in 闘強導夢

1/4（東京ドーム）

新日本プロレス

極私的ベストバウト

1位　小川直也vs ドン・フライ

2位　大谷晋二郎vs ウルティモ・ドラゴン（大谷の試合後のコメント付き）

3位　西村修&藤波辰爾 vs中西学&小島聡

「チャンピオンの風格出てきたんじゃないですか？」（大谷・談）

安田、山崎、木戸、健悟、サムライ、保永、小林、平田、野上、彰俊、ヒロ、後藤、小原、キャット、真壁、そして、マサ（順不同）。この日試合の組まれなかったレスラー陣である。これだけの余力を残してドームは満員。新日パワーおそるべしっっ！！

この日の目玉は、僕的には『西村修凱旋帰国試合』である。まあ、目玉と言っても、結果如何では、長州監督に大目玉を喰らう可能性も無きにしも非ず、ではあるが。ちなみに、この日の入場式、新年一発目の〝ダーッ〟は、西村修。本人は、そつなくこなしていた様だが、見ているこちらはハラハラドキドキしてしまった〝ダーッ〟。

入場時から西村は、着物風の小粋なガウンを身にまとい、おまけに中途半端に不敵な笑みを浮かべている。ガウンをはらりと脱ぎ捨てると、何とnwoTシャツである。【新しい世界の秩序】を着こなす、文明の発達を憂える男。何やら強烈な「謎かけ」の様な気もしてくる。中西、小島のラリアット・プロレスの前にタジタジとなりながらも、己の信じるヨーロピアンなテクニックを随所で散りばめ、勝機を伺っている。オランダで修得したと思われるキックも、人間風車も、そして美しいブリッジも素晴らしい！　まあ、手放しで褒められる所ばかりではなかったが、ここ最近の新日マットでは、目新しささえ感じられる試合内容ではあった。

『リキ・ロード・ファイナル・メッセージ5』と銘打って行われた、長州力引退試合。都合六発のリキ・ラリアット。メッセージは右腕に込めて……（なんちって）。（チョロQ）



WORLD MEGA-BATTLE TOURNAMENT 1997

'97 12／23（福岡国際センター）

RINGS

極私的ベストバウト

1位　グロム・ザザvs ヒカルド・モラエス（試合中の会場の熱気込み）

2位　田村潔司vs前田日明

3位　成瀬昌由vs坂田亘

闘いなき美は無能なり　美なき闘いもまた無能なり

私は一体どちらに勝ってもらいたかったのだろうか。あるいはどちらに負けてほしかったのだろうか。田村か？　前田か？　それさえもはっきりしない。かといって勝敗を二の次にして、田村vsハン戦のような、めくるめく名勝負が見れればいいと思っているわけでもない。

こういうときは、私の脳味噌に店を構えているコビトの〝格闘予想屋さん〟から予想を買うのが手っ取り早い。私は100玉を渡して、貰った紙を開いた。

出た予想は、「非常に徹し、前田が田村を潰す！」というものだった。もう1枚予想を買ってみる。今度は「田村が感情剥き出しで前田を徹底的に追い込み、勝つ！」と出た。

どちらも最後の対決には相応しい。

しかし、コビトの予想は、二つとも外れた。

前田は一瞬の隙をつかれて十字を取られ敗れた。

田村の「勝ち」と前田の「負け」——。

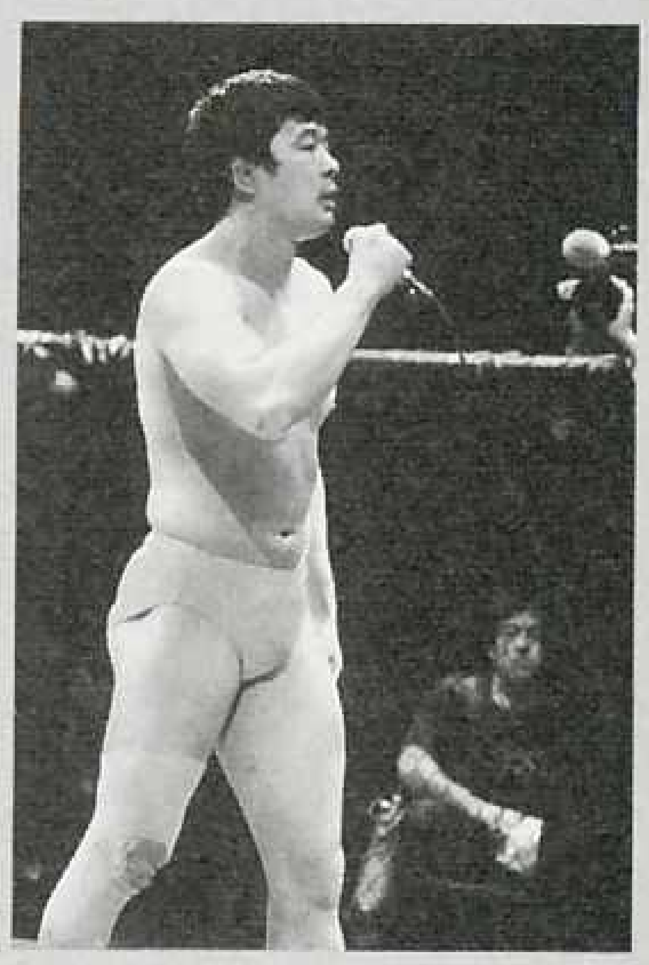
多くの観客は意外に淡々とした攻防の中に、哀しくも美しい、静かに熱いドラマを見たはずである。そのドラマを封じ込めるように、勝った田村はコーナーポストに顔を埋めた。

リング上で闘う田村と、2階席の後方で観客としてこの試合を観ている田村と、この日、田村は二人いたのではないだろうか。そんなロマンチックな想像も、UWFからの歴史があって、二人にしかわからない闘いのコミュニケーションが成り立っていたからこそできることである。

闘いなき美は無能なり。

美なき闘いもまた無能なり、である。

（日昇）



ULTIMATE FIGHTING CHAMPIONSHIP in JAPAN

UFC-J

'97 12／21（横浜アリーナ）

極私的ベストバウト

1位　桜庭和志vsマーカス・コナン・シウヴェイラ（トーナメント決勝）

2位　桜庭の「プロレスラーはホントは強いんです」発言！

3位　安生洋二vsタンク・アボット

マット界に桜庭咲く——　価値ある〝破顔一勝〟!!

マット界に桜庭咲く！

まさにこの日の桜庭和志の〝破顔一勝〟を見てると、何に対してというわけではないが、〝ザマアミロ！〟という気分になった。1回戦は、レフェリーのミスジャッジで1度は敗退。万が一、あのまま終わっていても、あの試合開始直後の間合い、マット捌き、グラウンドにおける展開だけで、桜庭の強さはわかったはずだ。

「プロレスは勝敗よりも、強弱を見るものだ」といったのは、ご存知、村松友視さんだが、格闘技にもそれは当てはまる。単なる競技としての勝敗よりも、〝真〟あるいは〝芯〟の部分での「強弱」、闘いから滲み出る「物語」に重点を置いて観た方が断然面白い。

もちろん、物語の中には勝敗も含まれるし、勝敗の行方自体が巨大な物語を生む場合もあるのだが、何の物語も生まない勝敗のみが重視される「格闘競技」というのはどうも解せない。格闘技ファンには、知識自慢の技術論よりも「強弱」を見分ける目を身につけてほしいものである。

で、この日は満員にはならなかったが、オクタゴンの中の闘いという「リアリティ」。一度敗退した桜庭が長い抗議の末に再戦を勝ち取るという「ハプニング」。トーナメント優勝という「ドラマ」。

その3つがクロスして、観に行ったものだけが味わえる雰囲気を横たえたイベントとなった。

おまけに「プロレスラーはホントは強いんです！」というレアなお土産まで付けてくれたのだから、「UFCJはホントはお得なんです」という感じだった。

（日昇）

やれよ、ほんなら!!
唐突にはじまったマット界の記者会見&催し物レビュー

PRESS REPORTS
プレス・リポート

「あの、『プロレス大賞授賞式』のことを『BOUT REVIEW』に書かせてくださいよ～」と“Show”大谷泰顕氏から電話があった（ちなみにShow氏は、人の名前を呼ぶときには必ず「氏」を付ける。本誌のド新人・チョロのことも「チョロ氏」と呼んでいた。「チョロ氏」はないだろ、「チョロ氏」は！）で、たまにはそういう催し物を入れるのもいいかと承諾したら、その後、頼んでもいない記者会見のリポートが勝手に送られてきた。しかも4つも。ちなみに編集部に許可した者は誰もいません。ま、Show氏との意思のスレ違いは日常茶飯事なんですけどね。しかし、「最大のピンチは最大のチャンスなり！」という気概をもって、『RADICAL』は清水の舞台から飛び降りるつもりでこのページを開設しました！　ご愛顧のほどを。

なお、この企画自体はやりようによっては面白くなると思うので、「Show氏は最高！」「どうせだったらShow氏にこんなことを教えてもらいたい」「Show氏のためなら死ねる!!」「カタブツ君の記者会見リポートなら読みたい！」「ギャオー!!」といった温かくも気の狂ったご意見をドシドシお待ちしてます。

アグレッシブなNOBU. TAKADA

『PRIDE―2』第三回記者会見&高田道場・開設会見
2／2（新高輪プリンスホテル／平安の間）&（高輪プリンスホテル／富貴の間）


KRS／高田道場

この日は午後3時から「KRS」で、5時からは「高田道場」の会見が新高輪プリンスホテルとその隣の高輪プリンスホテルで行なわれた。なんというミスマッチだ。めちゃくちゃプロレスっぽい匂いがしてくる。

まずはおそるおそる「KRS」の会見に出向くと、案の定、時間になっても会見ははじまらず。「KRS会見」の最低30分遅れは、もはや当たり前になってしまった。ただ、この日は恐ろしいくらい楽しかったので、すべてを許したい。なぜなら、『PRIDE―2』の会見を早々に終えた「KRS」は「続いて『PRIDE―4』の会見に移りたいと……」と、いきなりはじめてしまったからだ。当然、「まだ『PRIDE―3』の会見もしたことがないのに……」なんてこっちの気持ちなんかは通用しない。なおかつ、暗転になった会見上に、突如として高田延彦とヒクソン・グレイシーがそれぞれ入場するという力の入れ方。思わず拍手してしまった。それと、なぜかUインター時代の広報・畠中美奈氏が嬉しそうだった点も見逃せない。

だが、なんといっても、この日の両会見に渡って一際光っていたのは高田。近来まれに見るアグレッシブさ。「高田道場」の会見ではなんと自ら司会までつとめていた。笑ったのは「なにか質問ありますか？」と記者団に聞いた時。たまたま『紙プロ』の坂井ノブ氏が目薬を指していると、「そこの目薬を指している方、なにかありますか？」とツッコミを入れるほどの余裕まで見せた。

ただ、ひとつ疑問に思ったのは、最後にあった愛妻・向井亜紀氏とのツーショット撮影。あれはいったいなんのための撮影だったのだろうか？　まあいいか。とにかく、本当に「どうしちゃったの？」と思わず心配したくなるくらい饒舌な、この日の高田だった。

（“Show“大谷泰顕）

ブラジル魂、ここにあり！

『PRIDE―2』第二回記者会見
1／16（サテライトホテル後楽園）


※注 Show氏が叩かれたことは、本誌とはまったく関係がありません。

KRS

ひぇ～。『ゴング格闘技』（3月号）で叩かれちゃったよ～!! 曰く「ブラジル人はドタキャンする選手が多い。今後、そういうことがないようにお願いしたい」と私が言った発言が簡略化されて書かれてあるんだが、確か私は「最近、KRSに限らず、他の団体でも正式発表後に、特にブラジル系の選手の来日キャンセルが続くのは、取材する側とされる側に信頼関係を築くのが難しくなるので、そういうことはできるだけないようにお願いしたい」と言ったはずなんだけどなあ。それを「人種・民族に対する偏見とも取られかねない発言」だと論調されてしまうとは……。

う～ん、困ったなあ。別にそんな気はないですよ。ただ、もう一度言ってしまうと、「ブラジル人が全員悪い人間じゃないってことは知っているけど、それでも嫌い」って言ってしまう某団体関係者もいるくらい、とにかく「ブラジル系の選手」の評判はお世辞にも良いとは言えないのが実情でしょう。でもさ、やっぱり「どの面下げて、日本に来られるの？」が、あの時の本音です。あの場にいた大半の人間の気持ちもそうだったはずだし。あの時は、さすがに「KRS」の選手管理を担当する川崎浩市氏も苦笑していたしね。

ただ、ホリオン&ホイスのグレイシー兄弟は「私はブラジル代表で来ているわけではない」と完全に開き直ってたから、逆にブラジル魂、ここにあり！　を見てしまったけど、本当はこんな形ではなかったはずですよね。ああ、ブラジル幻想が……。

でも、それを言うことは「偏見」なんですよね。反省します。あらためてこの業界の“凄み“を知った思いです。さすがはクマクマンボが編集長をつとめるだけのことはあります。みなさん、ブラジリアン・マジックと発言にはくれぐれも気をつけましょう。

（“Show“大谷泰顕）

「パンクで十分です！」

渡部謙吾 入団記者会見
1／9（P's LAB）


パンクラス

年頭から忙しく、P's LABに来たのはこの日がはじめてだが、年が変わってもP's LABに変わりはない。会見の後には当然、多くのアマチュア会員がやって来る。この日は前半がB（寝技）、後半がC（総合）のクラスだ。金曜日のゲスト・インストラクターはだいたい冨宅飛駈がつとめている。

さて、98年初のパンクラスの記者会見だが、この日はみんな顔が緩みっぱなし。「スカウト担当の高橋です（笑）」と高橋義生が笑みを見せれば、「契約金とかあるんでしょうか？」と質問した『東京スポーツ』の高木圭介記者に対し、「正直に言わないといけないんですよね？　ありません（笑）」と尾崎允実社長。「（入団する渡部謙吾は）身長が自分と同じくらいなので嬉しいです（笑）」と、〝山さん〟こと山田学も年頭から〝らしさ〟を爆発させる。

そんななかでひとり、反骨心をムキ出したのが美濃輪育久。やはり超大物のエリート出現に、先輩の意地があるのだろう。「（身体の大きさなんか）パンクで十分です」と、言葉だけではわかりにくいが、いかにも美濃輪らしい牙のムキ方。プロレスチックに言えば、はやくも因縁勃発か。

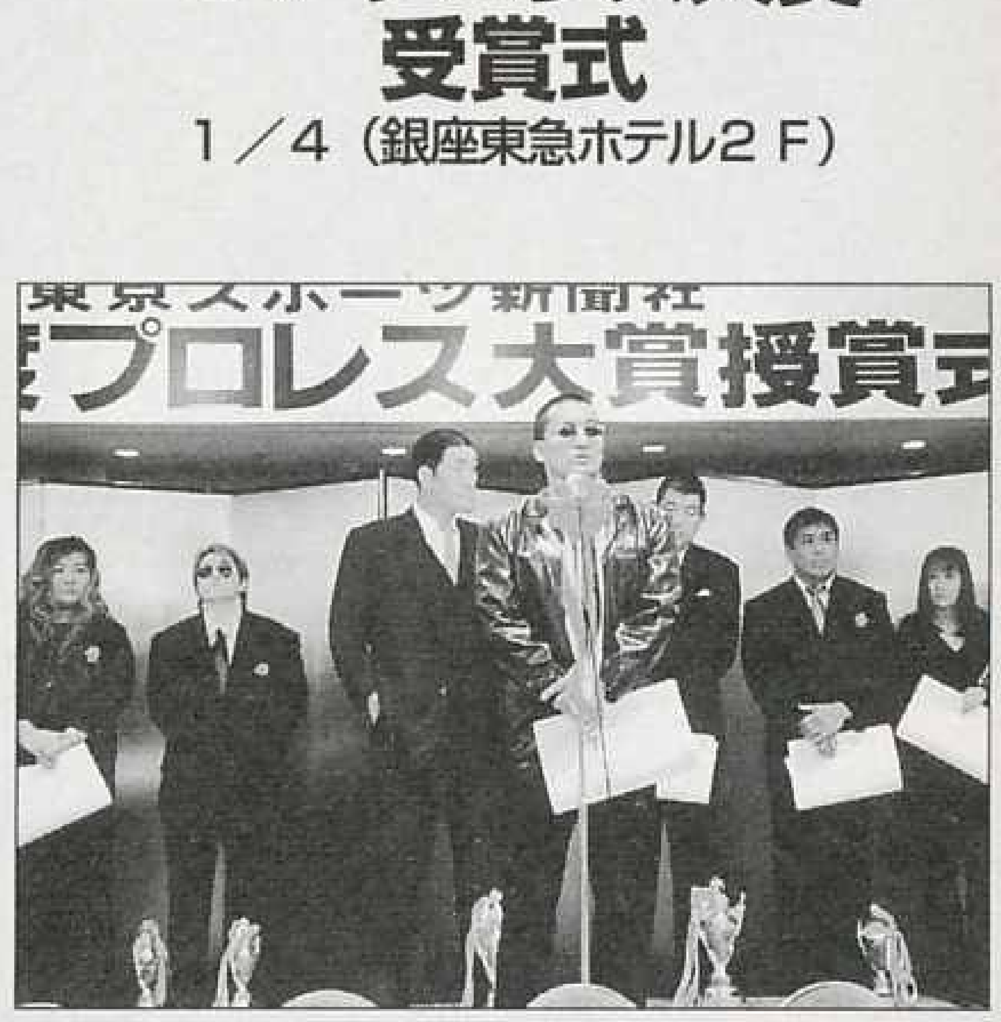
ただ、パンクラスにとって98年は明るいスタートとなったことは間違いがない。

船木誠勝は「10年にひとりの逸材」と太鼓判を押していたが、当の渡部謙吾は大東文化大学ラグビー部のFW（ロック）で主将。ラグビー専門誌の『選手名鑑』の「ラグビーでの得意なプレー」の欄に「秒殺！」と書くくらい、根っからのパンクラスフリークでもある。将来は「ライオンを殺したい」と、〝獅子殺し〟も宣言していた。いまは「今年中にデビューさせたい」（船木）の言葉に大きく期待しつつ、デビューを待ちたい。

（〝Show〟大谷泰顕）

記念撮影に加わらなかった馬場さん

'97 プロレス大賞 受賞式
1／4（銀座東急ホテル2Ｆ）



東京スポーツ選定

銀座東急ホテルのある東銀座駅まで向かうため、まずは地下鉄丸の内線に乗った。ふと車内を見渡すと、向こうの方にどこかで見かけた女性の顔。誰だろう……？　と思っていると、その彼女は後楽園駅で降りた。

それにしても、このパーティーは周りを見渡せば見渡すほど業界人だらけ。ここ数年で最多数の出席者があったという。さすがに会場は熱気ムンムンだ。

MVPを受賞した蝶野正洋が挨拶。キチンとジャイアント馬場に会釈してからマイクに向かったところに蝶野らしさを感じた。ああいう姿を見ると、なぜかホッとしてしまう。

馬場＆坂口征二両社長は、25周年記念の特別賞を受賞。ただ、馬場は坂口の隣に用意された椅子には座らず、最後の記念撮影には加わらずじまい。

どうやら、翌日の『東スポ』で「両団体急接近！　ドーム共宴!!」などと書かれることに対しての馬場なりの牽制らしい。その気がないのに、マスコミにそう書かれると、結局は馬場が悪者になってしまう。いままで、何度もそれで嫌な思いをしてきた馬場からすれば、当然のボイコットなのだろう。いかにも馬場らしさを感じてしまった。蝶野にしろ、馬場にしろ、きっと、98年は〝らしさ〟がキーワードになるような気がする。

ところで、後楽園駅で降りた女性だが、『電磁戦隊メガレンジャー』のメガピンクの変身前の役の彼女だということに気がついた。きっと後楽園遊園地でのショーに出演するのだろう。私にとって『電磁～』は『ビーロボ・カブタック』とともに毎週日曜朝の必需品。『ビーロボ～』には安生洋二が出ていたこともあった。どうも特撮モノは嫌いになれない。ともかく、年頭から正義の味方を見かけるとは気分がいいものだ。

（〝Show〟大谷泰顕）

「ほらな、5分で終わったろ……」

全日本プロレス 旗揚げ25周年記念 5.1東京ドーム大会 開催発表記者会見
97／12／26
（キャピトル東急ホテル地下2Ｆ／銀の間）


全日本プロレス

前日までハワイに滞在していたジャイアント馬場は、成田空港から直行したらしく、ノソノソと会見の席についた。

席上、馬場は「5月1日に東京ドームで開催することが正式に決まったこと」と、「6時に開始することが決まったこと」を発表したが、それ以外は「まだなにも決まっていない」ために不穏当な発言はできないらしく、広報の三橋祐輔氏に向かって「ほらな、5分で終わったろ」と一言。私はこの言葉を一生忘れないだろう。それほど馬場らしさ爆発のコメントだったように思う。それ以降は、主にプロレスマスコミの〝重鎮〟たちとの一問一答が続く。

会見後、椅子に座った馬場の目の前にある机が移動され、「全日本プロレス旗揚げ25周年記念5・1東京ドーム大会」と書かれたボードといっしょに馬場の写真を撮るためにカメラマンが集合。そこで、あるカメラマンが「馬場さん、立ってもらえますか？」と頼むと、「座った写真を（みなさんが）撮り終えたらな」と一喝し、「もういいかな？」とカメラマンに確認をすると、すっくと立ち上がる。すかさずカメラマンたちのフラッシュが一斉にたかれたが、しばらくすると、またあるカメラマンが「馬場さん、上のボードを指さしてもらえますか？」と指示。しかし、馬場は少～し表情を曇らせ、「俺はそういうのは好きじゃないんだよ」とこれを一蹴した。いかにも馬場らしさが滲み出た会見に、心が洗われた。

それにしても、馬場には「馬場さん」と「さん」をつけないといけないような気がしてしまうから不思議だ。

それから、この会見に遅れた『スコラ』のプロ格担当編集者・青柳修二氏（3月に結婚予定）。まさか1月4日の『プロレス大賞』には遅れないと思ったが、やっぱり遅刻。いつも世話になっているが、遅刻だけは……。

（〝Show〟大谷泰顕）



強豪柔術家参戦予定！◎北原光騎ジム「キャプチャー」より選手参戦決定!!

EXTENSION

3.20(Fri.) PM7:00 横浜文化体育館

ファン感謝特別価格

S席 :4500円　A席（自由席）:3500円

チケットぴあ 03-5237-9999／チケットセゾン 03-3250-9999／CNプレイガイド 03-5802-9999／ローソンチケット　03-3569-9900／後楽園ホール 03-3817-6092／書泉ブックマート 03-3294-0011／チャンピオン 03-3221-6237／板橋大山アメリカン 03-3962-6443／レッスル渋谷 03-3464-0078／レッスル池袋 03-3989-0056／渋谷東急文化チケット　03-3406-1513／アイドール 03-3371-5211／プロレスマニア館 03-5276-0304／ゴールドジム水道橋 03-3265-4646／ゴールドジム大塚 03-3917-9434／チケットトラベルT－1 03-5275-2778

［お問い合わせ・お申し込み］

プロレスリング・キングダム
〒106　東京都港区東麻布2-16-4　TEL.03-3224-1151

キングダムNEWS


3・20入団テストを受ける入江秀忠

この日、入団テストを行う、入江秀忠（28歳）。身長182センチ、体重97キロ、元総合格闘技木口道場。相撲経験6年（相撲三段）、修斗歴2年半、キック1年（藤原敏夫氏の元でトレーニング）などの格闘遍歴を持ち、アマチュアでの戦歴は、第二回全日本アマ修斗ヘビー級優勝。アマ修斗3大会ヘビー級3戦3勝無敗。第4回全日本総合格闘技大会無差別級優勝。第一回全日本コンバットレスリング、オープン選手権＋85キロ級優勝。期待度、大!!　でしょう。



戦闘スマイルとは何か!?

遅ればせながら、アルティメット・ジャパン
ヘビー級トーナメント優勝記念&
高田道場開設記念ロング・インタビュー

格闘技世界大戦前夜!!

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／帰ってきた松永源さん
photographs by Gensan Matsunaga Returns

桜庭和志



戦闘とは何か!?

高田延彦の"10・11世紀の敗戦"から2ヶ月後、安生洋二までがアルティメット地獄の中で無惨に散った。もはや、バーリ・トゥード系の試合ではプロレスラーは二度と勝てないのか。そんな重い空気が立ちこめる中、桜庭和志は飄々とオクタゴンの中へと足を踏み入れた。1回戦ではレフェリーのミス・ジャッジで一度は"敗者"となったものの、桜庭は、決勝となった再戦でカーウソン・グレイシー柔術の黒帯、マーカス・コナンから見事なまでのタップを奪い、アルティメット大会「ヘビー級トーナメント」を、日本人として初めて制することとなったのである！97年12月21日。いま、新しいプロレスの歴史の扉が確実に開かれた――。

という風に書くと重厚になって書く方も非常に楽なのだが、実際の桜庭はというと、まったく重厚な雰囲気はない。格闘技の大会の中でも最もヘビィなアルティメット大会の前日に深夜1時までポケモンをやり、決勝戦の前には居眠りまでしていた男は、宇宙広しといえども桜庭ただ一人であろう。

大会出場が正式に本人に伝わったのは3日前。目の前にすると、誰もが恐怖心からナーバスになるはずのオクタゴンに向かう花道ではニッコリと笑顔まで見せた。そして、トーナメントを制した後に吐いた「プロレスラーはホントは強いんです」という名言。

「強くて魅力的な人」を「プロレスラー」と定義するならば、桜庭は実に"くったくのない"プロレスラーだといえる。

そこで「この男、ただ者ではない」――という雰囲気がちょっとでも伝わればと思い、ロング・インタビューを敢行してみた。

気楽にお読みください。●

心の純粋な人が怒ると「スーパー」がつくんです。知らないんですか!?

格闘技世界大戦前夜!!

――まずは山一証券の自主廃業のことでも話しましょうか（笑）。

桜庭　デエ～ッ。あんまり興味ないなぁ。

――じゃ、どんなことに興味あるんですか？

桜庭　ニュースで言えば人殺す事件とか、そっち系が好きです（笑）。経済系とかはわかんないですね。

――テレビはよく見るんですか？

桜庭　見ますよ。だいたい録画して見ます。ビートたけしが出てる番組が好きです。お笑いじゃなくて、『世界まる見えハウ・マッチ』とか『万物創世記』とか、ああいう系が好きです。

――知的系が。

桜庭　そうです、そうです。

――でも、それを言うなら『世界まる見え!テレビ特捜部』ですよ（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。そうですそうです。あと見るのはドラマ。いま見てるのは『聖者の行進』。あとは『ドラゴンボール』!!

――ガハハハ！　アニメ好きですか？

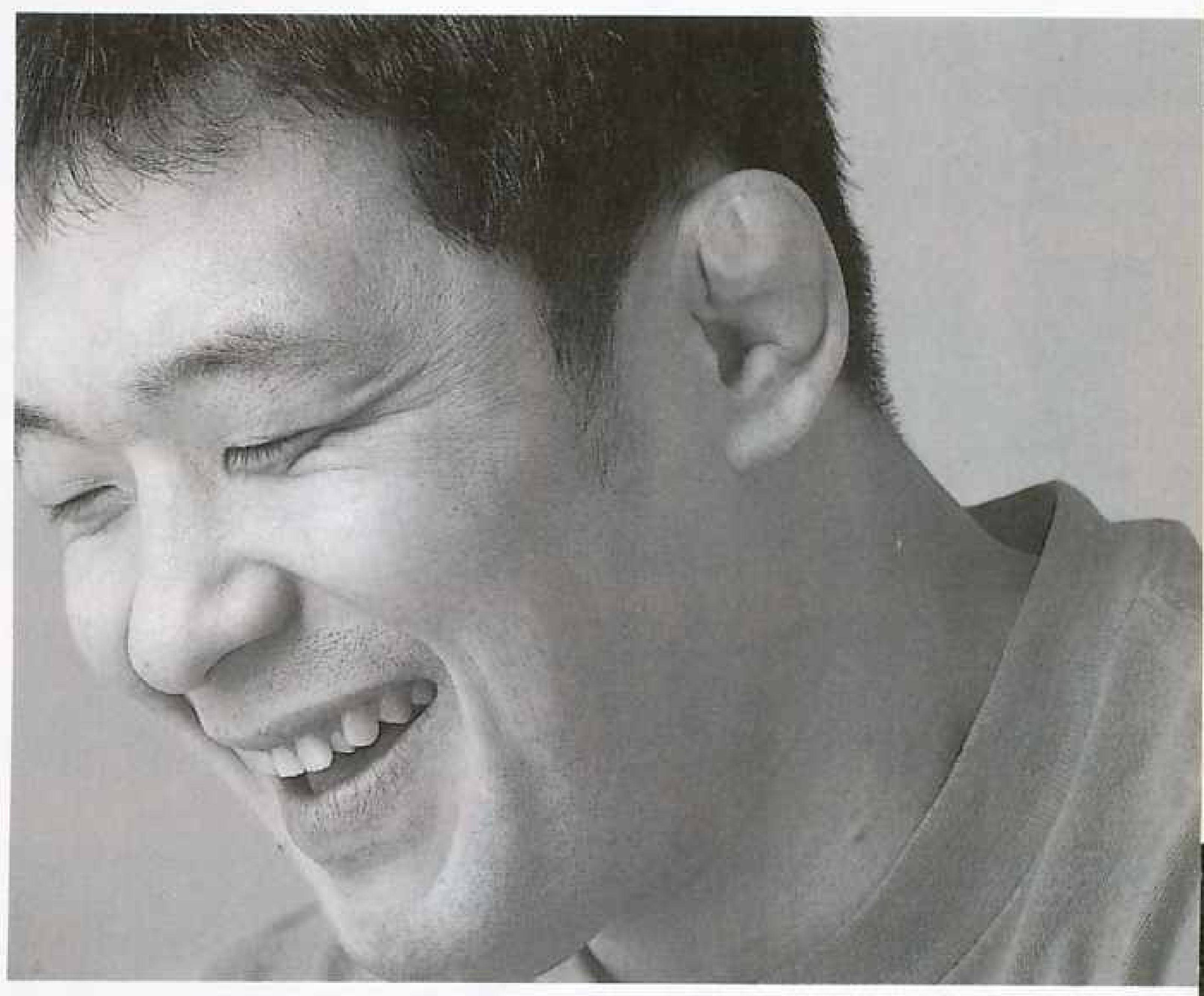
桜庭　いや、『ドラゴンボール』だけです。

――なんでですか？

桜庭　カッコイイじゃないですか！スーパーサイヤ人になる瞬間がカッコイイんですよ。特にスーパーサイヤ人3がカッコイイ。筋肉がモコモコモコッとして金髪にグワァーッとなって。普段は普通なんですよ。心の純粋な人が怒ると、スーパーがつくんです！

――何言ってんだか全然わかりません!!（笑）。

桜庭　全然知らないんですかッ、『ドラゴンボール』!?



――見たことない。世代的に違いますから（笑）。

桜庭　いまやってますよォ、再放送で！　いまやってるのは僕が高校ぐらいの時に放送してたやつですよォ！

――いや、そうコーフンされても（笑）。リングに上がる時に変身したいという気持ちはあるんですか？

桜庭　ありますよ。「スーパーサイヤ人になれればいいな」って。でも、僕はサイヤ人じゃないんでなれないんですけど。尻尾が生えてるんですよ、サイヤ人には。

――桜庭さんは、いまのところ尻尾は生えてないと（笑）。

桜庭　はい（ニコニコ）。

――でも、アルティメットで尻尾が生えかけなかった？　普段の自分とは違う何かが出たんじゃないかっていう感覚はないですか？

桜庭　いやあ、違くはなかったですからね、いつもと。

――ですよね。試合を見てたら、いつものプロレスの試合展開と変わりない、桜庭さん流の試合運びでしたよね。特に決勝戦の、バック取らせて腕を取りにいく展開とか。

桜庭　はい。彼の方が僕のスタイルにハマってくれたから（ニヤニヤ）。

――なるほど、ハメたわけですか。このハメ上手！って感じですね（笑）。

桜庭　よくスパーリングをやってて言われますけど、僕はダマすんですよ、人を。目を見ておいて足を取るとか。だから、あっちの柔術のスタイルに僕がハマったら負けてたですよ。

人を。目を見ておいて足を取るとか。だから、あっちの柔術のスタイルに僕がハマったら負けてたですよ。

なんですか!?

―でも去年の11月のグレッグ・ダグラス戦の時の方が緊張してるように見えましたね。

桜庭　それは試合前にヘンに相手のプロフィールを見ちゃったからですよ。「23戦無敗!」とか。「ウワァ～！　なんだこいつ、強ェ～じゃねえか！」って思って。コナン戦の時は全然見てないですから。

―カーウソン・グレイシー柔術の黒帯っていうのは知ってたんですよね？

桜庭　なんかの黒帯ってのは知ってました（ニヤニヤ）。

―なんかの黒帯！（笑）。インプットしてないからあんなへーゼンとしてられたんですかね。

桜庭　いや、緊張しましたよォ。でも、ダグラスの方が緊張しました（笑）。

―最近、試合以外で緊張したことってなんですか？

桜庭　………あっ！（パチパチ手を叩きながら）ありますよ！　緊張というか、ドキドキしたヤツ。

―なんですか、なんですか（笑）。

桜庭　プレステの『バイオハザード』！

―おお、愛しのバイオハザード！

桜庭　夜やってると怖いじゃないですか、あれ。（身を乗り出して）廊下を曲がる時とか、ドアを開ける時とか、ゾンビが「うぇ～ッ」とか、出てくるでしょォ!?　あれは怖かったですよ。

―あれは緊張しました（笑）。

―緊張しましたか！　アルティメット王者がプレステで（笑）。

桜庭　ドキドキしながらドアをピッとか開けて（笑）。

―もう制覇したんですか？。

桜庭　「1」の方は、もう終わりました。「2」も買おうかなって思ってるんですよ。

―実はボクね、「2」も制覇しましたよ～、すでに（笑）。

桜庭　えっ！　どっちが怖いですか？

―「2」は4通りのストーリーがあるんですよ。

桜庭　（身を乗り出して）どう違うんですか!?



［さくらば・かずし］ 69年7月秋田県生まれ。中央大学レスリング部では主将をつとめ、93年にUWFインターでプロデビュー。タックル等の基礎技術には定評があり、95年の田村潔司（現リングス）との3連戦はファンを唸らせた。97年12月21日には日本人として初めてアルティメット・トーナメントを制した。

―主人公は男と女といて。

桜庭　どうやって選ぶんですか!?

―ディスクが2枚ついていて。

桜庭　ディスクで選ぶんですか！

―そうそう。でも、もう売り切れかもしれませんよ。

桜庭　アウッ！（呆然として）。

―だって発売日の朝7時に買いに行ったんだもん（笑）。実はズルして7時前に手に入れたんですよ（笑）。

桜庭　ウソォー！　中古屋行ったらありますよね!?

―どうですかねぇ（ニヤニヤ）。でも、あれは最高に面白いですよ！

桜庭　面白いですよぉ～！

―だってボク、「2」を買ってから、3日間会社行かなかったですもん。

桜庭　ヒャハハハハ！

―クソ忙しい時に（笑）。だから、うちの社員に「バイオハザード禁止令」出されてるんですよ（笑）。

桜庭　でももう終わったんでしょ？

―バッチリです！　会社はバッチリじゃないけど（笑）。で、いきなり話は変わりますが、去年の試合の中で一番印象に残ってるのはどの試合ですか？

桜庭　……いや～、ちょっとわかんないですね。

―なぜわかんない！（笑）。

桜庭　忘れるんですよ！（笑）。何が一番記憶に残ってるかって言えば最後のアルティメットですね。

―ガハハハ！　一番最近だから。

桜庭　そうです、そうです（笑）。アルティメットとその前にやった金原（弘光）さんとの試合ぐらいは覚えてます。でも「印象に残ってるのは？」って言われたら一番近いヤツ（笑）。

―ガハハハハ！　けっこう忘れっぽいんですか？

桜庭　はい（ニコニコ）。

―忘れる才能があるってことですね。忘れることって才能の一つらしいですよ。

桜庭　それはいいかもしれない。ボクもそう思いますよ。練習生の頃とかに怒られてもすぐに忘れてたから（笑）。何が悪いかは覚えてますけど、怒られたことはすぐ忘れます。

―桜庭さんのイメージって「ミスター飄々」というかね（笑）。

桜庭　ミスターって言えば、今日、ミスター・ビーンが来たんですよね。

―来ましたね(笑)。で、そのミスター飄々が広く認知されるようになって……あれ、何を言おうとしてたのかな？

桜庭　ミスター・ビーンじゃないんですか？

―違う！（笑）。先輩に怒られたことってないんですか？

桜庭　ありますよぉ。

―「眠い～」とか言いながら道場に入ってきたりとか、そういうのは新弟子の頃にできるもんじゃないでしょ？

桜庭　掃除してたら目は覚めます。でも、途中で寝ますけど（笑）。一番眠いのが人の足を押さえて腹筋の数を数えてる時。

―ガハハハハ！

桜庭　眠くなるんですよ、あれ。自分の「いち、にい」って言葉で催眠術のように眠りに入りますから（笑）。

戦闘とは何か!?

――なんかいいですね、数を数えてるうちに寝ちゃうっていうのは。乳飲み子みたいで（笑）。でも、桜庭さんみたいな一見ボーッと見えるタイプは、先輩から「もっとビシッとしろよ」とか言われなかったんですか？

桜庭　ある程度はやってましたんで。要所、要所は。

――一応、"新弟子クン"はしてたと。

桜庭　大事なところはピッピッとちゃんとやって。例えば掃除にしても見えるところはちゃんと掃除するんですよ。で、陰はたま～に（笑）。

――ガハハハハ！　要領悪いように見えて、実は要領がいい（笑）。

桜庭　かなりいいですよ（笑）。散らかってるところがあればバスタオルを掛けて隠しちゃいます（笑）。で、あとから片付ける。

――でも、桜庭さんって、話せば話すほど、不思議さが広がっていくタイプですね。自分で自分の性格を分析するとどうなるんですか？

桜庭　う～ん？　根は明るい。でも、人見知りするから。初心者の人とか話さないですね。

――初心者の人？　人間として初心者ってどういうことですか？（笑）。

桜庭　あ～、そりゃ赤ん坊ですね（笑）。初対面の人と会った時とかはほとんど話さないですね。

――あ、赤ん坊で思い出したけど、オクタゴンに入った時の桜庭さんって一番小さかったですよね（笑）。レフェリーもデカイ、アナウンサーもデカイ、もちろん対戦相手もデカイ。ホント、檻に入れられた乳飲み子みたいに見えましたよ、色も白いし（笑）。

桜庭　ヒャハハハハ！　「日焼けしろ」とはよく言われるんですけど（笑）。

――いいですよ、しなくて（笑）。

桜庭　よく言われるんですよ。もう面倒くさくて（笑）。

97・12・21-突如決まったアルティメットジャパン出場。1回戦ではパンチをかいくぐってタックルに行ったところをダウンとみなされ、疑惑のレフェリーストップ負け。抗議が功を奏し、別ブロックのアボットの棄権もあり、コナンとの再戦が決勝に。「プロレスラーはホントは強い」ことを見せつけた





――でも、"魔の10・11"に高田さんがヒクソンに負け、桜庭さんの試合の前には安生さんがタンク・アボットに負けましたね。

桜庭　はい。

――で、あの日「どうせ桜庭もダメだろう」って思ったプロレスファンは多いと思うんですよ。

桜庭　はい（ニヤニヤ）。

――でも、試合開始と同時にしっかり自分の間合いを取ってるし、しかも相手を誘う余裕があったんでね、「これはイケル！」と見てて思いましたね。

桜庭　はいはい。ボクも最初からイケルと思いました。技を掛けられても全部わかったんで、全部防げると思いました。で、「イケルなあ」と思ったら止められましたね（笑）。

――ガハハハ！　あの1回戦は究極の大会で究極のミスジャッジでしたね。

桜庭　殴られて、ボクも「ヤバイかなあ」って思ったんですよ。で、ガードの間からジーッと見てて相手が近づくのを待ってたんですよ。だけど、なかなか近づいてこなくて（笑）。「あれェ？　やばいなァ、どうしよう。もう行っちゃえ」と思って行ったらストップがかかって（笑）。

――レフェリー殴っちゃえばよかったじゃないですか（笑）。

桜庭　いやァ、怖そうですよ（笑）。

――ガハハハハ！　優勝者がレフェリーを怖がってどうすんだ（笑）。

桜庭　だって、レフェリーに手を出したら完璧に失格じゃないですか。それに試合が組まれた時も「ボク、負けてもいいッスよね」って言って、それで試合出たんですから（笑）。ボク、いつもそうですよ。負けても関係ないですから。高田さんとか、安生さんぐらいのレベルなら「負けたらヤバイな」ってあると思いますけど、ボクは負けても平気な立場じゃないですか。だから、言われたらなんでもやるんですよ。

――なるほど。でも「負けないゼ」っていうのは当然あるわけでしょ。

桜庭　やったらですけどね（ニヤニヤ）。

――そこらへんも結構フェイントがウマいですよね（笑）。で、当日は安生さんの試合は見てたんですよね。

桜庭　見てました、控室で。（ボーウィー・）チョーワイクンがいてね、彼と目を合わせて「ヤバイねえ」とか（笑）。「オレが負けちゃったらヤバイんじゃないかあ」って。

――じゃあ、その時は少しは背負うものができてきたわけだ？

桜庭　でも一瞬ですけどね。

――一瞬（笑）。でも、ホント決勝戦の時はリラックスしてましたよね。オクタゴンに入る時に笑ってたでしょう、あれは世界初ですよ（笑）。

桜庭　眠かったから「金原さん、眠いんスけどどうしましょう？」って言ったんです（笑）。

――ガハハハ！　オクタゴンに入る前にそんなこと聞く方も聞く方ですよ。金原さんはなんて答えたんですか（笑）。

桜庭　なんて答えたんだっけなあ……。なんか答えがあって、それで笑ってたんですね。忘れました（笑）。

——あ、それも忘れた（笑）。他団体のレスラーもあのシーンを見て桜庭和志の凄さがわかったみたいですよ。

桜庭　そうスか？（ニヤニヤ）。でも、柔術とかグレイシーって、本とかテレビで変にイメージが膨らみ過ぎちゃってるんですよ。同じですよ、人間同士で闘うんですから。檻の中で動物と闘うんだったら別ですけど。

——それにしても、桜庭さんの相手の幻想のひっぱがし方は素晴らしいなと思って（笑）。

桜庭　こっちのペースに引きずり込めばいいんじゃないですかね！

——幻想をひっぱがすっていうよりも相手に対して幻想を持たない才能がありますよね。でも、そこで、「23戦無敗」っていうダグラスの戦績を見ただけでビビる桜庭和志もいるというのが実に面白いですよ（笑）。

桜庭　ヒャハハハハ！「23戦無敗」っていうだけで、もう「凄い強い」っていう幻を見ちゃって。

——じゃあ400戦無敗のヒクソンの立場はどうなるんですか（笑）。

桜庭　そうかぁ。でも、ヒクソンはビデオとかで、どういう動きをするか見てるんで。だけどダグラスはどんな選手かもわからなかったんで。

——未知なるものへの恐怖ですね。『バイオハザード』と一緒ですね（笑）。

桜庭　ヒャハハハハ！　そうです、そうです。

——でも人間にとっては、何が起こるかわからないっていうのが、怖くもあり一番面白いんですよね。当然、ファ

柔術とかグレイシーって変にイメージが膨らみ過ぎちゃってるんですよ



リーもデカイ、アナウンサーもデカイ、もちろん対戦相手もデカイ。ホント、



たら完璧に失格じゃないですか。それに試合が組まれた時も「ボク、負けて……。なんか答えがあって、それで笑ってたんですね。忘れました（笑）。

戦闘とは何か？

ンも試合を見に行った時には何かが起こらないとつまんないわけですよ。でも、あのアルティメット大会を観に行ったファンは何かが起こったんで、非常にラッキーですよね。

桜庭　はい（ニヤニヤ）。

――で、普段はアピールが苦手な桜庭さんがマウスピースを投げて抗議したりとか、そのマウスピースが金網にはまっちゃったりとか（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。

――そういうハプニングもあり、しかも優勝というドラマもあり、さらにオクタゴンの中での闘いというリアリティーもあるわけですよね。「ドラマとハプニングとリアリティーが揃うと、かくも感動的なものか」というのが、あの日のボクの感想ですね。

桜庭　運も良かったんですよね。

――もともと運はいい方？

桜庭　よくない！　大学のレスリングの試合でも必ず強いヤツが同じブロックにいるんです。２回戦ぐらいで当たったりするんです。パチンコ行っても出ないし（笑）。

――ガハハハ！　なぜ、いきなり庶民的になる（笑）。

桜庭　運はそんなに強くないですよ。やっぱりパチンコ行ってる時が一番、運を感じますよ。台をじっくり見て座るわけじゃないですから。「ここがいいかなぁ」と思ってパッと座るだけですから。

――そこは慎重じゃないんですね。

桜庭　う〜ん……多分、何も考えていないんだと思いますよ（笑）。考えてたら慎重に行きますよ、普通。

――桜庭さんって努力家なんですか？

桜庭　努力家ではないですね。好きでやってることが努力になっちゃってるんですね、レスリングで言えば。

――いまレスリング以外で好きでやってることってあります？

桜庭　『バイオハザード』です！

――ガハハハ！　グーです（笑）。でも、アルティメットでの優勝っていう事実が残ったことで、これから背負うものが出てきちゃいましたね。

桜庭　これから勝ち続けちゃったら、しょっちゃうかもしれないですね（ニヤニヤ）。

――ということは「負ければいいや」って思ってるわけですね？（笑）。

桜庭　アハハハハ！　そうです、そうです（笑）。ちょこちょこ負ければ背負っちゃうものはないじゃないですか。負けても面白い試合をすれば、それに付いていてきてくれるファンが一番嬉しいですね（笑）。

――ガハハハハ！　なんちゅう考えだ、それ（笑）。

桜庭　勝ち続けて付いてこられるファンは困ります！　負けた時に離れるじゃないですか。

――でも勝負だから、勝ち続けちゃうってこともあるじゃないですか、当然。

桜庭　まあ、それはそれでいいんですけど。「負けることもありますよ」ってことを言っとかないと（笑）。

――めちゃめちゃズルイ！（笑）。

桜庭　アハハハハ！　逃げ道を作っておくんです。

――でも、こういう世界で勝ち続けることもできるはずだって、前に言ってたのをボクは忘れてませんよ（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。忘れてください。忘れる才能ですよ（笑）。

――で、今度『ＰＲＩＤＥ―２』（３・15横浜アリーナ）に出場が決定しましたけど、今度はファンも見る目が違ってくるでしょ。

桜庭　そうですか？　ボクを見るより試合を見てほしいですね！

――オレを見るな、試合を見ろ！　と。

桜庭　相手がいるわけですから。

――相手とのセットで見てほしいと。優しいんですね（笑）。プロレスラーって大概「オレを見ろ！」でしょ（笑）。

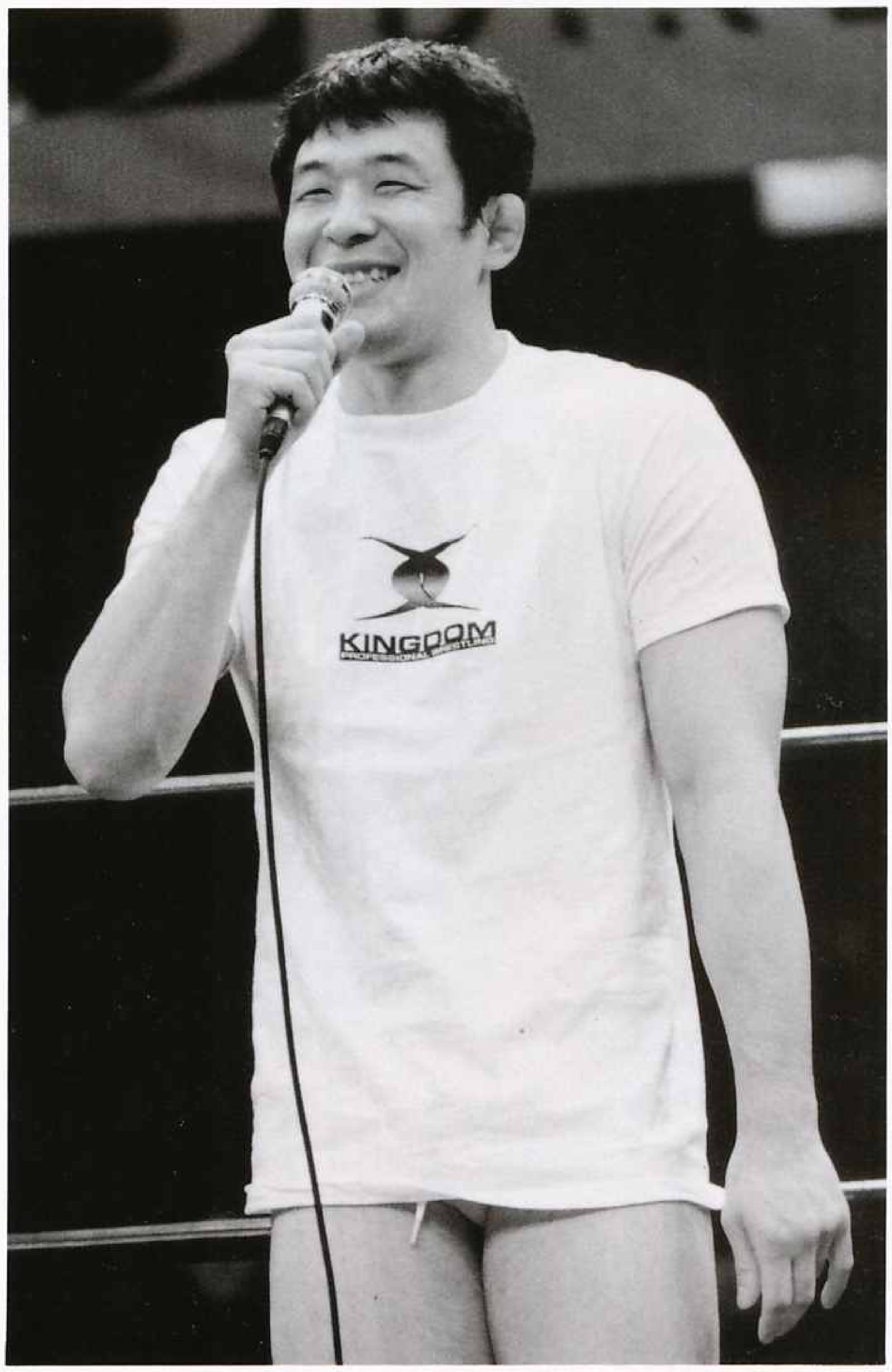
桜庭　職業がプロレスラーであって、ボクは普通の人ですから。

――いや、全然普通の人じゃないですよ（笑）。

桜庭　普通ですよォ。ご飯も食えば、ウンコもします（笑）。普通の人と変わりない。ということはボクはレスリングをやってるだけということです。

――普通の人が饅頭屋や豆腐屋という職業を選んだことと変わりないと。でも、普通の人はアルティメットで優勝できないですよ。

桜庭　でも、ボクは饅頭や豆腐を作ることはできないです。レスラーって職業を選んだからアルティメットに出場できたんです。



1・28後楽園ホール。噴出したキングダム分裂騒動にファンも暴動寸前のフンイキだったが、そこでも桜庭はこの笑顔。この男の心臓を一度は解剖してみたいものだ。

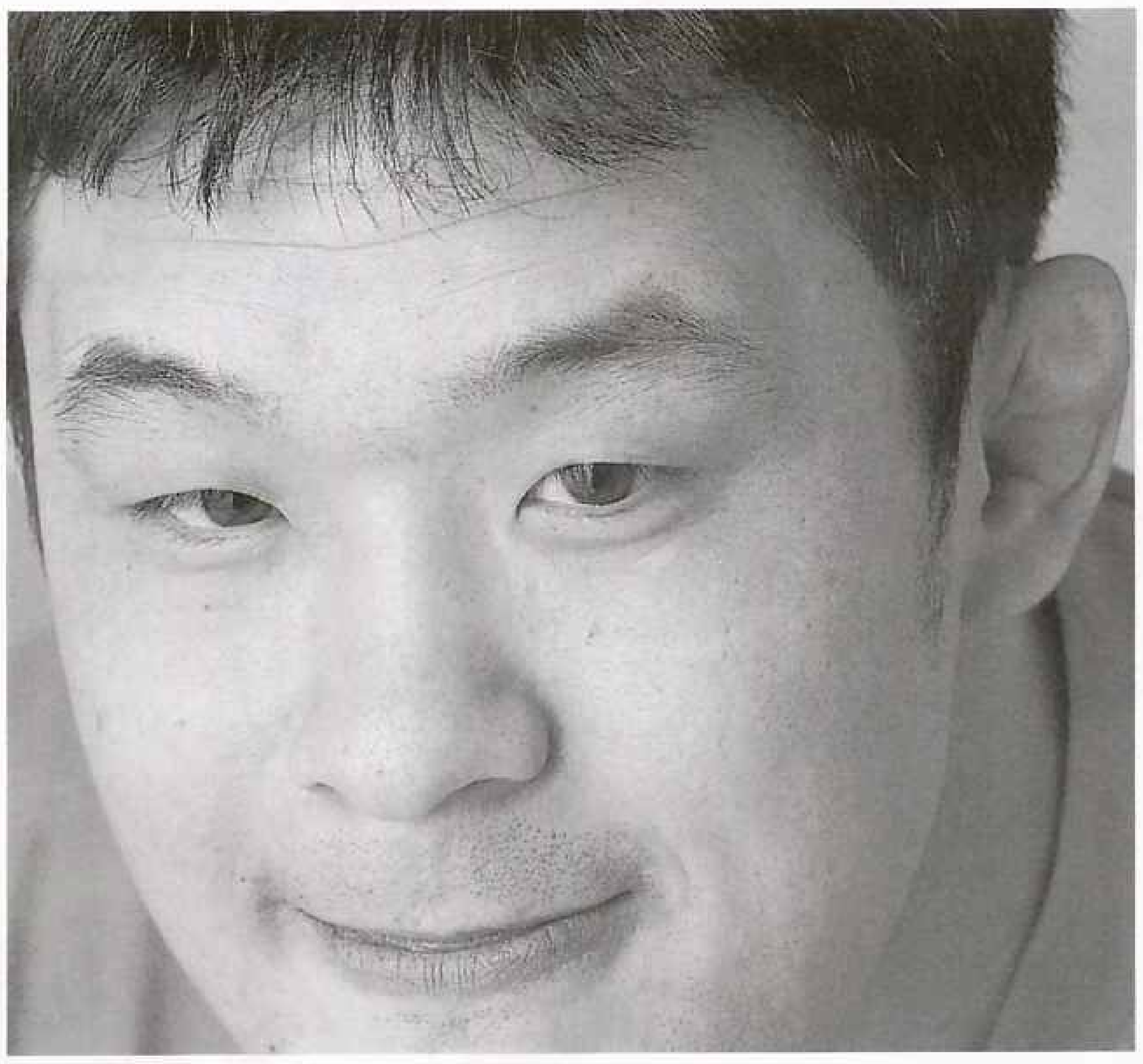
でも、ボク、あいつをキュッとやっちゃったじゃないですか。

—でも、プロレスラーの中でもアルティメットで優勝するっていうのは特別なことじゃないですか？

桜庭　ダン・スバーンも優勝したじゃないですか。

—そうだけど、日本人の中で優勝したのはただ一人じゃないですか。

桜庭　優勝っていっても、コナンさんとしかやってないですからねえ。いい人でしたよ。終わって「2回も試合してくれてどうもありがとう」って言ったんですよ。そしたら「もう1回やろう」って笑ってました。「いやあ、ヘビー級はもういいです」って言ったんですけど（笑）。



—ハハハ。でも、コナンさんも途中で「これは勝てないな」っていう、そんな試合ぶりにも見えたけど。

桜庭　いやぁ、そんなことないと思いますけど、ただ、ウソかホントかはわからないけど、あの人はビビリ性だって誰か言ってましたよ。ポール・ヘレラと代々木でやったじゃないですか（97・12・14）。あいつ結構強かったみたいなんですよ。でも、ボク、キュッとやっちゃったじゃないですか。だから、それを聞いて「桜庭ってどんなヤツだ。そんなヤツとはやりたくねえ」ってビビリが入ってたって話ですよ。

—ボクもヘレラって向こうでは結構有名だって聞きましたよ。で、「ヘレラを秒殺した桜庭ってどんなヤツなんだ？」って話題になってたらしいですね。

桜庭　そんなわけのわからないヤツと試合したくないって言ってたらしいですね。よっぽど強いって思ったんじゃないですかね？（笑）。

—でも、桜庭さんみたいにオクタゴンに入る前にヘラヘラしてたら相手もビビりますよ（笑）。「殺ってやるぜ!!」っていう威圧じゃなくて、逆に余裕を醸し出して、それで相手を不気味がらせようとか計算してる部分はない？

桜庭　いや、それはないですよ。余裕があるように見せかけてるんじゃなくて、ただ単に試合を考えてないから普通の状態になってるだけ。試合を考えてヘラヘラしてたら計算ですけど、ボクは試合のことは考えてないから。

—エッ！　試合のことは考えてない？

桜庭　試合のことを考えて笑ってるんじゃなくて、別のことを話しながらヘラヘラ笑ってるんですよ（笑）。だから余裕ではないんですよ。

—そこでも緊張からウマく逃げる！（笑）。

桜庭　そうです。試合のことを考えると緊張しちゃうから別のことを考えるんです。緊張から逃れるために怖い話をしても意味ないじゃないですか。だから、面白い話をしてるんです。それで笑ってるんです。

—プレッシャーから逃れる自分なりの作戦を持ってるんだから、それはプレッシャーに強いってことですよね。

桜庭　他の人に比べたら強いかもしれないですね。

—でも、急に話が来ても対処できるっていうのが一流のプロですよ。今回のアルティメット出場も急に決まったけど、見事に対処しましたもんね！

桜庭　練習してることをそのまま出せばいけるなって思いましたから。

—ほんとあれですね、桜庭さんって、史上最強の出たとこ勝負って感じですね（笑）。愛川欽也もかないませんよ。あ、あれは「出たもの勝負」か（笑）。

桜庭　でも、ちゃんと練習はしてますから（ニコニコ）。

—そういえば、去年のリングスの福岡大会の試合後に、前田日明が記者陣に囲まれて、「アルティメットは見ましたか？」って聞かれてね。テレビで見たらしいんですけど、「桜庭はよかったね。俺が女だったら一発やらしてもええで」って言ってましたよ（笑）。

桜庭　アウッ！　どう答えればいいんですかね（笑）。怖いですよ、あんな大きい人！　んん〜、嬉しい反面、想像すると怖いですね。う〜、それにボクは一発やる関係とか浮気するとかはあんまり好きじゃないんで（冷や汗）。

—そんなにマジメに想像しなくていいですよ！（笑）。前田さんとは面識あるんですか？

桜庭　田村（潔司）さんの道場開きの時に一度お会いしてますね。あ、前田さんくらい大きくてもガイジンだったらいいんですけど。

—ガハハハハ、なぜだ！

桜庭　いや、昔ガイジンの女の人好きだったんですよ……あの、ちょっとトイレ行っていいですか？

—ガクッ！　どうぞー（笑）。

（約3分後、桜庭帰還）

桜庭　女便所でしてきました（笑）。

格闘技世界大戦前夜!!

戦闘とは何か!?

んあっ？

桜庭　誰か入ってきたら、どうしようかと思いました（笑）。

——しかし、とんだアルティメット野郎ですね（笑）。なんの話でしたっけ？　そうだ、高田vsヒクソン戦が終わって、控室の前の廊下でボクと話したことって覚えてないですよね？

桜庭　なんとなく覚えてますよ（ニヤニヤ）。

——その時に凄いことを言ったんですよ、桜庭和志が（笑）。ヒクソンを指してね、「あれだったらタックル取れそうですねぇ」って言ったんですよ！

桜庭　まったく、実にさりげなく（笑）。

桜庭　ああ（笑）。やる人はみんなあっちのペースにハマっちゃってるじゃないですか。先にボクがタックル入っちゃえばボクのペースじゃないですか。なんか、いけそうな感じがしたんですけどねぇ。先にやっちゃえばいいんじゃないんですか。あれは打撃を誘ってるわけじゃないですか。タックルを誘ってたらあんな構えなんかしません。

——ヒクソンってタックルされる場面少ないないですもんね。木村浩一郎に持ち上げられたけど。

桜庭　みんな打撃を出しちゃうからタックルに入られちゃうんですよ。先に入っちゃえばいいんですよ。バーリ・トゥードって喧嘩みたいなイメージがあるから殴っちゃうんですね、興奮して。興奮しなければいいんですよ。

——みんな、試合前にちょっと寝て緊張をほぐせばいいと（笑）。でも、あの日、あの場所の桜庭和志のひと言はボクにとって大きな財産になりましたね（笑）。高田さんが負けたことで、キングダム勢はみんな目を腫らしてるのに、そんな時に「タックル取れそうですねぇ」っていうのは凄いですよ（笑）。プロレスの未来像が垣間みえましたね、いや、ホント。

桜庭　ボクだけ緊張感なかったですね（笑）。控室の中では緊張感ありましたけど、控室の外に出ちゃえば……。

——それで、あんまり衝撃的だったんで、ボク、周りの奴らにその話をしたんですよ。だけど、誰もノッてきてくれないんですよ！「次は桜庭が行くぞ」って言っても、まったく信用されなくて（笑）。だからアルティメットで優勝した時は「ザマアミロ！」と思いましたね（笑）。

桜庭　アハハ。安達（巧＝コーチ）さんと話してても、「タックルは絶対取れそうだ」って結論になりますね。実際に取られてるじゃないですか、ホイスは。ガード・ポジションからやる技術もわかってきてるんで、それだけ気をつければいけるんじゃないスか？

——ないスか？って、パチンコとはわけが違うんですから（笑）。

桜庭　いけないかもしれないけど、「いけるかもしれない」って言ってますからね、ボクの感覚が！

——ボクの感覚が（笑）。でも、ヒクソンはホイスの10倍強いですからね。ホイス曰く。

桜庭　そんな数字で言われてもねぇ（ニヤニヤ）。10倍ってどれぐらいですか？　10倍大きいとかならわかるけど、10倍強いってのはどうですかねぇ（笑）。ホイスが10分で10本取れるところを、ヒクソンは1分で10本取れるってことですかね？　数字で言われてもわかんないですよ（笑）。

——数字にはいろいろトリックがありますからね（笑）。グレイシーは自分たちのイメージを突き刺す演出に長けてるんですよ。そのイメージを崩さない実力もあるし、実は最高級のプロレスラーなんですよ、ヒクソンは！

桜庭　そうですよね。柔術、柔術って言ってるけど、あれ、服を着てないからレスリングですよ。バーリ・トゥードも最終的にはレスリングになるじゃないですか。それに彼らはお金もらってるから、プロのレスラーですよ。

——そうですよね。プロレスは興行をやってお客さんからお金を取って見せるもんだけど、グレイシーは道場経営のプロですから。道場経営だって生徒を呼んでなんぼですから「オレはこういう風に強いぜ」っていうアピールや実証って必要ですからね。

桜庭　はい（ニヤニヤ）。

——ということで道場の話をしましょうか。

桜庭　アウ！　はいぃ？？

——今度、キングダムから移って、高田道場に所属するってことになったらしいですね。これはどういういきさつなんですか？

桜庭　みんな集めて、そういう話があったんですよ。で、安達さんも行くって言うんで「安達さんも行くのかあ、じゃあ、教えてもらう人がいなくなっちゃうなあ」と思って。

——練習中の恋人がいなくなっちゃうってことですね。「あなた行かないで」状態（笑）。

桜庭　で、「行っちゃおうかな」って。

——高田さんから「付いてきたいヤツは付いてこい」みたいな言葉はあったんですか？

桜庭　そういう言葉はなかったですけど。ただ、来たければ別に拒まないという感じです。

——そういう話が出る前に、「キングダムはもう辞めよう」って気持ちはあった？

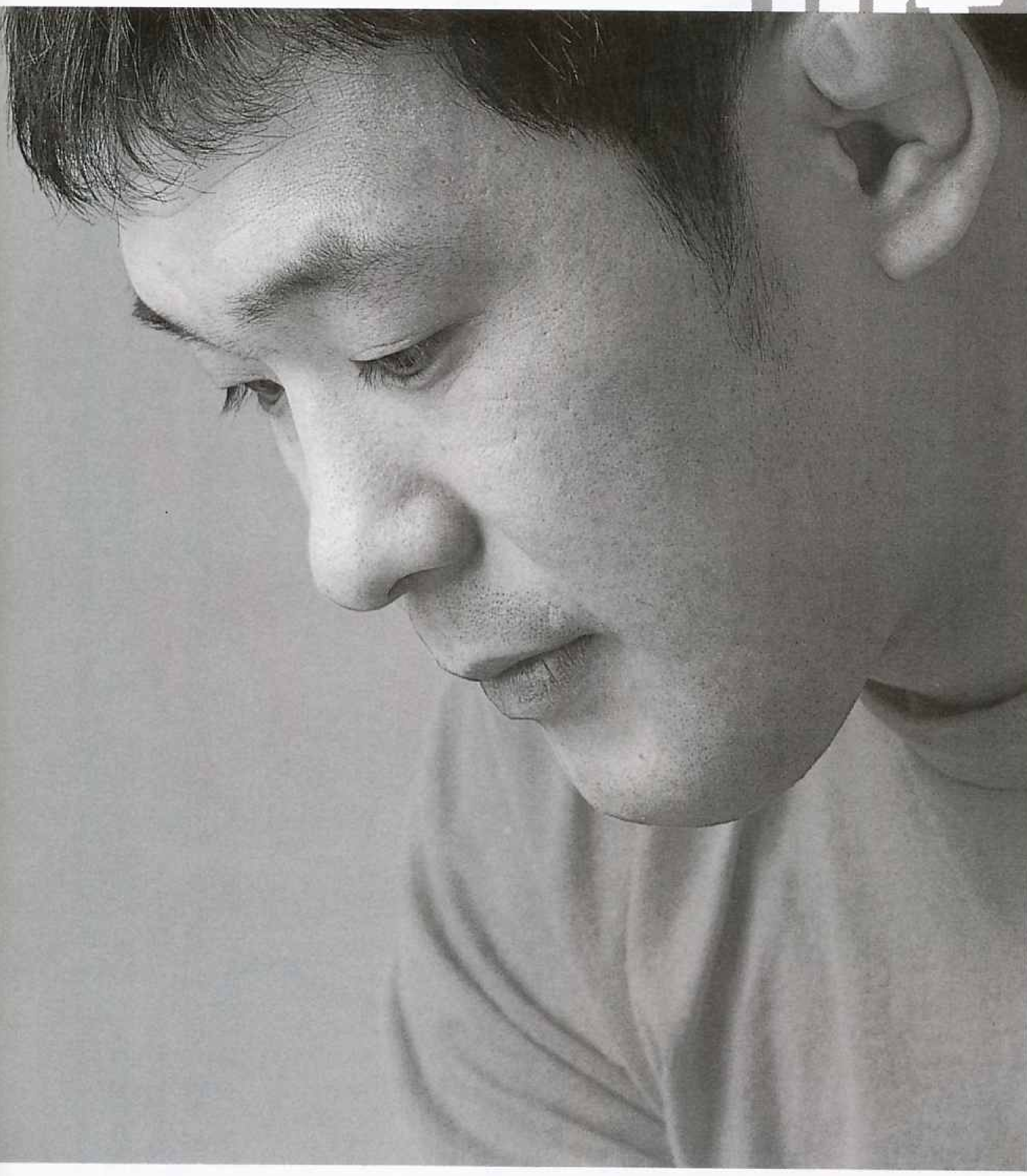
桜庭　いいえ、ないです……ね。今回の件は、子供が成長して親元離れるじゃないですか。そういう感じですよ。学生が田舎から東京に出てくるような

ヒクソンですか？　わからないけど いけそうな感じするんですけどねぇ



学生が田舎から東京に出てくるような

戦闘とは何か!?



もんですよ。

——高田道場が東京で、キングダムが田舎だと？（笑）。

桜庭　アウッ！　そうじゃないですよぉ……ほら、東京から田舎に行く人もいるじゃないですか。

——なるほど。じゃあ、キングダムが東京で、高田道場が田舎？（笑）。

桜庭　アウッ！　それはどっちとも言えないですけどぉ……。

——ケンカ別れじゃないわけですか。

桜庭　いまもキングダムで練習してますよ。

——じゃあ、選手間でギクシャクしたものはないんですね。

桜庭　はい。これからあるかもしれないけど（笑）。

——ガハハハハ！　なにが起こるかわかりませんからね、この世界は（笑）。じゃあ桜庭さんとしては闘う場があればどこでもいいって感じですかね。

桜庭　はい。出たいリングっていうのは特にないですね。出たかったら出ますし。

——今後、いろんなリングに上がる可能性もあるわけじゃないですか。

桜庭　そうですね。練習してることが活かせる所だったらいいですけど。

——シューティングなんかは気持ち的にはどうですか？

桜庭　話があったらですけど、やりたいと思いますよ。

——じゃあ、桜庭さんの中では、プロレスも格闘技も一緒ということになりますね。

桜庭　はい。

——いまやりたい選手っていますか？　例えばお互い存在が大きくなった田村（潔司）選手ともう一度やってみたいとか。

桜庭　やりたいですね。もしもお互いにやりたかったら、やりたいです。

——じゃ、ミル・マスカラスとは？

桜庭　へ？？　ともかく古いプロレス系はイヤです。ボクらは進化してるんですから。UWFができて段々進化してきたんです。あっ、今日インタビューがあるっていうんで、なんかビシッと言おうと思って考えたんですよ。ボクらのプロレスは「進化したプロレス」なんです！

——せっかく考えたのに申し訳ないけど、「進化」って言葉はいままでも結構使われてきましたよ。UWFもそうだし。

桜庭　アウッ！　そうなんですか！　なんだなぁ、昨日朝まで飲んでる時に「これだ！」ってひらめいたのになぁ。

——ガハハハハ！「なんだ、オレが考えたのに」って（笑）。なんで昔のプロレスのイメージを消していきたいんですか？

桜庭　バカにされますもん。居酒屋に行っても初対面の人に「あの血、ホントなの？」とか聞かれますからね。ショー的なとか、乱暴なとかって見られ方しますから。ボクらのプロレスはショー的な部分を取り除いて進化していったものですから。

——でも、モハメド・アリとかプロレス以外の格闘技でも、やっぱり超一流の選手って自分の見せ方も一流なんですよね。キャラクターを演出するって意味でも。

桜庭　はい（ニヤニヤ）。でも、作ったらあとからバレるじゃないですか。それだったら最初から自分を出していけば、それが長く続けばキャラクターになっちゃうじゃないですか。

——そうですね。桜庭和志ってキャラクターを出しゃあいいんですよね。

桜庭　ただ、ヘラヘラしてる、ニヤニヤしてるキャラクターを（ニヤニヤ）。最初は「もっとキリッとしろ」とか言われましたけど、いまは全然何も言われないですからね。

——実力でそれを認知させちゃったわけですからね。でも、桜庭さんみたいなキャラクターって強くなきゃ成り立たないですよね。プロレスラーの中でもいままでなかったキャラじゃないですか、ヘラヘラは（笑）。

桜庭　安生さんがいますよ。

——安生さんはちょっと違いますね。

桜庭　じゃあ、ボクは中間ぐらいですか。安生さんと真面目な人の中間ぐら

い（笑）。でもだから、例えば「タイガー・ジェット・シンとかが普段は優しい人だ」とか、ああいう言われ方がイヤなんですよ。

――なるほどね。じゃあ、二面性がイヤだってこと？ 表があって裏がある。そういうのを見せるのがイヤだってこと？

桜庭 それはいいと思いますよ、ボクもそうだから！（笑）。

――ガハハハ！ 素晴らしい（笑）。

桜庭 ボクもそうだからいいんですけど、役者さんが役を作って出るものとは違うじゃないですか、プロレスって。あと例えばシューティングの人だってもともとはプロレスファンだった人、多いじゃないですか。だけどプロレスのいろいろなことを知っていまは嫌いだってことがあるじゃないですか。

――ありますね。

桜庭 だから、そういうのがイヤなんですよ。最初からホントのことを見せてやれば、そういう人たちも、裏切るっていうわけじゃないけど、離れることもないじゃないですか。

――そうなんですよね。それこそマスクを被ってようがなんだろうが、ちゃんとできればそれに越したことはないんですよね。

桜庭 みんなできればいいんですけどね。じゃあ、みんなでやりましょう。昔のままじゃなくて。どんどん進化させましょう！

――じゃあ最後に、桜庭選手のプライドをひと言で言うとなんですか。

桜庭 「プライド」と聞かれたら大会の名前ですよ（笑）。

――ガハハハ！ そうきましたか。

桜庭 わかんないですよ、そんな難しいの（笑）。でも、試合で出してる「技」ですね。これは練習して積み重ねたものですから。それがプライド。

――今年のスローガンみたいなことがあったら。

桜庭 とりあえず勝ち続けること！……は、目標ですけど、負けることもありますよ（笑）。

――ガハハハ！ 汚ねえな、ホントに。

桜庭 だってホントに次に負けてしまうこともあるじゃないですか（笑）。

――桜庭さんって大スターになってやろうって気持ちはないんですか？

桜庭 ないです（ニコニコ）。

――じゃあ、なんでプロのリングに上がってるんですか？

桜庭 それは強くなりたかったからなのかなぁ。「プロレスラーになることが一番強くなることだ」と思ってましたから。

――じゃあ、お金や名声は二の次？

桜庭 名声はあれですけど、お金は欲しいですよ。

――じゃあ、名を上げていけばお金は自然に入ってくるんだから、なおさら勝ち続けないとダメじゃないですか！

桜庭 パチンコの資金ととしてですか？（笑）。


――ガハハハハ！ お見事です。どうもありがとうございました（笑）。

※追伸 このインタビューの翌日、桜庭和志は「バイオハザード2」を購入したらしい。

〈2月3日、六本木アートセンターにて収録〉



格闘技世界大戦前夜!!



格闘技世界大戦前夜!!

「ガチプロ」だってバカにされて、悪い気がしますね！

無菌空間から飛び出した男 吠える！

聞き手／"Show"大谷泰顕
Interview by "Show" Yasuaki Otani
撮影／乾晋也
Photographs by Shinya Inui

ついに、柳澤龍志が生き様を見せはじめた!! パンクラスのなかでは、最も恵まれた身体を持ちながら、なかなかその実力をリング上で表現できずにいた、あの柳澤が!!

昨年11月、念願だったオランダ武者修行から帰国した柳澤は、驚くほどに成長していた。鎖国政策をとるパンクラスにあって、他団体の選手とも積極的に接触。団体の内外を問わず、素直に相手のいい部分を認めはじめたのだ。と同時に、強引にでも自分のいい部分を相手に認めさせてやろうという気迫と自己主張も忘れない。そしてルール面、試合間隔への改善を公然と唱える。

簡単に言うと、nWoが「新しい秩序」だとするなら、柳澤はパンクラス版のnWoになったと言ってもいい。

パンクラスが変わる!! そう期待せずにいられない。いや、いまパンクラス第二章の扉を柳澤が開いたのだ!!

エスケープなんてウザイです
納得いかない判定も多い

Ryushi Yanagisawa

柳澤龍志

――柳澤選手、この間（1月16日）の後楽園ホールではジェイソン・ゴドシーを相手に、ヒザ一発で決めましたね!!

柳澤　ラッキーでしたね。ラッキーっていうか、たまたまうまい具合に（キックが）当たってくれたっていう。最初にミスジャッジでエスケープとられちゃったんで、あれで腹が立ちましたね。「またかよお」っていう。前も一回、ダウンをミスジャッジされたことがあったんで。

――そうだったんですか？

柳澤　う～ん、ちょっと過剰なんですよねえ。あのー、エスケープする時に早く止めなきゃマズイっていうのもわかるんスけどねえ。でも全然、なんにも決まってない状態の時に、ただ単に足がロープにかかってて、それだけでエスケープとられるのはおかしいなって思いますね。

――パンクラスの場合は、それが故意にでなくともロープに触れればエスケープですよね。

柳澤　そうですねえ。だから僕が思うに、ワンポイントロストで、もう「負け」にした方がいいと思うんですよね。エスケープなんてウザイですから。判定もなしでいいと思うんですよ。時間切れになったらドロー。納得いかない判定っていうのがよくありますからね。

――例えば、バーリ・トゥードジャパン97（以下ＶＴＪ）は判定はなかったですよね。時間切れになったら「引き分け」っていう。

柳澤　そうですね。あれでいいと思いますね。それで両方ともアグレッシブに攻めてれば、勝敗はおのずと決まると思いますね。

――旗揚げする時に5ロストになったけど、もう旗揚げして4年以上経ったから、その辺は変わってもいい？

柳澤　まあ、俺ひとりで言ってもあれですけど、前々からそっちの方がいいんじゃないかと思ってますけどね。

――去年、船木誠勝さんが近藤有己選手に負けた時のタイトルマッチ後に「先にエスケープをとったのは俺だから、格闘技的には俺の勝ちだ」と言ってたけど、あれと似てますね。

柳澤　そういうふうにしたら展開も変わってくるかもしれないですね。それじゃあシューティング（修斗）じゃねえかっていう話もありますけどね（笑）。

――名前が出たので聞いてしまうけど、修斗に関してはどんな印象があります？

柳澤　バーリ・トゥードをやるんだったらベストでしょうね、ハッキリ言って。それ用にルールも改正して、いち早くやってますから。僕がもしバーリ・トゥードをやるとなったら修斗を習いにいくでしょうね。すごいですよ。だから、俺らも「ガチ・プロ（ガチンコ・プロレス）だ」ってバカにされないように頑張らないと。

――ああ。やっぱりああいう発言（『格闘技通信』1月23日号の佐藤ルミナ・村浜武洋対談）は、いい気はしないですよね。

柳澤　そうですね。悪い気がしますね。ただ、すごさはわかりますよ。修斗出身の山田（学）さんを見てればわかりますよ。グランド強いですから。それを体感してから修斗を見に行くようになりましたね。

――さっきのワンロストポイントの話なんか、柳澤選手の成長というか変化というか、そういうのを感じますね。

柳澤　そうスか？　前々から僕はずっと言ってますよ。ただこういう公の場で言う機会がないだけで。

――去年、キックルールの試合をやった頃から徐々に変わってたのかもしれないけど、思わず嬉しくなるくらい「たくましくなったなあ」と実感したのは、オランダから帰国してからですよ。

柳澤　やっぱ人から言われるってことは変わったのかもしれないですね。自分ではイマイチわからないです。

――帰国して、ＶＴＪではフランク・シャムロックのセコンドについたでしょ？

柳澤　刺激を受けますよね。フランクも成長していて。ちゃんとバーリ・トゥードを闘っていたんで、やっぱすごいなって思いましたね。あれで気合いも入りましたし。フランクはウチでもトップでしたからね。ただ、向き不向きもあると思いますよ、バーリ・トゥードの。俺が出て「勝てるか？」って言ったら、ちょっとわかんないですね。でも、グローブをしてやるのは自信ありますよね。立ってる時に一発当てちゃえば大丈夫っていう。でも寝て殴られるのは嫌だなと思いますね。すごい腹が立つと思います。立って殴られる分にはわかるんですけど。まだ消化しきれてないですね、技術に関しては。

――ふと思ったけど、オクタゴンに入る柳澤選手の姿もいいかな、と。

柳澤　そうスか？　けっこうショボイ試合をするかもしれないスよお（笑）。でももう飽きてるんじゃないですか？　（キングダムの）桜庭（和志）さんがＵＦＣＪで勝った時点で「いいや」って感じなんじゃないですかね。これ以上やっても勝つか負けるか、その時によって変わるだけで、負け続けることもないと思いますし、勝ち続けるのも難しいと思います。だから普通の試合になるんじゃないですか？

――桜庭選手の勝利も刺激になります？

柳澤　自分自身には刺激になるって感じではなかったですけど、心情的には「良かったな」と思いますね。あそこで負けてたら、日本人もガチ・プロもナメられてたと思うんで。あれで結構よくなったんじゃないですか。いろんな人の見る目も変わったと思いますし。

――やっぱりフランクがパンクラス以外の団体に出たことで、いろんな団体が柳澤選手の視界に自然と入ってきたような気がするんですよね。

柳澤　人間によりますよね。会ってみないとわからないですよね。リングスで言えば、髙阪（剛）さんなんか、すごいいい人ですもん。格闘家っていう感じがしましたね。認めましたよね。認めたって言ったら失礼な言い方ですけど、すげえなって思いましたね。成瀬（昌由）さんも気さくでいい人だし。

――『紙プロ』では一度、長井満也選手と言い合った仲だし（笑）。

柳澤　いまにして思えば、あれはなんだったんでしょう。『紙プロ』にも悪いことをしましたね（笑）。

――去年、確かにパンクラスは前田日明問題を終結して「もう二度とリングスとは関わらない」と言ったけど、見る側の空想というか、夢レベルの可能性まで断ち切ってしまうのは哀しいですからね。

柳澤　そうっスかね。俺個人は別にリングスに対してはなんにもないですからね。それにキングダムの人もいい人でしたよ。山本健一選手も、最初はツッパッてるのかなあと思ったけど、話したら普通だったし。

――年末のＵＦＣＪでは、バックステージに「Ｕ系」といわれる団体の人々が自

然なかたちで同じ風景のなかにおさまっていたじゃないですか。あれを見た時に、なぜかホッとしたんですよ。
柳澤 まあ、（あの場にいる人が）みんな外人みたいなもんでしたからね。僕は正直、無所属になりたいと思いますし（笑）。会ったら、みんないい人でしたよ。「お疲れさまでーす」みたいな感じで。
——「お疲れさまでーす」ですか（笑）。
柳澤 別に選手間でイザコザがあったわけでもないですし。自然にいましたね。僕はフランクが出なきゃ行かないですし。僕としてはそれよりもバックステージで（女子キックボクサーの）バンビちゃんに会えたのが嬉しかったですね（笑）。
——その話が出たところで、実は、あの日撮った写真を持って来たんですよ（と、ツーショット写真を見せる）。
柳澤 これはいいじゃないですか!!（笑）。
——メチャクチャ嬉しそうですよ（笑）。
柳澤 バンビちゃんてマジでカワイイんスよ！ キレイっていうよりもカワイイんスよ！ これ、大切にします。いや、今度バンビちゃんに会ったら、あげようかな。「覚えてる？」みたいな感じで（笑）。
——ヌハハハ。そういえば『東京スポーツ』に載ってましたね。「ライバルはバンビちゃんのマネージャーのカーク・ジャンセンだ」って。あれを書いた『東スポ』の高木圭介記者が「ウチに、どういうことを言えば記事になるのかわかってる」って言ってましたよ。
柳澤 そうですよ。『東スポ』用に発言しました。だから、今回も『紙プロ』用に発言したいんですけど、イマイチよくわからないんですよね。
——いま、手探りなんですね（笑）。
柳澤 （『紙プロ』は）好きな号もあれば、ぶっちゃけた話、「なにこれ？」と思う号もありますからね。
——ちなみに前号は？
柳澤 前の号は良くなかったですね。わけわかんねえんだもん。
——ヌハハハ。じゃあ好きなのは？
柳澤 面白いヤツですね。ギャグがわかりやすいヤツ。やっぱ自分の団体の選手が出てる時は面白いですし、他の団体の選手でも、ちょっとギャグっぽく書いてあると面白いですね。ただ、たまにプロレスラーをバカにしてるような記事を見ると、俺も同じ業界の人間ですから、正直な話、いい気はしないです。でもいいんじゃないですかね、『紙プロ』ですから。『週プロ』とかとは違いますからね。
——それぞれの役割がありますからね。
柳澤 でも好きな号はすごい好きですよ。一番、どの雑誌よりも面白いと思う時はありますね。あと、バトラーツ情報が多いん



1月16日のvsゴトシー戦前の『東スポ』紙上で、柳澤は「最高っスよ。次のゴトシー戦に勝ったら、（中略）デートに誘いますよ」と発言。本文中で話題の写真がコレ。今までのパンクラスに存在しなかったセンスが芽生え始めている。

で（笑）。やっぱり石川（雄規）さんは元気かな？ って常に思ってますからね。
——藤原組時代の仲間ですしね。
柳澤 そうです。石川さんは俺に優しくしてくれましたからね。
——仲は良かった？
柳澤 仲が良かったっていうか、先輩だし、結構年齢も離れてたしかわいがってくれましたね。逆に髙橋（義生）さんは厳しかったですね。やっぱ俺なんか、高校の運動部はやってたけど、礼儀なりでできてないところがあったんで、そういうところでたまにガツーンと怒られましたね。そういう点は髙橋さんは大学でバリバリやって、ビシッとしてるじゃないですか。
——上下関係の厳しいところで過ごしてたわけですもんね。
柳澤 俺なんかナアナアなところがあったんで怒られる時がありましたね。そういう時に石川さんがフォローを入れてくれて。その時に俺は18歳の田舎もんでしたから、助かりましたね。だから石川さんには感謝してるんですよ。ちゃんとチェックもしてるし。
——初めて聞きました。
柳澤 あっ、そうですか？
——接点があったことは知ってるけど、いままであまりそれを感じなかった。
柳澤 普通に仲がよかったですよ。いまは陰ながら応援してるって感じで。
——なんだか、今日はいろんな団体の選手の名前が出てきますね。
柳澤 だいたい俺が会ったレスラーの人はみんな悪い人いないですよ。小林邦昭さんとか。高野拳磁さんも僕には人当たりいいし（笑）。あっ、ひとりだけカタイのがいましたね。
——えっ、誰ですか？
柳澤 内緒です。
——そうですか（グスン）。じゃあ例えば、アントニオ猪木と会ったことってあったんでしたっけ？
柳澤 『SAMURAI!』の発足記念のパーティーで会ったことありますね。でも、僕は猪木ファンじゃなかったんで……。ただ、オランダで、猪木イズムに触れました。
——どういう意味ですか？
柳澤 やっぱ向こうでは有名なんですよ。ピーター・アーツとか、アーネスト・ホーストっていう格闘家自体、誰も知らないのに、「アントニオ猪木」はビッグネームだと思いましたね。
——オランダ出身のウイリアム・ルスカと異種格闘技戦もしてますもんね。
柳澤 そうなんですよ。ルスカは国民的英雄なんで。
——やっぱりパンクラスから離れて、いろんなことに気がついた？
柳澤 そうですね。気がつきましたね。なんちゅうんですかね、有名なことは力なんだなって思いましたね。
——おお、名言だ。
柳澤 そういう意味では俺も有名になりたいなって思いましたけど。やっぱ知名度っていうのは大きいなって思いましたね。俺なんか、向こうでは無名でしたし、強いて言えば格闘技術しか持ってないし、その技術でさえも、オランダ人は強いですから、二人がかりできたらとか、ナイフや拳銃を持ってたらイカれるかな、と思いましたからね。そんなことを考えてるうちに、やっぱアントニオ猪木だったら誰も喧嘩を仕掛けてこねえなって思いましたね。
——なるほど。ところで、横浜道場はどうですか？
柳澤 やっぱ俺の理想は、横浜道場は暑い時は暑いし、寒い時は寒いしってことでハングリーな心を忘れちゃマズイっていうか、そういう道場にしていきたいなって思いますね。鈴木（みのる）さんも

横浜道場は超硬派軍団！なんつったって茶髪禁止ですから

格闘技世界大戦前夜!!

Ryushi Yanagisawa

そう考えてるって思いますし。まあ、広尾道場の方がチャカついてくれりゃあ楽なんですけど、ちゃんとやってるから俺らもやるしかねえなって部分はありますしね。俺らなんか掃き溜めみたいなもんですからね。俺らなんかクズの集まりですから（笑）。

——そんな卑屈にならなくても（苦笑）。

柳澤　しょせん超硬派軍団ですから。メッタに女とも口をきかないですし。なんつったって、茶髪禁止ですからね。

——茶髪禁止（笑）。

柳澤　俺と渋谷（修身）なんか、耳に髪がかかってるから、しょっちゅう注意されますから。近藤も最近、髪が長いからチクチクチクチク言われてるし。

——いやあ、鈴木さんはすばらしい!!

柳澤　向こうはエリートとかも入ってきたし。俺なんかエリートからハズれた男ですから（笑）。

——あれ？　でも、自分から横浜道場行きを希望したんでしょ？

柳澤　中退したんですよ、（横浜の寮から）遠いっつう理由で（笑）。俺、田舎の生まれなんで、都会のゴミゴミしたところにいるのは嫌なんですよ。いろいろ考えて広尾道場から移籍したんです。移籍ってほど大袈裟なもんじゃないんですけど（笑）。

——エリートと言えば、広尾道場には渡部謙吾選手の入団が決まりましたけど、柳澤選手との対戦は楽しみですね。

柳澤　同じリングに上がったら、結構、見栄えすると思いますね。お互い190センチ以上あるし。違った意味で、新日本っぽくなるんじゃないですか？

——えっ、どういう意味ですか？

柳澤　190以上っていうと、新日本では誰がいます？

——えーっと、安田忠夫選手？

柳澤　じゃあ安田忠夫vs田上明のガチ・プロですよ（笑）。

——夢の対決ですね、そりゃあ見たい!!

柳澤　そうですね。メチャクチャ楽しみです。でもまあ、まだデビューもしてないですから、「とりあえずデビューしろ」と言いたいですね。

——はい。でね、突然話は変わりますけど、最近「パンクラスらしさ」について考えてみたんです。例えば、旗揚げ直後に鈴木vsモーリス・スミスがあったじゃないですか。それに『トーワ杯』。それから、船木vsバス・ルッテンのタイトルマッチとか、去年の高橋vsヴァリッジ・イズマイウ戦とか。それと冨宅飛駈さんの海外プロレス修行もそうなんだけど、いつものパンクラスのリング上で見てるような、お行儀の良さとは違った、その選手個人が見えた時に、パンクラスをより面白く見られるなって思ったんですよね。

柳澤　みんな、おとなしいですけど、実は仮面を被ってますからね（笑）。

——その仮面の下には、実はすごい荒々しさを持ってるわけじゃないですか。

柳澤　だって普通にやってればそのままレールに乗って上まで行けた船木さんと鈴木さんが、それを蹴ってまで完全実力主義の試合でやりたいっていう気性の持ち主ですからね。そういうスタイルでやりたいってヤツが集まってる団体だから、結束した時は強いし、外に出ていった時も強さを発揮できるんじゃないかと思いますからね。

——ただ単純に「勝った」とか「負けた」とかじゃなくて、いつもルールに乗っとって試合をこなしているイメージがパンクラスにはありますけど、それよりも選手個人の魅力が爆発した時に、いままでよりも俄然パンクラスが面白くなるというか。

柳澤　う〜ん、どうなんでしょうねえ。

——例えば、単純に「勝つ」ってことに関して言えば、年末のUFC-JでrAwチームのランディ・クートゥアが、モーリス・スミスに勝った試合があったでしょう。あれ、見るからに判定勝ちを狙っていて、見ていてつまらなかったんですよ。

柳澤　セコイですよね。

——いくらrAwチームの選手がアマチュア時代に、ものすごい実績を持っているとしても、ああいう勝ちの狙い方を見ちゃうと、どうしても引いてしまう。

柳澤　そうやったら勝つだろうって思いますね。僕はガイ・メッツァー戦（96・9・7／東京ベイNKホール）がすごい気持ち的にディフェンスまわっちゃったんで、あれ以来ああいう試合だけは絶対やらないようにしようって思ってますね。はじめての大ブーイングみたいな感じで、試合後に大ショックでしたから。あれ以来、勝つんだったらスパッと勝って、負けるならスパッと負けようって思いましたね。例えば、100の力でボーンとぶつかれば、それが通用しなければやられるだけですからね。50の力でチョコチョコやってたら、10分や20分はもっちゃいますから。

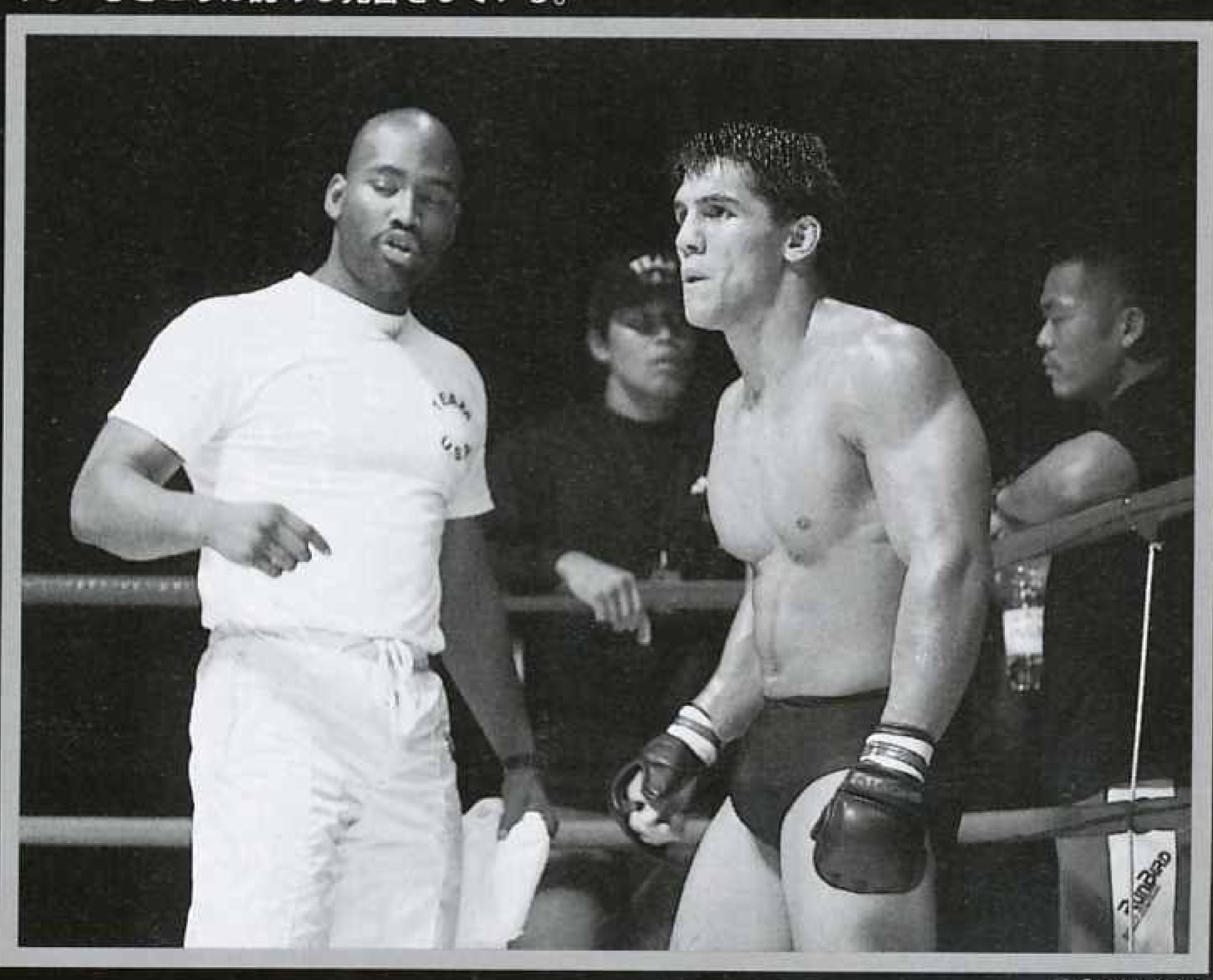
——船木さんの試合は、旗揚げ以来、一度も判定決着がないじゃないですか。

柳澤　あれはもう奇跡ですね。それを見ても、船木さんてすげえなって思いますよ。

——一時期、柳澤選手は「セコくないと試合に勝てない」と言ってたこともあったでしょ？

柳澤　勝てないですね。だから、セコくくる人間に対してどう対処するか、その辺はずっと考えてますし。自分で解決す

写真が見にくいかもしれないが、これは昨年11月29日のバーリ・トゥード・ジャパンの1ショット。この日、エンセン井上と対戦したフランク・シャムロックのセコンドに柳澤とリングスの高阪剛、そしてモーリス・スミスがついた。団体外部とは一切関わりを断つのではなく、柳澤は認めるべきところは認める発言をしている。



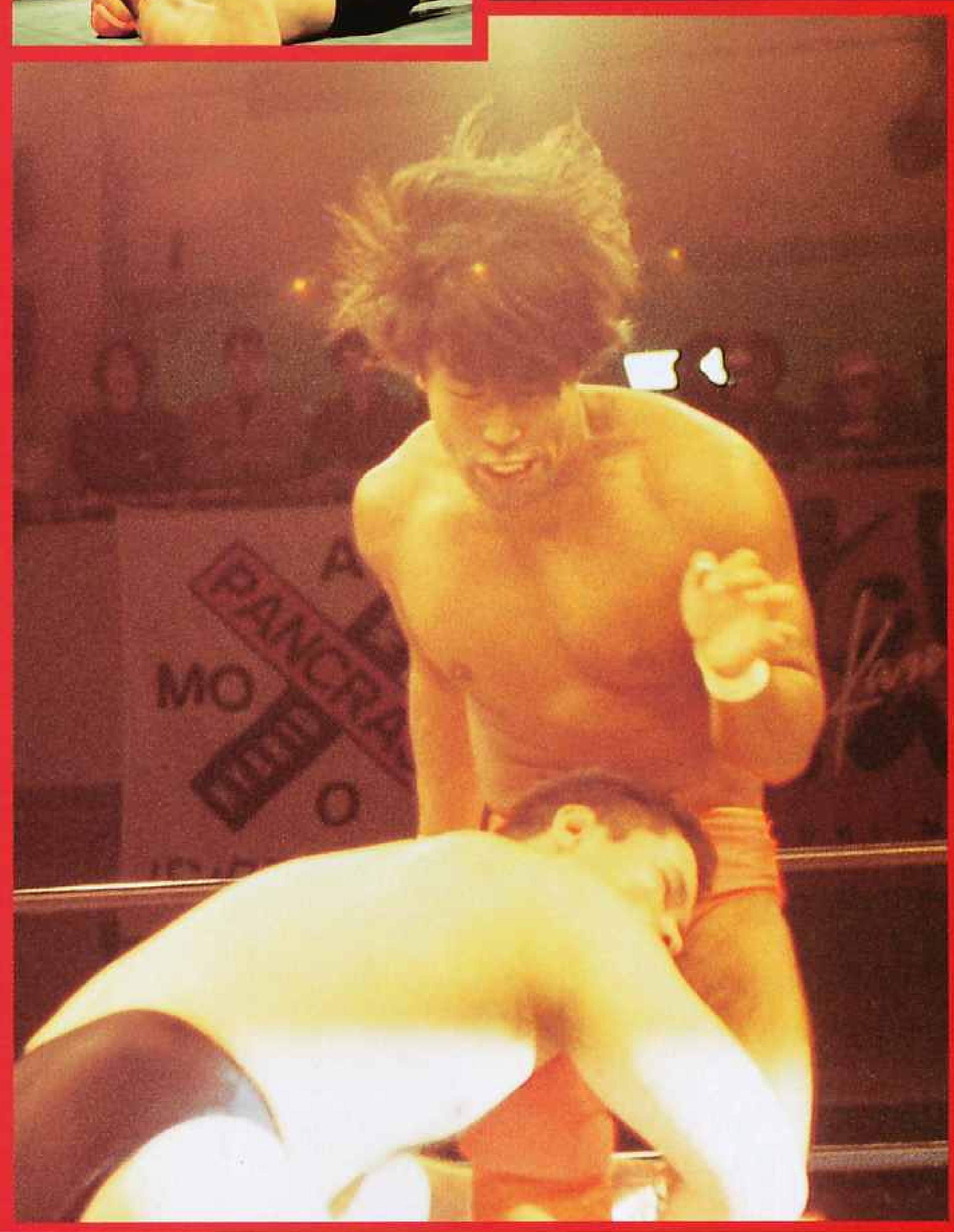
© S.NAGAO

一時期パンクラスから離れて有名なことは力だと気づいた！

格闘技世界大戦前夜!!

柳澤龍志





昨年、12月21日の横浜大会の試合ではJ・ローバーが負傷するアクシデントが起こり、試合後の柳澤は冴えない表情だった。しかし、1月16日はスカッとするヒザ1っ発でKO勝利を飾った。本人に自覚はないがパンクラスに革命の狼火が上がった。

© M.GIGIE

るしかないでしょうね。結果を出されてそれが新聞なり雑誌に載っちゃうと、それを見てみんな評価しますから。いろんな人間に対処して練習をしていかないと、と思いますね。

——その方法は常に考えてると。

柳澤　そうですね。で、あと2、3試合やって引退します!!（笑）

——いや、引退しなくていいです（笑）。

柳澤　引退はしたいと思ってないんですけど、休みたいんですよ。試合の前から、その次の試合の相手とかが決まってると嫌になりますからね。「この試合が終わってからにしてくれ！」っていう。なんか「仕事」みたいになっちゃうじゃないですか。その部分が僕としては疑問に思う部分なんですけど。このままポンポンと試合やっちゃうと、上半期で僕の目標の6試合を達成しちゃいそうですから、下半期はプレーオフにしようかなと思ってるんですよ（笑）。

——きっと、日本武道館を柳澤選手の試合だけで満員にできたら、尾崎社長も「いいよ」って言うはずですよ。お互いの利害が一致するわけだから。

柳澤　意地と意地のぶつかり合いスか。

——そうそう。やっぱ基本は意地でしょう!!ただ、団体を問わず、相手のいい部分を認められた柳澤選手が独自の生き様を見せてくれれば、僕は誰が何と言おうと支持しますよ!!だって、船木さんにしろ、鈴木さんにしろ、冨宅さんにしろ、髙橋さんにはパンクラスの面白さが、より増幅されたんだから!!

柳澤　そうッスね。生き様っていうのがありますよねえ。そろそろ俺も生き様を見せないと。

——いや、絶対にその手はじめが、この間のジェイソン・ゴドシー戦だったんですよ!!僕なんか、思わず「これでもっとパンクラスが面白くなる!!」って、大泣きしちゃったんですから。確かに鈴木さんの復帰も嬉しかったけど、それよりもまず柳澤選手の生き様が垣間見えたじゃない!!

柳澤　ありがとうございます（笑）。

——あんなに泣いたのは、髙橋さんがアルティメット大会に勝った時以来ですよ。あっ、去年、髙橋さんが「（前田は）俺が殺す！」って言った時も涙腺が緩んだか。

柳澤　この間は、たまたま勝ったんで。もちろん、たまたまでは勝てないですけど。

——いや、まだほとんどの人が気がついてないかもしれないけど、あれは、パンクラスを離れて、いい部分とそうでない部分がわかった柳澤選手が、パンクラスに柳澤革命をスタートさせた瞬間だったはずなんだから!!そういう意味では柳澤龍志がパンクラスの蝶野正洋になったんですよ!!

柳澤　そうスか？一応、新日本で言えば武藤敬司を目指してるんですけど（笑）。

——いや、nWoジャパンのトップは蝶野正洋じゃないですか。

柳澤　そういう意味ですか。じゃあ（このページも）白黒写真でいいですよ、フフフ。

——そうしましょうか（笑）。

柳澤　載せてくれるならなんでもいいです。

——いやいやそう言わず、もっとやりたいようにやればいいんですよ。「俺がやりたいようにやればパンクラスのためになる」と思えばいいんです。

柳澤　なるんですかねえ。

——絶対になるはずですよ。前号の『紙プロ』に「個人の生き様と団体の理念の衝突は、これからのパンクラスの重要なテーマではないでしょうか？」って書いてあったんですけど、やっぱり団体の理念を超えて、個人がパンクラスを背負うときにその人間の生き様が爆発するし、それが一番パンクラスらしいはずだって思うから。

柳澤　それが面白いってことですか。そういう頭がいいことを書いたらダメですよ、『紙プロ』で。

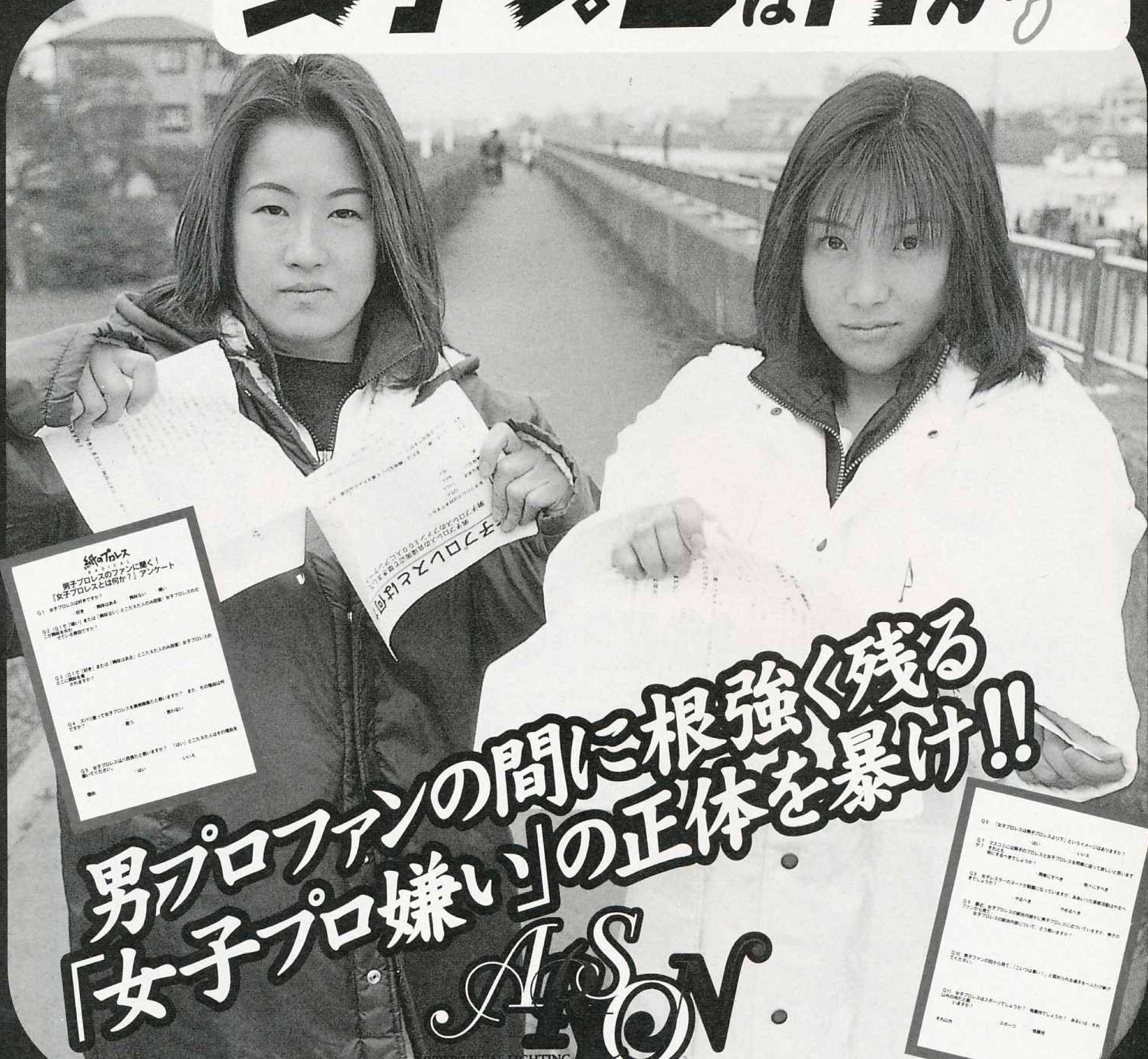
——そうですか？（笑）

柳澤　頭良すぎるだもん、『紙プロ』って（笑）。難しい!!

【1月19日、極寒が身に染みる横浜道場にて収録】

男子プロレスのファン300人に聞きました アンケート編

女子プロとは何か？



男プロファンの間に根強く残る「女子プロ嫌い」の正体を暴け!!

ARSION HYPER VISUAL FIGHTING

玉田凛映×府川唯未

そもそも、プロレスは世間から蔑視を浴びせかけられる存在である。さらに、そのプロレス界の中でも女子プロレスは「男子より下」という位置付けで見られがちだ。そこで今回は、特に男子プロレスのファンの間に根強く残る「女子プロ嫌い」について掘り下げてみた。単なる男尊女卑なのか？　それとも根源的な問題なのか？　その正体を探るべく男子プロレスの会場の外でアンケートを敢行した。さらに、それだけで飽きたらない本誌は、女子プロの現状を未来の女子プロレスを担う2人にぶつけてみた。新団体アルシオンの玉田凛映と府川唯未である。すると、2人は今まで見せたこともなかった鋭い牙を剥き出しにして、本気でアンケート結果に噛みつくのだった！

アンケート収集地：1・4新日本プロレス（東京ドーム）／1・16パンクラス（後楽園ホール）／1・21リングス（日本武道館）／1・28キングダム（後楽園ホール）

（アンケートを見て）ムカつきましたよ！
女とか男とか、そんなの関係ない！（府川）

――アンケートをざっと見た感想はいかがですか？

玉田　ムカつく！

府川　イライラする！

――実際、『紙プロ』で女子プロレスのページをやったんですけど、反響がこれと似たような感じで、「女子プロにページ割くな」という論調なんですよ。一段下に見てるというか、別物扱いというか。試合内容がどうのこうのっていうより、女子プロの存在っていうもの自体が、興味の範疇に入っていないプロレスファンも意外に多いんだなって確認できたんですよ。それを、アンケートをとって具体的な形としてまとめてみました。でも、Q1を見てもらえば分かるように300人中235人が「好き」もしくは「興味がある」という答えなんですよ。

府川　どっちにしろ気になるっていうことですよね。

――そうです。これを踏まえて、Q2を見てください。「嫌い」と答えた人の中で「ショー的」という答えがあるんですけど。

玉田　ショー的って、女子プロにしか出せない華麗さを出そうとしているところで、そう思われちゃうんですか？

――そういう部分が鼻につくファンもいるでしょうね。

玉田　そういう華麗なところが男子では出来ないじゃないですか？　こういう人は、みちのくとかルチャ系の人を見てもショー的だと思うんですかね？

――ルチャはルチャで根強い人気がありますからね。ここで引っかかってくるのは、「女のすることではない」という意見だと思うんですけど。

玉田　あ～、これは問題外ですね！

府川　女だからとか、男だからとか、そういうのは関係ない！

――何をもってショー的っていうんですかね？　いくつか具体的なことを書いてる人もいますけど。

府川　コスチュームはデザイナーさんがついてる人もいるし、デザインしてる人もいますよ。でも、今の時代、コギャルとかが流行っちゃってすごい時代じゃないですか？　その中で「ダサい」と言われちゃうのは自分のセンスだから仕方がないですよ。

玉田　私たちも考えます、今だったらどんなのが格好いいのかなって。アルシオンに来てから雑誌とか見ながらリサーチをするようになりましたよ。

――カチンと来ちゃった箇所はありますか？

玉田　これはムカついていいのか、反省すべきなのか……（苦笑）。

府川　ムカついていいべきだよ！（怒）

――ムカついていいですよ。府川さんはムカつきました？

府川　ムカつきましたよ！　お前がやってみろ！　ウソくさいって！（怒）

玉田　名前がおかしいっていうのは？

――男子にはないセンスのリングネームでしょうね。タニー・マウスとか。

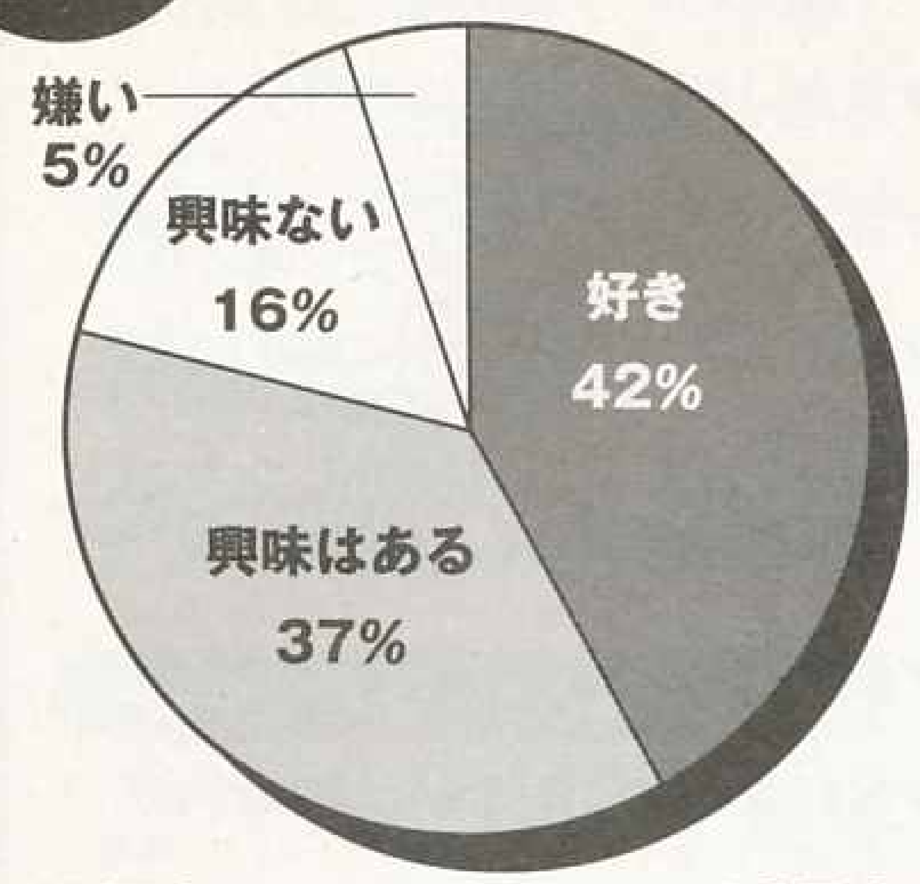
玉田　サヤ・エンドーとか？　それはウケを狙ってやってるんだから。

府川　名前がそうだからって、やってることはすごいんだから！

玉田　感じ悪～い！

――こういう意見の人たちを相手にしないで、アルシオンでプロレスをやっていこうと思ってますか？　それとも、こういう男プロファンの首根っこ

Q1 女子プロレスは好きですか？



- ●好き ―― 125人
- ●興味ある ―― 110人
- ●興味ない ―― 49人
- ●嫌い ―― 16人

Q2 女子プロレスのどこが興味を失わせている原因ですか？

Q1で「嫌い」または「興味ない」と答えた人のみ回答

▼好きだけど、マイクアピールが恥ずかしい（田中竹彦　団体職員　30歳　男）

▼試合が面白いと思えない（新保克哉　学生　22歳　男）

▼男のプロレスが好き（山川健　会社員　27歳　男）

▼ショー的（伊勢谷佳那恵　OL　21歳　女）

▼弱い（広中勇樹　フリーター　34歳　男）

▼女のすることではない（佐藤岳史　会社員　21歳　男）

▼派手だから（阿部　バイト　24歳）

▼パワーが足りない。飛び跳ねてばっかり（佐藤健一　学生　23歳　男）

▼ウソくさい、アイドルと勘違いしている、すぐ脱ぐ、マイクパフォーマンスがさむい、コスチュームがダサい、名前がおかしい（堀内祥子　学生　20歳　女）

▼迫力がない（小野良平　28歳　男）

▼声がギャーギャーうるさい（松浦大輔　販売員　25歳　男）

▼試合は面白いと思うが特に興味がわかない（宮下義浩　会社員　29歳　男）

Q3 女子プロレスのどこに興味を惹かれますか？

Q1で「好き」または「興味はある」と答えた人のみ回答

▼女性とは思えないあのガマン強さ（しまだみほ　ライター　25歳　女）

を掴んででも目を向けさせるファイトをしようと思いますか？

府川　今まではこういう意見を相手にしてこなかったんですよ。こうやって、アンケートをまとめられちゃうとすごいなと思うけど、こういう意見はよく聞くし。だから、これからはこういう人にいかに見てもらえるかですね。

―そのためには何をするべきかということで、アルシオンは従来の女子プロの悪い部分を改善していこうとしてますよね。選手としては何を変えようと思いますか？

玉田　試合スタイルも変えたいですね。それぞれやることは違うんですけどね。団体のスタイルじゃなくて、レスラー個人の色が違うと思います。

府川　やりたいようにできるのがアルシオンだと思う。例えば、パンクラス道場に通ってるからって、全員パンクラススタイルになるわけじゃないんで。パンクラスの取り入れたい部分は、みんな取り入れるだろうし。

玉田　関節技をきわめた人と対戦して、自分が防御を知らなければそこで極められちゃうじゃないですか。基礎から出来るようにしておかないと。



アイドル的な仕事での露出が多いために、どうしても余計な偏見を抱かれてしまうタマフカ。しかし、その分だけ「プロレスラーである」という意識は非常に強いのだ。その意気やよし。

府川　苦手なことが出来ないんじゃ、今までと一緒になっちゃいますから。

―では、Q3に移ります。

玉田　何これ！「乳」？（笑）

府川　そういう人もいると？（笑）

玉田　素直やね（笑）。「女とは思えないあの我慢強さ」だって。

府川　我慢強いよぉ～。

玉田　励みになることばっかりだね。

府川　そうだね。嬉しいね。

玉田　「技の切れ味が男子よりキレイ」「真剣味が伝わる」。わかってるね～って感じだよね（笑）。

―ここを見てほしいという部分はありますか？

玉田　男子と比較されてるんでしたら、女子にしか出来ない華麗さですよ。

府川　技のキレ！

―キレってスピード込みってことですか？

府川　込み！　その人によって、それぞれ見方があればいいと思います。

―なるほど。では、次いきましょう。Q4は「女子プロレスは真剣勝負だと思いますか？」という質問なんですが、196人は「思う」と答えてるんですよ。でも、その中には「ケガ人が多いし、そう思わないとかわいそう」という意見もあるんですよ。

府川　かわいそうってことは、ホントはそう思わないけど、そう思わないとかわいそうってことだよね？（苦笑）

玉田　出てこい！　こっち来い！（怒）

―「プラムが死んだこと」とか書いてありますけど、ああいう事故は起こっちゃいけないことじゃないですか。

玉田　なんか悲しいよ……現実はこんなものなのかな？

―見てないから、偏見だけでこういうことが言えるんでしょうね。

玉田　私も頸椎とか、いろいろケガしてますので、今でもシビレとかあるんですよ。みんないつ体が動かなくなっ

▼痛いとき、本当に痛そうな顔をするから
（田中竹彦　団体職員　30歳　男）

▼技の切れ味が男子よりキレイ。真剣味が伝わる
（木村正　会社員　35歳　男）

▼気合いが見れる試合は素晴らしい
（高瀬純治　プログラマー　34歳　男）

▼乳
（にへい　フリーター　29歳）

▼神取さんなどがアルティメットに挑戦する姿勢
（西井源　病院勤務　26歳　男）

▼男子以上にすごい技を出して、すごい試合をする時がある
（土屋浩史　23歳　男）

▼団体経営。お金がらみ
（立松龍斗　会社員　27歳　男）

▼強さを求めるのは男も女も変わりがないのだ
（樋口渚　フリー　29歳）

▼ガンバリ屋さんが頑張っているところ
（梅内幸子　アルバイト　25歳　女）

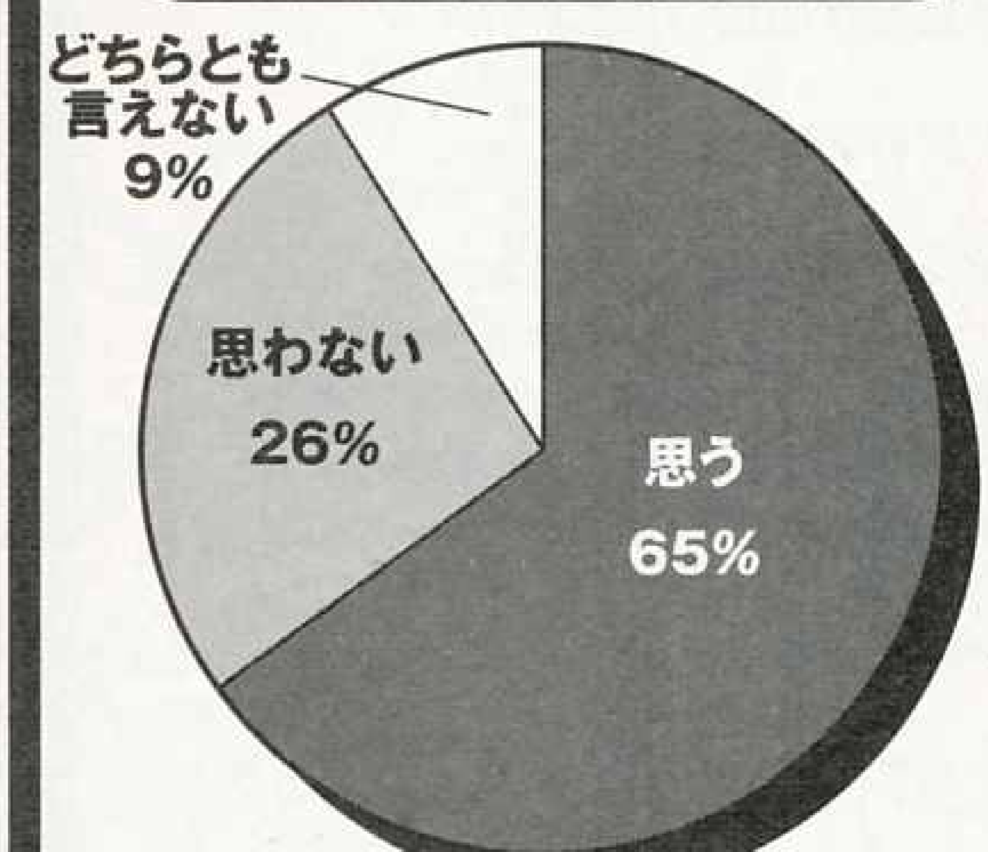
▼華やかなところ
（田中徹也　学生　19歳　男）

▼関節技など、男は必死で耐える。女は痛がる
（沢田岳彦　高校生　18歳　男）

▼女性が闘うところがすでに特別だから
（福山竜吉　23歳　男）

▼美しい人が闘うのはいいことですね
（たていしゆい　役者　20歳）

Q4 ズバリ言って女子プロレスを真剣勝負だと思いますか？



●思う ―――― 196人
●思わない ―――― 78人
●どちらとも言えない　26人

「真剣勝負だと思う」理由

▼ベルトがかかったら真剣
（国本貴　17歳　男）

▼あんなすごい技をふざけて出来るはずがない
（萩原太郎　17歳　男）

▼ショーの中の真剣勝負だと思う
（篠崎　会社員　27歳　男）

▼泣きながら試合をする人もいるから
（幸明勝　高校生　18歳　男）

▼ケガ人が多いし、そう思わないとかわいそう
（後藤康和　会社員　38歳　男）

▼プロレスが好きでやってるはずだし、見てても八百長に見えない
（沢田岳彦　高校生　18歳　男）

てしまうか分からないようなことをやってるのに……悔しいですね。こんなことしか書いてこないなんて。覚悟を決めてリングに上がるのに。ケガしたって、決められたスケジュールには絶対試合をするのに。それだけ体を張っているのに……。何か、ショック……。

——プラムさんが亡くなった一時期、一般週刊誌で女子プロ・バッシングがあったじゃないですか？

府川 ムカつきました……あんな時ばっかり。

玉田 みんな命張ってるんですよ！

——それはいつ死んでもいい覚悟ということですか？

玉田 そうですよ！

府川 でも、あっちゃいけないことですよ。

玉田 あっちゃいけないから、一生懸命体を作ってるんじゃないですか。

——観る側としても、これは腹立ちますよ。もっとマシな見方はできないですかね。

府川 でも、それが伝わらなかったんですよね。

玉田 こういう見方のファンが悪いわけではないと思うんですけど。

府川 こう思うのは自由だからね。

玉田 旗揚げ前にいい課題が出来ましたよ。

府川 「やってやろうじゃん」ってね。

出てこい！ こっちこい！ みんな命張ってるんですよ！（怒）（玉田）

玉田 「嫌い」って言った人、全員見に来てください。

府川 「女子プロ面白いじゃん」って言わせるようにしますよ。

——「真剣勝負だと思わない」という答えの中にも、いろいろあります。「練習が足りない」とか。

玉田 そう思われてしまう人も実際にいますからね。

——「試合中にキスなどするから」って、これは豊田真奈美選手と元川選手ですね。

玉田 笑いを誘うというか、そういうレスリングをする人もいるじゃないですか？ レスラーとしての色だと思います。まあ、誰もがレスラーになれる時代ですからね。そういうスキがあるから「ショーだ」と言われてしまうのかもしれないですけど。

——玉田さん的には、ああいうスキについてはどう思いますか？

玉田 アルシオンでは、ああいうレスリングは……どうなんですかね？

府川 真剣勝負じゃないとは思ってないですけど……人それぞれの個性がありますから。お客さんに自分をアピールするのに、そういうのも大切だと思うし、それを楽しみにしてるお客さんともいると思いますから。

——逆にどういう打ち出し方をしたいと思いますか？

玉田 私はデビューした頃と同じ必死さでやってきたつもりだったんですけど、全然欠けてたんですよ。だから、プロレスが好きなんだっていう気迫を見せたいですね。やらせでもショーでもねえんだゾ！ ってね（笑）。

——いいですねえ（笑）。そういう姿勢が今までの玉田&府川からは見えにくかったじゃないですか？ その調子で次の質問行きます。Q5は「ズバリ言って女子プロレスは八百長だと思いますか？」という質問ですが、228人は「八百長だと思わない」と答えてるんですよ。プロレスには八百長という言葉がいまだにつきまとってますよね。で、その理由の中で驚いたのが、



▼下っ端のほうはケンカしてる
（平林 営業 38歳 男）

▼プラムが死んだこと （土屋浩史 23歳 男）

▼出世争いなど、違う意味で「つぶし合い」をしているので
（立松龍斗 会社員 27歳 男）

▼鍛え上げた選手がどれだけすごいかを見せる場だと思う
（伊勢谷佳那恵 OL 21歳 女）

▼「受けの凄み」という意味で
（二羽信宏 のんびり屋 23歳 男）

▼真剣にプロレスをやっている、そう思います
（田中竹彦 団体職員 30歳 男）

「真剣勝負とは思わない」理由

▼やらせもあるだろう
（佐藤和恵 20歳 女）

▼下手くそだし、ドラマ性が強すぎ
（杉本麻衣子 20歳 女）

▼予定調和な部分はあると思うので
（国本拓平 大学生 20歳 男）

▼冬木に負けたから （匿名希望）

▼団体による （藤野文夫 学生 23歳 男）

▼ショーのように見える
（中野裕美 派遣 25歳 女）

▼試合中にキスなどするから
（折笠 フリーター 25歳）

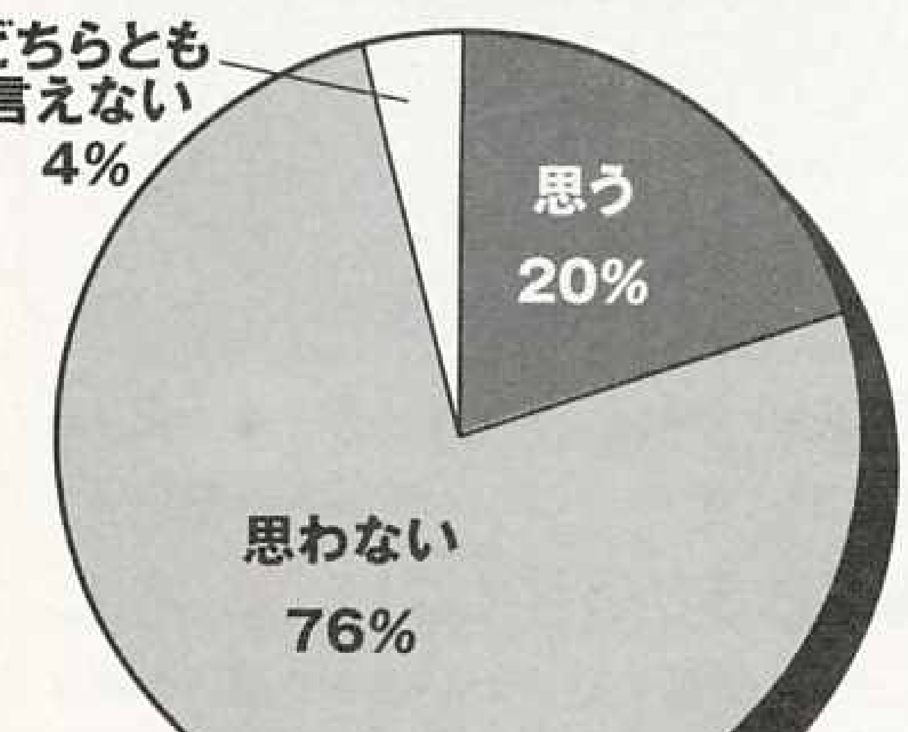
▼インチキくさい
（松浦大介 販売員 25歳 男）

▼アジャがチャンピオンではないから
（佐藤岳史 会社員 21歳 男）

▼練習が足りない （広中勇樹 会社員）

▼声がわざとらしい （鶴田祐二 25歳 男）

Q5 ズバリ言って女子プロレスは八百長だと思いますか？



●思う —— 61人
●思わない —— 228人
●どちらとも言えない 11人

「八百長だと思う」理由

▼やらせもあるだろう
（佐藤和恵 20歳 女）

▼昔よりウソくさくなったと思う
（丸山陽子 OL 23歳 女）

彼氏が「八百長」って言ったって? 彼氏が「死ね」って言ったら死ぬのか!(怒)(府川)

▼「シナリオがあるんだろうな～」と思うことが多い（杉本麻衣子　20歳　女）

▼中間だと思う。時にはエンターテイメントであってもいいと思うが、やるときは真剣にやって欲しい（湯沢利彦　会社員　33歳　男）

▼一概には判断できない（梅内幸子　アルバイト　25歳　女）

▼対戦してるレスラーが耳元でしゃべってた（真野清隆　19歳　男）

▼ショー（中野裕美　派遣　25歳　女）

▼八百長だから見る（小比類巻慎吾　公務員　39歳　男）

▼全部がそうとは思わないが……（宮下義浩　会社員　29歳　男）

▼インチキくさい（松浦大介　販売員　25歳　男）

▼大技を出しすぎ。決まってもホールが取れない（小野良平　28歳　男）

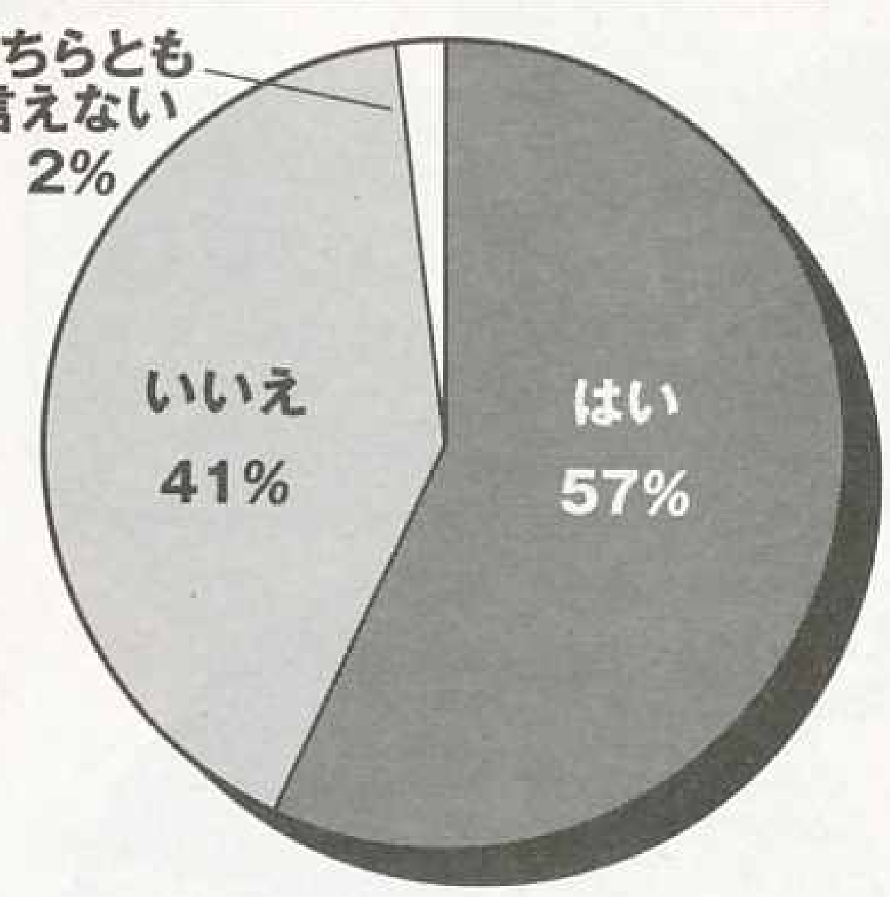
▼全部、芝居がかってるから（堀内祥子　学生　20歳　女）

▼選手間の合意がなければ、プロレスの技は成立しない。よって八百長といえば、否定なんてできない（新保克也　学生　22歳　男）

▼八百長だと彼氏に言われた（花巻ことり　吟遊魚屋　22歳　女）

▼流れが単調（中村俊章　会社員　21歳　男）

Q6 「女子プロレスは男子プロレスより下」というイメージはありますか?



●はい ―――― 172人
●いいえ ―――― 122人
●どちらとも言えない　6人

「昔よりウソくさい」という意見があったことなんですよ。

玉田　え～、こんなに過激になっているのに?

府川　「大技が決まったのにフォールが取れない」って、そんなのしょうがないじゃん!（怒）。ねぇ?

――相手が返すんだからしょうがないですよねぇ。

府川　しょうがないですよ。「女子プロって八百長なんでしょ?」って親戚とかにも言われるんですけど、見てりゃ分かるだろって!

玉田　「ちょっとやってあげようか?」ってね（笑）。

――そうやって、どんどん納得させていくべきですよ。2人でバラエティーに出たりしたときに男性タレントが絡んでくるっていう企画がよくあったじゃないですか。

府川　私、なんであんなに消極的だったんだろう? でも、私が悪いんです。プロレスの基礎が出来てなかったと思うし、今はパンクラスに行って一から勉強し直してますから。思い出すとムカついてくる～。だって、相手が面白がって「張ってください」って言っても、ホントにやったら痛いのわかるし……。



府川唯未■昭和51年生まれ。平成5年のデビュー当初からアイドルレスラーとして脚光を浴びる。昨年は全女を離脱し、アルシオンへ。アルシオン入りを機に「府川由美」から「府川唯未」に改名。さらに今月、ビジュアルブックス『裸のジャングル』をリリース。

玉田　ナメとんのか!

――そういうときはやっちゃった方がいいですよ。

府川　そうですね。もう、気を使うことないですね。やっちゃいましょう（笑）。

――「シナリオがある」っていう意見もありますね。

玉田　試合の流れをどうもっていきたいとか、そういうテーマは考えるじゃないですか?

府川　シナリオってことは決めてるってことですか? そんなに頭良くないっつ～の!（笑）。私らは女優かよ! 八百長だったらケガしないっちゅ～の!（笑）

玉田　ヒザ痛いっちゅ～の!（笑）

――「彼氏が八百長って言った」というのもありますけど。

府川　彼氏が「死ね」って言ったら死ぬのか!（怒）

――話はそれるんですが、『ケーフェイ』って本を読んだことありますか?

府川　知らないです～。

――初代タイガーマスクの佐山聡さんが書いた、「プロレスはエンターテイメントである」っていうような暴露本なんですけど。

玉田　読んでないです。そういうことしてるからいけないんだよねぇ。だったら、最初からプロレスやらなければいいじゃん!

府川　プロレスって何でもありじゃないですか。

玉田　プロレスに対して否定することなんて何もないですよ!

――わかりました。次、Q6ですが……。

玉田　こういう見方を変えていかないとですよね。

――男にない部分を見せるという話はQ3でしましたよね。別角度からこれを考えてみると、Q7と関連してくると思うんですよ。こうなってしまう原

因には専門誌での女子プロレスの取り上げ方にも問題があると思うんですよ。『週プロ』では、完全に男子と同じ扱いっていうのはできていないのが現状ですよね。その点、ゴングは『Lady'sゴング』っていう独立した雑誌を作ってますけど。

玉田　『Lady'sゴング』はいいよね。ああいう形で女子プロレスを取り上げてくれるのは嬉しい。

――女子プロだけの媒体の方がいいですか？

玉田　でも、『週プロ』で表紙になるのは凄いことじゃないですか？

府川　最終的には『週プロ』の表紙になりたいです。

――やっぱり男子プロレスも視野に入れて考えると、『週プロ』で同等に扱われるというのは大きいでしょう？

玉田　女子プロレスも昔は表紙とか巻頭になってましたけど、最近は減ってきてますよね。

――3年ぐらい前にウチの雑誌で『週プロ』の表紙登場レスラーを調べてるんですけど、その上位が1位・前田日明、2位・A・猪木、3位・天龍源一郎、4位・長州力、5位・高田延彦なんですよ。これって、日本を代表するトップレスラーじゃないですか？　ここに玉田＆府川が名を連ねることになったらいいですよね。

玉田　恐れ多いですけど（笑）。

――『週プロ』が女子プロの専門誌になっちゃうぐらいの勢いで、どんどん話題を提供していけばいいんですよ。そうすれば「女子プロが男子の下」っていう意見も消えていくと思います。

玉田　そうですね。

――Q8に移ります。男子プロレスって意識しますか？

府川　全女のときは別物に考えていたんで、あんまり男子プロレスのビデオも見なかったし。でも、全女を辞めてから、男子のプロレスに興味が湧いて……。勉強になりますよ。

――最近はGAEA改というのがありますけど、ああいうスタイルでやってみたいと思いますか？

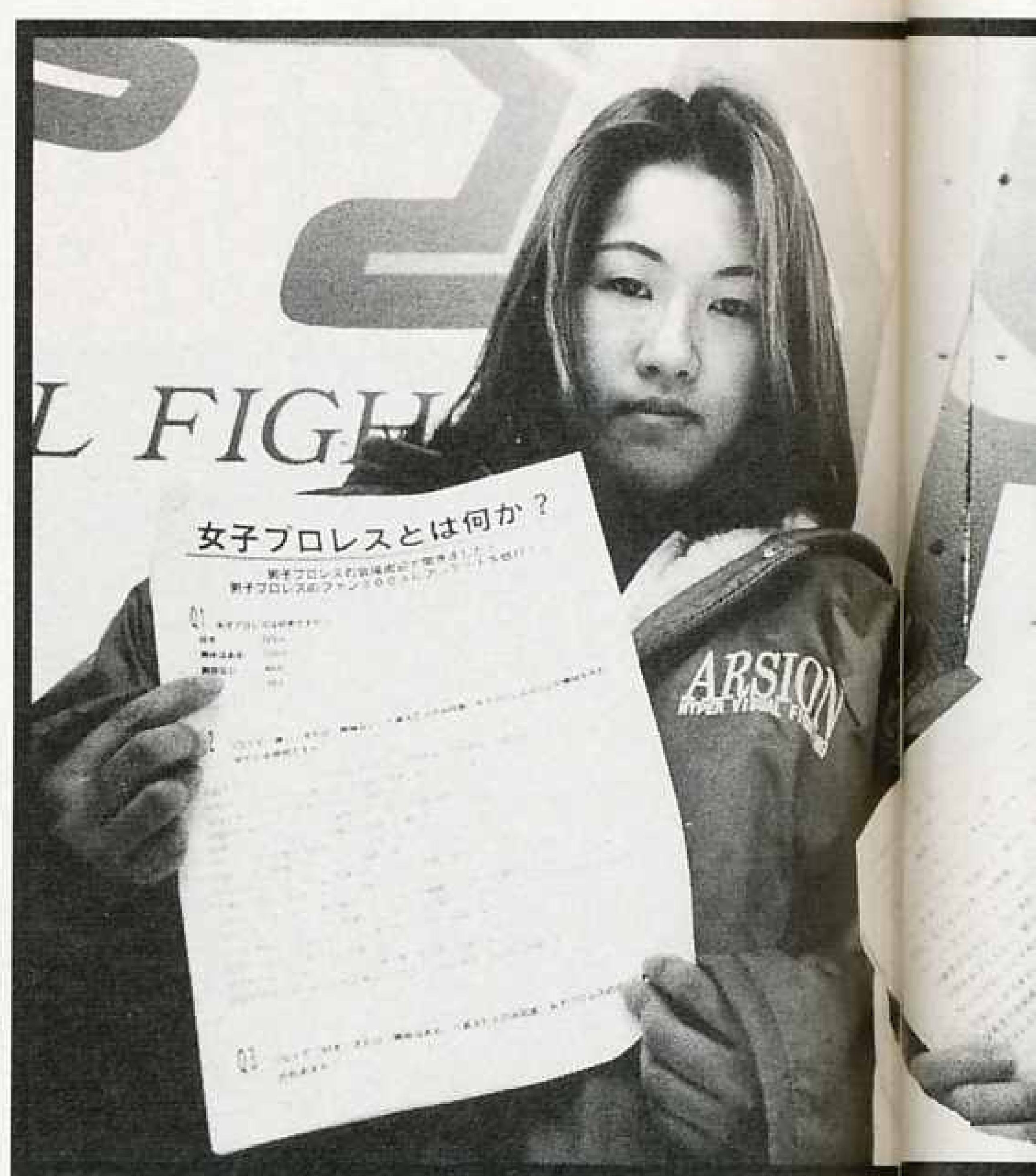
玉田　ああいうふうにキックと関節技だけって限定することはないと思いますよ。女子だから出来る部分もあるわけですからねえ。技のキレだったり、飛び技だったり、さっきも書いてあった我慢強さとかって、女子独特のものもありますよね。そういう部分を試合で出せたらいいなと思いますけど。

――で、次のQ9なんですけど、まあ順当というか……。

府川　アジャ様がトップじゃない。

玉田　ねえ？　私はアジャ様がいちばんすごいと思いますけど。

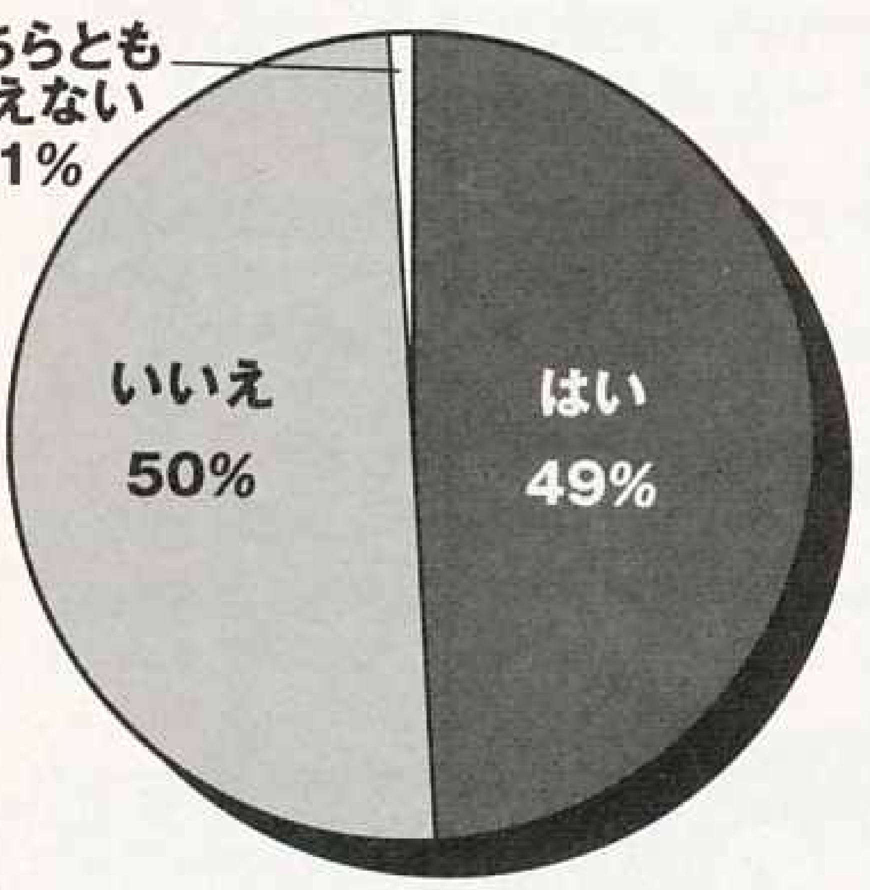
――まあ、アジャさんも2位ですからね。で、注目は里村選手なんですよね。マスコミでも大きく取り上げられてますから男子プロファンにも届くんでしょうね。



玉田凛映■昭和48年生まれ。平成3年デビュー。平成5年に再デビュー。昨年、全女を離脱し、アルシオンへ。アルシオン入りを機に「玉田りえ」から「玉田凛映」に改名。ちなみに改名はロッシー小川社長の勧めで行ったそうだ。

「女子プロは男子の下」そういう見方は変えていく！（玉田）

Q7 マスコミには男子プロレスと女子プロレスを同等に扱ってほしいと思いますか？



- ●はい ―――― 149人
- ●いいえ ―――― 150人
- ●どちらとも言えない　1人



『週プロ』は女子に力を入れている姿勢が誌面から伝わってくる。『ゴング』はほぼ月一回『Lady'Sゴング』を発行している、専門誌ならではの独自企画は他の追随を許さない。

Q8 最近、女子プロレスの試合内容が男子に近づいていますが、男子プロレスファンから見て、女子プロレスの内容について、どう思いますか？

▼女子にしかないものがあるから、それを生かしてほしい
（小林義　フリーター　22歳　男）

▼GAEAが改なるものを試みているが、男子に比べるとまだまだ技が稚拙。ただ、それが悪いとは思わないし、向上の過程を見守るのも楽しみの一つかも。男女では身体、パワーが異なるので、ムリに男子を意識する必要はないと思う。
（安倍由美　会社員　25歳　女）

▼男子より激しいと思う
（川島　公務員　42歳）

▼越えている部分もあり、劣っている部分もあるが、越えている部分を見に来ている
（湯沢利彦　会社員　33歳　男）

▼同じでもつまらないと思う
（たていしゆい　役者　20歳）

▼技が派手なのが売り物なのに、U★TOPSみたいな実戦派は面白くない
（匿名希望）

▼決して近づいてるとは思わない
（篠崎　会社員　27歳　男）

▼体重が軽いから出来ることもある
（平林　営業　36歳　男）

▼おいらは格闘技色の強い団体が好きだ！そして認めるゾ
（樋口渚　フリー　29歳）

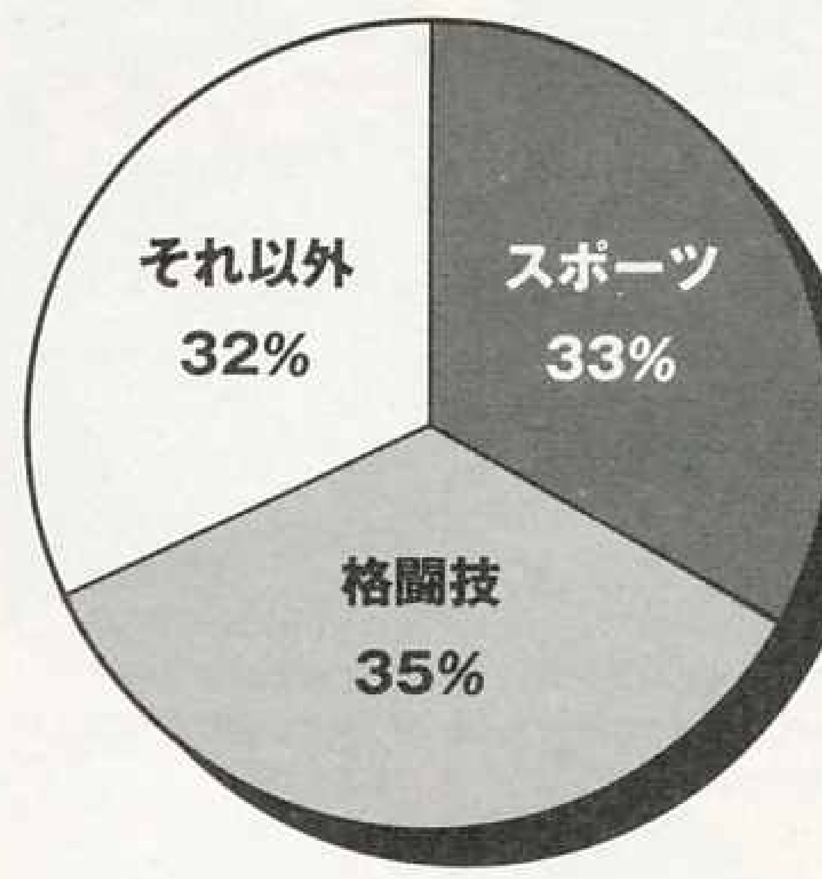
▼女子だからといって差別することはないと思う
（田中徹也　学生　19歳　男）

▼ポーク・ウォーリアーはやめてくれ
（高瀬純治　プログラマー　34歳　男）

▼無茶な大技はやめるべき
（氷室雄一朗　販売員　28歳　男）

▼技が軽すぎる。試合が噛み合いすぎている
（二羽信宏　のんびり屋　23歳　男）

Q10 女子プロレスはスポーツでしょうか？格闘技でしょうか？あるいは、それ以外だと思いますか？



●スポーツ　99人
●格闘技　106人
●それ以外　95人

それ以外って何？

▼技術よりもパフォーマンスを重視してるから、どちらとも言えないし、どちらでもない
（堀内祥子　学生　20歳　女）

▼私にはまだ答えが見つかっておりません
（甲田哲也　会社員　27歳　男）

▼芸術的なステージ
（久保田圭一　役者　28歳　男）

▼芸能ショウ
（匿名希望）

▼芸能運動会
（広中勇樹　フリーター　24歳　男）

▼スポーツであって、スポーツにあらず。ゆえに、それプロレスである
（ヒサヤ大黒　33歳）

▼スポーツエンターテイメントだと思う
（西井源　病院勤務　26歳　男）

▼格闘技＆エンターテイメント
（匿名希望）

▼スポーツと格闘技を組み合わせた総合エンターテイメント
（安倍由美　会社員　25歳　女）

▼女子プロです
（高瀬純治　プログラマー　34歳　男）

玉田　でも実際、凄いですよ。評価されるだけのことはありますよ。

府川　あの気迫はすごいよね～。

――このメンツの中で、堂々とランクインしてますからね。では最後のQ10なんですけど。

玉田　スポーツとは違いますよね。あ、またショーとか書いてある！

府川　私はどっちでもないと思う。

――どういうものだと思いますか？

府川　う～ん、アルシオンは女子プロレスを進化させたものっていうことを言ってきてるし。「レスラー」って呼ぶよりは「ビジュアルファイター」とか。そういうのを出していければいいなと思います。

――じゃあ、今までのレスラー府川由美とビジュアルファイターになった府川唯未は、どこで違いを出すんですか？

府川　難しいですよね。レスラーであることは変わらないですから。基本はプロレスに置いてるんですけど……旗揚げ戦をまだやってないですからね。

Q9 男子プロレスファンから見て「こいつは凄い!」と認められる選手を1人だけ挙げてください。

順位	選手	票数
1位	神取忍	52票
2位	アジャ・コング	30票
3位	豊田真奈美	28票
4位	北斗晶	19票
5位	ダイナマイト関西	18票
6位	長与千種	17票
7位	井上京子	12票
8位	里村明衣子	8票
9位	チャパリータASARI	6票
9位	福岡晶	6票
9位	ライオネス飛鳥	6票
9位	ブル中野	6票
13位	ジャガー横田	5票
	わからない	17票

玉田　旗揚げ戦でビジュアルファイターというものを表現しないといけないと思うんですよ。言葉で「こうなんだ！」っていうのを表現するのは難しいことだと思うんで、旗揚げ戦で皆さんに伝えたいと思います。

府川　「レスラー」って呼ばれるよりは、「ビジュアルファイター」で浸透させたいですね。

――試合やってないのに定義するのは難しいですよね。で、女子プロレスも長い歴史があるのに、アンケートはこういう答えばっかり返ってきますからね。そこでさらに、ビジュアルファイターというものを浸透させて、ふざけた意見を全部叩き潰していくのは大変な作業だと思いますけど。

玉田＆府川　頑張ります。

【98年2月3日、アルシオン道場にて収録】

今までこのページを担当してくれてどうもありがとう記念
超スペシャル「じゃ、よろしくお願いしますぅ〜」企画



健悟流 黒いパンツの心意気

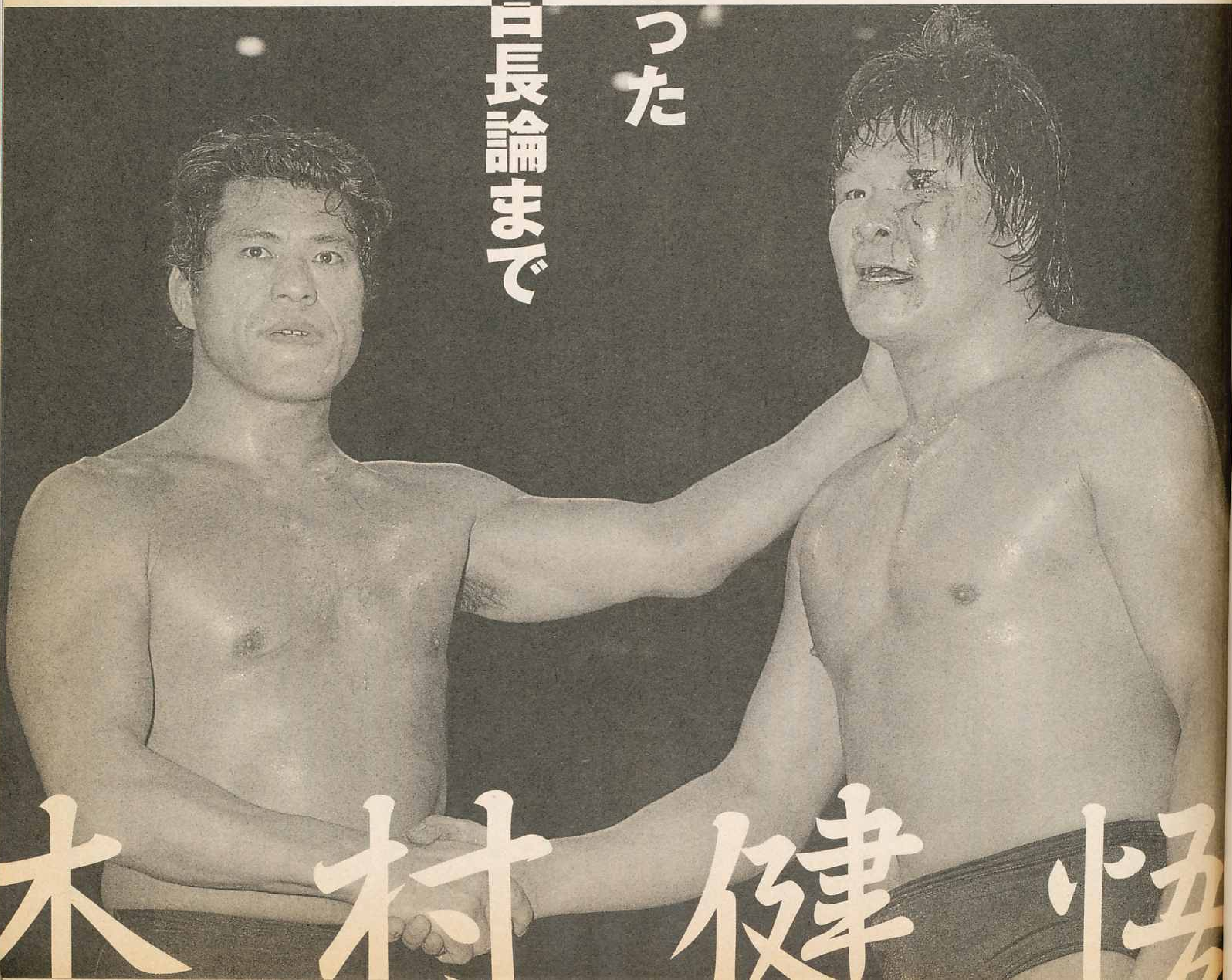
第2弾

猪木を裏切らなかった もうひとりの男 猪木、坂口から八百長論まで 大いに語る！

前号で、あまりのかっこよさにシビレた読者が続出した模様。何はなくとも猪木イズムの伝承者である我らが健悟兄ィ。西村修が批判するところの「ラリアット・プロレス」の陰に隠れてはいるが、八百長論には体を張って立ち向かい、ナメた素人には鉄拳制裁も辞さない、古き良き新日が育んだ誇り高きプロレスラーなのだ！　偉大なる健悟の魂よ、平成のファンに届け！

聞き手／吉田豪
interview by Go Yoshida

撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito



▼技が派手なのが売り物なのに、U★TOPSみたいな実戦派は面白くない
（匿名希望）

▼決して近づいてるとは思わない

玉田　でも…
れるだけの…
府川　あの…
——このメ…
インしてま…
なんですけ…
玉田　スポ…
またショー…
府川　私は…
——どうい…
府川　う〜…
レスを進化…
言ってきて…
ぶよりは「…
か。そうい…
なと思いま…
——じゃあ、…
とビジュア…
未は、どこで…
府川　難し…
ることは変…
プロレスに…
揚げ戦をま…

——健悟さんも若手の頃は上野毛の寮で暮らしていたわけですよね。あの時代の新日には無茶苦茶な人ばかりいたから、すごいエピソードも山ほどあるんじゃないかと思うんですけど。

健悟　僕自身、あんまり何がつらかったとかエピソードがどうのこうのとか、あんまり憶えてないんだけどね。

——……は？　たとえば喧嘩とかは？

健悟　う〜ん、まあちょくちょく喧嘩したんだろうねえ。あんまり憶えてないや。この頃、アルツハイマーになっちゃって（笑）。けっこう楽しかったよね。その頃はお互いにしのぎを削ってるからね。もう、ライバル意識剥き出しだから、必死だったんだけど。

——じゃあ話を飛ばしましょう。それで必死に試合を続けていくうちに新日ブームになり、そしてクーデターが起こりましたよね。あの時の健悟さんの気持ちはどんなものだったのか、ちょっと聞いてみたいんですけど。

健悟　俺ねえ、あんまりそういうこと関心がないの。あんまりそういうのにも参加しないようなタイプだから、何とも思っちゃいないんだよね。

——何とも思っちゃいない（笑）。

健悟　まあ、（猪木）社長が辞任をしてどうのこうのというのは「大変だなあ」と思いましたけどね。「猪木さんがいなくなったら、新日本はどうなるのかなあ」とか、色々考えましたよ。でも、自分のことで精一杯だからね。あんまり気にしなかったかな。

——そういう性格なんですかね。

健悟　面倒くさがり屋なのかね。だから、そういうことに首突っ込みたくないっていう頭があるんでしょうね。

——そのゴタゴタ以降、今度は佐山さんがいなくなったり、長州さんがいなくなったりとかしていくわけですよね。

健悟　選手が離脱していくっていう、これ

年を取った藤波VS木村を楽しみにしているファンに見せたいね

はやっぱり会社の経営方針が悪かったのかなあとは思いますけどね。でも、やっぱり新日本を支えてきた人間達が大量にあちこち出て行っちゃうってことに関しては、「会社はこのままだったらどうなるかなあ」っていう不安はありましたよね。だけど、後は俺たちがやっていかなきゃしょうがないって思いましたから。幸いにも藤波が動かなかったから。だからやっぱり猪木、坂口、藤波、木村でね、やってこれたっていうのは誇りだよね。

——あそこでなぜ健悟さんが新日を守る側にまわったのか、そこが個人的にすごい興味深かったんですけど。

健悟　誘いがなかっただけですよ（笑）。

——ガハハハハハ！　そんな（笑）。

健悟　誘いがあって、金積まれたら行ったかもわかんない。軽いから（笑）。

——軽いんですか（笑）。でも、あの時に守ったのは事実じゃないですか。

健悟　評価してくれないんだよね（笑）。

——ボクが評価してますよ（笑）。藤波さんはよく「新日を守った」とか「ただ一人、猪木を裏切らなかった」とか言われてるんですけどね。

健悟　そうだよねえ。そういう面ではどうしても出てこないタイプなんだよねえ、俺は。

——健悟さんも守ってるんですよね！

健悟　そうですよねえ。俺もやっぱり坂口さんもそうだけど、猪木さんが辞めたら自分が辞めるってぐらいの気持ちありましたもんね。レスリングに対する師匠は坂口征二なんだけど、レスリングのタイプが違いますからね。どうしてもアントニオ猪木みたいなタイプでしょ？　体つきもそうだし、レスリングもどうしても彼のようなものになってましたからね。彼がレスリングを辞めて会社が駄目になるようなことがあれば、やっぱり自分も一緒に辞めるってぐらいの気持ちはね。

——そんな思いで身体を張って闘い続けたわけなんですね。

健悟　そうだよねえ。まあ、それで貧乏クジを引いてる云々ではないけどもね。いま現在、まあどこまで評価してくれるのか……。評価してもらうためにやってるわけじゃないけどさ。通り過ぎたことだから、もう辞めてしまえばただ普通の人間になってしまうんだけどね。まあ、自分ではいままで動かずに新日本プロレスをずっと支えてこれたなってことに関しては、これから先もずっと誇りに思うでしょうね。

——なにしろ「プロレス冬の時代」とか言われていたような時期に、メインを張ってきたわけですからね。

健悟　うん。よくやりましたよねぇ……（しみじみ）。でもそれで自分はチャンスで四天王なんて言われてて、新日本で猪木・坂口・藤波・木村の看板でやってこれたってことで、なにしろ自分にもチャンスがありましたよね。それで「藤波を喰ってやる！」っていうぐらいの気持ちでライバル意識を剥き出しにしてやってこれただけに、自分にとってはラッキーでしたね。まあ、長州が向こうに行ってくれたおかげっていうことはないけどね。自分も働き場所ができたってことは、すごいラッキーでしたよね。やっぱりここまでこれたっていうのも、それも一つの大きな問題としてあるんじゃないですか？

——その頂点の出来事が、藤波との後楽園でのワンマッチ興行になるわけですか。

健悟　懐かしいねえ（しみじみ）。またやりたいねえ（笑）。藤波といま一緒に組んでるけど、あの頃の木村健悟と藤波辰巳との試合っていうんじゃなくて、44歳になった藤波と木村の試合を、そういう眼で見たいっていうファンもたくさんいると思うんだよね。僕自身もレスリングできるのは、あと1年ぐらいだと思うんだけど、やっぱり辞めるまでにはまたそういうことをやりたいよね。ワンマッチじゃなくても年を取った藤波と木村との試合を楽しみにしているファンに見せてあげたいっていう気持ちだよね……。そういう覚悟で見るからさ、ファンも。だから派手な動きなんてないかもしれないけどさ。

——やっぱり健悟さんにとって重要なのは藤波さんなんですね。

健悟　そうだねえ。もう憎たらしいけども、やっぱり藤波なんだよね……。

——同世代の長州さんが引退するということで気になったりはしないのかなあと思ってたんですけど。それでも長州さんではなく、藤波さんだと。

健悟　だからね、彼はちょっと別なんだよね。でもね、新日本にとって功績はすごい残して一つの時代を作った人だから大したもんだと思いますよ。ホントに自分は歯が立たなかったけれども、やっぱり大変な選手だよね。彼が引退するっていうのも寂しいけど、それと藤波が引退するのとはちょっとまた違うよね。まだ藤波選手は引退するわけじゃないけど、いずれかはその時がくるわけだから。

——現場責任者としての長州さんっていうのは、いかがですか？

今までこのページを担当してくれてどうもありがとう記念
超スペシャル「じゃ、よろしくお願いしますぅ～」企画



健悟　ああ、よくやってんじゃないですか？　すごいでしょ。やはりねえ、彼がここまで若い選手とか指導しているから若手でも余所の団体よりいい試合してるんじゃないですか？　ただ、自分たちの頃の若手とは違うけどもね。

――違いますか……。

健悟　やっぱり違うと思う。もっとやっぱり俺たちは凄かったな、面白かったなっていう自負はあるね。

――いまの新日と昔の新日っていうのは、中にいるレスラーの側から見てもそんなに違うものなんですか？

健悟　うん。昔はやっぱりピラミッド型でしたからね。頂点はアントニオ猪木だったし、若手は若手っていう土台の一番下でやってるっていう。いまはもう全部横一線でしょ。確かにトップは橋本だ、武藤だ、健介だ、蝶野だっていますが、でもそれとは違うね。また若手なんかもテレビに出て、みんなスターになってるわけですよ。そういう意味でもいまと昔の違いはかなりありますよね。確かに若手の人が客を引っ張って来るっていうのは、すごくいいこと。俺たちだって前座の頃、俺の試合を見たくて来るお客さんもいたしね。だけどやっぱり昔はメインに猪木さんが出て、最後にビシッと締められる力があっただけにね、いまとはやっぱり違う。いまは誰がメインになってもおかしくないもんね。ジュニアがメインになったって、お客さんは満足して帰る。そういう意味ではどっちがいいのかって言えば、俺はやっぱりピラミッド型っていうのは最高だと思う。だけどトップが怪我でもしてお休みになっちゃったら、動員数がどうとかあるのかもしれないけどもね。

――そういう意味で横一線型というのは興行として非常にやりやすいスタイルなんですよね。誰が欠場してもそれなりになんとかなるっていう。

健悟　だけど、これだけ選手層厚かったらね、A班B班ぐらいの2手に別れて興行やってもおかしくないよ。それだけのスター選手が揃い過ぎてる。

――ある意味、平成維震軍がそうなれそうな存在だったんですけどね。

健悟　だったんだけどね。なかなかやっぱり俺たちだけの力じゃ難しいから。やっぱり本隊があっての何かなんだよね。選手はどうしても本隊から引っ張ってこなくちゃならなくなっちゃう。ｎＷｏなんてのは、そういう勢いあるよね。彼たちが独立してそういう別のモノを作っていくとかね。まあ、いまさら平成維震軍がどうこうっていうことはないんだけれど。もう、それだけの昔ほどの勢いはいまは陰を潜めてるだけで。まあ、越中でもカムバック（1・4で復帰）しないことにはちょっと行き詰まっちゃってるからね……。

――それで、再び話は戻るんですけど。

健悟　何度も脱線しちゃうね（笑）。

――いやいや、問題ないです（笑）。ちょうど健悟さんが新日本を守られていた頃、ＵＷＦの選手達が出戻りで帰ってきましたよね。それで彼らと何度も対戦して、蹴りをガンガン叩き込まれた、と。あの頃の健悟さんの心境って、どういうものだったんでしょうか？

健悟　それはねえ、やっぱり同じ釜の飯を喰った後輩たちがね、自分たちのスタイルでやりたいっていうことで始めた人間がまた俺たちのリングに上がってくるということは、やっぱり敵と見なすわけですからね。そりゃあ新日本を守んなきゃいけないっていう気持ちで、それはよく激しい試合をやりましたよね。サンドバッグみたいとか言われましたし、それだけ沢山蹴られてどうのこうのしたってことなんでしょうけど、やっぱり誇りに感じますよね。

――ああいうプロレスタイルって、健悟さん的にはどうなんですか？

健悟　いいんじゃないですかねえ。奴らは奴らでそういう本物志向で、プロレスのプロという部分を取り除いてやろうっていう考え方もいいことはいいと思う。だけど、果たしてファンがどうであるかっていうことになればね。だから、あそこの会社っていうのは長続きしなかったんじゃないかなっていうのはあるよね。いいものをすごく持ってやってることはやってるんだけど、でもやっぱり新日本のファンというかプロレスのファンは減らないというか。何があろうと新日本のファンっていうのがあるし。彼らが目指そうとしたことは、それでいいことだと思うしね。

――ある意味、猪木イズムの根底にある一部分だけを拡大解釈したスタイルですよね。で、また健悟さんも別の猪木イズムにスポットを当てたわけじゃないですか。3の力しかない相手から5も7も力を引き出すような部分に。

健悟　う～ん。というか本当はね、そういうふうには交わっちゃ駄目なんじゃないかと思うの。俺たちのレスリングと奴らがやろうとしているレスリングが交わっちゃ、ホントはいけないんじゃないのかな、と。そうじゃないと、彼らの目指すものが壊れちゃうよね。

――お互いに壊れかねないですね。

健悟　そりゃファンはすごく楽しみでしょうね。ファンのため、いいカードを出すためにそういうことをやるんだけれども、奴らは奴らで一つのグループでやれるものなら最後までやり通した方が良かったのかもしれない。

――正論ですね。で、ＵＷＦが参戦している頃、新日では暴動騒ぎなんてこともありましたよね。そういうのを本隊のトップクラスだった健悟さんは、どういう気持ちで見ていたんですか？

健悟　そうだねえ……。そのときは何とか鎮めるしかないんで必死だったんだけど、でもいま考えてみればすごくいいアレになったんだろうね。それだけ反響があったんだから。まあ、お客さんが暴れてどうのこうのということに関しては、いまから考えてみればやはりプロレスに対する、新日本に対する、俺たちに対する期待感から起きるんだしね。これから先も、いつ起きてもおかしくないっていうことだし。その時はあっちゃいけないんだけども（笑）。いま考えてみれば、暴動もあってよかったんじゃないかなって。

――それだけ本気で試合を見て、感情移入してたってことですもんね。

健悟　そういうことですね。怖いですね、お客さんは（笑）。

――あの時期、新日が間違った道を進んでいるだの何だのとか言われてましたよね。で、藤波さんが前髪を切って猪木さんに直



1月の契約更新の時期には何かと噂が絶えなかった健悟兄ィ。ここ数年、新日の新陳代謝は進んでいる…。

▼技が派手なのが売り物なのに、U★TOPSみたいな実戦派は面白くない
（匿名希望）

▼決して近づいてるとは思わない

健悟

訴したりとか。

健悟　あったねえ、うんうん。色々とね。でも結局、目指すところは同じなんだよね。藤波にしても俺たちにしてもUWF関係の選手にしても、目指すところは同じだしね。だから藤波は無我っていうものを作ってね。ホントは彼なんかはそれをどんどん拡大していくべきだと思うし。UWF系の選手は自分たちのスタイルにこだわりを持って突き詰めていくべきだと思うしね。

――そこで健悟さんは、どういう道を歩むのかということなんですよね。

健悟　うん。いまは平成維震軍の方に力を貸してね、まあ貸すというか仲間だしね。かといって、ああいうレスリング云々ではないんだけども、やはり猪木イズムというのかな。やっぱり俺はどちらかというとそういうタイプだから。2つを使い分けるわけじゃないけど、平成維震軍のようなスタイルもやるし、藤波をパートナーとしてやるときは猪木イズムでレスリングをやりたい。ただ、俺もだんだん年になって動けなくなってきたから、脱線しつつあるけどね（笑）。

――あっ、そうなんですか（笑）。

健悟　この頃は躓いたりとかさあ、ヨロヨロすることあるからねえ（笑）。ちょっともう年を取り過ぎたかなとは思ってるけど。

――それでも猪木イズムだと（笑）。これまで健悟さんは坂口イズムの人だと誤解されてきたと思うんですよ。

健悟　やっぱり、どこから見たってレスリング的なアレっていうのは違うでしょ。でも、気持ちはやっぱり坂口イズムですよ。だから2種類の全く違う師匠がいるような感じでね、レスリングに関する考え方は猪木さん。でももう、木村健悟という人間がここまでやってこれたというのは坂口征二のおかげ。それでやっぱりライバルがあって猪木さんがいてね、ここまで来れた。

――つまり健悟さんは、「格闘技的要素をプロレスに入れるべきではない」とか思ってるタイプじゃないんですよね。

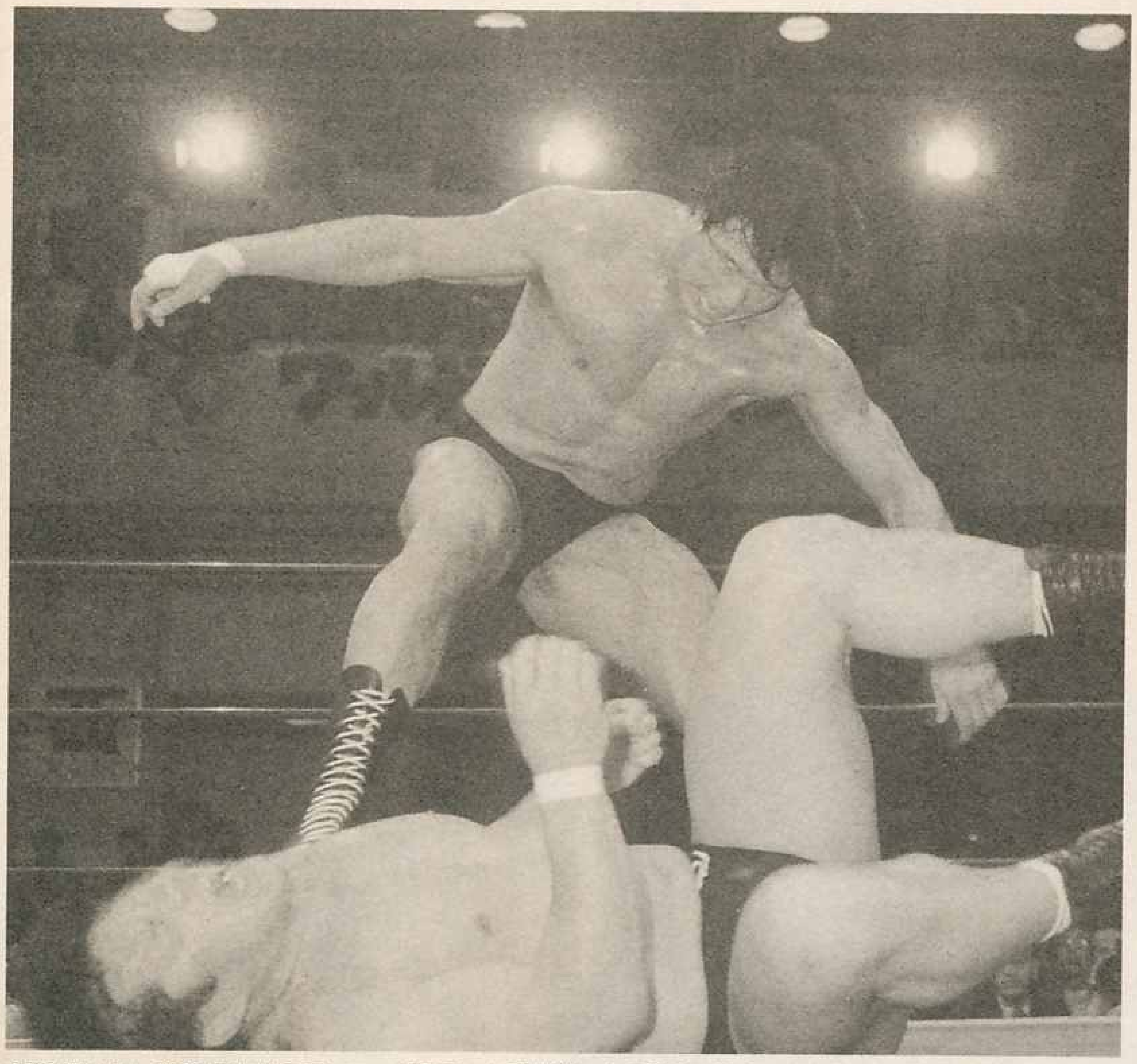
健悟　そういうことには拘らないし、入れられるもんならどんどん入れていけばいい。だからボクはボクシングのジムにも行ったし。

――ベニー・ユキーデのジェットセンターにも行きましたもんねえ。

健悟　ああいうこともキックの防御ということに対してでね。でも簡単に使えるとは思わないわけ。1カ月やそこそこで蹴りをマスターなんてできるわけないんだから、やっぱり難しい。実戦をずうっとやっておかなきゃ、いざというときには出ない。だけど自分はレスラーであるから、蹴りがきたらそれだけカットしていくっていうね。チャンスがあれば自分のテクニックで、もしくはパンチで反撃するべきなんだけど反則だから使えない。やっぱりどうしてもカットでね、サンドバッグみたいにボコボコ受けてたら自分の身体が持ちませんから。やっぱりそういうふうに全部防御していくっていうね。

――レスラーのプライドとしての部分で格闘技を学んだという感じですか。

健悟　うん。だからできるもんならいろんなものを絶対に持っておくべき。ボクシングもそう。そりゃあ蹴りに関してもある程度はマスターしなくちゃいけないし。相手が蹴りにきたんなら、それを防御できるぐらいのものを持っておかないとやっぱり駄目でしょ。後はやっぱりレスラーですからタックルしてそういうもので返していければね。



87年1月14日、藤波VS木村のワンマッチ興行。大量離脱により選手が激減した新日。そんな中、健悟と藤波はライバル意識を熱く燃え上がらせた。いかに隆盛を誇る平成の新日とはいえ、ワンマッチで興行は打たない。贅沢な空間である。

――健悟さんの中ではプロレスって格闘技の範疇に入るんですか？　それともスポーツ？

健悟　これはね、やっぱりスポーツじゃあないよね。もちろん格闘技としてもあるべきだと思うしね。ファンがプロレスというものを見て楽しんでもらうための、別の意味で言えば娯楽っていう見方で見てくれてもいいし。

――何でもありなんですかね。

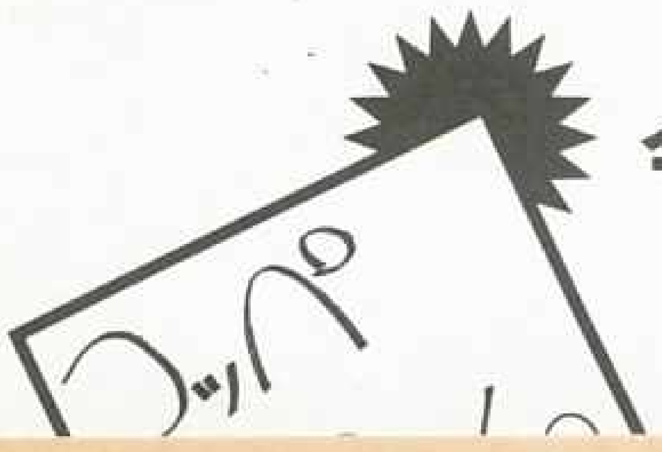
健悟　昔はね、プロレスっていうものが「これは八百長だ」とか言われたことに対して、すごく反論できた。反論してた。だけど、見方によっちゃあファンの楽しみ方っていうのは様々だと思うわけね。たとえば今日（11月24日）だって2000人近くのお客さんが見に来てくれている。その中には娯楽として見ているんだとか、真剣に見ているんだとか、色々あっていいと思う。

――まあ実際、あるんでしょうしね。

健悟　だけど、昔はそういうこと言えなかった。「とんでもない。俺たちは一生懸命やってる。どうして怪我までしてそこまでやらなきゃいけないんだ！」と。紙一重じゃないですか、大怪我をするのもしないのも。それなのに怪我までして血だらけになって、歯が吹っ飛んだだのどうのこうのって、これは自分の身体を痛めつけて寿命を縮めてるようなもんじゃない。そこまでしてね、「あれは八百長だ」とか言われるのはとんでもない話で。自分たちはそれだけのものを持ってね、練習を積んでそこまでやってるんだということが言えた。だけどね、この頃はもうそういうこと言うのが面倒くさくなった。

――面倒くさくなった（笑）。

健悟　もうね、「ああ、そうですか。わかりました。そういう見方でいいんじゃないですか？　なんならプロレス見なくて結構ですよ」って言いたくなる。だから、どっかで飲んでるときとか飯喰ったり遊んでるときにそう言われることが、いっちばん嫌い



今までこのページを担当してくれてどうもありがとう記念
超スペシャル「じゃ、よろしくお願いしますぅ～」企画



なの！

――昔は「八百長」とか言われると、全部に食って掛かってたわけですね。

健悟　もう、全部！

――下手すれば殴るぐらいの（笑）。

健悟　もう、本当にいつ始まってもおかしくないぐらいで。「かかってこい！」って言うタイプですよね。いまはもう皆さん、いろんな見方があるから。だけど自分は自分なりに格闘技として頭の中に、心の中に入れてずっとやってきたんだから。だけどファンの人にいろんな見方があるんだったら、それはそれで構わないんじゃないかな、と。

――ある意味、プロレスが昔とは変わってきたって部分もありますよね。

健悟　そうね。だからまず蹴り技が、打撃系が入ってきたってことに関してもかなり違うよね。技にしてもすごく細かくなって来たしね。もうほんとにこれ以上ないんじゃないかってぐらいになってきたでしょ。これ以上何があるんだろうなあって思っちゃうね。

――技といえば健悟さんの得意技も、かなり個性的ですよね（笑）。

健悟　そうですか？　アホらしくて人が真似しないだけじゃないですか（笑）。

――得意技が（稲妻レッグ）ラリアートと（トライアングル）スコーピオンなのは長州さんに対するメッセージなのかなとも思っていたんですけど。

健悟　あれはねえ、例えばイナズマにしても猪木さんの延髄蹴りとハンセンのラリアートが、本当に素晴らしいなあと思って見てたんだよ。これをふたつ組み合わせたらいいの出来ないかなって考えたのがイナズマだったんだよね。パッと頭に思い浮かんで、練習もなんにもなしで使ったから、あいうことになっちゃうんだよねえ。最初は格好良かったんだけど、だんだんだんだん格好悪くなって来てねえ（笑）。足も上がらなくなって来たし（笑）。

――切れ味が鈍くなって来ましたか。

健悟　鈍くなって来たねえ。ああいう馬鹿らしい技はみんな使わないのかなあ。誰も真似してくれないねえ（笑）。

――でも個性はありますよ！

健悟　そうだねえ。イナズマって言えば木村健悟っていうことをわかってくれれば、それだけでもプロレスラーやってこれたっていう誇りですよね。

――ところでイナズマって叫んだきっかけって何だったんですか？

健悟　違うの、あれは古舘伊知郎がテレビで「稲妻のごとく、閃光のごとく」ってことを言ったから稲妻になっちゃっただけで、それまではイナズマって名前も何も、あの技がどんな名前かもわかんなかったんだから。

――古舘さんが先走っちゃった、と。

健悟　それで有名になっちゃったんだね。「閃光の稲妻のごとくドーン」って。だからイナズマになっただけで、俺は何だかわからなかったっていうの（笑）。

――いい加減ですねえ（笑）。

健悟　まあイナズマが定着したからね。それからマイク向けられたら「イナズマ！」だったけどね。竹下通りのそういう何とか族の間でもイナズマっていう言葉がちょっと有名になったとかって。嬉しいもんだよね。「ハワイからイナズマ」とかさ、やってたもんねえ。いま考えたら馬鹿みたいだねえ（笑）。

――面白いですねえ、健悟さん（笑）。

健悟　そう。話がどんどん脱線しちゃうねえ（笑）。

――興味深い話が次々出て来て最高ですよ。いま、健悟さんから見て若手で気になる選手っていますか？

健悟　気になるっていうか、これからの新日本を自分が背負うんだって気持ちでね。ただ単にわけわからずやってるっていうんじゃなくて、自分がトップになるんだって気持ちを持ってほしい、と。そうすれば絶対に次のスターってのは現れると思うしね。チャンスがいっぱいあるんじゃないですか。ジュニアの選手も一つの世界が確立されているっていうね。そういうこと考えれば藤波の功績って凄く大きかったし、大変なことだと思うしね。それ以上はあんまりコメントのしようがないね。

――後輩の中には二代目木村健悟にしたい男とかいませんかねえ？

健悟　いやいや、木村健悟っていうのは僕だけでいいです。これは、どうのこうのして出来るもんじゃないし、自分たちの立場があるはずだしね。トップがあれば必ず二番手があるし、二番手があれば三番手はある。あるかなあ？　まあ、好き好んで二番手になる奴はいないしね。自分がトップになりたいって気持ちでやって来たんだから。でもお互いライバル意識を剥き出しにしてやってきたから、藤波とか長州がやっぱりトップになったんでしょ。自分にそれだけの力がなかっただけだから。あったら俺がなってたよ（キッパリ）。それだけ俺より奴等が優ってたってことだけでしょ。かといって俺が好きで二番手にまわった訳じゃないけどさ。みんなそれぞれ一生懸命やれば、自然のうちにそういうことになってくると思うしね。そりゃ人気のあるものがトップになるはずだしね。選手が決めるんじゃなくてファンが決めることだしね。しょうがないでしょうねえ……。

――……健悟さんの付き人っていうと、武藤さんとかがやられてましたよね。

健悟　そうですねえ。俺の付き人やったヤツはみんな出所、いや出世しちゃうんだよね。武藤が最初でしょ、橋本もやったでしょ、蝶野はやってないんだよねえ。あとはサムライなんかもそうだしね。高岩なんかもそうだし、結構いるんじゃないですか。

――健悟さんは、けっこう付き人には厳しい方なんですか？

健悟　いや、そうでもなかったでしょう。ただ、性格とかレスラーとしてこうしなきゃいけないってのは、結構厳しく言ったつもりですけどねえ。レスリングのセンスっていうのは、それぞれ持ってるもんだから。だけど、レスラーだから胸張って歩くんではなく、レスラーだからこそちゃんとしたものを持たなきゃいけないってことを強く言って来たんですね。これはやっぱり自分も教えてもらいましたよね。

――坂口さんからですか？

健悟　彼からも教わりましたけど、山本小鉄さんがすごく厳しかったですね。目立つんだから、人から見られるんだから、だからこそ謙虚にならなきゃいけないって。でも若い頃は、それがわかんないんだよね。自分がこの世で一番偉いっていう気持ちだから、どうしても街で胸張って歩いちゃうんですよね。だから若いうちに、一歩引くっていうことを自分で知らないとね。これがまだ、いまでも難しいんだけどねぇ。

――いまでもですか？

健悟　難しいんだ（笑）。普通の人に何か言われたら、「すいません。悪かったな」っていう言葉が出せるようになりたいなって。レスリングの中だったら、いつまでたってもカリカリしてていいと思う。だけど

昔は「八百長」って言葉に
反論してたけど
今は面倒くさくなっちゃった

玉田　でも
れるだけの
府川　あの
――このメ
インしてま
なんですけ
玉田　スポ
またショー
府川　私は
――どうい
府川　う～
レスを進化
言ってきて
ぶよりは「
か。そうい
なと思いま
――じゃあ、
とビジュア
未は、どこで
府川　難し
ることは変
プロレスに
揚げ戦をま

▼技が派手なのが売り物なのに、U★TOPSみたいな実戦派は面白くない
（匿名希望）

稲妻レッグラリアートは誰も真似してくれないね

一般の世界ではね、常識のある人間になりたいなと思ってる。それが出来たときは、たぶん死ぬときだろうなあ。それまでわかんないかもしれない。でも人間として、レスラーとして、そういうふうになりたいなあと思っている。出来ることなら、人の役に立てることがあったらなあって思う。だんだん方向変わって来たし、人間らしくなって来たんじゃないかな。

――昔は何だったんですか（笑）。

健悟　何だったんだろうねえ。カミナリみたいな奴だったかねえ。

――昔から稲妻だったんですね（笑）。

健悟　悪かったからねえ。人間の心を持っている反面、それを出せないのが人間なんだよねえ。それが出るようなときは、死んでるときかなあ。一歩でも早くそういう人になりたいですよ。

――それはまさか「死にたい」ってことじゃないですよね（笑）。

健悟　違う違う（笑）。でもね、トラブルはなるべく避けたいなと思ってね。でも、いざとなったら駄目。クラクションひとつ鳴らされただけで、いまでも車降りていっちゃうもん。

――いいなあ（笑）。まだまだそういうハートを忘れてないわけですね。

健悟　とことん、後ろから付いて行っちゃうんだよね。よくあるんだよ。首都高速でクラクション鳴らされたり、ちょっと入れてくれなかったりね、もぉ～う我慢できない。付いて行ってガーッと車止めちゃったことあるよ。トラックにクラクションで煽られたときなんて、もぉ～う我慢出来なくて、道の真ん中でトラックの運転手引きずり出したこともあったね。そういうことは抑えられたらいいと思ってますよ。

――いや、レスラーらしくて非常に素晴らしいことですよ。あれっ？

金澤中　あっ、失礼します。今日はどうもお疲れさまでした。私、金澤中と申しまして、プロのシンガーソングライターを目指して関西から上京して来たんですが、実は藤波選手に何年か前にデモテープを渡したことがありまして、結構聞いて頂いてるんですよ。今日は試合に出られていなかったみたいなので、木村選手に聞いて頂こうと思いまして、やって参りました。これからも精一杯頑張りますので、金澤中と申しますので、よろしくお願いします。

健悟　何か選挙やってるみたいだねぇ。

金澤中　どうかよろしくお願いします。

健悟　わかりました。頑張ってよ！

金澤中　ハイッ。ハイッ！

――あの～、もしかして木村選手を歌手として尊敬してるんですか？

金澤中　全て含めてですけども、藤波選手、木村選手、長州力選手、含めて尊敬しております。どうぞよろしくお願いします。金澤中、24歳です。これからも頑張りますので、よろしくお願いします。今日は凄く感動しました。どうもありがとうございました。

健悟　どうも～。

――さすがに健悟さんは、歌手にまで慕われているんですねえ（笑）。

健悟　あの～、気持ちは一緒だからさぁ。何かでのし上がりたいっていうのはね、スポーツも歌手も一緒だよ。

――健悟さんもそうだった、と。せっかくなので歌の話も聞きたいんですが。

健悟　また脱線しちゃうよ（笑）。

――すいません（笑）。で、最初にまず自主制作盤を出したそうなんですけど、それはどういう経緯だったんですか？

健悟　たまたま知人から話があったんですよ。歌も好きだったしねえ。その頃レコード会社なんて知らないからさ。まだそんなに名前がない頃だから。

――どのくらいプレスしたんですか？

健悟　5万枚ぐらいしたんじゃない？

――そんなにしたんですか!?

健悟　いろんなとこ持っていって売ったなあ。でも自主出版だったからさ。

――その後、プロスポーツ歌謡選手権みたいな番組で優勝しましたよね？

健悟　ああいうのに出るようになってからは、プロのレコード会社から出すようになったねえ。……余興ね。

――余興ですか（笑）。一番最後の曲というと『デュオ・ランバダ』ですか？

健悟　やったよね。ちょっと、ちょっとタイミングずらしちゃったけどね。

――ずらしましたか（笑）。ところで歌とプロレスの共通点ってありますか？

健悟　まあ俺は歌っていうのは好きなだけだから。それで人よりちょっとだけ上手いってだけ（笑）。ただし俺が歌で生活してるんだったら、さっきの人と同じでね。レスリングみたいに必死になっていろいろと努力するだろうね。人間ってやっぱり努力だから。そのことに夢があって、それを達成したければ絶対に努力するはずだから。

――やっぱり夢ですか。

健悟　何もしなくて自分がトップになろうと思っても、それは無理。だからいまの若い子達にも自分の子供にも言ってるんだけど、「何でもいいから夢を持ちなさい」って。成功しようがしまいが、努力することに価値があるんだよね。俺が一番好きな言葉は「独立独歩」なんだけど、これは一人の足で立って自分で歩くってことでしょう。つまり、夢に向かって歩けっていうことでね。それから「一念岩をも通す」って言葉ね。硬い壁に向かって、絶対これは乗り越えられる、向こうのゴールに必ず届くんだっていう気持ちがあったら、どんな硬い岩でも必ず貫通出来るって言葉なんだけど、これをみんなにも持って欲しいんだよね。

――健悟さんの夢っていうのは新日でトップを取ることだったんですよね？

健悟　そうだったんだけどねぇ。破れたけどねぇ……。でも一生懸命努力したからね。人一倍若い頃練習したし、アメリカ行く前なんか、すっごく練習して、縄跳びやるときでも10キロの重り付けて縄跳びしたりねえ。自転車で脚をパンパンに腫らしてから脚の運動したりねえ。人よりも多く脚の運動やって、人よりも多く脚を鍛えて、ボクシングのジムに通ったりしたでしょう。自分がやってきたからこそ、いままでこれたと思うんだよねえ。夢っていうのは簡単に掴めないかもしれないけど、それに向かって努力することが素晴らしいんだし、後々に絶対役に立つよってこと。これからの若い子供達がそういう気持ちを持ってくれば、絶対に良くなるはずなんだけどねぇ。それがわかんないから非行に走ったり、人を平気で傷つけたり出来るんだねぇ。またズレたなあ、話が（笑）。

――いやいやいや（笑）。それで現在の健悟さんの夢っていうと？

健悟　う～ん、いまも年に2回ぐらいはチャリティーでディナーパーティーをやったりしてるんだけどね。車椅子を送ったり色々やってるんだけど。「木村健悟」っていう名前があるうちに、人の役に立ちたいなと思っている。それが何かわからないんだけどね。

今までこのページを担当してくれてどうもありがとう記念
超スペシャル「じゃ、よろしくお願いしますぅ～」企画

——健悟さんの奥さん（議員）は、相当役に立つことしてるんですよね？

健悟 役に立たそうと思って、自分が騙してあの世界に引きずり込んだの。

——あっ、そうなんですか？

健悟 本人は嫌だったんだから（笑）。

——無理矢理選挙に出しちゃった、と。

健悟 そうそう。本当は俺の夢だったたし、いろんな人たちのために働けるなら自分が働きたいなと思っていたから。でも「木村さん、もったいないから区議会議員なんてやめなさい。でも、奥さん出したら面白いんじゃない」って話になって、それは面白いってことでね。本人は、「私は普通の主婦なんだから、絶対そんなことやりたくない」って言うのを、「いいからやれ」「誰でも当選するからやれ」「当選したらお給料貰えて、こんな楽なことないんだから」って騙しちゃてね。そしたら「とんでもない、こんな忙しい仕事はない」って言ってるよ（笑）。でも今は、二期当選したら、今度また再来年位に選挙あるんだけど、「三期目もう辞めたくない」って言ってるね。人のためにやるってことをやっと気付いてくれた。

——やっと気付きましたか（笑）。

健悟 最初は無理矢理やらしたんだから。議員になる、ならないんじゃないんだけど、何か人のためにもっともっと役立つことってできると思うんだけどね。車椅子だって立派なもんよ。目黒区に20台送ってるんだけどね。それで20人の人が助かる。今年も12月に、また車椅子送ろうと思ってるの。それで人が助かればそれでいいじゃないですか。ちゃんと車椅子にもイナズマ1号、2号とか書いてんの。

——書いてますか（笑）！

健悟 いや、書いてるか書いてないかわかんないけども、もちろん「木村健悟贈呈」とは書いてるけどね。ほんとはイナズマ1号からズーッと付けていこうと思ってたんだけどね。

——それは貴重な車椅子ですね（笑）。

健悟 乗ると感電するとかね（笑）。そうやってこれから先も、人の役に立てるように頑張らないとな。でも辞めちゃうと、意外とただの人間になっちゃうってことあるかもらね。

——そういう考え方っていうのは、若い頃に相当悪い事をして来たからこそ逆に出て来たものなんですかね？

健悟 そうなんじゃないですか。普通の人間の気持ちでね。花を見たら綺麗に見えるようになったんだもの。いままで綺麗に見えなかった。花見て綺麗だなって奴は、よっぽどの暇人だと思っていたもん。確かに生花は生きてるし咲いてるけどさぁ、綺麗と思わなかったもん。だけどいつ頃からかなあ。人の役に立ちたいと思ったからかなぁ。だんだんだんだんとね。……しんみりしてきましたねぇ。

——その変化には、坂口さんの影響とかもあったりするわけですか？

健悟 う～ん、じゃないんだけどねぇ。そういうことではなくて、自分自身で一生懸命やってきてね。だんだん、歳を取って来たせいかもしれないねぇ。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」じゃないけど、自然のうちにそうなってきちゃったんだねぇ。これは皆さんの影響もないとは言い切れない。親ウチの家内の影響もすっごく大きいし、もちろん坂口さんの影響もあるだろうしね。猪木さんの影響もある。それと自分がだんだん歳を取って、そうなったのかもしれないし。

——猪木さんには試合の面で様々な影響を受けたと思うんですけど、人間的な面で影響は受けましたか？

健悟 そこはノーコメントだな。

——そうですか（笑）。

健悟 アントニオ猪木は、神様のごとく尊敬しています。レスリングに対しては素晴らしい。それ以外のことはノーコメント。

——なるほど（笑）。あの人はファンとして離れて見てると本当に面白い人じゃないですか。身近にいて色々と巻き込まれたら大変なんでしょうけどね。

健悟 難しい問題だなあ（笑）。

——猪木さんのそばにいると、逆に猪木さんがああいう人だからこそ、「俺がしっかりしなくちゃいけない」という思いが出てくるんだと思うんですよ。

健悟 周りが？

——ええ、それは坂口さんもそうだし。

健悟 それ、どういう意味？ 猪木さんがしっかりしてないってことか？

——そうですね。まあ、いい意味で非常識な人じゃないですか。

健悟 ハハハハハハ（笑）！

——それゆえに、周囲の人たちが常識的にならざるを得ないというか。

健悟 プロレスの世界だから生きていけるのかなあってことか？ だからあの人は、その延長で議員になっちゃったのかなぁ。最初は志が凄いあってね、「自分は世界平和のために！」って気持ちは凄いあったと思うんだよねぇ。

——健悟さんも、一緒に選挙運動とかされてましたよね？

健悟 しましたよねぇ。猪木さんが当選したときは、素晴らしかったですよ。プロレスもまんざら捨てたもんじゃないなって思いましたね。まあ馳なんかはあれは全日本の力で当選したんだけどね。そりゃあ新日本プロレスの力もあるだろうけど。だけど猪木さんの場合はアントニオ猪木の名前だ



94・11・13、NKホールで平成維震軍が旗上げ。力強いガッツポーズである。維震軍スタイルも、ストロングスタイルも出来る健悟兄ィ、いずれは無我に上がった姿も見てみたい

▼技が派手なのが売り物なのに、U★TOPSみたいな実戦派は面白くない（匿名希望）

よね。あそこまでいったんだから凄いよね。それだけ期待感を込めてみんな投票したんだけどねぇ……。二回目は、まあ負けちゃったけど……。

――えらく言葉選んでますね（笑）。

健悟　言葉選んじゃうよ。なんて言ったらいいのかわからない。

――人間的には、やっぱり坂口さんの方が素晴らしい方なんですよね？

健悟　ノーコメントだな。どうやって比較をしていいのかわからないじゃない。なんて比較すんだよお（笑）。比較できないよ。

――プロレス界の中でいちばん人間的って言うか、普通の人間として接することができるのは藤波さんだとかって世間では言われてますよね。

健悟　一番まともなのは俺だよ。

――そうなんですか（笑）。

健悟　一番まともなのは俺！

――ちょっとトラック方面には黙っていられないんですけどね（笑）。

健悟　みんなそう思ってるんだけどね（笑）。そういう個性の塊が集まってプロレスラーなんてできるんだから。

――だから面白いんですよね。

健悟　うん。そうじゃなかったら魅力がないからね。みんなわがままだし、それも個性。だからファンも付いてくる。26年間やってきて思ったんだけど、目立った方が勝ち。何をするにも目立った方が勝ち。だから目立とうかなと思うんだけど、目立てられない。

――わがままになれないんですかね？

健悟　う～ん、人を無視しなきゃいけないんだよねぇ。無視をしたいんだけどなあ。本当に自分が目立って生きられない。でも絶対、人間って目立ったもん勝ちだから（キッパリ）。

――人を押しのけてでも前に出ることができる人とできない人といますよね。

健悟　本当はね、人の陰に隠れてても何かの拍子に目立ったこともあったけど、これはわかんないね。その人間の運でね。なにがきっかけで爆発的な人間になるかわかんないんだから。

人間目立ったもの勝ち（キッパリ）でも目立てないんだよねぇ…

――例えば猪木さんなんかは、明らかに何を押しのけてでも自分が前に出て一番目立ってやるって感じですよね。

健悟　それもひとつの方法だしねぇ。そういう話を振らないでよ。俺、答えようがないじゃん（笑）。

――すいません（笑）。そういう所が坂口さんに似てるというか、イメージを抱いちゃう部分なんでしょうね。



プロレスラーとしては最終章に差し掛かった健悟兄ィ。しかし、その後の人生にも青い空のような無限の可能性は広がっている！

健悟　まあ、どっしりと構えていたいね。だけど自分見てると、いつもバタバタしてるみたいでさあ。ほんとはそろそろ年齢的にどっしりしていいんだけどねぇ。でも、まだ動いてるってことは十分に気持ちは若いってことだから、いいんじゃないかなあ。別の意味ではね。それができなくなったら格闘技やめるよ。寂しい話だけどねぇ。

――さっきも言われてましたけど、あと1年位かなっていうことですか？

健悟　それぐらいは頑張ろうかな、と。でも俺も長くやりすぎたかなあと思っている。自分の脚がリングにしっかりつかなくなってきたもんねぇ。俺だけなんだろうかね。他の長くやってる人なんかどうなのかね。しっかりトレーニングしてるんだけどね。やっぱり26年間もやってきたから、そろそろかな、と。何かに大変身したいですね。

――大変身ですか？

健悟　歌手でもやろうかな（笑）。

――返り咲きますか（笑）！

健悟　それはわかんないけどね。俺はどの世界に生きて行こうと頑張りますよ。まだまだ人生長いんだから。

――プロレス辞めたら、完全にプロレス界から離れたいとかって思います？

健悟　いや、そういうことはなくてね。雑用係があるんだったら雑用係でもやりますよ。やっぱりプロレスしかできないんだもん。もう18歳ぐらいからこんなことやって、人生の半分以上やってんだから。どちらかっていったら、そういう仕事に就けたら最高だよね。だけど世間ってそんな甘いもんじゃないし、人はたくさんいるんだし、そうならない場合もあるじゃない。選手もしっかりした考えを持って、これから先もレスリングをやってもらいたいなって思うしね。まぁ元気なうちはそんなこと考えないけど、ある程度になると考えてくるんだよね。するとレスリングがどんどん疎かになってくるの。考えちゃいかんね。でも、考えないと次がないしねぇ。いまさらサラリーマンやるわけにもいかんしねぇ。

――そうなると、やっぱ議員ですか？

健悟　そんな甘いもんじゃないよ。あなた、金出してくれる？

――いやいや（笑）。

健悟　募集でもするか！　募金するかぁ（笑）。皆さんから一万円カンパ、千円カンパって日本全国から集めてさ。それで金集まったら、その金を懐に入れるかぁ（笑）。そうはいかんなぁ。

――ガハハハハ！　今日は楽しかったです。どうもありがとうございました。

健悟　話になったぁ？　大丈夫かなぁ。ところでこの『紙のプロレス』っていうのは、何なの？　名前がわかんない。

――まあ、ズバリ言うと「紙でプロレス」をするっていうことですかね。

健悟　紙相撲みたいに？　雑誌で、誌面で、プロレスをするってことかぁ。難しいねぇ。ちょっと今晩考えなきゃ。

――考えますか（笑）。

【97年11月24日、後楽園ホール下の喫茶店で収録】



今までこのページを担当してくれてどうもありがとう記念
超スペシャル「じゃ、よろしくお願いしますぅ～」企画

在庫一掃!

中村カタブツ君(34歳)の
忘れ形見プレゼント!

&

本誌バックナンバーのお知らせ!



アス! 今まで中村カタブツ君が担当していたこのページ。今回は「さらばカタブツ記念」として、『紙のプロレスRADICAL』のバックナンバーを通信販売でお買いあげの中から抽選で中村カタブツ君（34歳）が机の中に放ったらかしにしていった愛用品とサイン色紙を20名様にプレゼントしちゃいます! えっ? 別に欲しくない? くれるっつうんだから黙ってもらっとけ!!

破壊的な表紙だけど登場レスラーは超豪華な RADICAL創刊号



◎特集「プロレスラーとは何か!」
5大ロングインタビュー
高田延彦／船木誠勝／初代タイガーマスク／橋本真也／タイガー・ジェット・シン
◎巻末超ロング・インタビュー　前田日明
◎本誌だから実現できた危険騒然対談
ターザン山本vs鈴木健
◎売れ行き無視のバトラーツ特集
石川雄規／小野武志／田中稔ほか
バトバト勢総登場

高田、vsヒクソンへの心意気が伝わってくる RADICAL第2号



◎特集「プライドとは何か!」　過激で素敵な脳髄直撃師弟対談
アントニオ猪木VS初代タイガーマスク
高田延彦スペシャル・ショット
田村潔司／高山善廣／TAKAみちのくロングインタビュー
◎パンクラスとは何だ!?
近藤有己／國奥麒樹真ほか若手選手徹底解剖!
パンクラスを解剖する炎上対談
◎特別寄稿
井上義啓「熊殺しの墓標」
新連載・石川雄規の「闘いの美術館」
◎新日魂溢れるケンカ話が満載!
佐山聡の爆弾発言

ホモサピエンスの脳味噌の限界に挑戦する RADICAL第3号



◎とうとうRADICALに神様降臨!
カール・ゴッチ完全独占インタビューinUSA
◎特集「針の穴にラクダを通せ!」
船木誠勝19ページぶち抜きインタビュー
山本宜久／安生洋二／池田大輔／臼田勝美
ロングインタビュー
◎過激で素敵な師弟対談パート2
アントニオ猪木vs初代タイガーマスク
◎賛否両論! 阿鼻叫喚! 業界騒然のタブー特集
八百長論議と闘え!!「プロレスの敵は世間だ!」

こんな雑誌を作っていたら10年の寿命が3年で終わってしまう RADICAL第4号



◎特集「落とし前」と「世界征服」97
前田日明衝撃ロングインタビュー
高阪剛／近藤有己／山本健一／アレクサンダー大塚ロングインタビュー
◎神様降臨! 騒然インタビュー・パート2
カール・ゴッチ
◎昭和世代の凄み!酒、女、ケンカ超過激対談
ドン荒川vs藤原喜明
◎世界格闘技連盟プラス1最強カルテット座談会
村松友視／アントニオ猪木／小川直也／佐山聡

「高田が負けて困るのは『紙プロ』だけ」と言われた RADICAL第5号



◎特集「RADICALは高田延彦を応援するぜ!」
高田延彦ロングインタビュー
Puffyほか有名人33人が高田vsヒクソンを大予想
◎戦慄の新連載　前田日明の破壊的人生相談
◎リングスvsパンクラス局地戦勃発!
長井満也／柳澤龍志にセメントインタビュー敢行
◎酒・女・ケンカ超過激対談パート2　ドン荒川vs藤原喜明
◎怒涛の6大ロングインタビュー
ビクター・クルーガー／長与千種／ライオネス飛鳥／ディック東郷／愚乱浪花／ザ・グレート・サスケ
◎世界格闘技連盟を語る超ロングインタビュー　タイガーキング

一見クールだけど、一皮むくとけっこうドロドロな RADICAL第6号



◎特集「“プロ”と“レス”融合か分裂か!」
蝶野正洋に大胆ロングインタビュー
TAKAみちのく／テリー・ファンク／桜庭和志／近藤有己
◎前田日明の人生相談&ブチッ!インタビュー
さらにすべて実名の10・14記者会見完全再録
◎総力特集　高田×ヒクソン戦、終わる
RADICAL観戦記　ガッツ石松／浅草キッド／花くまゆうさく／仮面シューター・スーパーライダー
試合直後、Puffyに独占インタビューを敢行!
◎打倒! 八百長論議! ザ・グレート・サスケが素人相手にお説教!
◎全女分裂! 激烈インタビュー4連発
井上京子／井上貴子／角掛留造／松永高司

祝・創刊1周年「赤い表紙のはみ出し者」な RADICAL第7号



◎特集「反骨の剣」
田村潔司に鮮烈ロングインタビュー
◎そしてUWFの同窓生が集う!
冨宅飛駈／垣原賢人ロングインタビュー
◎みちプロ経営危機の真実とは?
ザ・グレート・サスケが独占告白!
◎もはや敵なし! 前田日明のメガバトル人生相談
◎祝! 復帰記念「プロレス界にモハメドあり!」
モハメド・ヨネインタビュー
◎ひっそりと大胆に反響を呼ぶ新企画　ラジカルバウトレビュー
◎ラジカル初登場2連発! 冬木弘道／MEN'Sテイオー

【購入方法】

●申し訳ねえんですが、バックナンバーは書店で注文しても買えません。こちらの通販をご利用ください。
●現金書留と郵便振替の2種類があります。
●現金書留の場合は希望号数を明記したメモを同封の上、
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3―11―3―702
（株）ダブルクロス『RADICAL通販』係まで
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、
00130―3―769154　（株）ダブルクロスまで
代金は創刊号=610円　2号=660円　3号～7号=680円
送料1冊=310円　2冊=340円　3冊～4冊=450円　5冊=520円　6冊以上=700円

必読連載第6回

石川雄規の『闘いの美術館』

あるいは『アレクの一番長い日』



なんと今年新年早々、アレク（アレクサンダー大塚）が結婚した。ホモ疑惑を払拭するための偽装結婚であるという噂もあちこちで持ち上がっているようであるけれど、本当の所はわからない。

とにかく、あのアレクから突然の結婚の報告を受けたのだ。同時に仲人までお願いされたものだから更に驚いた。しかし、アレクが持ってきた〝驚き〟はそれだけではなかったのだ。

「あのぉ……社長……すいませんけど、お時間ありますか……」

いつもの囁くような、少し徳島訛りのアレクの声で携帯に電話がかかってきたのは昨年の10月の下旬だったろうか。

なにやら深刻そうな雰囲気の声に一瞬ひるんだが、よく考えるとアレクはなんでもない話題の時にも、突然深刻そうな話の切り出し方をする癖があるのを思い出し、気をとりなおして「うん、べつに今は暇だけど……何!?」そう答えた。

「ええと……道場ではちょっと……話しづらいことなんで、社長のお宅に伺ってもいいですか？」

「いいよ、今夜でも来る？」

「あ、はい……」

いったい何の話なのであろうか。まさか、「給料あげてくれ、さもないと会社を辞める」なんて言われるんじゃないだろうか。それとも独立してフリーになりたいのだろうか。いや、それは困る。せっかくアレク人気に火が点いてきた所なのに……。ひ、ひょっとして愛の告白!?等々、思案をめぐらせているうちに玄関の呼び鈴が鳴った。

テーブルをはさんで座ったアレクは暫く俯いて沈黙した後、「実は……あの……」とぽつりぽつりと話をきりだし、漸く決心がついたように顔を上げ、あのつぶらな瞳で私を見つめて言った。

「実は、結婚しようと思っているんです」

「えっ？」全身の力が抜けた。

「そうか、何だよオイ。めでたい話じゃない。おめでとう。おまえ、深刻な声だったから、重大なことかと思ったよ。いや、結婚だって重大なことなんだけどさ……。いやー、そうかそうか、よかった。うん。それにアレクは子供好きだし、そのうち赤ちゃんでもできたら楽しみだね」

「ええ……でも……」

「どうした？　なにか困ったことでもあるの？」

すると彼は少し照れくさそうに、何とも形容しがたい視線を私に向け、「実は、もう彼女のおなかの中にいるんです」と呟いた。

「えーーーーーーーーーっ!!　そっ、そうか。そりゃなおさらめでたいじゃねえか!」

「でも……会社もかけだしたばかりでたいへんな時期ですし……どうしたものかと……他のみなさんに迷惑なんじゃないかと……」

「バカヤロウ。迷惑な訳ねぇじゃねぇか。バトラーツの家族が増えるんだ。こんな嬉しいことはないよ。それに迷惑だなんて思うような人間がいたら、今まで一緒にやってきてねぇよ。で、彼女って誰？」

「えっ？　社長……ご存じですよね……」

「あの子？　だっておまえ、前にふられたって泣いてたそうじゃない。別れてなかったの？」

「あっ、あれ嘘です。島田さんたちがあんまりしつこく聞いてくるんで、しばらく秘密にしようと二人で仕組んだんです」

「なんだ、そうか。てっきり別れた後にできた別の彼女と結婚するのかと思って、なんて手の早い奴だと内心びっくりしてたんだ。そうか、あれからも続いてたんだ」

私の脳天気な反応にアレクはホッとしつつも、「それで……ちょっと今、たいへんなことがあるんです」。

「なに？　まだなんかあるの？」

「ええ」

アレクは苦笑いしつつ「実は、今度長野の祭りに試合で行きますよね？」「うん」「その時に彼女のご両親に初めて会いに行くんですよ。なんて挨拶したらいいのか……。いきなり自分の娘が結婚・妊娠ですよ……。ああぁぁぁ。どうしましょう？」とアレクはスキンヘッドを抱えてうつむいた。

「そっ、それはたいへんだな。がんばれよ」

「で、社長にお願いがあるんです」

「うん」

「一緒に行って下さい」

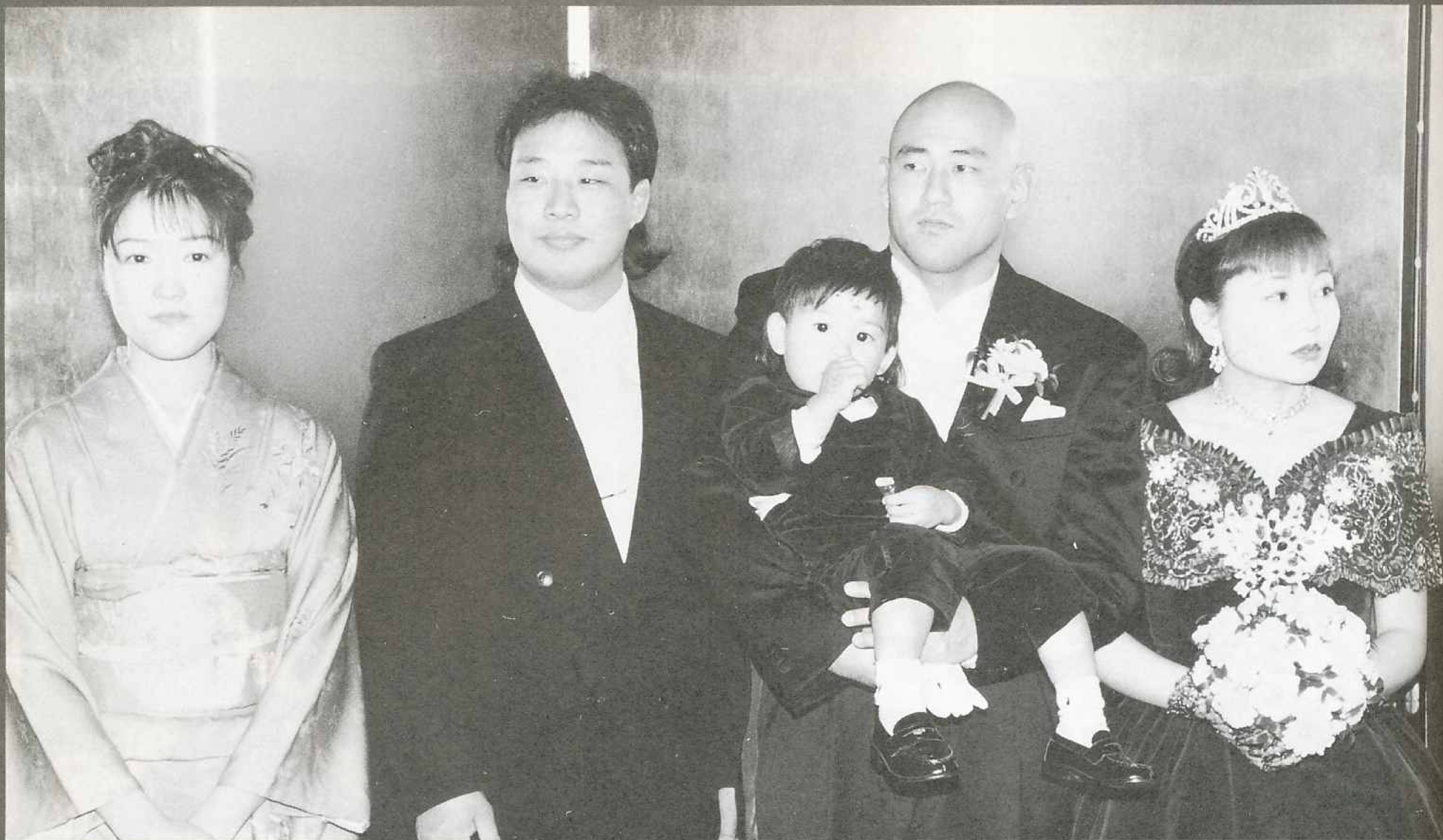
「えーーーーーーーーっ!!」

かくして迎えた結婚式。本当にたくさんの人たちに囲まれた祝宴で、なにより印象的だったのは、新婦・真貴子さんのお父さんのとびきりの笑顔だった。そして、披露宴に来てくれた人々、祝電を送ってくれた人々の全ての〝おめでとう〟の言葉が、これからの二人の励みになるであろうと思う。

結婚といえば、私は以前とても素敵な夫婦の話を聞いたことがある。

私の親友の大切な御両親の話だ。

長年連れ添った妻が病に伏せた。何年も入退院を繰り返しつつ病と闘ってきたけれど、残念ながらいよいよ最后であろ



「で、社長にお願いがあるんです」

うかという時がきた。医師の「今夜が峠である」という言葉に、夫はベットに眠る妻の枕元の椅子に座り、ぽつり、ぽつりと話をしはじめたそうだ。

二人が出逢った時のこと、恋に落ちた時のこと。ケンカをした時のこと、結婚した時のこと、子供が生まれた時のこと。苦しかったこと。楽しかったこと。いろいろなことを、夫は意識を失った妻に、静かに、優しく語りかけた。

1時間、2時間……。どのくらい経ったのであろうか。二人の想い出をひとつひとつ数えた夫は、現在までを話し終えた時、深く息を吹いこんでこう言ったそうだ。

「はい、おしまい」

そしてちょうどその直後、彼の妻は息を引き取ったのである。私の親友が話してくれたこの話は、なぜか今でも忘れられずに鮮明に心に残っているのだ。

人はこの世に生まれて、そしていつかは消えてゆく。その日がいつ来るかは誰にもわからないけれど、間違いなくやってくる。自分の子供が生まれた時、それをあらためて感じた。

生まれくるものがあり、滅びゆくものがある。

私は、なんだかあっという間にこの年齢になったような気がする。随分長い年月なんだけれど、気付けば私がこの世に生まれた時の両親の年齢を越えてしまった。現在2才になったばかりの遼馬(りょうま)も、きっとあっという間に今の私の年齢になってしまうことだろう。

そしてその頃、私は現在の私の親の年齢くらいになっている。いつの日か彼も、今の私と同じことを思う時が来るのだろうか。そして私はそんな彼に何を残してやれるのだろう。毎日一生懸命私の足下を追いかけてついてくる遼馬を抱き上げる度、ふとそんなことを思う。こんなにちいさいくせに、あたりまえのことだけれど、私たちと同じ”いつかは消えていく宿命“を背負い、喜びも悲しみも、苦しさも楽しさも、生きるという命の重さも一心に背負って生きている彼をとても愛しく思う。

彼らが大人になった時、「生まれてきてよかった」そう思えるような世界にしなければならない。かつて我々の祖先がそうしてくれたように、我々もそうしなければならない。

”使い捨て“の時代。大切な日本さえも使い捨ててどうするのだ。我々が消えたあとも、ずっと存在させなければならない。次に生まれくる命のために。

感性の世紀末である現代、このままでは日本は滅びる。

だから世界征服なのだ。

生きている間にひとりでも多くの人の”心“を救済しなければならない。それがバトラーツに課せられた宿命だと思っている。

消えゆく宿命人の愛しさ。生まれくる生命への愛しさ。そして夫婦の難しさ。男としての苦しみ哀しみ。そういった次元の話をアレクとできるようになった。最近、彼とよくそんな話をする。それがなんだかとても嬉しい。

ところで、こんど生まれてくるアレクの子供は、なんだかきっと女の子のような気がする。そしていつか彼女がお年頃になった時、ある日突然「私、この人と結婚します」そう言ってスキンヘッドの大男を家に連れてくるのだ。

そして父親アレクは「えーーーーーっ－！！　そんなあぁぁぁぁ～～」そう言って自分のつるつる頭を抱えこむのだ。きっとそうなる。私はどうもそんな気がしてならない。

”歴史は繰り返す“なのだ……。

格闘探偵団バトラーツ　石川雄規

Muhito

最強最後の男・マット界に降臨!!

虚構と現実がシャッフルするスキャンダラスなる格闘ロマン

本格格闘プロレス小説

無比人



真樹日佐夫
コラージュ・通須李伊

(20)

【前号までのあらすじ】
天性の格闘技センスをプロレス雑誌のオーナー・千堂に見出されて、プロレス入りした万無比人(まんむひと)——。大観衆で埋め尽くされたK－1を観戦するも、その目的は、因縁浅からぬ悪役グレート沖の来場を聞きつけたからであった。因縁を仕組んだ千堂も困惑する中、五万人の前で制裁を加える無比人。向かうところ敵無しの無比人。目指す敵はいったいどこにいるのか——

「どお？　真暗闇の世界に閉じ込められた気分は」

氷見子の声が高みに流れた。

「外はまだ陽が照ってるってのに、急に夜がきてしまったようで不安？　それとも何(なん)にも目に入らず、また見られていることも意識しないですむんで、逆に安心して自分を曝け出せる？　つまりだね、なにもかも忘れて恥知らずになれるかってこと」

千堂は、ブリーフ一枚の情けない姿で絨毯の上に仰向きに転がされ、ビニール製とおぼしい黒いマスクを頭からすっぽり被せられているのであった。

マスクといっても目もなければ鼻もない、のっぺらぼうの袋状で、ただ息苦しさをおぼえずにすんでいるのはどこかに細工がしてあるせいか。まともに応じるのも面映(はゆ)く、小さく身を捩(よじ)るだけで千堂は切り抜けようとしたが、

「わかってないのね！　プレーは疾(と)っくにはじまっているんだよ！」

ピンヒールの先で脇腹をしたたか蹴り上げられ、呻きが口をついて出た。氷見子はベッドの際に仁王立ちとなって、真上から見下ろしているものと思われた。

千堂のマンションの書斎兼寝室。年が明けて、あっという間に一月も過ぎ行こうとしていた。

「どちらかとなると、その……自分を曝け出せるというか、そっちの方のようで……」

「恥知らずになれる、そうなんだね」

「はい」

「はい、だけ？」

「——はい、女王さま」

「まだ完全とは言えないね」

「はい、——氷見子女王さま」

「お利口さんだねぇ。よし、よし」

俄かに物柔らかな口付きになった。

(彼女はいま、慈愛の眼差しを向けているのだろうか。あのときのように)

神州組組長の梶をペニスバンドを用いて蹂躙し尽くした後、一転してこよなくやさしい言葉を投げかけ彼を涙ぐませた、その折の情景が唐突に想起され、戸惑う一方でまた安んじもするという奇妙な感懐を千堂は禁じ得なかった。

(あの場面が頭を離れない、ということは、おぞましい責め具などに屈するよりも聖母マリアの前にひれ伏すといったソフトな形

無比人

小川直也が柔道着をつけて姿を現した

での支配のされ方が望ましく、その辺のところを彼女も見通しておればこそ、こうしてペースを合わせようと――）

と思ったらこれが大きな間違いで、追々と氷見子は牙を剥きにかかった。

「恥知らずな豚には、では懺悔をしてもらおうか」

「懺悔というと……？」

問うといきなり今度は腹を踏み付けにされ、唸るうちにも、

「あれから四十日、いや、五十日にもなるのか。生意気にも痩せ我慢を続け、電話をかけてこなかったそのことについて！」

「あ、それはですね。自分が怖いというか、つまり、その――」

「あれだけよがっておきながら、おまえにはまだ雄としてのプライドのひと欠片が残っていて、そいつが邪魔をした。違うかい！」

「そ、そういうことかも」

「認めるんだ！　はっきりと！」

「その通りでございますぅ」

「さーて」

ピンヒールが腹を離れたかと思うと、その底の窪んだ箇所がすぐさま喉頚に食い込んできた。氷見子の声は続く。

「ところでおまえは、小なりとはいえ出版社の社長にして、ライターも兼ねている。言ってみればインテリだ。懺悔は懺悔でもこっちがイメージの世界に遊べるような、そういうんでなきゃ赦さないよ！」

「プライドのひと欠片と氷見子女王さまはおっしゃいましたが、あの夜の出来事が痺れるほど刺激的であるとともに余りにも屈辱的であっただけに、反撥するものは確かにございまして……」

暗黒世界にあって言葉を選んで口にのぼせながら、師走に同じこの部屋で繰り広げられた一方的な凌辱の過程の一部始終を、いままた千堂はまざまざと脳裡に甦らせていた。

順子のところから一人で帰宅した彼がシャワーを浴びた後、居間でリキの相手をしながら寝酒のグラスを傾けていると、来訪者があった。リキは雄のシャム猫で六歳になる。

チャイムの音に起って行って玄関のドアを開けると、コート姿の氷見子が背を丸め加減に佇んでいて、

――うう、寒。入れてよ、早く。

――こんな時間に一人で一体……。

――話は後。風邪引いちゃうよ、ねえ。

千堂は已むなく氷見子を招じ入れ、居間のソファに対座した。

――この時期だものね、どうせ今夜も午前さまだろうと思って気を利かせたの。一年間色々とお世話になったお礼に、プレゼントを手渡そうと思って。

――歳暮なら郵送してくれたらいいのに。

――お店の帰りだし、通り道だから。

氷見子は、傍らに置いたショルダーバッグを引き寄せた。

――万に言われたのかね。

――無比人は関係ない。あたしの一存。

バッグの蓋を開けながら、

――ねえ。目を瞑って、両手を出して。

千堂は言われた通りにした。氷見子と二人きりというのはどうにも落ち着かず、早いとこ引き取らせなくてはと、そればかりを考えていた。

その手におもちゃの手錠が掛けられ、驚くのをよそに氷見子は立ち上がると、着たままでいたビニールレザーのコートのベルトを外し肩から滑らせた。下は女王さまルックだった。

――プレーの出前だよ。これがあたしからのプレゼント！

次いでバッグから一本鞭を掴み出すと、それで打ちかかってきた。千堂は浮かせた腰をソファに戻し、

――止めろ、止めろって。

手錠で繋がれた両手で防いだが、鞭は容赦なくガードを盗んでくる。氷見子は、柄の部分の短いその鞭を縦に振るばかりか横に払ったり、くるくる回したりもしながら、

――隠れMだと認めてしまいな！　あたしに苛められたくて苛めれたくて、でも言い出せずに憎さ百倍。無比人と強敵とのカードを組むのに躍起になったのだって、裏を返せばあたしへの当て擦り。そうなんだろう！

――わかった。もう抵抗しないから、打つのは止めてくれ。

遂に千堂は白旗を揚げた。自由を奪われたといっても手だけで、それは前にある。その気になれば鞭を取り上げることもできたろうに、なぜか頭が回らなかった。

――それでは起って、ベットへお行き！

待っていたように氷見子は言い放ち、鞭で威嚇しつつ千堂を追い、隣の部屋でベッドに突っ転ばすとパジャマの上から背中といわず腰といわず、またぞろ狂ったように

打擲（ちょうちゃく）の雨を降らせだしたのだ。

華奢で小柄な割には膂力（りょりょく）はなかなかのもので、鞭を十発も身に浴びると千堂は息も絶え絶えになった。痛みもさることながら、気持ちの上で押し切られたということか。

突然、氷見子の手がパジャマのズボンにかかって、下着も一緒に引き下ろされた。剥き出しにされた尻にも鞭を当てられるうち、痛みは甘美なものへと変じたようだ。夢見心地となり、気がつくと千堂はベッドの上に仰臥させられて、一物がかつてないほど怒張しているのがわかった。

——改めて訊く。おまえは隠れMか。

——違う、そんなはずは。

——M男だ、M男だ、M男だ！

繰り返し言われるにつれて抑えが利かなくなるのが自覚され、こんなことって、と慌てて肛門を窄（すぼ）めたが間に合わず、氷見子の注視する前で不覚にも千堂は大量の白濁した液体を迸（ほとばし）らせていた。

——なんだよー、オナニーさせてやろうと思ったのに、それも待てないでこんなに出しちゃうとは。

笑いを噛み殺したような氷見子の表情にいたく傷つけられるとともに、無比人がグレート沖戦などマッチメークの件を根に持ち報復の意味で向けて寄こしたのかどうか、急に気になってきた。が、とてもじゃないが確かめることなどは怖くてできかねた。

氷見子は手錠を外すと、ビールを一本抜かせて酌をさせた後、

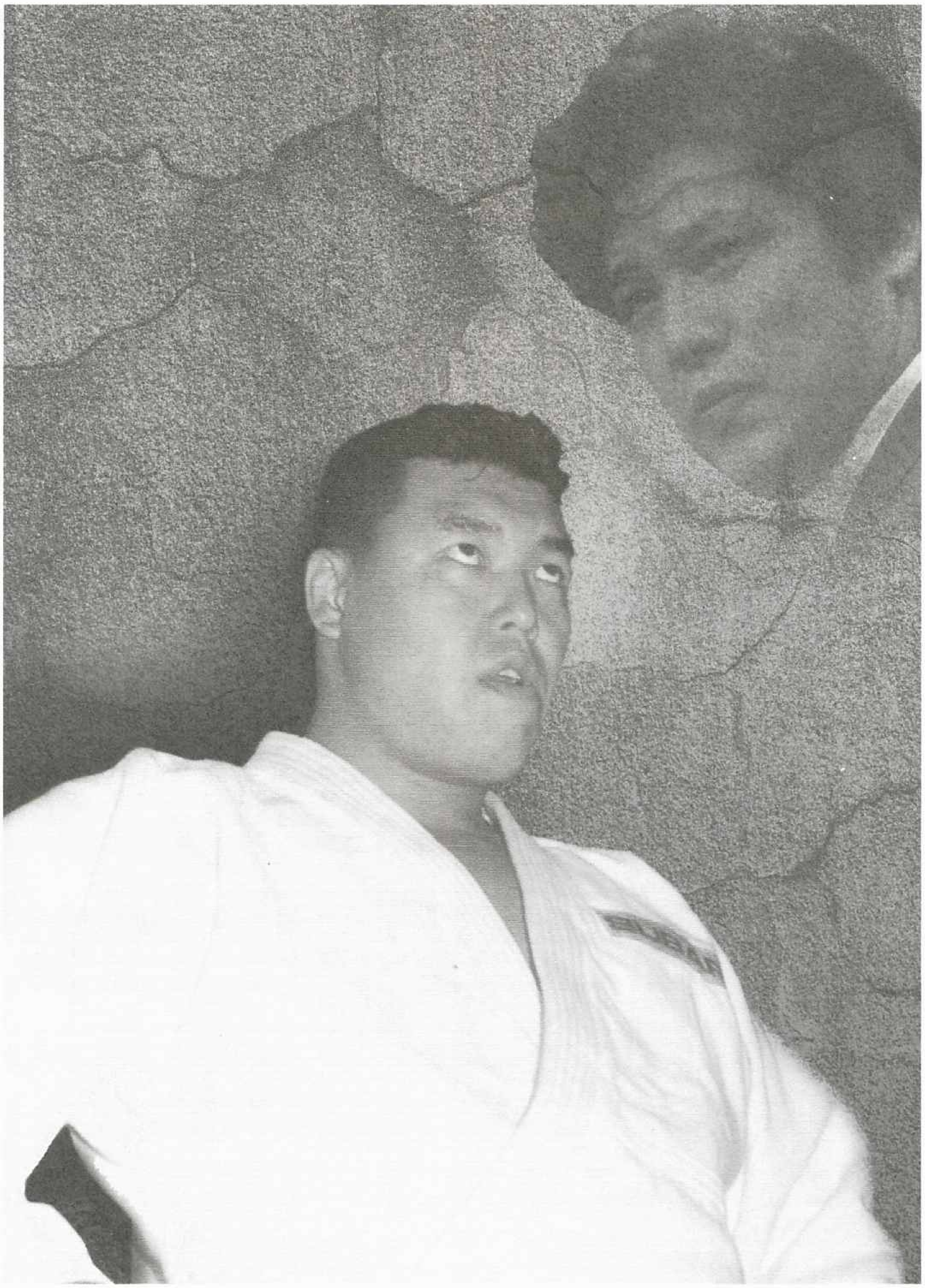
——どうせすぐまたプレーしてもらいたくなるだろうから、恥ずかしがらずに電話するんだね。

と言い置き、きたときとは別人のように颯爽と引きあげて行った。

あれは事故なのだ、と千堂は自分に言い聞かせ、なんとか忘れようと努めた。意識して仕事の量を増やしてもみた。それらはしかし逆効果でしかないようで、忘れようとすればするほど彼の裡で氷見子は巨大化し、その醸し出すフェロモンに翻弄されでもするかのように躰の芯が妖しく疼いた。

なによりの後遺症は、真澄を抱いても絶対君主のようには振舞えなくなったことであり、なんとか頑張ってアクメへ導きはするものの氷見子にどこかで見られているのでは、それが常に付いて回り意気の揚がらぬことといったらなかった。

絹子のペントハウスからも脚が遠退いた。真澄はまだどうにか誤魔化しが利くにしても、あの発展家の食品会社社長となるとどうか、見透かされるのではないか。そんな不安が必要以上に千堂を臆病にしてし



無比人

まっていた。

　見透かされるといえば、氷見子からなにも聞かされていないはずのない無比人が常と変わらず屈託なく、そのこともまた千堂にすればかえって気詰まりで薄気味悪くもあり、蛇の生殺しにも似て耐え難く思われた。

　男の意地も五十日で、この日はもう仕事のことも頭になく昼過ぎまで部屋で悶々とした挙句に電話へ手が伸び、プレーの出前を至急また、と自分の声ではないような声で受話器の向こうの氷見子に冀ったのだ。

　結局、懺悔の後に自慰を強制され、マスクのまま千堂が果てたところでプレーは終わった。指一本触れさせてもらえずじまいだったにもかかわらず、久方振りに穏やかで充ち足りたものが彼を領していた。

　氷見子を送り出す際、千堂は玄関のタイルに僕のごとく跪いて、ピンヒールをロングブーツに履き替えるのに手を藉した。抵抗はなかった。

　居間へ戻ると、待っていたように電話が鳴った。受話器を取ると、佐山で～す、いくぶん鼻にかかったソフトな声が耳朶を擽った。

「千堂ちゃん？　昨日の留守録をいま聞いたところ。ごめーん、ちょっとばたばたしちゃってて。頼みがあるってことだけど、今夜でいいなら空いてるよ。どこで会おうか」

(21)

道場は時ならぬ喧騒に見舞われた

　アントニオ猪木が会長を務める新日本プロレスリングの道場は世田谷区野毛にある。

　二月に入って間がない風の強い昼下がり、この道場にはスポーツ紙やプロレス専門誌の記者たちが大挙して詰めかけ、時ならぬ喧騒に見舞われた。

　中央に見られるリングをカメラを構えた連中がぎっしり囲むなか、最初に黒タイツに跣の無比人が登場し柔軟体操をはじめた。

　それが終わる頃、小川直也が柔道着をつけて姿を現した。百九十センチ、百二十キロ。無比人と較べたら大人と子供ほども差のあることは、並んで立つまでもなく誰の目にも明らかだった。

　リング上、小川が無比人から少し離れてストレッチングに取り組みだすと、途端にそちこちでフラッシュが焚かれた。主役はやはりどう見ても、この元柔道世界チャンピオンのようだ。

　カメラの一行から何歩か退いた格好でリングを遠巻きにした記者らとともに、千堂は二人を注視しながら、そのことを客観的事実として認めないわけにはいかなかった。それについては無比人自身も認識しているとみえ、ニュー東都プロレスの忘年会を蒲田駅近くの居酒屋でやった折、

――ねえ、部長。来年はひとつ異種格闘技戦路線を突っ走るつもりなんで交渉の方、気合いを入れて頼むよ。ヒクソン・高田戦の影響でこの業界はひどいことになるんじゃないかって皆心配してるようだし、なに言ってやがる、プロレスこそがやはり最強なんだってところを示して踏ん張っとかないことには、金のためと割り切ってレスラーになったってのに早くもおまんまの食い上げじゃ洒落にもならないからね。

と言い出し、年明け第一戦の対戦相手として小川直也の名前を挙げたが、このとき柄にもなく照れ笑いして、

――どう？　ちょっとばかりハードルが高いかなあ。いやなに、ネームバリューの点での釣り合いってことで言えばだけどさ。

　頭へ手をやるジェスチャーまで見せたのである。

――デビューはこっちが先なんだし、なにも遜ることはない。駄目なら駄目で別口を考えりゃいいし、とにかく当たってみるよ。

　氷見子にプレーの洗礼を受けて何日も経っていないことでもあり、ただもう怯えが先に立って千堂は持ち上げたが、無比人がプロレスの先行きを真剣に考えはじめている、それを知って意を強くしたことは動かせなかった。

　松が取れるのを待って小川サイドとの交渉を開始し、諸般の事情から当面は対戦は無理との結論に達したところで、千堂は一計を案じた。最近は猪木の側近のようでもあり、小川とも近しい佐山に縋ってみては、と。

　会って事情を打ち明けると、小川は目下アメリカ遠征中だが来月二日には帰国する、そこで猪木にも同席してもらい話をするだけはしてみる、と首を傾げ加減に佐山は言った。

　そして昨日、

――十五日のフライ戦をはじめスケジュールはびっしりなんだけど、公開スパーということでもいいんであれば明日にでも、なんとか時間を空けさせるよ。勿論、猪木さんの了承も得ている。期待に応えられなくて悪いんだけど、どーお、そんなところで。

　と電話を寄こしたのであった。

　開始を告げるゴングが鳴った。

（以下次号）

お店紹介を超えたものがラジカルミステリーツアーである！

vol.4 サンボ浅子の店に潜入せよ！



お前は噛みつかないのか!?　というわけで始まった、日常生活とプロレスをガッチリ結ぶ情報押し売りコーナーの第４回。今回もバッチリ＆ガッチリとプロレス界の巨大な謎に迫ってみた。もちろん、今回取材に訪れたマスコミは本誌のみ（シッシー風）。

構成＝坂井ノブ　撮影＝戸成ぶつぞう



入口でお客さんをお迎えする無表情なサンボ浅子さん（陶器製）



寅年にちなんでお客さんがプレゼントしてくれたという代物。根強い常連さんに支えられてこそのお店である



この笑顔！　お客さんのためにあるような笑顔だ。眩しすぎる！

サンボ浅子■63年生まれ。ジャパン女子や旧UWFの営業を経てレスラーとしてはFMWで89年にデビュー。95年引退。初期ＦＭＷのナンバー3として活躍。そして97年2月に一度だけ復帰した。現在はサンボ浅子の店のオーナー。従業員は1人だけどね。

正直に言おう。今回は西村修と一緒にアーミッシュに会いに行きたかった。そんな折、本屋でサンボ浅子著『プロレス界の愉快な仲間たち』を見つけてしまった。ＦＭＷ引退後は居酒屋をやっているという噂しか知らない。ＦＭＷのＯＢ会もウヤムヤのまま、どこかに消えた。それがなぜ今頃、本を出したのだろうか？　逆モヒカンの頭で必死に考えてみても腑に落ちない。本の詳しい内容は『書評の星座』を見ていただくとして、今回はこの本がどうして誕生したのかを探りにサンボ浅子の店を訪ねてみた。

地下鉄・東西線の門前仲町駅を出てすぐのところに店はある。「これぞ下町！」という感じの街並みだ。中に入ると、これがまた思いっきり庶民的な居酒屋である。そのカウンターでサンボ浅子がニコニコしながら立っていた。写真を見てもらえば分かると思うが、ここまで庶民っぽさを持つレスラーもサンボ浅子ぐらいのものだろう。まあ、元レスラーなんだが。

有線のヤングナツメロが流れる店内は20人も入れば超満員だろう。「6対4で普通の会社帰りの方が多いんですよ」（サンボ浅子談）とのこと。でも、4割はプロレマニアが来るわけだ？　「そうですね。カウンターをマニアが占領して、普通のお客さんは座敷に行きますね」。やはり、この店にはマニアが集うらしい。ということは、あのイニシャルトークもこの店で情報が交換されていたのだろうか？　「え？　あの本？　全部ゴーストが書いたんだよ！」と、サンボ浅子は非常にあっけらかんと語ってくれた。



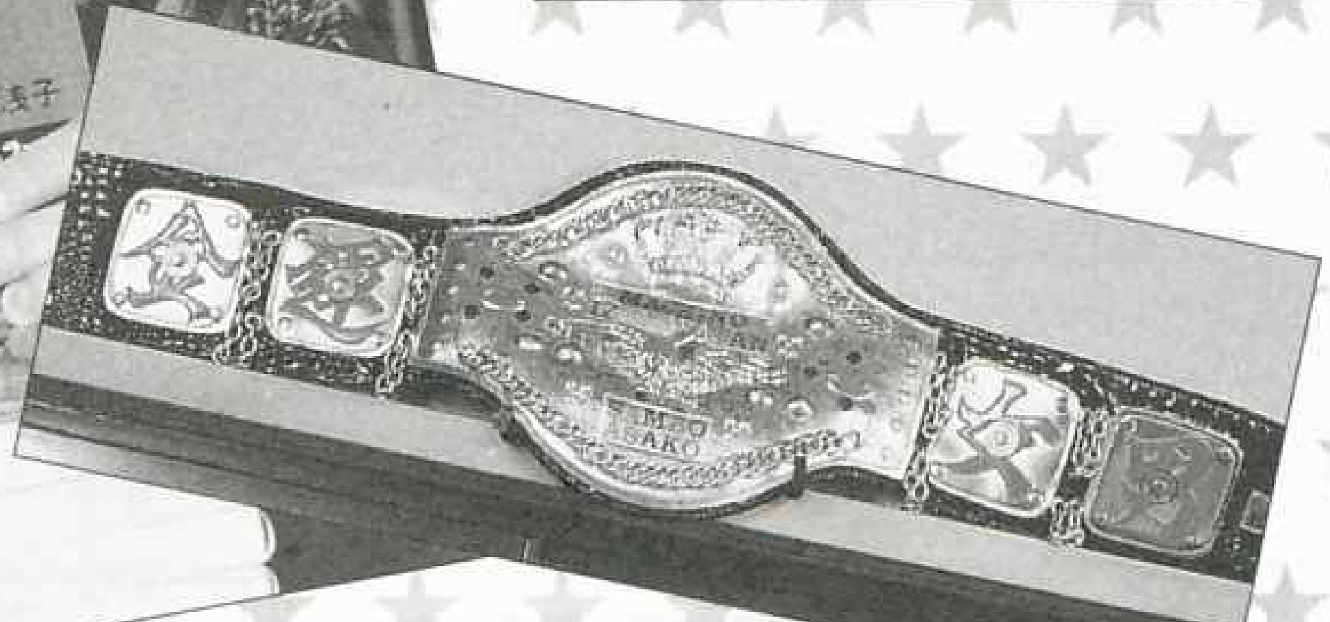
『プロレス界の愉快な仲間たち』もお店で売っている。内容は知らないらしいが、笑顔は眩しい。また、ＦＭＷのチケットも販売しているので便利だ



Ｊ’ｄのＣｏｏｇａ選手から寄贈された豪華な金ピカ招き猫。かなり縁起が良さそうな一品だ



マニアが集うカウンター席。ここで交わされた会話が、あの本になったのだろうか？



ラジカル６号のこのコーナーで紹介した『ミスターデンジャー』にあったベルトと同じ人からプレゼントされたというベルト。「金運」は理解できるが、「女男」って？

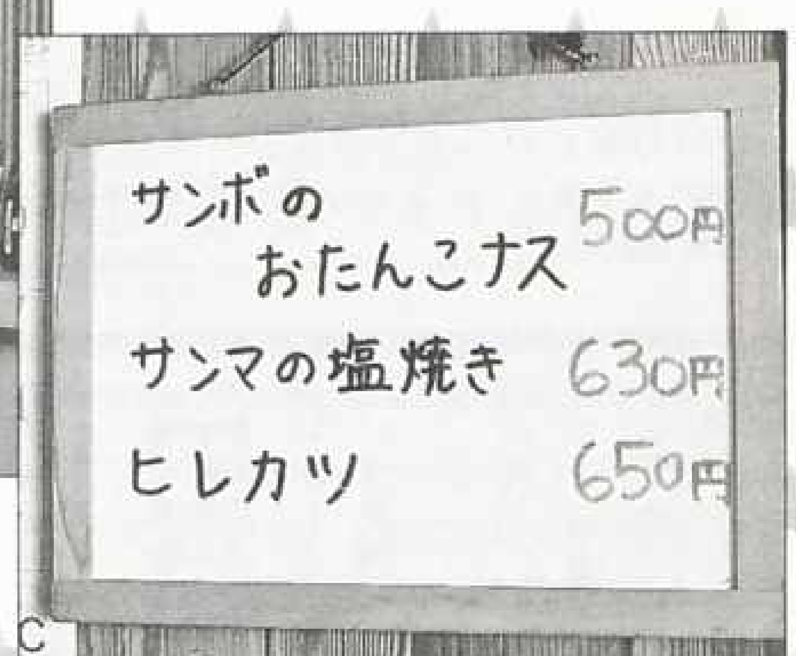


座敷席は情緒があっていい感じ。居酒屋の中の居酒屋といった趣が個人的に好きです

やはり！　あの本はこの店から生まれた！



「そこらの焼肉屋みたいな安いＪＩＮＲＯは使わない」とお酒にもこだわりがあるのだ



見よ、この低価格。怪しげなメニューもあるけどね。「特に魚介類は良いモノを安く提供してます」とのこと

東西線の門前仲町駅１番出口を出てすぐの鳥居をくぐる。ご利益通り沿いにお店はある。縁起の良い名前も下町チック！







居酒屋のマスター姿がすっかり板に付いている。開業３年だそうだが、すでに風格が漂っている



この看板が目印。東西南北どこから見てもサンボ浅子の店の看板だ

アクセス

[店名] **サンボ浅子の店**
[住所] 東京都江東区富岡1-13-11 2F
[営業時間] 17：00〜25：00
[定休日] 日曜日＆祭日
[主なメニュー]
- 料理は冷やしトマト330円から。魚介類は浅子氏の親父さんが築地で働いている関係で安くて新鮮だ！
- ビール大瓶450円＆生ビール450円＆サワー各種280円からと激安！

※水曜日は生＆瓶ビールが400円。サワーもすべて250円とお得！

ええええええええええええ!?と、別にここまで驚く必要はないのだが、ゴースト本であることがとりあえず判明した。でも、ゲラは読んだんですよね？　「だって原稿用紙の束が厚さ10センチぐらいあるんだよ。オレがそんなの読むわけないじゃん（笑）。内容もまだ知らないんですよ」と、またまた非常にあっけらかんと語ってくれた。

げげげげげげげげげげげげ!?と、別にここまで驚く必要はないのだが、またしても新事実が判明した。要するに、あの本は店に来るゴーストライターが書き、サンボ的にはノーチェックで発行されたものなのだ。佐山聡が書いたとされる、世紀の奇書『ケーフェイ』状態である。『サンボ浅子の店』恐るべし！

さて、お店の方だが料理は値段は安いし、メニューも豊富だ。さらには「サンボのおたんこナス」「サンボのどてカボチャ」などという怪しげなオリジナルメニューもある。また、宴会のときは3日前までに予約を入れれば、マグロの頭を焼いて出してくれるのだ！「生のマグロの頭を焼いて出すのは、たぶん東京ではウチぐらい」と豪語するだけのことはあるド迫力の特大料理だ。ドリンクも非常に安い。FMWや他団体の選手達もよく来るそうなので、運が良ければ会えるかもしれない。

マニアを目指すキミ！　マニアのキミ！　本の内容にモノ申したいキミ！　旨くて安い居酒屋に行きたいキミ！　今すぐ『サンボ浅子の店』へダッシュしろ！サンボ浅子が笑顔でキミを迎えてくれるはずだ！

「何が何だか」な読者投稿コーナーが旗揚げ!



イラスト＝田中稔先生
（日展応募経験なし）

ハガキン太

あ、どうも。ハガキン太です。バトラーツの初代営業部長で、格闘修行のために放浪の旅に出た人とは別人です。格闘技の大会に出場したときに、所属道場を（我流）と書いた人とも別人です。さて、ハガキングダムは、構成をやってたちっちゃなノブさんが道場を作って離脱しちゃったので解散しました。今回からは「ハガキン太」として再スタートしますんで、ヨロシク。いや、これホント！

構成＝ハガキン太（我流）

寿

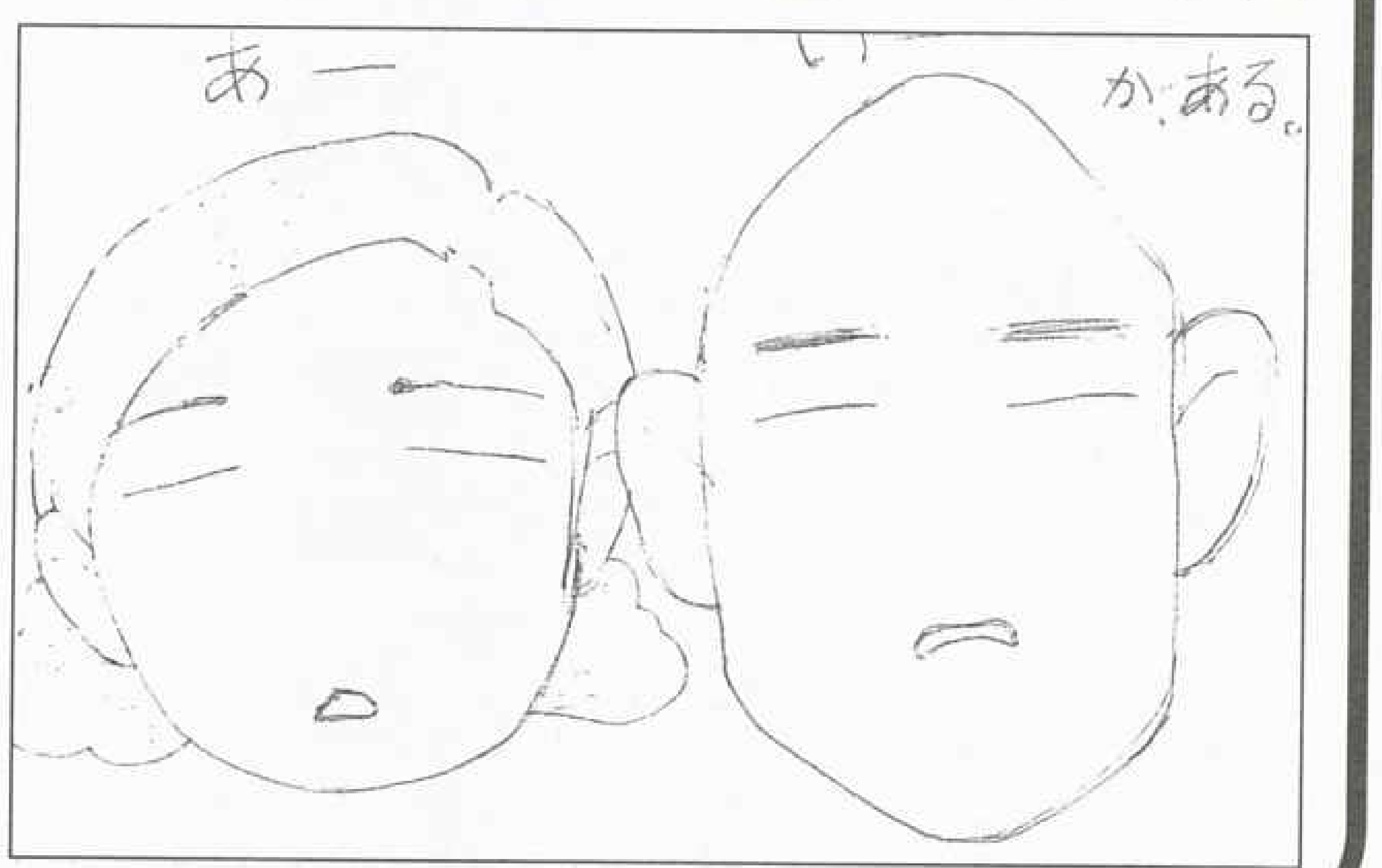
アレク＆ののも結婚記念イラスト集「あ…… おめでとうございます」



（帯広市　サル・ザ・マン　23歳）
あ、のものもだ～！　と思ったら金原選手でした。見間違えちゃったよ。お上手すぎます。のも姉さん、おめでと～。



（岐阜県　今井麻実　21歳）
アレクとのものも幸せそうな雰囲気が出ててグー。世界最強（恐？狂？）の夫婦に幸あれ！



（熊本市　山崎英紀）
ほのぼのしてていいです。こんなにジュンとしちゃうハガキは初めてです。しかし、のも姉さんを書かせたら日本一だね、山崎英紀は。

☆「しじみの？」「みそ汁！」「みんなの？」「ター坊！」というわけで、今号のハガキはいいイラストが多くて選ぶの困りました！　いや、これホント！

木村健吾インタビューは面白かった。

我らが健吾、歌がうまいだけでなく、こんないい過去の持ち主とは……。　これからは健吾と共同運命体となり、今夜は星を見ます。すごいロマンティック！
（千葉県　武田いづみ　17歳）

☆前号の健悟インタビューでメロメロになった読者が続出でした。そんな罪つくりな健悟インタビューは、今号でも絶賛掲載中です。読まねば！

田村潔司インタビューは面白かった。

フツーが素晴らしいと思いました。グレイシーに10年負け続けるという発想が面白かったっす。
（武蔵野市　松井佳洋　20歳）

☆祝！　ワールド・メガバトル・トーナメント優勝！　タムタムがやってくれましたね。試合を裁いた島田最強も「背筋がゾクッとするような緊張感だね。ん～、最強！」とのたまっていました。心に残る名勝負とはこのことです！　見ねば！

松永会長のインタビューは面白かった。

馬鹿だから。
（朝霞市　浅田太一　25歳）

☆でも、あんな偉大な人間はなかなかいませんよ、これホント。最近では「全女を女子プロ版ジャニーズ事務所に」などというビッグ過ぎるプランをブチ上げてしまい、『週刊ファイト』に「スポーツと芸能を短絡的に結びつけるのはいかにも松永会長らしい」などと突っ込まれていましたが、この調子でつっ走ってもらいたいものです。

まだ『紙プロ』は読み始めて2ヶ月なのですが、

何だか手作りの味が伝わってきていいですね。それにしても、いろいろ団体がありすぎてよくわかりません。これからも期待しています。
（大田区　北川香織　32歳）

☆『紙プロ』より手作りの味を出してる雑誌なんていくらでもあるでしょ。最近見かけないけど、『プロレスファン』なんておばあちゃんが握ってくれたおにぎりみたいな味がするんじゃないでしょうか？　『紙プロ』ともども『プロレスファン』を応援してあげてください。でも、どこ行っちゃったんだろうね。



（帯広市　サル・ザ・マン　23歳）
ワァ～オ！　今号のNO．1ハガキでしょ。カタブツもカ・シンぐらいの根性の入った反骨心があれば……。そんなカタブツ君のこれからの幸福を祈りつつ、合掌。

今号のひとことキン太

実は僕、ヘンなおじさんなんです。

（福井県　藤野敦　37歳）☆ＴＭレボリューションのプロフィールやポケモンの進化形を詳しく書いてよこしてきた37歳は今までいなかったです。そんな飽くなきチャレンジャー精神に敬意を表してキン太の座を進呈します。変なおじさんに幸あれ！

いやー私、のものもって好みのタイプで、絶対やっちゃいたいと思っていたんですが……アレクならしょうがない。あきらめます。アレクのモッコリには勝てませんから。お幸せになってくださいね。

（愛知県　伊藤雅之　34歳）

☆「モッコリ」って……。そんなアレクのモッコリに2人の結婚生活は守られたという、ちょっといい話でした。2人のこれからに幸あれ！

アレッキーひどいわ！あんなに燃え上がった私の恋はどうなっちゃうの？真夏の新宿公園で○○○○してあげたことは一生忘れないよ。

（新宿区　アナル拡張15センチ　25歳）

☆最高に下品なペンネームです。何とかしましょう。

Ｓｈｏｗのコラムはつまらないというより、読んでて気分が悪い。同じ気分の悪さでも、中村カタブツ君（34歳）はまだ笑えるからいいが、Ｓｈｏｗの場合は笑いにも何にもならず、ただただ気分が悪い。

（府中市　辻村芳修　25歳）

☆そんな笑えるダメ人間もついにギブアップしてしまいましたね。次のページでその原因が明らかに！　必読！

カタブツくん『バカ日誌』の字が大きかった。このページは字は小さくないとね。

（福岡市　下川智　33歳）

☆小さいとか大きいとかガタガタ抜かすんじゃないよ！　売春婦のような広い心で見守って欲しいコーナーなんだから。

もう文章を書くのはやめよう。「10・11観戦記」は書かなければよかった。あれは弟です。弟が書いたんです！　のものもさん、アレク選手、結婚おめでとうござい



（埼玉県　中川雅博　20歳）
投稿界の「新しい波」こと中川雅博がまたまたすっとぼけたイラストを送ってくれました。この調子で、投稿界に万里の長城を築け！

ます！　自分はのものもさんのインタビューが好きだったので残念です。でも、おめでとうございます！　のものもさん（&カタブツ君）のいない『紙プロ』は片足&○ラのない村田英雄だ！

（埼玉県　中川雅博　20歳）

☆「片足になっても歌う！」と力強く宣言した村田先生を見習って、我々も頑張ります。一気に2人も抜けたので、今号はえらい大変だったんですが、新入りも入ってます。歯医者に行ってて面接に遅刻し、酔っぱらって自転車で転んで顔は傷だらけという「何が何だか……」な新人・松澤チョロＱが入門しました。今のところ、おつかいを頼めば二回に一回は失敗するダメっぷりを発揮してますが、よろしくお願いしま〜す。

バトラーツのチケットを希望！　4人分の席を寝ながら見たい！

（江戸川区　佐藤耳男　19歳）

☆なめられたもんですね。寝た子も起こす衝撃のバチバチファイトは、世界征服の野望に向けてこれからも地球を駆けめぐるそうです。しかし、いかなるときも石川社長の手にはウンコの置物が握られていることでしょう。

貴社より頂きました年賀ハガキで4等『お年玉切手シート』が当たりました。厚く御礼申し上げます。何やら、貴社に残された本年のわずかなツキまで私が取り上げてしまったようで心苦しいです。

（東京都　金閣寺ひろし）

☆『紙プロ』本誌で連載していた小社インチキ顧問会計士から、細やかな心遣いのＦＡＸが届きました。余計なお世話です。

最強を決めるのはちょっと待ってくれないか？　な募集！

ハガキン太では、ある朝起きると脊椎がねじれてしまい、右手や右足が麻痺してしまうようなハガキを募集します。

- ●脊椎がねじれても日本に来れるようなタフなご意見＆ご感想＆タレコミ情報
- ●脊椎がねじれても右手でイスを引いてしまうような図々しいイラスト
- ●脊椎がねじれても右手でコップを掴んでしまうようなマヌケなダジャレ
- ●脊椎がねじれても「ワレワレハニホンニモドッテキマス」な『カウントアップ・グルーヴ』のテーマ

などを送ってください。尚、合言葉の「これ、なんぼ？」を明記してください。
合言葉のないハガキは、最強を決めるのをちょっと待っていただきます。宛先は

〒151－0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷３－11－３－702
（株）ダブルクロス「ハガキン太」係まで



（四日市市　ターザム鈴木）
何が何だか。似てなくても雰囲気はあります。ところで、藤波と鶴田の対決はかなり見たいです。

ダジャ専

楽しいお絵かきだよ〜。というわけで、講師のダジャ・コングさんが新団体旗揚げのためお休みですので、今回は私、河口ノブがダジャ専を担当します。み〜んなよっといで〜。今回はなぜか応募が増えて大変だったんですが、厳正な審査を重ねた結果が、この３枚です。拍手してあげましょう。パチパチパチパチパチパチパチパチパチパチパチ。だけど、ダジャレって難しいよね？　ま、楽しくやろうよ。



（大阪府　うしえもん　20歳）
ダジャレが巧いのだ。ダジャレ・イズ・インパクトなのだ！　パチパチパチパチパチパチパチパチパチパチ！



（倉敷市　佐々田格　23歳）
う〜む。『あぶ木』じゃないんだから、もう少しインパクトがあってもいいのだ。でも、パチパチパチパチ！



（埼玉県　中川雅博　20歳）
いつもお便りありがとぉ〜。今回もトンチが効いててお上手なのだ。パチパチパチパチパチパチパチパチパチ！

激突　カウントアップ・グルーヴ　RADICAL版　赤袴が似合うレスラーランキング

順当だ。「赤いパンツの頑固者」には赤い袴も似合うのだろう。２位のＧ・馬場も「赤いチャンチャンコの正直者」として末永く頑張ってもらいたいと心の底から思う。さて、次号は『ＴＡＫＡＯ　ＰＡＮＩＣ』（『書評の星座』参照）に敬意を表して、本誌なりの「好きな関係者&嫌いな関係者ランキング」を募ってみたいと思う。フロント、ファン、マスコミなどプロレス業界の人間なら誰でも可（現役レスラーは除く）。応募はいつも通り、読者プレゼントのハガキを参照せよ。

ベストオブハカマーランキング

1位	田村潔司	25票
2位	ジャイアント馬場	10票
3位	前田日明	7票
4位	高田延彦	6票
4位	木村健悟	6票
6位	田上明	5票
7位	藤波辰爾	4票
7位	佐山聡	4票
7位	マサ斉藤	4票
7位	越中詩郎	4票

、中村カタブツ君(34歳)愛と性春の旅立ち!

バカ日誌

「やはり」というか「ついに」、数々の失敗を繰り返した揚げ句の果て、昨年の10月25日リングスNKホール大会の取材を最後に中村カタブツ君(34歳)は失踪した。それから1週間も経たないうち、筆者が会社に来ると一枚の書き置きが残されていた。これはギャグなのか? この真意を確かめるべく、本人をやっとのことでキャッチした本誌編集部では緊急追悼インタビューを敢行した。中村カタブツ君(34歳)最後の勇姿をマブタに焼きつけろ!!

ノブ　サプリの飲み残しを2本も置いて、いなくならないでください。
カタブツ　デヘヘ、そうだっけ?
ノブ　で、逃げた原因って何ですか?
カタブツ　ハァ〜。君だよ!(ノブを指さす)
ノブ　どこが気にくわないんですか?
カタブツ　全部! 何から何まで! その金髪も!
豪　オレの金髪もいけないのか?
カタブツ　豪さんのはいいんだけどねぇ〜(笑)。あ〜、ノブを告訴しようかな。名誉毀損で。
ノブ　へ?
カタブツ　名誉毀損だよ〜。
豪　だよ〜って(笑)。ブチにどういう名誉があったの?
カタブツ　……ないけどねぇ。
一同　ガハハハハハ!
カタブツ　名誉らしい名誉はないんだけどね。あれだけ人をバカにした文章(カタブツランド&バカ日誌)を書いちゃいけないよ。ダメだよ、あんなことしちゃ。
豪　オレもShowに怒られたから。
カタブツ　あれはアホやからね。オレには2人の人間がいるわけですよ。中村隆治っていうのと中村カタブツ君(34歳)が。カタブツ的には「来い、来い」と思ってるんだけど。
ノブ　ハハハハハ、「お前が書けば書くほどオレが光る」って(笑)。
カタブツ　「嫌われ者NO.1になってやる!」という気持ちはあるんだけど、片や中村隆治っていうちゃんとした人間は……。
豪　ちゃんとした人間!?(笑)。
カタブツ　中村隆治は「いい加減にしろよ!」っていう……その狭間ですわ。ホントのこと言うと、そんなに嫌いじゃないんだよ、真面目な話。オレが失敗すれば「突っ込んで来い!」っていう部分があるじゃん。その部分では、ノブはきっちり仕事をしてるから(笑)。ノブの仕事は認めてるのね。やり過ぎの部分もあるけどね。
ノブ　ボクみたいな若手は、そういう気迫でしか表現できないじゃないですか。会長(山口昇)に対しては何にもないんですか? 失踪する前々日にに下のサブウェイで何か言われたみたいですけど。
カタブツ　「お前は人間のクズだ」って言われてたんだよ(笑)。
一同　ガハハハハハ!

カタブツ　「お前みたいな奴は人間のクズだ! 15年後には55歳なんだろ!」って言われて。あれ? 50歳か。
豪　自分の年もわかんねえのか(笑)。「同い年なのに偉そうなこと言うな!」って感じ?
ノブ　「学年ならオレの方が先輩だぞ」ぐらいのことは思ってるわけですね?
カタブツ　……何だか知らないけどさ。
一同　ガハハハハ!
豪　やっぱりタメっていうのは大きかったの?
カタブツ　大きいんだろうね。会長自身も、こんな同い年がいるっていうので、ガマン出来ない部分があったんじゃないの?
ノブ　ガマンっていうか、驚きますよね。こんな同い年は(笑)。
カタブツ　驚きだったらいいじゃん! オレをこのまま突っ走らせればいいじゃん! ガタガタ言うな!
ノブ　まだまだ突っ走って欲しいですけどね。
カタブツ　いや、もうヒザがガタガタ。
ノブ　PRIDE-1の黒澤状態。
カタブツ　もう壊れた……(しみじみ)。
ノブ　はぁ〜。で、誰が最終的に中村さんのヒザを破壊したんですか?
カタブツ　自分でどっかにぶつけて壊しちゃったようなもんだね。
ノブ　10・25リングスの帰りに、「直帰します!」って言って、一人でNKホールから帰ったじゃないですか? あの後から失踪してたわけですけど。あの時は普通だったわけでしょ?
カタブツ　月曜日は企画会議だったじゃない? 企画を考えなきゃいけない。でも、出来ない!
一同　ガハハハハハ!
ノブ　ボクは月曜日の時点で、留守電に「企画が出来てなくてもいいんで、会社に来てくださ〜い」ってメッセージを残しといたじゃないですか(笑)。
カタブツ　「ふざけんな! この野郎!」って思ったよ。
豪　何で?
カタブツ　「オレは何のために会社にいるんだ、この野郎!」と思ってさ。
ノブ　企画を考えるためですよ。
カタブツ　そうだよ!
ノブ　出来たんですか?
カタブツ　出来ないよ!
一同　ガハハハハハ!

カタブツ　出来ないから悩んでるんじゃねえかよ! 会長にも「このまま辞めるにしても、落とし前を付けてから辞めろ。企画10本、バーンと叩きつけて辞めりゃいいじゃねえか」って言われたのを思い出したんだよ。「そうだな、そうしよう!」と思った!
ノブ　ほう! 思いましたか!
カタブツ　10本できないんだよ……。
ノブ　ガハハハハハ!
カタブツ　その月曜日に、オレ、会社の前まで来たんだよ。午後7時頃。
豪　ウソ?(笑)
カタブツ　「10本出来ないよ! でも、会社の目の前まで来ちゃったよ! どうしよう?」って。そんで、ドアの前でタバコ吸ったりなんかして(笑)。「このままじゃ顔会わせられないな……帰ろ」って。
豪　夜の7時にここに来たってことは、6時くらいまで家で考えてたの?
カタブツ　ううん。代々木で考えてたの(カワイ子ぶって)。
豪　ええ〜(笑)。
カタブツ　ず〜っと朝からいたの(さらにカワイ子ぶって)。代々木の本屋さんでね、いろいろ雑誌を見てね。
ノブ　何時からいたんですか?
カタブツ　朝の10時くらいからね。ずっと代々木にいて疲れちゃったんだよねぇ〜。
一同　ガハハハハハ!
豪　面白いな、ブチ!(笑)
ノブ　いい話だ!(笑)
カタブツ　「オレ、才能ないから、もういいや」と思って(笑)。
ノブ　消えてる間何してたんですか?
カタブツ　テレビ見たり、ファミコンやったりしてた。楽しかったねぇ〜。
豪　その間、会長も同じようなことやってたんだよ。
カタブツ　バカだね、ホントに。
豪　同じ34歳同士が企画会議も出ないで、家でテレビとファミコンして(笑)。ホンットにダメだな、34歳!
カタブツ　ゲームもつまんないね。
豪　何やってたの?
カタブツ　なんかのRPG。つまんなかったよぉ。でも、最後までいきたくて意地になってやってたよ。まだ終わってないんだけど。
ノブ　何やらせても中途半端ですね(笑)。
カタブツ　疲れたよ。

豪　会社でも疲れ、ゲームでも疲れて。
カタブツ　家でも疲れ……。
豪　次の就職は大変だね。嫁と職場、どっちにリベンジするかっていったら、職場リベンジ?
カタブツ　職場リベンジですよ。♪しょっくば。しょっくばぁ〜(歌い出す)。
豪　辞職願を読んだけど、オレには「ごめんなさい」がないのはシャクだよね(笑)。オレには迷惑掛けてねえのか、この野郎!(笑)。
カタブツ　豪さんの場合はねえ……。
豪　「アメとムチ」で言うところの「アメ」をちゃんと与えてるからね。
カタブツ　(満面の笑みで)そうだぁ。
一同　ガハハハハハ!
カタブツ　(ノブに向かって)アメが大事なんだよ。ね? 分かる?
豪　「アメは甘くて、おいしいんだ!」って(笑)。
カタブツ　おいしいアメをくれれば、いくらでもかわいがるのに!
ノブ　ボクなんかアメどころか、寿司をあげてるじゃないですか!
カタブツ　いつ寿司をくれたんだよ。
ノブ　すげえサビ入りの寿司(笑)。
カタブツ　そんなのばっかりだもん。
ノブ　でも、辛いのに強くなったでしょ?
カタブツ　この態度が気に入らないんだよな。上から見下すような態度で。
ノブ　ここに戻りたくなったりしませんか?
カタブツ　イヤ! 絶対イヤ!
ノブ　辞めたら肩の荷が下りましたか?
カタブツ　下りたね〜。
豪　嫁と別れて、また一つ肩の荷が軽くなって。どんどん軽くなってるじゃん。髪も軽くなって。
カタブツ　無責任のかたまりだな。
一同　ガハハハハハ!
豪　全部荷を下ろしちゃったね、途中で(笑)。
ノブ　「人生は重荷を背負って、坂道を登るが如し」っていう言葉がありますけど(笑)。
カタブツ　転がり落ちちゃったね、完全に。
ノブ　「人生は重荷を下ろして、坂道を転がり落ちるが如し」(笑)。
豪　転がるだけ転がって(笑)。いいねえ、今日のブチ。相当、肩の荷下ろしたね(笑)。ところで昨日(97年11月5日)、バトラーツの後楽園大会があり、我が社バカ軍団は売店で『紙プロ』を販売した)は、ブチの存在が必要だということを痛感したんだよ。さんざん誌面に出しただけあって、ブチを見ようとしてるヤツがいるんだよね、ごく一部(笑)。「ブチいねえじゃん!」とか(笑)。
カタブツ　嬉しいなあ。物販は続けようかな。2度とツラ見たくねえとか思ってたけど。物販はしよう!
ノブ　ラジオには出ませんか?
カタブツ　いいよ〜。
豪　顔だけを売りたいの?(笑)。
カタブツ　いいよ、緊張しちゃうもん。
豪　アナウンサーもあんまりアメは与えてくれないからね。
カタブツ　豪さん来るの?
豪　何で!(笑)。
カタブツ　豪さん来るなら行きたい。
豪　オレなんだ?(笑)。のものはダメなの?
カタブツ　アメくれないから。
ノブ　ボクが付き人として行きましょうか?
カタブツ　お前だけはイヤじゃ!
一同　ガハハハハハ!
ノブ　アゴで使っていいんですよ。
豪　ブチだけグリーン車に座って横に立たせておくとか(笑)。
カタブツ　ウソ!? クツ下変えてもらったりしてもいいの?

辞職願

突然のことながら、一身上の都合を持ちまして辞職させていただきます。
理由は数々の迷惑、敵前逃亡ともいえる職場放棄など数限りないものです。
豪さん、悪意がこもっていながらも、いじくられているのは結構面白かったです。
のものも、本当に申し訳ない。
一枝さん、ごめんなさい。
ノブ、死ね! ホント死ねよ、早く死ね!
会長、いつか必ず、あっと驚くような作家になって見返してやる!
お前らのその冷笑がオレのバネだ! 以上

中村カタブツ君(34歳)

これが衝撃の「辞職願」だ! ご丁寧にひとりひとりへメッセージも残されている。筆者には「死ね!」という非常に縁起のいいお言葉を贈ってくれたのが印象的。読者の皆様も、中村カタブツ君(34歳)が立派な作家になれるようにサポートしてあげてくれ。

紙プロ史上　最も小さい文字でお届けする、中



辞める1週間前、某団体を相手に大トラブルを起こして頭を丸めた中村カタブツ君（34歳）。快楽至上主義にのっとり、気持ちよくボウズ頭をなでる図。

豪　それがブチにとって気持ちいいの？（笑）。

カタブツ　まあ、チ●コビンタに近いな（笑）。

豪　「オレの臭いクツ下を履かせろ、コラァ！」って（笑）。屈辱を与えるのが好きなんだよね。Sの割にS的な立場に立てなかったのが辛かったんだろうけどね。前の会社では、多少S的なことが出来てたわけでしょ？　ダメなヤツとかいて。基本的に人の悪口とか好きなわけでしょ？　多分、毎日Showがいたらブチはそれなりに生き甲斐を見つけたと思うんだよね。

カタブツ　デヘヘへ、そういう意味じゃ、Showは大好きだよ。

一同　ガハハハハハハ！

豪　ブチの気持ちが手に取るように分かって気持ちいいよね（笑）。

カタブツ　手に取らせてるんですよ（笑）。

豪　踊らされてるんだ？　ブチの手の平で！（笑）。

カタブツ　まあ、そういうことかな。

豪　すごいなあ（笑）。ブチは猪木だ。

カタブツ　ラジオかぁ～。出てもいいかな（笑）。

一同　ガハハハハハ！

ノブ　そのうちレコードデビューの話も来るんじゃないですか？

カタブツ　東芝EMIーで出してくれるかな？

豪　期待された場では、期待を裏切らないからね。初めて行ったデザイナー事務所で「じゃ、失礼しま～す」って玄関から出ようとしたら下駄箱を開けちゃったりして（笑）。「ホントにカタブツだぁ～」って喜ばせたり（笑）。

ノブ　そういうところだけ本番に強い（笑）。

カタブツ　オレはちゃんとやってるつもりだったんだけど。

豪　それはそうと、一週間以上来なかったくせに辞職を願ってどうすんだよ。辞職を届けろよ（笑）。

カタブツ　オレもそう思ったけど、「まあいいや」って思って（笑）。

豪　金もないでしょ？

カタブツ　まあ。髪の毛伸びるまでね……。

豪　それまで仕事しないの？

カタブツ　履歴書の写真は、この頭だとイヤだなぁ。

ノブ　写真なんかいくらでもあるでしょ。

豪　何でボウズがイヤなの？　ボサボサ頭の方が絶対イメージ悪いよ（笑）。

カタブツ　「何でボウズなの？」って聞かれて、「いやぁ、前の会社で不始末を……」って言えないじゃん。

豪　そんなこと言わなきゃいいじゃん！（笑）。

ノブ　そんなヤツは面接で確実に不採用になりますよ！（笑）。

カタブツ　「不始末しでかして、それでクビになりまして……」って。

ノブ　自分で会社に来なくなったくせに（笑）。また、ウソついて（笑）。

カタブツ　逃げたのか？　オレは。

豪　「責任取って逃げました」って訳のわかんないこと言えば（笑）。

カタブツ　だって、辞めた理由がわかんないんだもん。

豪　大丈夫だよ。「暑いから」とか適当なこと言っておけば。

カタブツ　じゃあ、就職活動しよう！　佐川急便にでも勤めようかな。もう、オレは出版の才能ない！

一同　ガハハハハハハ！

豪　それで何で「作家になる」とか言ってんだ！

カタブツ　あ、それは書いただけだよ。

一同　ガハハハハハ！

豪　面白いな（笑）。

カタブツ　本気で受け取ってどうすんの！

豪　「オレの言うことを本気にすんじゃねえよ、コラ！」と。……なんでさっきから頭なでてるの？

カタブツ　気持ちいいんだよ。

一同　ガハハハハハハ！

豪　気持ちいいこと大好きだからね（笑）。だから、ヒゲ生やしてるとずーっとヒゲを胸にこすりつけてるんだよね。で、胸が真っ赤になっちゃって。

ノブ　腹が出ると、お腹をずーっとさすってるし。

豪　すごい快楽主義者だよね（笑）。

カタブツ　あ～面白い（笑）。今日は来て良かった。

ノブ　今日のアメは甘いですか？

カタブツ　甘い！　こういうアメをなぜ、オレがいる間に出せなかったの？

一同　ガハハハハハハ！

豪　オレは出してたよ。ノブが悪いの？

カタブツ　豪さん、最高！　最高だよ、ホント！

一同　ガハハハハハ！

カタブツ　ホンットにオレ、2階まで駆け上がったもんなあ。

豪　へ？　何それ？

カタブツ　だから、浮かれまくるんですよ。

ノブ　浮かれまくると2階に駆け登るんスか？

豪　それ比喩？

カタブツ　比喩比喩。

ノブ　3階とか4階とか天まで行きましょうよ。2階とかチンケなこと言わずに（笑）。

カタブツ　チンケだね、確かに。

ノブ　このままの言語能力で作家になってもらいたいですね（笑）。

豪　2階まで駆け上がる気持ちって、すごい小さいよね（笑）。

カタブツ　こんなことしてる場合じゃないよ。ちゃんとした生活しなきゃな。

豪　再婚する気はあるの？　ちなみにブチの見合い募集は1通も来ないよ（笑）。

ノブ　最近、ヤリました？

カタブツ　うん！

豪　ソープ？

カタブツ　ううん！（全速力で首を振る）自宅に呼んじゃった、出張！（机をバンバン叩き炎上）。

一同　ガハハハハハハ！

カタブツ　呼んじゃったぁ～！　呼んじゃったぁ～！（絶叫）

豪　自宅でそういうことするのは気持ちいい？

カタブツ　なんか、デヘヘ、ドキドキするね！

一同　ガハハハハハハ！

豪　嫁の使ってた布団で？

カタブツ　それはさすがにしなかったね。リビングに毛布ひいちゃって「ここでいいよ。どうせお前はモノだから」みたいな（笑）。

一同　ガハハハハハ！

カタブツ　むこうもモノって態度だったからさ。

豪　そりゃ、ブチには都合がいいね。

ノブ　チ●コビンタはしました？（カタブツは、若い頃、チ●コビンタでブイブイ言わせていた）。

カタブツ　しなかった。大人げないから、それはやめてる。チ●コビンタかぁ（遠い目）……復活させようかなぁ（しみじみ）。

一同　ガハハハハハ！

ノブ　暴れますねえ（笑）。

豪　ブチにチ●コビンタされたい人を募集しようか（笑）。

ノブ　前、「カタブツ君、生でOKよ」っていう28歳の主婦からハガキが来たじゃないですか？　応募してくるかもしれないですね（笑）。

カタブツ　（はしゃいで）な？　可能性あるよな？　そういう手紙は手渡しでくれよ！

ノブ　どうでした？　その出張は？

カタブツ　面白くないねぇ。

豪　いくら？

カタブツ　2万円。ブサイクでさぁ。モノだね。モノのくせに濡れてやがってさぁ（笑）。

一同　ガハハハハハ！

カタブツ　デへへ。毛布にシミ付けやがって！

豪　面白いなぁ、ブチ。「モノのくせに濡れやがる」（笑）。

カタブツ　モノのくせに「生尺は嫌だ！」とか文句ばっかり垂れやがって。

豪　それは腹立たしいね。

カタブツ　「ゴムよ、当然」とかぬかしやがって。何が当然なんだよ！　で「まあ、いいや」って思って。こっちもゴムの方がいいけどね、あんなクサレマ●コ！

ノブ　そんなクサレマ●コに突っ込んだ感想はどうですか？

カタブツ　（満面の笑みで）いやぁ、気持ちよかったよ、デへへ。

一同　ガハハハハハ！

カタブツ　溜まってたからさ、すぐ出ちゃった。「あら～、早いわねぇ」なんて言われちゃって。

豪　何日ぶりだったの？

カタブツ　結構やってたからね。ファッション・マッサージに行っちゃあ、勝手に生で入れてたからね。

ノブ　男だなぁ（笑）。

豪　ブチの得意技ね（笑）。

カタブツ　「ダメ、ダメ」とか言いながらも、入ってるんだよ、デヘヘ。「大丈夫、大丈夫、もうすぐ終わるから」なんて言って……アホだ。

一同　ガハハハハハ！

カタブツ　「病気、大丈夫なの？」って聞いてくるけど、「大丈夫だ！　あと15年もすれば死ぬんだから。」とか言って。まあ、そんなところですよ。いいかな、これで。

ノブ　あれ、帰っちゃうんですか？

カタブツ　うん。じゃ、よろしくお願いしますぅ～。

（家路につくカタブツ。が、その5分後……）

カタブツ　忘れ物しちゃった。

一同　ガハハハハハ！

カタブツ　ジャケット忘れちゃった。外出て寒いから気が付いたよ。

ノブ　ハハハ、最後の最後まで。

豪　それは忘れすぎだよ（笑）。

カタブツ　じゃ、お疲れさ、イテッ！

ノブ　足ぶつけたんですか？　ホントにドジですね（笑）。

カタブツ　もう！　じゃ、お疲れさま～。

【ダブルクロスにて収録】

■インタビュー後記■

この後、中村カタブツ君（34歳）に連絡を取ってみた。何をしているのかと聞けば、「ブラブラしている」と答え、どこをと聞けば「家の中」だと言う。何だそりゃ。恋愛シュミレーションゲームをやれば、「将来性のないアナタとは付き合えません」とゲームにまで翻弄されているという。ダメだこりゃ。さて、今号は猫の手も借りたいほどの超人手不足な本誌編集部。そこで白羽の矢が立ったのは編集経験者である中村カタブツさん（34歳）その人である。大した期待もしていなかったのだが、仕事を始めると今まで見たこともないようなスピードで次々とテープ起こしをこなしていく。3ヶ月見ない間に何があったのか？　会社という足枷（？）が外れたとたんに、仕事がバリバリ出来るようになるというのも皮肉なものだ。みなが驚き、褒め称え、そしてアメを与えた。そんなある夜、会社の車が行方不明になっていった。最後に乗ったのは中村カタブツ君（34歳）。会社の真ん前に路駐したと言い張るがないのだ！　レッカーされたとしか考えられない。すかさず警察署に問い合わせてみるが、レッカーした記録は残っていないという。この奇怪な現象で編集部は大混乱。まあ、それも中村カタブツ君（34歳）の仕業と思えば、腑に落ちるから不思議なもの。しかし、腑に落ちたところで車は返ってこない。すると、カタブツは会社の駐車場に確認に向かった……5分後……中村カタブツ君（34歳）は戻ってきた。「会社の駐車場に車を止めてました」もはや小宇宙としか呼びようのない、混沌とした脳味噌の持ち主になって、中村カタブツ君（34歳）は帰ってきた。まあ、臨時のバイトなのだが。中村カタブツ君（34歳）――男、牡、人生のど真ん中にただすむ素敵なポンコツ。「これで終わったのではないョ。これからがはじまりだョ」



中村カタブツ君（34歳）が得意とするヒクソンの形態模写。ここで衝撃情報！「ブチが某格闘技雑誌に編集スタッフとして加わるらしい」とのこと。その雑誌で『カタブツランド』が復活するかもしれない。その日まで中村カタブツ君（34歳）よ、アディ押忍！

世の中とプロレスする雑誌

紙のプロレス 本誌

BACK NUMBER のお知らせ!

23号は 夜桜だもんね～ の季節に発売予定

え～、この件に関するお問い合わせは してもムダというか…やれんのか―!!

第11号 徹底検証! 気が狂うとはこういうことさ!

特集『狂気とは何か?』



◎狂気をうちに秘めた凄玉6人ロングインタビュー **堀辺正史／タイガー・ジェット・シン／ガッツ石松／西村知美／佐野量子／糸井重里**

◎特集『週刊プロレス』とは何か?完結編
初代『週プロ』編集長・**杉山頴男**独占手記
全女企画広報部長・**ロッシー小川**インタビュー
『週ゴン』編集長・**小佐野景浩**インタビュー

◎新連載!「プロレス用語大辞林」**吉田豪**

第8号 すわっ! 新日本との抗争勃発か! 石橋は叩く前に渡れ!

特集『さらば新日本プロレス』



◎新日本プロレスに決別宣言した禁断の㊙企画! 出席者=**ターザン山本、山口昇、柳沢忠之、斎藤雄一**

◎華麗なる初登場 **ザ・グレート・サスケ** ロングインタビュー

◎カマキリ拳法を語る **関根勤**インタビュー

◎『紙プロ』はどこでも行きます隊が恐山に突撃!「恐山はホントに怖く、天龍&仮面貴族組は八戸の夜空に舞ったか!?」

第5号 初期『紙プロ』の香り漂う 世謝出版時代の一冊!

特集『たたかいグランプリ』



◎人はどう闘っているのか? 疾風怒涛アンケート

◎極私的闘争6大コラム **山口昇／鈴木邦男／杉作J太郎**／ほか

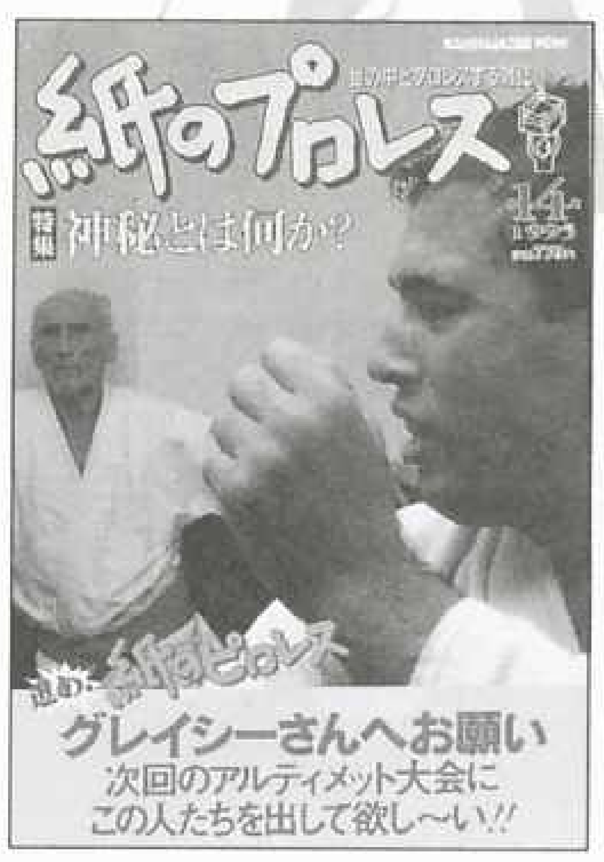
◎ホットロングセクシーインタビュー／**馳浩**

◎神と悪魔の歴史的対談 **デビル雅美vs氏神一番**

◎再考察「なぜ馬場は馬場さんと呼ばれるのか」／**枥内良**

第14号 ワァ～オ! 思わず息の根も止まる 神秘的な人たちが大集合!

特集『神秘とは何か?』



◎超豪華3大インタビュー **佐山サトル／鈴木みのる／大槻ケンヂ**

◎ワァ～オ!! アルティメットに出ていただきたい方特集
元プロボディーガード **清水伯鳳**インタビュー
大東流合気柔術六方会宗師・**岡本正剛**インタビュー

◎ガチンコ2大インタビュー **遠藤幸吉／高田文夫**

◎小社インチキ顧問会計士・**金閣寺ひろし**がビール片手に大暴れ!

第13号 安生、グレイシーに敗北! これがすべての始まりだった!!

巻頭緊急特集『道場破りとは何か?』



◎頑固一徹! 2大ロングインタビュー **山本小鉄／上田馬之助**

特集『ファミコンプロレスの逆襲』

◎5大インタビュー **前田日明／スペル・デルフィン／馳浩／斎藤文彦／須田剛一**

◎アメプロ座談会「平成のプロレスファンとは何か」

◎2大セメントインタビュー **養老孟司／糸井重里**

第12号 歴史に残る大事件! 前田日明女子便所事件勃発!

特集『色気とは何か?』



◎緊急座談会「前田日明に愛をこめて」**サダハルンバ谷川／山口昇／柳沢忠之**

◎威風堂々9大インタビュー
前田について語る 作家・**村松友視**
現nWoジャパンリーダー **蝶野正洋**
ザ・グレート・サスケ／ターザン山本／アントニオ猪木ほか

◎新島のくさや王・**菊池佐一**が色気を語る

◎ストリッパー・**伊藤舞**が語るプロの色気!

第17号 前代未聞空前絶後の大偉業! 北朝鮮で猪木ワールドが炸裂!!

特集『実況パワフル北朝鮮!』



◎新・闘魂二人三脚対談編 **アントニオ猪木vs永島勝司**

◎友愛の3大インタビュー **ブル中野／橋本真也／村松友視**

◎バトラーツの源流を堪能せよ! 巻末特集『藤原組の逆襲』
緊急スクープ座談会「ツボ原人とは何か」

◎聡明なる新連載「誤釣生活」**糸井重里**

第16号 帝国の逆襲! 活字版キング・オブ・スポーツ!

特集『新日本凸凹大学校』



◎キング・オブ・スポーツな5大インタビュー **後藤達俊／マサ斎藤／キラー・カーン／橋本真也／田中秀和**

◎手に汗握る 巻末ビッグ対談×2 **糸井重里vs谷川貞治** **ユセフ・トルコvs由利徹**

◎これ見て泣けや! 青春の大発掘 アントングッズとは何か?

第15号 インディー総力特集!! まあ、触ったことねえですから

特集『インディペンデントの逆襲』



◎第一部3大インタビュー **高野拳磁／ポイズン澤田／中牧昭二**

◎第二部 あんた誰?「山口昇試練の十人組手」**茂木正淑／神風／島田宏／ウルトラマンロビン**ほか

◎巻末緊急特集『K―1とは何か?』3大インタビュー **石井和義／谷川貞治／ターザン山本**

◎祝・新社屋落成記念 みちプロ新社屋にケツぶっかける!!

第20号 ドラマチックで何が悪い！ プロレス的視点で格闘技を読め！

特集『劇的格闘技』



◎格闘技におけるドラマ性とは何かに迫る4大インタビュー
角田信朗／真樹日佐夫／大槻ケンヂ／村松友視
◎日本のプロレスの3巨頭にロマンチックインタビュー
ユセフ・トルコ／上田馬之助／遠藤幸吉
◎デンジャラス2大インタビュー
松永光弘／神取忍
◎特別連載
「極道一代・山口昇物語」
黒田信一
◎**W井上毒舌人生相談&フリーダムフォース人生相談**

第19号 本誌最大の危機！ そして『紙インター』へ……

特集『さようなら紙のプロレス』



紙のプロレスを偲ぶ2大企画
◎4大インタビュー
ターザン山本／ユセフ・トルコ／上田馬之助／糸井重里
◎紙プロ追悼バズーカ対談
高野拳磁vsザ・グレート・サスケ
◎座談会『K−1三兄弟＋負けず嫌い座談会』
出席者 **石井和義／ターザン山本／平仲信明／サダハルンバ谷川**
◎『紙プロ廃刊』記念親善バスケット大会
◎巻末ドリーミングインタビュー
山崎一夫／ミスター・ポーゴ
◎「書評の星座」が連載開始！

第18号 高田延彦「ごくごく近い将来」引退宣言！ じつは高田が好きでした！

緊急特集『高田延彦さんへ愛をこめて』



緊急座談会・高田引退発言の読み方
出席者＝**花くまゆうさく／山口昇／柳沢忠之**
◎特集『すてきな奥さん』5大インタビュー
大山倍達未亡人 **大山智弥子**
佐々木健介夫人 **北斗晶**
ライガー夫人 **●●千景**
石川雄規夫人 **石川道枝**
サスケ夫人 **村川メリー**

何か？ シリーズ

猪木とは何か？



◎緊急ロングインタビュー
アントニオ猪木
「どうってことねえよ」
村松友視
「猪木の語り部、大いに語る」
◎スキャンダル仕掛人・**仙波記者**に迫る！
◎毒舌王が猪木を語る！
立川談志インタビュー
◎**新間寿**
記者会見誌上再現
「PKO発言とは何か？」

第22号 昭和魂を持つ 偉大なプロレスラーたちを見ろ！

特集『この人が喝っ！』



◎太平洋戦争の撃墜王
坂井三郎（元特攻隊員）インタビュー
◎元海女・**田仲のよ**インタビュー
◎巻頭インタビュー
「北の国から96・冬眠」
ジョージ高野
◎新春！ ウルトラ対談
（格闘術使いVS解剖学者）
前田日明vs養老孟司
◎プロレス雑誌を斬る！
プロレス風紀委員会結成
高阪剛／セッド・ジニアス／小佐野景浩（『週刊ゴング』編集長）／**熊久保英幸**（『ゴング格闘技』編集長）

第21号 いにしえの殺人術に プロレスを見た！

特集『幻的格闘技』



◎古武術でプロレスする古武術の達人6大インタビュー
前田日明（格闘術使い）／**岩井作夫**（古武術・武備会）／**甲野善紀**（武術研究会松聲館）／**世古典代**（寛水流空手二代目会長）／**井谷利之**（野太刀自顕流師範）／**櫻井文夫**（合気道S・A代表師範）
◎唯我独尊！ 2大インタビュー
石井和義／ガッツ石松
◎元気爆発！ 2大インタビュー
ユセフ・トルコ／高田文夫

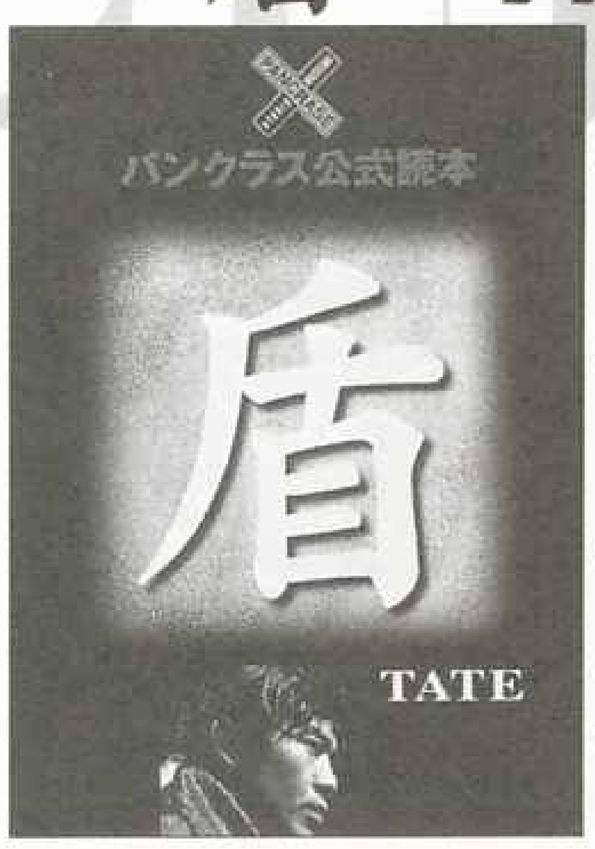
パンクラス公式読本

矛 —HOKO—



◎スペシャルゲスト・2大インタビュー
カール・ゴッチ&佐山聡
◎横浜道場所属全選手インタビュー
近藤有己／山田学／稲垣克臣／渋谷修身／伊藤崇文／長谷川悟史
◎今こそ源流を辿れ！
Uの思想、Uの幻想、UWFを解剖せよ
◎熱すぎる風！ 特別寄稿だ！
杉本喜公（元・『週刊ゴング』）
佐藤正行（『週刊プロレス』）
◎パンクラス・オフィシャルルール完全網羅&ルール変遷史
◎この熱さを感じろ！
超ロングインタビュー
鈴木みのる『熱き風』

盾 —TATE—



◎スペシャルゲスト・インタビュー
ジャイアント馬場
◎ターザン山本辞表提出1周年記念
パンクラス非公式座談会
出席者＝**ターザン山本／山口昇／Show**
◎東京道場所属全選手インタビュー
冨宅飛駈／髙橋義生／柳澤龍志／國奥麒樹真／山宮恵一郎
◎特別寄稿！ 感動させてよ！ 出張版
宍倉清則（『週刊プロレス』）
◎厳選17人がパンクラスに一言！
◎この深さを感じろ！
超ロングインタビュー
船木誠勝『HARD』

何か？ シリーズ

極真とは何か？



◎K—1でも活躍の一撃必殺インタビュー
フランシスコ・フィリョ
◎極真魂を叩き込みインタビュー
磯部清次ブラジル支部長
◎極真魂が行間からこぼれる16大インタビュー
黒澤浩樹／松井章圭／村上竜司／ウィリー・ウィリアムス／中村誠／大沢昇／大山茂／ニコラス・ペタス／山田英次（フルコンタクトKARATE元編集長）他

バックナンバー常備のえらいお店

——**書店**——

山形／八文字屋エビスヤ店　神保町／書泉ブックマート、書泉グランデ　秋葉原／書泉ブックタワー　池袋／リブロ池袋店、芳林堂書店池袋店　六本木／青山ブックセンター　大井町／博文堂大井町店　中野／タコシェ　吉祥寺／ブックスルーエ　町田／福家書店　浜松／イケヤ文楽館有楽店　名古屋／ヴィレッジ・バンガード、ヴィレッジ・バンガード2　豊田／ヴィレッジ・バンガード5　春日井／アイビー・ブックス　富山／精文館書店　大阪／駸々堂コミックランドアメリカ村　岡山／ブックマスターフィッツ

——**プロレスショップほか**——

水道橋／プロレス・マニア館、チャンピオン　新宿／アイドール　渋谷／レッスル渋谷店　池袋／レッスル池袋店、日本武道具　大山／大山アメリカン　東大和／オフィスTAKA　札幌／リングパレス　甲府／キャッチ　名古屋／アイドール　和歌山／ヘラクレス和歌山駅前店　大阪／アイドール、バディスラム、チャンピオン　金沢／プロレス屋　鹿児島／ひょうたん屋

ザ・通信販売

○定価は『紙のプロレス』第5、8号は700円、第11号〜22号は780円となります。『猪木とは何か？』は1320円、『極真とは何か？』は1530円となります。『矛—HOKO—』『盾—TATE—』は1260円となります。
○送料は1冊＝310円、2冊＝340円、3冊〜4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円となります
＊なお1号〜4号6号7号9号10号、『大山倍達とは何か？』は完売しました。残念でした。
＊9号、10号、『大山倍達とは何か？』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

〈申し込み方法〉
●現金書留　〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで
●郵便振替　00130-3-769154　（株）ダブルクロス

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間　月～土 AM11:00～PM7:00　日祝祭 AM10:00～PM6:00
年中無休

新日本・全日本・WAR・パンクラス・キングダム…

赤マルビデオ登場大ラッシュ!! このビデオ達を見ずして、最新プロレスはカタレナイ?

船木誠勝　真実の17分05秒

3月上旬発売
90分￥6,930予定



船木誠勝がパンクラス王者として、初載冠するまでの1年間の道程のビデオ!'94年に王者決定トーナメントによりウェイン・シャムロックが初代キングオブパンクラシストとなり、'95年鈴木、ルッテンと移り変っていったベルトは翌年1996年激動の年を迎える。その'96年を最後にベルトを勝ち取った船木を中心に振り返る。他にも、近藤の台頭、鈴木の怪我をおしてのファイト等他の選手の試合も入ってます。
1996年タイトルの変遷
●鈴木vsフランク　'95年10月次期挑戦者決定戦で船木を破ったフランク・シャムロックはこの'96年1/28横浜で王者ルッテンに挑戦するはずであったが、ルッテン負傷欠場のため鈴木との暫定王者決定戦を行う。フランクは22分53秒ヒザ十字で勝利、暫定王者となる。
●ルッテンvsフランク　5/16武道館の第3代王者ルッテンと暫定王者フランクとの王座統一戦。11分11秒TKOでルッテンの勝利。
●船木vsルッテン　9/6NKホールで行われた超有名な試合。何を隠そうこのビデオのタイトル「真実の17分05秒」というのはこの試合の終了タイム。船木は結果的にTKO負けするがやられてもやられても立ち上がって行く船木に凄みや勇気やいろんなものをプロレスファンは感じ、話題を呼んだ。
●船木vs近藤、デルーシアvs渋谷　ルッテンの王座返上による王者決定トーナメント1回戦。ネオブラットトーナメント優勝、鈴木、フランクを破り成長著しい近藤が船木と初対決。1分49秒チョークスリーパーで船木の勝利。
●船木vsデルーシア　パンクラス初参戦で船木を破った因縁のデルーシアとの決勝戦。見事、TKO勝ちで船木が初めて、パンクラス王者となる。

キング オブ パンクラス タイトルマッチ　2月6日発売

近藤有己vs船木誠勝リマッチ

￥6,930



'97年12/20横浜文化体育館。4月の王座交代劇から8ヵ月、近藤は初防衛戦でデルーシアを下し、11月には高橋を下しパンクラス王者として結果を残してきた。船木もまたメッツァー、ゴドシーを破り、タイトルマッチに向け絶好調。その二人が対戦して自ら全く安い訳がない。2分20秒という短い時間だったが、内容は超濃いです。フィニッシュのアームロックも船木ならではの技、芸術品を見てください。他、休養に入るルッテンのサヨナラマッチやキック武者修行を終え凱旋帰国した柳澤vs技をかけてもギブアップしない男ジョン・ローバー。アンクルホールド合戦の末、ローバーのジン帯が断裂、その瞬間の音をマイクが拾ってます。イゴール・ジノビエフの初参戦マッチなど今回も盛り沢山
収録試合　近藤vs船木、ルッテンvs山宮、柳澤vsローバー、渋谷vsジノビエフ、デルーシアvs美濃輪、メッツァーvs長谷川、金vs国奥、伊藤vs窪田

パンクラス

ALIVE TOUR 神戸大会

￥6,930



97年11/16神戸ファッションマート。12/6月横浜でのタイトル戦を控えた王者近藤と挑戦者船木の充実した闘いを見てほしい。近藤は難敵高橋と激突。荒れ狂う掌底合戦を制したのは近藤。王者の貫禄を見せつける。船木はジェイソン・ゴドシーと対戦。ゴドシーのパワー、テクニックを封じ、見事ギブアップ勝ち。伊藤vs山宮。他、冨宅vs長谷川、渋谷vs美濃輪を収録。

ALIVE TOUR後楽園大会

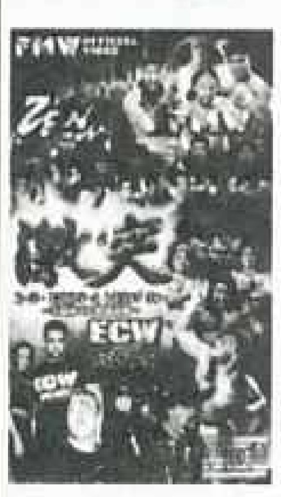
90分￥6,930



'97年10/29後楽園ホール。王者近藤有己が成長著しいリオン・ダイクをいかに破るかがポイント。セミはランキング戦国奥vsガイ・メッツァー。ジョン・ローバーvs渋谷、高橋vs金、伊藤vs美濃輪、山宮vsテリグマン、長谷川vs窪田を収録。他にも、ジョン・ローバーvs渋谷、恐い高橋vs金、伊藤vs美濃輪、山宮vsテリグマン、長谷川vs窪田を収録。今回は何と特別プレゼントとして、初回限定でテレフォンカードを封入!

激突～スーパーエクストリームレスリングウォー～

FMW×ZEN×ECW×冬木軍×米版F・M・W　144分￥9,990



インディーマット史上、最大の団体対抗戦が実現
厳寒の日本列島を縦断したFMW「スーパーエクストリームレスリングウォー」の4連戦('97.12/19～22)を緊急ビデオ化!団体対抗戦を中心に全13試合収録!
収録内容●大仁田vs田中●ミスター雁之助&金村vsハヤブサ&人生●テリー・ファンクvsサンドマンvsババ・レイ・ダッドリー●トミー・ドリーマーvsザ・グラジエーター●大仁田&黒田&非道vsハヤブサ&田中&大矢●テリー・ファンク&トミー・ドリーマー&サンドマンvsザ・グラジエーター&ミスター雁之助&金村●ダッドリー・ボーイズvs邪道&外道●田中vs金村●テリー・ファンク&トミー・ドリーマー&サンドマン&ババ・レイ・ダッドリー&D-ボン・ダッドリーvs大仁田&ザ・グラジエーター&黒田&非道&グレート・フェイク●大矢vsミスター雁之助●ハヤブサ&人生&田中vs大仁田&ミスター雁之助&金村●テリー・ファンク&トミー・ドリーマーvsダッドリー・ボーイズvsザ・グラジエーター&非道●サブゥーvsサンドマン

ネオ・レディース旗揚げ戦

￥6,930

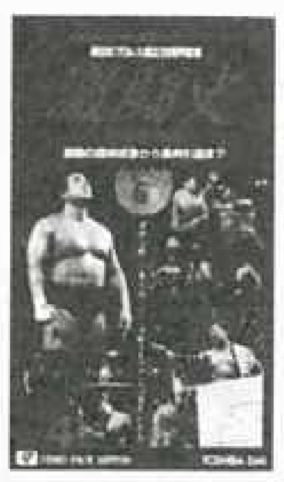


'98年1/9後楽園ホール。ついに、旗揚げしました女子プロ新団体ネオ・レディース!この日は旗揚げ戦らしく、対抗戦なしの純ネオ・レディースだけの試合です。京子、下田、三田、ASARI、椎名、田村、元気、タニー、遠藤の9選手の生き生きした表情をこのビデオで見て下さい!特に京子は全6試合中3試合に出場。元気戦での力の入った試合からラスカチョーラスとのラフファイト2連戦と厳しい試合の連続。なおかつ、自分の試合以外でもセコンドについての大忙し。他にもパワーアップ元気や、よりカワイクなったASARIと見所沢山だが、忘れちゃいけないのが下田&三田&遠藤の最強トリオ、ラスカチョーラスオリエンタレス。見事メインも連勝し、「ラスカチョのネオ・レディース」を強烈アピール。勿論、全選手インタヨビュー入。

収録試合　●京子&ASARI&田村vs下田&三田&遠藤●京子&タニーvs下田&三田●京子vs元気●ASARIvs田村●椎名vsタニー●椎名vs遠藤

新日本激闘史 VOL4～覇権闘争伝～

2月25日発売
105分￥10,200



WAR、Uインターとの抗争、超世代闘争、ジュニア統一、4大ドームツアー、nWoの台頭、長州引退まで…新日本帝国激動の歴史を全プロレスファンに捧げる!尚、激闘史VOL1～3は各￥6,200で4/22に発売!
収録内容　'92年6/26健介、左足骨折からの復帰、8/12蝶野、G1 2連覇達成!11/23ヘルレイザーズ、初登場!'93年1/4長州vs天龍、8/3～7藤波、G1制覇、'94年1/4猪木vs天龍、2/24I橋本vsライガー、4/16 SUPER J CUP、'94年8/3～7蝶野G1V3への軌跡、11/13平成維新軍旗揚げ、2/12平成の乱、'95年2/19金本、IWGPジュニア王座初載冠、5/3復活!武藤、IWGP王者に10/9新日本vsUインター全面戦争、'96年1/4激震!至宝IWGP他団体へ流出、4/29橋本、高田を破りベルト奪回、8/2～5ジュニア8冠統一「J-CROWN」&長州、史上初!G1全勝優勝、'97年1/4ライガー、悲願の8冠王者に!3/20新日本vsnWoイリミネーションマッチ、4/12究極のヒール対決!蝶野vsムタ、5/3史上最大の異種格闘技戦!橋本vs小川、8/1～3健介、涙のG1発優勝!'97年8/10長州vs藤波名勝負数え歌～最終章～、8/31「俺たちの時代トリオ」初結成!長州引退記念試合、10/31新日本vs nWo頂上対決健介vs蝶野、'98年1/4革命の終焉!長州力引退試合

激闘!力道山ベルト争奪トーナメント J-1

2月下旬発売予定　91分￥9,870



'97年11/24横浜文体の天龍vs藤原、12/23後楽園の北原vs荒谷、12/24後楽園の天龍vs北尾、'98年1/14後楽園の天龍vs荒谷の4試合を収録。どれも見応え十分のベストマッチだが、やはり一番は決勝の天龍vs荒谷!天龍のダイビングボディーアタック、トペコン(?)、パワーボム、グーパンチ、天龍ラリアット、WARスペシャル、荒谷の竹刀攻撃、パワーボム、ムーンサルトと一つ一つの攻撃が ド迫力。準決勝の天龍vs北尾も今までの二人の試合のベストマッチ!天龍の危ないパワーボム、えげつない顔面ハイキック、北尾ドリラー、アルティメット殺法と二人のパワーが伝わってくる。勿論、試合前後のインタビューもタップリ入っているので天龍節も堪能できます。ps荒谷のガンバリには感動、試合後のインタビューには泣かされます。(天龍vs藤原、北原vs荒谷はダイジェスト収録。)

全日激闘'97総集編

60分￥5,040



全日本プロレス25周年記念イヤーに行われた三冠戦と世界タッグ戦をダイジェスト収録。この1本を見れば1997年の全日本がわかる!三冠戦は1/20の小橋vs三沢から始まり、3/1三沢vsウィリアムス、6/6vs川田、7/25vs田上、9/6vs秋山、10/11vsウィリアムス、10/21vs小橋。世界タッグは、1/17ウィリアムス組vs川田組、3/1川田組vs高山組、5/27川田組vs小橋組、7/25小橋組vsウィリアムス組、8/26ウィリアムス組vs三沢組、ウィリアムス組vs小橋組。

全日'97世界最強タッグ決定リーグ戦

95分￥5,040



5大会をダイジェスト、優勝決定戦を完全収録(前後のインタビュー、入場シーンもそのまま!)公式リーグ戦は11/15泉田組vsハヤブサ組、ウィリアムス組vs大森組、小橋組vsブラックジャックス、三沢組vsウルフ組、川田組vsハンセン組、11/16ハヤブサ組vs大森組、ハンセン組vsブラックジャックス、ウィリアムス組vsウルフ組、三沢組vs泉田組、11/23ウィリアムス組vsブラックジャックス、川田組vsハヤブサ組、三沢組vs小橋組、11/27川田組vs小橋組、三沢組vsハヤブサ組、11/28大森組vsウルフ組、小橋組vsウィリアムス組、三沢組vs川田組を収録。

LLPWライブバトル'97 猛武闘賊、初見参

2月18日発売　90分￥5,040



'97年10/28後楽園ホール。全女を退団後、本格的フリー活動の第一弾として、ラスカチョがLLPWに登場。全女時代以上にラスカチョを強烈アピール!迎かえ撃つ元全女の大先輩立野&現アルシオンの大向。遠藤紗矢の乱入もあって、大乱戦!それ以上に大荒れになったのがメインの神取&風間&紅vsイーグル&長嶋&沖野。手錠、鉄、鎖と凶器のオンパレード。試合後も和田部や岩井田を血祭りにあげるイーグルに怒りの神取が襲撃!大興奮です!

アルティメット・ファイティング・チャンピオンシップ'97・イン・ジャパン

120分￥5,040



'97年12/21横浜アリーナ。キングダム桜庭和志の実力を世の中に知らしめたUFCJ大会です。ヘビー級トーナメント1回戦では安生がケンカ屋タンク・アボットのパワーの前に敗退。桜庭は第1回エクストリーム大会優勝、グレイシー柔術全体でもバーリ・トゥード・ルールでは5本の指に入る実力者ブラジリアン柔術の強豪マーカス・コナンと対戦。この試合に負けることはアルティメットでのキングダムの評価を決定付けてしまう負けられない試合。ところがレフェリーのミスジャッジにより一度はTKO負けを宣せられるがトーナメント決勝戦でのコナンとの再戦で、見事腕ひしぎ逆十字でギブアップ勝ちを収めた快挙はプロレスファン&格闘技ファンを感動させ、試合後のコメント「プロレスラーは本当は強いんです。」はファンの溜飲を下げさせた。そんなすばらしい桜庭vsコナンの他にも、バルセロナ五輪金メダリスト、ケビン・ジャクソンを22秒で破りUFCミドル級王者になったフランク・シャムロックのファイトやUFC世界ヘビー級戦モーリス・スミスvsランディー・クートゥアーも収録。日本で御馴染みの選手が多数出てます。

新日本プロレス ベストバウト1997

150分￥10,200



新日本プロレス創立25周年記念。その記念すべき1997年のビッグイベントから36試合を厳選収録!これを見れば1997年の新日本がわかる!36試合の中には初ビデオ化の試合も入ってます。6/5ベストオブスーパーJr優勝決定戦サムライvs金本、8/31小川vsノートン、10/31IWGP戦健介vs蝶野、12/8SGタッグ優勝決定戦武藤&蝶野vs橋本&中西の4試合が初ビデオ化ノーカット収録。
その他収録試合　1/4大谷vs田尻、人生vs小原、猪木vsウィリー、パワーvsムタ、橋本vs長州、2/9ライガーvs大谷、4/12猪木vsタイガーキング、ムタvs蝶野、小川vs橋本、5/3ノートン&バグウェルvsジャイアント&ルガー、蝶野&アウトサイダーズvs武藤&スタイナーズ、猪木&タイガーキングvs藤原&ライガー、中西&小島vs長州&健介、橋本vs小川、7/6小川vs山崎、8/2ノートンvsムタ、小川vs橋本、健介vs天山、8/10大谷vsサムライ、藤波vs長州、ムタvs小川、8/31長州&藤波&天龍vsムタ&天山&ヒロ、健介vs橋本、9/23フライvs藤田、小川vsジョンストン、橋本vsフレジャー、10/19武藤&蝶野vs健介&山崎、11/2フライvs山崎、小川vsフルークル、健介vs長州、橋本vsヌームリッヒ、武藤&蝶野vs藤波&天龍

キングダム 実力NO1決定戦(仮)

2月11日発売　120分￥9,870



'97年12/2博多スターレーン&12/8鹿児島アリーナ。メインは、両大会とも金原vs桜庭の試合はタイトル通り、現キングダム実力NO1決定戦となるだろう!特に、博多での試合はキングダムベストマッチと言われた試合。ジックリ、ビデオで見てください。勿論、鹿児島の第2戦も凄いよ～!他にも急成長の山健こと山本健一や高山のド迫力の膝蹴り、折原のチャレンジ、バトスミにも注目!

JWP・パンクラス・リングス・エンセン井上・大日本・ネオ・レディースetc

NEWグッズ大量入荷!

●JWP ニューTシャツ	￥2,900
●JWP パンフレット vol.23	￥1,500
●パンクラス NEW トレーナー	￥9,000
●パンクラス道場対抗白Tシャツ	￥3,400
●パンクラス道場対抗黒Tシャツ	￥3,900
●パンクラスストラップ	￥1,500
●パンクラス白Tシャツ	￥3,400
●リングストーナメント決勝パンフ	￥2,500
●リングス NEW キャップ	￥2,800
●サスケ立体シール	￥1,300
●ルチャの国から'97パンフ	￥1,500
●サスケファスナーアクセサリー	￥1,300
●ZEN 指名手配風パンフ	￥1,000
●ZEN 指名手配風テレカ	￥1,100
●大日本3周年記念ドジャース風Tシャツ	￥2,900
●GEN Tシャツ(小林源之助)	￥2,900
●FMW パンフ 1998VOL.1	￥1,500
●ハヤブサ NEW テレカ	￥1,300
●エンセン JIU-JITSU トレーナー	￥4,700
●エンセン大和魂トレーナー	￥4,700
●エンセンピットブルトレーナー	￥4,700
●エンセン JIU-JITSU Tシャツ	￥3,000
●エンセン KILLORBEKILLT シャツ	￥3,300
●エンセン大和魂Tシャツ	￥3,000
●エンセンピットブルTシャツ	￥3,000
●ジャガー横田写真集「薔薇」	￥3,500
●天龍 J1 ベルトテレカ2枚組	￥3,100
●グーネクタイ	￥3,800
●長州力引退記念カードセット	￥2,500





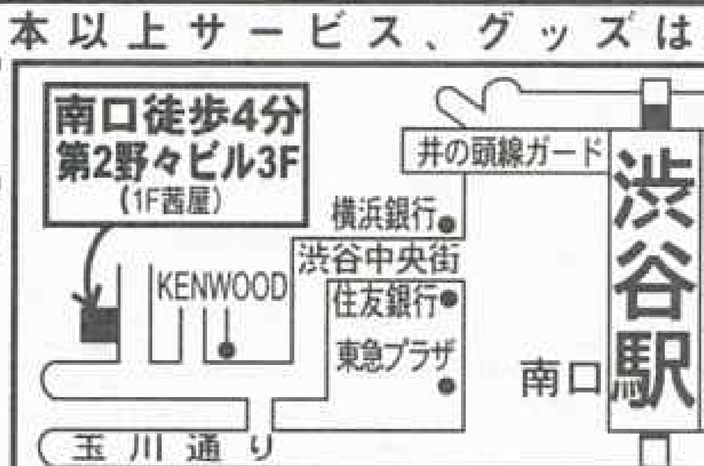
☆レッスルアルバイト募集中!!☆プロレス・格闘技が好きな、元気な女の子!詳しくは渋谷店・安原までご連絡を待ってます!

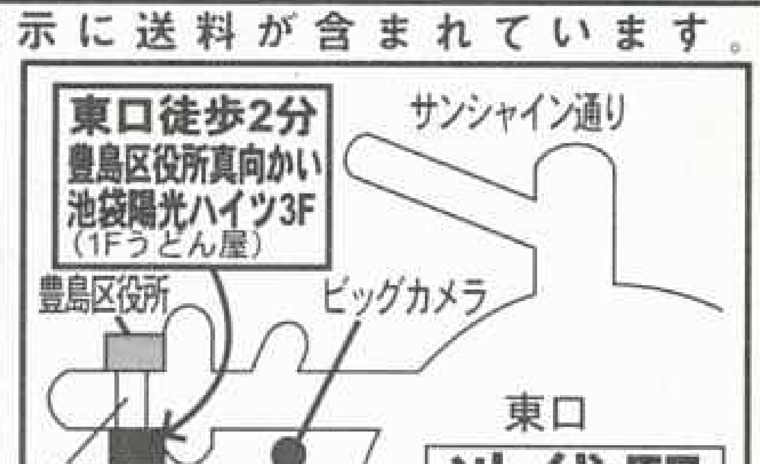
★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本につき￥500、2本以上サービス、グッズは表示に送料が含まれています。

1,000円お買い上げごとにスタンプを一つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる!(店頭・通販共)

【通信販売お申し込み方法】
住所・氏名・TEL・希望商品名を明記のうえ現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。ビデオ送料は1タイトルにつき500円、2タイトル以上はサービスです。

●郵便振込口座番号　00180-8-65236　レッスル通販
通販部　TEL 03-3464-1780
レッスル渋谷店
〒150東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル　TEL 03-3464-0078
レッスル池袋店
〒170東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306　TEL 03-3989-0056





★最新グッズ情報満載レッスルレターをご希望の方は80円切手を送りください。

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである——（ネール元インド首相の娘への手紙）

「Showみたいに自分のことを変態と呼ぶオナニー野郎は嫌いだ。つまんない原案しといて何が反則だ。マスかいてろ、元デブ！」（東京都／篠崎雅子・同様多数）。お手紙ありがとう、雅子ちゃん。でも18歳のレディーが「オナニー野郎」なんて下品な言葉を使っちゃいけないな。せめてセンズリデブ程度にしておいたほうがいいんじゃないかな？ という教育的配慮も決して忘れない書評コーナー。

日佐夫クンの人生劇場

書評の星座 PART2



プロレス界の愉快な仲間たち（サンボ浅子／リム出版新社）

とかく世間では「プロレスをバカにしている」だの「愛がない」だのと言われがちな我々なのだが、この本を読んで無性に腹が立ったことで己のプロレス愛の深さをつくづく痛感させられた。それほどに邪悪極まりない一冊なのである。いや、マジで。

リム出版としては中牧の桑田暴露本以来のプロレス本（あの時期はレスラーじゃないが）として、サンボ浅子のOB会復帰に合わせてリリースするつもりだったと思われる本書。**「（大仁田は）1回限りの復帰なんじゃないかな」**といった記述の季節外れぶり程度は、まあウチの『トンパチ』レベルということで許すとしよう。

だが、このプロレスを完全に舐めきったかのような悪しきインディー根性が露呈した問題発言だけは、どうしても許すわけにはいかないのである。

「レスラーの間で、どういうレスラーが凄いかっていうと、プロレスにかける情熱とか、一生懸命さに秀でているレスラーが素晴らしいんだ。強い弱いや、上手い下手なんてやっている者同士にしか判らないんだよね」

一体、彼氏は何を言いたいのだろうか。少なくともボクにはこれっぽっちも理解できない。

我々がプロレスを通して見ているのはレスラーの「一生懸命さ」なんかでは決してなく「強い弱い」であり、「上手い下手」であり、そして「面白いか面白くないか」だけでしかない。

弱くて下手でつまらない試合をするインディーの一生懸命なダメ人間より、これっぽっちも一生懸命じゃないのに強くて面白いジャンボ鶴田を選ぶ。それが世間の常識というものだ。

どうやら彼氏、常識がわかっていないのか数々の事実誤認まで連発してしまうのである。

「アジャ・コングは、アジアを制するっていう意味」（正解は、ハーフゆえ「アジア！」と呼ばれていたから）だの、**「チャパリータは『ちゃっこい』から変化していったみたいよ」**（正解はスペイン語でクソチビ）だの、**「紅夜叉は元レディース」**（そりゃ単なるギミック）だの、**「ミミ萩原はファンの八百屋と結婚」**（正解は、松永兄弟の息子）だの、**「長州力さんはパチンコ屋を何軒かやらせている」**（これは初耳）だのと、とても同業者とは思えない圧倒的な無学ぶり。

そのくせ破壊王ばりに**「みんな薬飲んで見せかけのボディビルで作った身体で、馬鹿の一つ覚えのラリアート合戦」**とのアメプロ批判や、**「松永はU・JAPANでなぜ有刺鉄線バットを使わなかったんだ！」**なる発言まで口にするから、どうにも不可解なのだ。破壊王が言うなら非常によくわかるが、どうしてお前がそれを言う？

U系や新日の選手がFMWを眼の仇にするのは大仁田の思う壺でしかないとクレバーにも悟り、試合以外で見せる大仁田のプロフェッショナルなレスラーぶりに注目してきたボクでさえ頭にくる、この悪質極まりない嫌なグルーヴ。

UWF営業マン出身の彼氏による**「Uスタイルは映画と同じで対話にならないマスターベーション」**だの**「ただ首を締めるだけならば、三歳の子供でもできるもんね」**というアルティメット批判などを耳にしたら、前田や高田が怒るのも当然というものだ。常に冷静で大人な態度のパンクラスだって、さすがに怒るかもしれない。

それでも彼氏は新生FMWやターザン後藤にすら牙を剥き、裸になった女子プロ選手には**「同じレスラーとして、四角いリングの上にいて欲しくない」**とまで言い切る（つまり貴子、豊田、福岡、ジャガー、バイソンのことだ）。

結局、ここで褒められているのは**「試合前に3P」**する男・大仁田とミスター珍だけなのだ。

なお、最後にはとどめとばかりのイニシャルトークがあり、ボクが解読したところ安生、高田、高山、ターザン後藤、橋本、拳磁、さらにはバトラーツの石川社長までホモ野郎だと電撃暴露。さらに天龍は試合前に口で抜いてもらい長州は試合後にファックだの、女子のプロレスラー（マッハ語）人脈だの、玉田はホスト狂いだのと、とてもお話にもならないことを堂々と書きまくっているのだから、とんでもない。

これにはさすがのボクも「頭きた！ アルシオンといい、この業界のルール知らない奴が多すぎんだよ！」（BYヤマモ）であり、「やっちゃっていいんですか、星野さん！」（BY前田）であり、「カチ食らわすぞ、コラァ！」（BY長州）であり、「蹴り殺すぞ！」（BYサスケ）という不愉快な感想しか出てこないのであった。

禁談・前田日明対談集（佐々木徹／集英社）

天龍と長州と猪木という『週刊プレイボーイ』史上でのアキラ兄さんの大物との対談三連戦にメイキングも付けた、お手軽で楽しい一冊。前科持ちの作家・中場利一といった他業種の人との対談も載せたほうがボク的には嬉しかったのだが、まあ許す。



なにしろ長州が前田に言い放った**「実はな、俺たちが中心となって（×××××）をやってみたいんだ」**なる発言は、実は長州がファンに夢を与える為に適当な発言を加えてくれと佐々木徹に頼んだことで誕生した架空の代物でしかなかった、と。そんな夢も希望もない裏話が、こ

れまた堂々と暴露されているからたまらない。
もう引退したからOKってことなのか？

Uの魂・赤いパンツの頑固者
（田村潔司／スキージャーナル）



妙に生真面目で世間知らず（特に女性関係）の田村が、ひたすら生真面目に綴った自伝。

「パンクラスは『自分からは引き抜きはしない。パンクラスに頭を下げるなら移籍の話はある』とマスコミに言っておきながら、実際はパンクラスのほうから移籍の話が持ち上がったのだ」という暴露話から肉体改造法、ちゃんこレシピにサブミッション講座など様々な要素で構成されているが、巻末に収録されたアキラ兄さんとの対談が、とにかく絶品なのである。

他人の本だというのに**「マット界の地盤沈下」**や「ボンクラス鈴木批判」「プロレスマスコミ批判」「はげネズミ（ターザン）山本批判」（曰く、**「今はね、本人も相当こたえているみたいで、紙のプロレスっていう雑誌で俺に吠えているんですよ。哀れですねぇ」**とのこと）なんかを一方的に喋り続けるアキラ兄さんと、その横で困ったようにただ相槌を打つだけの田村。

田村が『U・FILE CAMP』を作ったことに関しても、**「前でも後ろでも斜めでもいいから『リングス』って入れてくれ、っていったら、こいつ『はあ』って、それOKの意味だと思っていたんだけど……」**と追い込み、**「僕は中間管理職」**と萎縮する田村には**「お前、セコイことというなよ！」**と頭ごなしに説教するのである。

さらに、猪木の「ラスベガスでの百億円興行」や「格闘技連盟」にも通じるこれらの途方もないファンタジー溢れまくりのプランまで次々と語り始め、すっかり田村を無口にさせてしまうのであった。

「アメリカから田村に電話して『うちの庭にプール作っときな。シャチ買って送ったから』って……。プールにシャチを入れて『名前はタマだ』とかね。そういうのやりたいですね」

「将来はみんなが道場をやって、ムスタングに乗って巡回するとか。それで俺のいうことを聞かない道場はムスタングで銃撃してやるの」

「（体重を増やしてやりたいから）とりあえず田村をどこかにさらって監禁して、毎日ステロイド打って、とか思いますよ。身体には大リーグボール養成ギブスして……。まあ、体重増やすのに邪魔な彼女とも別れてもらってぇ〜。タンパク質の消費を少し抑えてもらって……」

「お前、25過ぎたら考えなあかんね。いつまでもそんなバカボンみたいな格好でけへんぞ」

こんな発言に対して、ただひたすら「は」と答え続ける田村。さすが赤いパンツの頑固者だ。**「こいつ、ちっちゃい子供みたいに、俺の前だと気弱な感じになって『は。は。は』しか言わない。その『は』はイエスの『は』なのかノーの『は』なのか、よくわからない」**と言われても「は」とだけ答える田村に至っては、もはや漫才。

それどころか彼氏、兄さんに**「俺のことが好きか？」**と聞かれても**「は。は。は」**と頑固というか呑気にも答えてしまうのであった。は。

反骨イズム・長州力の光と影
（辻義就／アミューズブックス）



「俺が生まれ育った環境っていうのは最悪だったな。とにかく金がなかった。給食費だってまともに払えないんだ。親父とお袋は朝から晩まで働いて、金のことでしょっちゅう喧嘩してた」

つまりこれはプロレスラー・長州力というよりも、廃品回収業の家に生まれ、短気で無学な父親に叱られながら裸足で通学し、教師に**「お前はホント、朝鮮の子だよ」**と叱られ、オリンピックに韓国代表として出場した在日二世・郭光雄の姿を描いた衝撃の一冊である。

プロレス話の少なさや文字の巨大さゆえの読みやすさもポイントだが、**「かつて、相撲界からそいつと移動中のバスの中でちょっと揉めたことがある。そのとき、そいつは俺に向かって『何だ、朝鮮人！』って言った」**という北尾問題に言及しているのも非常に重要だろう。合格だ！

だが、この本をリリースした功績だけで「なんだ、泣って凄いじゃん。ヒャッホー！」などと言い出す輩が続出しつつある状況は、ちょっと問題じゃないかと思う次第なのである。

開戦！プロレス・シュート宣言
（田中正志／読売新聞社）



狂信的マニアが高じて95年に『プロレス格闘技縦横無尽』なるプロレス暴露本をリリースするまでに至った、ヘヴィメタルをこよなく愛する元・海外在住エリート商社マンによるセカンド本。

前作はプロレスマスコミが当然のように黙殺するのも誰もが納得できる内容だった上、この作者ときたら我が社にこんな不可解極まりない手紙まで送りつけてきたものなのである。

曰く、「私の考え方はプロレス雑誌にも多くの影響を与えてきた。貴誌の『プロレス用語大辞林』も明らかに私の影響下にある」、と。

そのコーナーの執筆者だったボクは彼氏の原稿なんてこれっぽっちも読んじゃいなかったので大いに憤慨したものなのだが、「こういう輩は放っといた方がいい」との周囲のアドバイスもあり、やむなく無視することにしたのだ。

そんなことを思い出しながら巻末にプロレス隠語辞典なんてものまで含む本書を読んでみたわけなのだが、これがまた表現こそエゲツないながら意外にもプロレス愛を感じさせる内容というか、井上義啓元編集長が「春風すら感じさせる」と表現したのも納得できるほどだったりしたのであった。なにしろ**「テレビ朝日の辻義就アナウンサーは、古舘伊知郎を完全に超えていると思います」**とくるのだから最高である。

この巨大な失言によって、他の主張の説得力が見事なまでに消え失せてしまうのであった。

プロレスおっかけ日誌
（ぼおりゅう♥りき他／スコラ）



「女の視点で見ると、プロレスがもっと面白くなる!!」というどうにも説得力皆無なコピー通り、『ゴン格』で活躍するてらかわよしこ先生はまだしも、プロレスを知らないレディコミ作家やら無名女性漫画家やらが徹底してダメな視点で手掛けてしまった、異常なまでにぬるすぎる4コマ漫画集。

それもただの4コマではなく、「新日の会場で長州人形をサングラスで髪を立てた奴が購入」といった異常極まりない内容（ギャグ？）だったりもするから、もはや『まんがプロレスくらぶ』（絶賛休刊中）どころの騒ぎではない。

しかも最後には**「ワシはプロのプロレスファン。初心者・女性はワシに学べ！」**と豪語するぼうりゅう♥りき先生が性別の壁を超えて登場するのだから、もはや言葉もない。世の中には学んでいい人と決して学んではいけない人が存

在することに早く気付いて欲しいものである。

無敵のハンディキャップ
（北島行徳／文藝春秋）



　以前、障害者プロレスラーの獣神マグナム浪貝選手（当時）にインタビューしたときに痛感したのだが、障害者プロレス団体・ドッグレッグスとはケロちゃんを嫌うような昭和のプロレスファンが本当に命懸けでリアルファイトをするという、地獄のガチンコ団体である。

「おれたちは、しぬきでたたかう。だからおまえたちもぉ、しぬきでみろぉ！」

「ぷろれすにいのちかけるなぁらぁ！　しゅみや、おんなは、いますぐぅすてろぉ！」

「おれにいわせればさぁ、ぷろれすをしていなかったぁ、むかしこそぉ、しんだようなぁ、じんせいだったんだよぉ！　だいたいさぁ、おれにさぁ、ぷろれすを、やめろっていうのはさぁ、それこそぉ、しねって、いってるようなもんなんだよぉ！もし、しんだらぁ？　じょうとうだよぉ、ほんもうだよぉ！　こちとらぁ、しんでもいいってぇぐらいのぉ、かくごでぇ、やってんだからぁ！」

　これはすべて浪貝選手の発言だが、そこまでの覚悟を持っている健常者レスラーがどれだけいることだろうか？　本当にいい本である。

大山倍達の真実
（基佐江里／気天舎）



　マス大山ファンダメンタリスト（根本主義者）な著者が「誰が何と言おうと、総裁はレスラーと異種格闘技戦をやったんだ！」と主張する熱い一冊。

　彼氏の徹底調査の結果、マス大山がレスラーや素人とプロレスのリング上で闘ったのかもしれないことだけはかろうじてわかるのだが、そんなのはマサ斎藤やヒロ・マツダを始めとするレスラーたちが当たり前のように身体を張ってやってきたこととこれっぽっちも変わらない。

　結局、桜庭が言うようにプロレスラーは本当は強いんです！　……というか、一部の選手は。

　長州も某誌で「グレイシーにはウチの若手でも勝てる！」と豪語していたように、若手でも勝てるんです！　……というか、藤田なら。

　昭和のプロレスラー同様、素晴らしいファンタジーに包まれてきた偉大な男・マス大山。

　そう考えると、**「大山倍達の略歴に、二七〇戦余の試合を経験とあるのは、あるいはストリート・マッチをも計算に入れた数なのであろうか……」**という やたら弱気な一文にも、ヒクソンの四〇〇戦無敗を先取りしたファンタジーが感じられて個人的には十分に合格なのである。

理不尽大王の高笑い
（冬木弘道／フットワーク出版）



　リック・フレアーが好き（ボクも）という蝶野と似通ったレスリングセンスゆえか、蝶野のようにプロレスの「プロ」部分を誰よりも自覚した、ある意味本当にプロフェッショナルな男のデビュー作。

　ハッキリ言って売れるとも思えないが、これまた内容は予想以上に素晴らしい。

　なにしろ、いきなり**「そもそも日本で言うプロレスってのはアメリカン・プロレスを指すんだよ」**という爆弾発言から始まる上、**「国際はレスリング・ムーブの基礎が完全なアメリカン・スタイルではなく、ヨーロピアン・スタイルが入っていた」「新日本のスタイルは間がない」**など、レスラーが普通は口にしないようなえらく込み入った話まで堂々としているのだ。

　あのゴールデン・カップスとの抗争すら、**「俺も安生もお互いにいろんなしがらみがあって、しかたなくプロレスごっこをしていた」**とズバリ言い切ってしまうのだから、素直にも程がありすぎる。もはや彼氏、「理不尽」どころか単なる「正直者」といった風情なのである。

　さらに、巡業先でラッシャー木村に**「君も動物図鑑見る？　面白いよ」**と呑気に言われ、断りきれずに愛読書の動物図鑑を貸してもらった話や、**「ボーヤ、何やってんだ！」**の一言で大木金太郎に焼き肉屋でもビールを十本単位でラッパ飲みさせられ、生肉も腹一杯喰わせられた話など、国際ほのぼのエピソードも実に秀逸。

「大仁田ってのは地位も名誉も全部持ったままプロレス界からトンズラしたんだ。アイツがケチンボでオイシイところを全部持ってっちゃったんで、インディーはダメになったんだ」というインディー論も理論的で素晴らしすぎる。

　その影響か、**「あんなレスラーJ・CUPに出しちゃいけないですよ。技術に差があり過ぎますよ。あいつがうまいことやってマスコミの奴に取り入って、そういうのでググッと人気出てきたわけでしょ。もう技術がなくて、頭がないんですよ」**という外道によるデルフィン批判も洒落にならないレベルに達しているのであった。

　表紙に書かれた「常識外れの爆弾宣言」の宣伝文句は決して嘘ではない。冬木軍、恐るべしである。

TAKAKO PANIC 12
（井上貴子ファンクラブ会報）



　単なるFC会報ながら、読者アンケートの結果が絶妙なグルーヴを感じさせる奇跡の一冊。

　たとえば好きな男子レスラー・ベスト3が猪木・佐山・前田で、嫌いな男子レスラー・ベスト5が大仁田・小島・中牧・長州・高田だったり、好きな団体が全女と新日（昭和）で嫌いな団体ナンバー1が新日（平成）だったりと、昭和のプロレス者ならではの異常なランキングになっているのである。井上貴子FCなのに。

　中でも最も素晴らしいのが、専門誌では絶対にできない好き&嫌いな関係者アンケートだ。

　好きな関係者の1位が今井良晴リングアナというのは非常に納得できるが、16位に志生野アナと同位で元『紙プロ』ダミー編集長の原タコヤキ君、31位にジョー樋口と同位で山口昇、53位に坂口征二と同位でのものも、65位に梶原一騎と同位でボク（吉田）とウチの会計の林ヘックション一枝嬢が横一線で並ぶという異常事態も発生。さすがは昭和のプロレス者である。

　さらに嫌いな関係者部門は、**「超スーパーウルトラ大嫌い」「態度がでかい」「お前が新日を悪くした」**というケロちゃん、**「自分の顔を週プロのコラムの顔と見比べて欲しい」「週プロを影で牛耳る悪魔」**というフミ斎藤、**「やたら偉そう」「ずっと入院してて欲しかった」**という宍倉次長のビッグ3がトップを独占。

　続いて**「あのシラケた傲慢な態度は失礼」**なロッシー小川、**「週プロをつまらなくしている」**浜部さん、**「出で立ちからしてレスラーをなめきっている」**須山ちゃん、**「コイツのラジオ聞く奴の気がしれない」**北野誠、**「影では人の悪口三昧」**ヤスカクおじさん、**「コイツの記事はむかつく」**藤本かずまさなどがランクインするという、専門誌のFC紹介コーナーに載る気を完全に放棄しているとしか思えない挑発行為が実に最高だ。このコーナーだけでも必見である。

「ふぞろいのリングたち」に続く、ダジャレタイトル第２弾

コラムツイスト

花くまゆうさく

リングの汁 RADICAL

のものもアレク

いつやめてもおかしくないページ（本人談）

「悶絶！プロレス秘宝館」のVOL.2を読んで、プロレスファンだった自分を少し取り戻したのだが、今のプロレスにはいまだにまったくキョーミが向かない困ったちゃんである。

そんな今、キングダムから高田離脱というニュースを目にしました。高田個人だけ出ていき、リングスなり世界格闘技連盟なりKRSなり行くのは勝手だと思うが、桜庭や安達巧コーチといったキングダムの本当の柱まで持って出ていく所が、高田の恐ろしい所と思いました。高田１人ならまだしも、桜庭ら柱を抜かれてしまったキングダムは、ちょっとかわいそすぎやしませんかとファンじゃなくても思ってしまいました。ホント、高田ってよくわからないです。（1月30日現在の情報のみでの感想）

これからどうなるんでしょうか。世界格闘技連盟入りしたら凄いですよね、高田はともかく桜庭が入ったら。小川に藤田に桜庭ですよ、あと石沢もなのかな。高田はリングスでもいってもらって、かわりに高阪くれれば最高ですね。それで新日をやめるマサ斉藤が英語係というか外国での現地搭乗員みたいな感じで加われば凄い夢の組み合わせですよ。小川、藤田、桜庭、高阪、石沢、マサ……日本プロレス界最強部隊のできあがりです。どうせ夢だけど。

もっとスケールのでかい夢の話といえば「悶プロ」で再評価された「プロレススターウォーズ」ですけど、私も当時はおもしろがって単行本を次々と買って読んでいました。ただ、最後までもちませんでしたけど。途中で買うのやめてしまったのです。なぜかというと、途中でもうお腹いっぱいになってしまい、自然と食べる（読む）のをやめてしまったのです。（同じような事を「大甲子園」でもしました）

だから「プロレススターウォーズ」も「大甲子園」も最後どうなったのかまだ知りません。こんなどうでもいい事をダラダラ書いている時、高田とKRSが2月2日に記者会見するという事を知ったので、一旦ここで筆をおろします。

2月3日

また、ヒクソンvs高田ですよ。これで前田戦は消えてしまいました。でも、本当に前田が闘いたかったのなら自らKRSに出ていけばスンナリ実現したんじゃないでしょうか？

そんで、ヒクソンvs高田戦ですがどうなるんでしょうか。想像してみましょう。

まず、プライド3で高田はオタービオと対戦、オタービオは武藤戦のような不思議な試合をし、高田勝利。会場の一部で暴動起きかけるが、それを上回るプロレスファンの喜びの声で暴動消滅。いよいよ10月へ。

そんで10月。去年同様、「高田にはかならず何か秘策がある！」とマスコミは書きたてる。それがなんなのかわからずいよいよ10月11日。

ここで高田ジムから発表。「高田選手はケガをしてしまい、ドクターストップがかかりました。よって本日は、代わりに桜庭選手が出場します」

これが"秘策"だったのだ!! 動揺するヒクソン陣営、格闘技ファン。ハクソンは、わめき唾を吐きすてるが、山口日昇にブン殴られる。またも意見がバラバラのホイラーとセルジオ。まあしょうがないと平然を装うヒクソン。反対にホッとしたのはプロレスファン、プロレスマスコミであった。ただ、平成プロレスファン達は事情がよく判らず「高田だせ」とブーイング。



いざゴング。もみ合いの中、なんの躊躇もなく足首を取りにいく桜庭。あっけにとられるヒクソン。

「勝っちゃいました」桜庭が、ボソッとマイク。爆発するプロレスファン。東京ドームの天井は破裂。阪神優勝の道頓堀のようにドームの2階スタンドからダイブするファン5名（1人重症。でも笑顔）。うなだれる格闘技ファン達（私含む）……そんな事になったら困るなあ、でもちょっぴり笑顔なのかも。

花くまゆうさく■ブラジリアン柔術パンアメリカン大会青帯の部に出場するが一回戦負け。すいません。

X-GUNのこだわりの地平線

嵯峨根　オレ、長州力がずっと好きなんだよ。

西尾　オレは東京に来てから川田さんのファンになったんだけどな。7年前に東京に来るまでは、「八百長だから……」って言って見ない人っているじゃない？　そういうノリで、僕も見てなかったんだけどね。こっち来て、ちょうどTVで川田さんが鶴田選手とやってる試合で、川田さんが本気でキックしてるのを見て「マジやんか！」と思って（笑）。川田さんには、たまに誘って頂いたりしてるよな。僕らも単独ライブとか、大きいライブの時はお誘いするし。

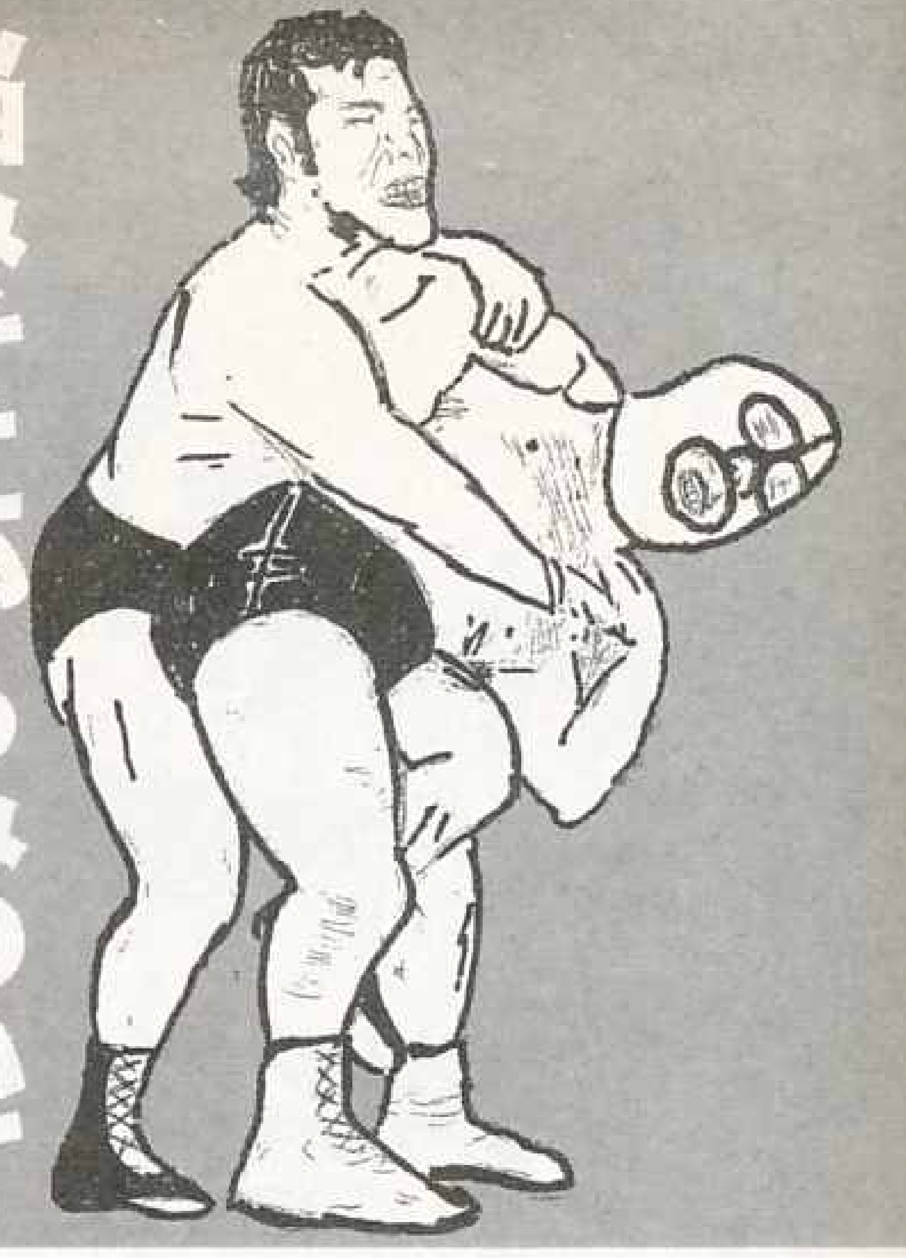
嵯峨根　西尾が川田さんのTシャツをよく着てたよな、ボキャブラとかで。

西尾　全日に行ったときに買った川田さんのTシャツを着ててな。『週プロ』にも好きなタレントのところに「X-GUN」って書いて頂いて、すごい嬉しかったなあ。

嵯峨根　プロレスっていろいろな楽しみ方があるやんか？　オレは作られてるのかもしれないけど、抗争とか因縁が好きで。今で言うnWoとか、ああいうものに熱くなる。だから、昔、長州が好きだったのもそういう部分だね。

西尾　オレはアピール・プロレスよりも黙々と試合する方が好きなんだよ。確かに抗争みたいなのも面白いけど、全日の四天王のアピールもそうしないけど、試合内容は凄いっていうのがね。たまに、プロレス雑誌でGAEAの里村選手の顔とか見てると、「そんな顔せんでもええやろ」って思うもん（笑）。でも、オレらってアピールする仕事じゃないですか？

脳みそにからみついて離れないページ



ファイティングライター

藤本かずまさのキテレツ大百科??

男には、闘わねばならない時というものがある。正義のため、自尊心のため、己の愛する人のため、理由はその人によってさまざまだろう。これは、後悔することを恐れずに闘いに挑んでいった、ある若者の感動と勇気の物語である。

97年12月28日。草加の某居酒屋では、バトラーツの忘年会が必要以上に華々しく開催されていた。フリーライターの和正（仮名）は、惰眠を夕方までむさぼっていたため、乾杯の音頭から約1時間が経過したあたりで参戦。当然、そのころには会はすでにSHURABAと化しており、和正は座敷に足を踏み入れたとたんにモハメド・ヨネらに拉致されて、ビールをスキッ腹に流し込まれるハメになった。

まだまだ寝起きだった和正にとって、いきなりのこの洗礼は、少々キツイかったそうだ。しかし、会の異常なまでの盛り上がりは、決して彼の体を放そうとはしてくれない。ようやく落つける状態になったのもつかのま、こんどは瞳がやけにキラキラした少年が、和正のまえに滑りこんできた。

和正のもとにくるなり、丁寧にあいさつしてはグラスにビールをつぎ込んでいったその男の名は、坂井ノブ。彼は21歳くらいで、和正はことしで28。業界のキャリアも、和正のほうがちょっとだけ長い。この時点では、とりあえずノブは和正のことをの先輩として、ちゃんと敬ってるようだった。

ビールをつがれたら、こっちだってつぎ返さなくてはならない。だいたい、相手に飲ますだけ飲まして、返杯を受けずにどっかにいってしまうのは失礼というもの。どうやらこれが、酒の席での和正の信条のようだ。和正はためらうことなく、ノブのグラスに焼酎をなみなみと注ぎ込んでやった。

ノブはその焼酎を、グイッ！とひと飲み。というより、半ば強引に飲まされた、という表現の方がピッタリくる。にもかかわらず、和正はというと、最終的には全部飲んだのだが、そのときはグラスに口をつける程度。この和正の横柄な態度に、ノブの血管は音を立ててブチ切れたのだった。

なんだかんだと、グダグダと不平不満を口にしだしたノブ。すでに彼は酔っぱらっていたので、和正はその言葉の半分も理解できなかったが、おそらく「俺は飲んだのに、それはズルイでしょう」ということを伝えたかったのだろう。

マジ切れしたノブを見て、和正は「えらいヤツに絡まれちゃったなあ」と思ったとか。とにかく、この場はなんとかして切り抜けねばならない。気がついてみれば、和正も相手の気勢を削ぐために、「そうは言うけどやなあ、お前のヤマケン・インタビュー、さきにやった俺のと内容が一緒やったやないか」と、まったく筋違いな言いがかりをノブにぶつけていた。

「いや、週プロと同じことしかしゃべってくれなかったんですよ。ぼくは悪くない！」

酒の勢いでデタラメなことを抜かしていたが、彼の返事は、だいたいこんな感じ。ホンマかいな。それはことの真相を確認せねば。後日、このノブの言葉について、ヤマケンからコメントを頂戴することができたので、ここに掲載する。

「いやあ、あの坂井って人、『これ、週プロで読んだんですけど』っていう聞き方してきたんですよ。そりゃ、同じ内容のことしか答えられまへんがな！　あい〜や」

そんなこんなで、座敷の片隅には、いつしか和正とノブの口論の場が形成されていった。口論というよりも、一方的にしゃべりまくっていたのはノブのほう。話の内容を分析していくと、彼は和正の態度が気に入らないのではなく、その存在自体が目障りだということが、しだいに判明してきた。ノブにとって、和正が酒を飲む飲まないは、たんなるとっかかりでしかなかったのだ！　ノブは、明らかに以前から和正に敵対心を抱いていたのである！

「和正さんが書く記事はつまらない！」

「ピアス、似合ってないよ！」

「その革ジャン、どうせ合成だろ！」

「その後ろ髪はなんなんだよ！」

「やい！　○○の××のクセしやがって（和正以外の他人を中傷した言葉のため自主規制させていただきます）」

つぎつぎと和正に襲いかかる罵声の数々。ひとりで興奮したノブの口からは、いつしか「和正さん」という固有名詞は消え失せ、代わりに「アンタねえ」という単語が連発されるようになった。逆上していたノブには、先輩・後輩、年上・年下という両者の構図は、もうまったく関係ないものになっていた。

「なんやねん、お前。やんのかい」

アマチュア・リングス1回戦突破という、あまり自慢にならない経歴を持つ和正は、ノブの本気度を確認する意味で、冗談半分にそう言い放ってみた。

「暴力は反対！」

ノブは確かにそう答えた。ところが、つぎの瞬間には、彼の拳が和正の鼻を直撃。千葉道也にも島田レフェリーにも負けた和正なんて、俺でも勝てると考えたのだろう。しかし、あとでマウント掌底からの腕十字でしっかりと仕返しをされていたのが、ノブのキテレツなところ。数時間後には、すっかり酔い潰れて横になったノブの鼻のあなに、せっせとコーンをつめる和正の姿が目撃されている。

もはや何が発端でそのようになってしまったのかは、和正にもノブにも、よくわからなくなっていた。ただひとつ確実なのは、この日のノブにとって、ぼく、いや和正は闘わねばならない人間だったということだ。その人物が6つ年上のフリーライターであろうが、目のまえにいる自分の会社の社長を呼び捨てに叱られようが、憎いヤツには勇気を持って立ち向かっていく。坂井ノブ、21歳。本物の男が、そこにいた――。

■お・詫・び■

このたび発生いたしました藤本かずまさ（27）vs坂井ノブ（21）乱闘事件にて、多くのレスラー及び関係者の方々にご迷惑をおかけいたしましたことを深く深く深く反省し、謝罪いたします。ごめんなさい。頭も丸めたので、これからは赤ん坊に戻ったつもりで頑張る所存であります。

坂井ノブ



藤本かずまさ■キテレツなアマチュア格闘家。趣味はつまらない原稿を書くことと、似合わないピアスを集めること。臼田勝美のアイスラッガーを、2年間隠し続けている。

嵯峨根　アピール・プロレスも今までプロレスファンじゃない人をプロレスファンに引きずり込んだっていう功績は大きいね。nWoの蝶野なんか特に。全日のすごい試合が好きな人は邪道と思うかもしれないけど！　それはお笑いタレントにも通じますよ。

西尾　それぞれ好きなプロレスは違うけど、これからもプロレスは見ますよ！　TVもプロレスをゴールデンタイムで放送してもええような気もするけどねえ。

嵯峨根　全然プロレスを見たことない人でも猪木とか馬場って知ってるじゃない？　それぐらいの人が出て来ないとダメなのかもしれないね。例えば、三沢とか武藤っていったらプロレス知ってる人の中なら超有名だけど、知らない人では……。例えば、プロレスのネタ作って、こっちは「これは面白いな」と思っても若い女の子にはわかりづらかったりして。

西尾　藤波選手とか、健介、長州、マサ斉藤選手はしゃべり方が変じゃないですか？　そういうネタを作ってな。

嵯峨根　誰もしないモノマネ（笑）。

西尾　健介は「長州さん」って言うのにも「チョシュさん」さんだったり（笑）。そういうのモノマネしても分からないからね。プロレスファンは嬉しいかもしれないけど。分かる人には分かるというね。それでいて、そこらのおばあちゃんにも知ってもらえるような芸人になるのが最終目標ですよ！



X-GUN■西尾季隆（左）身長176センチ、体重105キロとレスラー並みのナイスバディ。嵯峨根正裕（右）小学生以来のプロレスファン。海砂利水魚の有田氏とはプロレス友達。

ザ・検証 ヒクソン'98

「ヒクソンの400戦無敗というのは実態のないインチキだ！」。最近、そんな論調の発言をする人を目にします。バカモン！　本当に決まってるだろ！　そんなこと言う人は、ヨネ原人に対して「原人じゃない、現代人だ！」と言ったり、獣神サンダーライガーに対して「お前、山田だろ！」と叫んだりするのと同じことです。原人は原人。獣神は獣神。400戦無敗は400戦無敗です！　と、言ってもヒクソンの400戦の記録は、確かに残っていません。このままじゃ、ヒクソンが嘘つき呼ばわりされちゃう！　そこで、我々『ザ・検証』では、人間のもっとも人間らしく、素晴らしい能力とも言える想像力を駆使して、ヒクソンの400戦の戦績&内容を、全て書き出すことに奇跡的に成功しました。に、しても金やんの400勝にしても、ヒクソンにしても、偉大なる男のドンブリ勘定は、どうして400なのだろうか？

構成／せきしろ

1 ワンパク対決
ヒクソン（手を焼かせる　少年時代）周囲の大人
▽当時から大物の片鱗が……。

2 パジャマ対決
ヒクソン（着衣　30分）パジャマ
▽一人で着れたよ！

3 歯磨き対決
ヒクソン（ブラッシング　朝昼晩）歯ブラシ
▽一人で磨けたよ！

4 兄弟喧嘩
ヒクソン（裸絞め　10分）ホイス
▽アニメを見るかナイターを見るかで大喧嘩。

5 兄弟喧嘩
ヒクソン（腕十字固め　5分）ホイス
▽ヒクソンの服を勝手に着たホイスに激怒！

6 兄弟喧嘩
ヒクソン（TKO　4分）ホイス
▽夕飯のおかず（ハンバーグ）の大きさをめぐって大喧嘩。見兼ねたお母さんが止めに入った（以下、対ホイスの兄弟喧嘩が56戦まで）。

57 兄弟喧嘩
ヒクソン（裸絞め　7分）ホイラー
▽ヒクソンの漫画にホイラーが醤油のしみを。

58 兄弟喧嘩
ヒクソン（KO　19分）ホイラー
▽学校でいやなことがあったヒクソンが八つ当たり。

59 兄弟喧嘩
ヒクソン（アキレス腱固め　6分）ホイラー
▽ヒクソンのロボットのプラモを壊してしまったホイラー。あわてて直すも、首を反対に付けてしまう。やがて帰ってきたヒクソン。いつになく上機嫌だったが、首が反対のプラモに気付き……!?（以下、対ホイラーの兄弟喧嘩が109戦まで）。

110 好き嫌い対決
ヒクソン（鼻摘み飲込み　10秒）ピーマン
▽同様に、ニンジン、セロリ、グリーンピース、甘い煮豆などを克服（～120戦まで）。

121 好き嫌い対決
ヒクソン（テーブルの下に落とす　2秒）納豆
▽同様の手口で春菊戦（122）もクリア。でもいい加減気付かれそうだったので止め。

123 親孝行対決
ヒクソン（カーネーションプレゼント　母の日）お母さん
▽ワンパク小僧のヒクソンがカーネーションを。お母さん号泣。

124 親孝行対決
ヒクソン（似顔絵プレゼント　父の日）エリオ
▽決してうまいとは言えない似顔絵だけど、エリオ号泣。

125 敬老対決
ヒクソン（肩叩き券プレゼント　敬老の日）お爺ちゃん
▽孫の優しさにお爺ちゃん号泣。お小遣い目あてだとも知らずに……。

126 冒険対決
ヒクソン（大冒険　読書中）童話
▽童話の中でなら、どんな冒険だってできるし、どんな強敵だって倒せちゃうんだ！

127 おませ対決
ヒクソン（リアルな女性器の絵　1分）ホイス
▽スラスラと女性器の絵を描きあげたヒクソン。初めて見る女性器に驚くホイス。

128 「暑い」と言ったら負け対決
ヒクソン（トンチ　57分）ホイス
▽「暑い」ではなく、「厚い」と言わせたヒクソンの頭脳的勝利。ホイス、納得いかないまま罰金を支払う。

129 「寒い」と言ったら負け対決
ヒクソン（しつこさ　8時間）ホイラー
▽なかなか決着がつかず、いつしか違う遊びを始める2人。8時間後、対決のことなど当の昔に忘れたホイラーが「寒い」と一言。待ってましたとヒクソン。「まだ続いてたのかよ」とホイラー憮然としながらも罰金を支払う。



「強くなりたかったら柔術を学びましょう」（チェスロボットに負けたチェス名人に対して）というわけで、この写真は、一族で「仮装大賞」に出場し、欽ちゃんから賞金を貰ったところ。これも1勝としてカウントか？

130 音楽の好み対決
ヒクソン（影響受けず　1分）ウッドストック
▽「汚い格好しやがって」と一蹴！

131 音楽の好み対決
ヒクソン（影響受けず　1分）ヘヴィメタ
▽「うるさい音楽だ」と一蹴！

132 音楽の好み対決
ヒクソン（影響受けず　1分）パンク
▽「結局マスターベーションだよ」と一蹴！

133 節分対決
ヒクソン（大声　3分）鬼
▽大声で「鬼は外！」と叫ぶヒクソン。その元気に、さすがの鬼も退散、とか。

134 涙こらえ対決
ヒクソン（ヤセ我慢　30分）アニメ「フランダースの犬」最終回
▽涙目になるも、あくびをして「眠たくて目が潤んだ」と誤魔化すヒクソン。しかし、さすがに涙がこぼれそうになる。それでも上を向いて必死に堪える。同じ方法で「おしん」や「キャプテンのエンディングテーマ」「がんばれ元気のお父さんが遊園地で死ぬところ」戦などを勝利（～150戦まで）。

151 イタズラ対決
ヒクソン（爆竹　30秒）ホームレス

152 イタズラ対決
ヒクソン（ロケット花火　20本連続）ホームレス
▽この後も学校で注意を受けるまで、対ホームレス戦は続く（～170戦まで）。

171 イタズラ対決
ヒクソン（黒板消し落とし　1時間目）新任女教師
▽希望を胸に教室に入ってきた女教師に対し、ヒクソン流の洗礼。ヒステリーを起こす女教師。そして説教。それでもヒクソンのイタズラは続いた、とか（でも、ヒクソンって実はこの女教師のこと、好きだったんじゃないかな……）。

172 イタズラ対決
ヒクソン（カラシ入りチョコ　放課後）友達
▽手作りカラシ入りバレンタインチョコを、クラスのモテない奴の机にしのばせたヒクソン。

173 バレンタインデー対決
ヒクソン（チョコ3つ　2月14日）ホイス
▽ホイスはチョコ2つ。ヒクソンの勝ち。（本当はヒクソンが貰ったチョコは0。チョコは3つとも自分で買ったもの。でも、いいじゃないですか。ヒクソンのその健気さに免じて、このことは私と読者諸君の秘密にしていきましょう）

174 スカートめくり対決
ヒクソン（前蹴り　1秒）女子
▽表情ひとつ変えずに「ヒョイッ」と。

175 女の子と知り合う対決
ヒクソン（タックル　1秒）女子
▽偶然を装って、片思いの女の子に廊下でぶつかったヒクソン。

176 花占い対決
ヒクソン（占いの結果「勝つ」　3分）コスモスの花
▽「勝つ」「負ける」と花びらをむしるヒクソン（あらかじめ花びらの数を数えてから）。

177 夜道対決
ヒクソン（走って帰る　30分）暗い夜道
▽トロッコに乗って遊ぶヒクソン。気がつくといつしか夕暮……。家の明かりが見えたとき、涙が出そうになりました。

178 父子対決
ヒクソン（裸絞め　反抗期）エリオ
▽親父に勝ってしまったヒクソン。なんだか複雑な気持ち……。いつしか背も追い越していました。

179 海パン着替え対決
ヒクソン（重ねて履いて後から脱ぐ　1分）クラスメイト
▽タオルを忘れたヒクソンだったが、慌てず冷静にチンポを見られることもなく。

180 知能対決
ヒクソン（分解して組み立てる　2分）ルービック・キューブ
▽「面倒くせえ」と。

181 力持ち対決
ヒクソン（逆立ち　1秒）地球
▽地球を持ち上げた（？）ヒクソンの勝利。

182 万引き対決
ヒクソン（平常心　5分）友達
▽ウォークマンを盗んだ友達に対し、29型テレビを盗んだヒクソンの圧勝！

183 センス対決
ヒクソン（興味なし　1分）不条理4コマ漫画
▽「意味がわかんねえ」と一蹴！

184 投稿対決
ヒクソン（1枚　深夜）ホイス
▽兄弟で深夜放送のラジオ番組に投稿。ヒクソンは1枚読まれたが、ホイスは読まれず。番組特製ステッカーをゲット！

185 断り対決
ヒクソン（毅然とした態度　2分）新聞勧誘員

186 断り対決
ヒクソン（はっきりと「NO！」　5秒）キャッチセールス
▽「あいまいな返事はダメ！」とコメント！

187 試合
ヒクソン（時間切れドロー）ズール

188 夫婦喧嘩
ヒクソン（3日間口をきかずにドロー）キム夫人
▽いつのまにか仲直りしていた。

189 夫婦喧嘩
ヒクソン（実家に帰る　2日間）キム夫人
▽この時ばかりは離婚を覚悟。

190 夫婦喧嘩
ヒクソン（マウントパンチ　2時間）キム夫人
▽毎日パートの帰りが遅いキム夫人に対し、ついに切れたヒクソンが……。

191 夫婦喧嘩
ヒクソン（失神KO　20分）キム夫人
▽遊びでプロレス技を掛け合い、じゃれあう2人。しかし、ヒクソンの放ったバックドロップが……。（以下、夫婦喧嘩が241戦まで）

242 試合
ヒクソン（裸絞め　1R2分58秒）西良典

243 試合
ヒクソン（KO　1R2分40秒）ダビット・レビキ

244 試合
ヒクソン（KO　1R39秒）バド・スミス

245 ファッションセンス対決
ヒクソン（ベタ誉め　5分）ピーコ
▽偶然テレビでヒクソンを見たピーコが、あの白いパンツをベタ誉め、とか。あの芸能界きっての毒舌家として知られるピーコの口から誉め言葉なんて！ヒクソンの知らないところで1勝。

246 試合
ヒクソン（裸絞め　3R3分49秒）山本宜久

247 試合
ヒクソン（裸絞め　1R2分7秒）木村浩一郎

248 試合
ヒクソン（裸絞め　1R6分22秒）中井祐樹

249 健康対決
ヒクソン（胃腸は丈夫　ずっと）日本胃腸の会
▽ヒクソンの丈夫な胃腸に徳さんもビックリ、とか。

250 コーラ早飲み対決
ヒクソン（一気のみ　2秒）コント赤信号リーダー・渡辺
▽テレビの前で勝負したヒクソン。

251 早食い対決
ヒクソン（根性　30分）ジャンボラーメン
▽賞金1万円を手に、にっこりとポラロイドにおさまるヒクソン。

252 早食い対決
ヒクソン（ド根性　30分）激辛カレー
▽試合後「辛くても水を飲まないのがポイントだ」とコメント。

253 親子喧嘩
ヒクソン（裸絞め　1分）ハクソン
▽学校の成績をめぐって。

254 試合
ヒクソン（裸絞め　1分）ハクソン
▽嘘をついたハクソンに激怒！（以下、ハクソン戦が297戦まで）

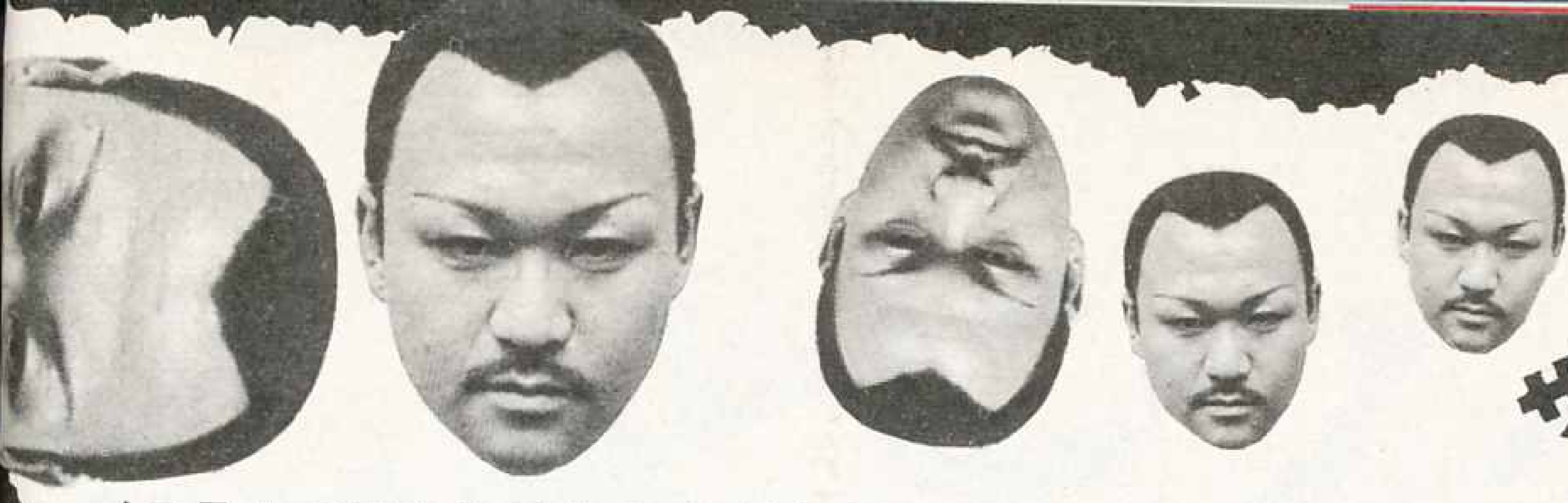
298 道徳対決
ヒクソン（寝たふり　目的地の駅まで）老人
▽席を譲らずに寝たふりを続けたヒクソン。この図太い神経が強さの秘密でもある。

299 道徳対決
ヒクソン（裸絞め　1分）若者
▽電車で席を譲られ「俺はそんなに老いぼれちゃいねえ！」と激怒！

300 夜の対決
ヒクソン（絶倫　無限）女
▽ベッドの上でも連戦連勝！（～399戦まで）

400 試合
ヒクソン（腕十字固め　4分47秒）高田延彦





ザ・検証 二瓶組長'98

二瓶組長と鴨居長太郎率いる『二瓶組』が、ついに正式にプロレス団体として結成された。サムライTVにゲストとして登場した時、8月の旗揚げを目標としていることも発表された。さらにその際、衝撃的発言が飛び出した。なんと、二瓶組の目標は『打倒！　グレーシー』であり、そして、二瓶組長は、ヒクソンを上回るストリートファイト500戦無敗の戦績を誇るというのだ。400＋100＝500。400より500のほうが、数が多いから偉い、つおい、キーン、んちゃ！　経営するサバークラブより発信された『グレーシー狩り』宣言。頼もしいぞ、組長。と、いうことで、『ザ・検証』では、謎に包まれる、500戦の記録を、人間のもっとも人間らしく、素晴らしい能力とも言える想像力を駆使して、全て書き出すことに奇跡的に成功した……チッ、また左目あたりが疼いてきやがった、客でもいいレスラーでもいいブン殴りてえ、リアルファイトがしてえよおお！

構成／椎名基樹

1 ガチンコ勝負
二瓶組長（KO　30分）番長

2 ガチンコ勝負
二瓶組長（KO　30分）チンピラ

3 ガチンコ勝負
二瓶組長（KO　30分）カジノの用心棒

4 ガチンコ勝負
二瓶組長（KO　30分）香港マフィア

5 ガチンコ勝負
二瓶組長（KO　30分）殺し屋

6 ガチンコ勝負
二瓶組長（KO　30分）ザ・グレート・ハタ
▽ザ・グレート・ハタとは、近所に住む畑山さん（42才・サラリーマン）のこと。

7 ガチンコ勝負
二瓶組長（KO　30分）ザ・グレート・キタ
▽ザ・グレート・キタとは、近所に住む、北島さん（28才・フリーター）のこと。

8 ガチンコ勝負
二瓶組長（KO　30分）ザ・グレート・カタ
▽ザ・グレート・カタとは、近所に住む、片山さん（53才・土木作業員）のこと。

9 ガチンコ勝負
二瓶組長（KO　30分）ザ・グレート・ミタ
▽ザ・グレート・ミタとは、近所に住む、三田さん（31才・主婦）のこと。

10 ガチンコ勝負
二瓶組長（KO　30分）ザ・グレート・サタ
▽ザ・グレート・サタとは、近所に住む、佐藤くん（8才・小学生）のこと。

11 ガチンコ勝負
二瓶組長（KO　8時間）ヒロシ&トオル
▽夢の中の出来事。

12 ガチンコ勝負
二瓶組長（KO　8時間）ヒクソン・グレーシー
▽今年の初夢。

13 ガチンコ勝負
二瓶組長（KO　3分）酔客
▽自ら経営するサパークラブで酒乱の客を撃退。

14 ガチンコ勝負
二瓶組長（KO　3秒）ガリ勉君
▽気に入らないクラスのガリ勉を、理由もなしに襲撃。

15 ガチンコ勝負
二瓶組長（無視　3年間）先生
▽口うるさく服装にケチつける先生を、3年間徹底無視。

16 ガチンコ勝負
二瓶組長（口攻撃　10秒）ブス
▽これまた口うるさいブスを「うるせえブス！」の一言で撃退。
（この他、ガチンコ勝負450勝）

467 王様ゲーム
二瓶組長（命令　20分）ホステス
▽見事、ホステスさんのくちびるをGet!!

468 ヨーヨー対決
二瓶組長（犬の散歩・東京タワー・世界一周　10分）近所の子供達
▽子供達にヒーローに祭り上げられる組長。

469 記憶力対決
二瓶組長（記憶力　1分）天才チビッ子
▽山の手線の駅名をスラスラ答えたチビッ子に対して、なじみのホステスの名前をスラスラと答える組長。

470 パンチ勝負
二瓶組長（TKO　1分）アニー
▽髪の毛のチリチリ具合を競い合い、自慢のパンチが物を言う。

471 視力検査
二瓶組長（2.0　1分）検査表

472 VS母親
二瓶組長（ねばり　2時間）お母さん
▽ねばりにねばって、ついにおこづかいUPに成功した組長。

473 度胸試し
二瓶組長（我慢　10秒）根性焼き

474 度胸試し
二瓶組長（ジャンプ　3秒）塀

475 度胸試し
二瓶組長（全力疾走　20秒）和尚さん
▽お供え物を盗んだ組長が逃げ切り勝ち。

476 度胸試し
二瓶組長（忍び足　30秒）猛犬
▽近所で有名な猛犬の前に転がってしまった軟球を、代表してとりにいった、親分肌の組長少年。

477 度胸試し
二瓶組長（大きな声で歌を歌う　30分）お化けトンネル

478 度胸試し
二瓶組長（おまじない　30秒）金縛り

479 ノーロープノーピープル電流爆破デスマッチ
二瓶組長（我慢　16回点滅）ピカチュウ
▽ピカチュウの点滅に対しても、少し気持ち悪くなっただけで、決して倒れなかった屈強な組長。

480 ジャンケン対決
二瓶組長（パー　1秒）鴨居長太郎
▽鴨居若頭は、いつもグローブをはめているため、グーしか出せなかった。

481 作法対決
二瓶組長（豆をハシでつかんで皿に移す　1分50秒）鴨居長太郎
▽鴨居若頭は、いつもグローブをはめているため、ハシが持てなかった。

482 占い対決
二瓶組長（ノーコンテスト　1秒）鴨居長太郎
▽鴨居若頭は、いつもグローブをはめているため、手相を見てもらえなかった。

483 ハイスコア対決
二瓶組長（名古屋打ち　12万点）インベーダー
▽近所の喫茶店では有名な存在だった。

484 ハイスコア対決
二瓶組長（台揺らし　30万点）ピンボール

485 読書
二瓶組長（読破　1週間）戦争と平和
▽急に本を読まなくてはと思いたった組長。

486 ガマン比べ
二瓶組長（根性　1時間半）ヤセたサラリーマン
▽サウナにて。

487 ガマン比べ
二瓶組長（我慢　1日）愛犬の死
▽最後まで涙をこらえた、立派な組長。

488 ガマン比べ
二瓶組長（我慢　1時間）金八先生の加藤勝が逮捕されるシーン
▽中島みゆきの『世情』にもグッとこらえた。

489 ガマン比べ
二瓶組長（根性　1ケ月）ラジオ体操
▽見事皆勤賞。お菓子をゲット。

490 ガマン比べ
二瓶組長（根性　2時間）寒中水泳
▽達成した後、みんなで食べるお雑煮は最高。

491 ガマン比べ
二瓶組長（キャベ2　1時間）二日酔い

492 ガマン比べ
二瓶組長（我慢　10分）シャンプー
▽シャンプーハット無しで、見事目にしみる痛みを克服。

493 ガマン比べ
二瓶組長（我慢　30分）笑点
▽「こん平で〜す！」のギャグに必死に笑いをこらえる。

494 ガマン比べ
二瓶組長（平常心　1時間半）モノマネ四天王
▽クスリとも笑わない二瓶組長。

495 早食い
二瓶組長（腹ペコ作戦　30分）ジャンボラーメン
▽賞金の5000円を手に、ニッコリとポラロイドに収まる組長。

496 早食い
二瓶組長（腹ペコ作戦　30分）ジャンボ餃子

497 早食い
二瓶組長（大好物　10分）バケツパフェ

498 早食い
二瓶組長（ド根性　30分）20倍カレー
▽試合後、辛くても水を飲まないのがポイントだとコメント。

499 ドーハの悲劇
二瓶組長（ボレーシュート　120分）日本代表
▽延長ロスタイムに二瓶組長の同点ゴール。

500 100M走
二瓶組長（ロケットスタート　9秒75）カール・ルイス
▽世界記録も後に取り消しに……。



前田日明の WORLD MEGA-BATTLE 人生相談

寸止めなしの殺戮連載！

人生は語らず

ムキだ！　ムキだ！！ おまえはムキになるのだ！！

オランダからウィーンを回って、おとと い帰ってきた。オランダではリングス・オランダの大会があって、俺から見ると非常に面白い試合があった。コップス・ジムのギルバート・アイブルという選手と、日本にも2～3度来たこともある、ナイマンジムのボブ・シュライバーの試合がそれだ。

アイブルはバリバリの売り出し中で見事なシェイプだけど、シュライバーは、どう見ても試合をやるための準備をしているカラダではなかった。

「これはアイブルに簡単にイカれるな」と思ったが、いざ試合が始まると、シュライバーは掌底やキックをガンガンヒットさせて、グローブを付けていたら間違いなくKOというシーンを何度もつくった。あと一歩だ！

しかし、見るとシュライバーの方もスタミナ切れでフラフラだ。

「どうするんかな？」と思った瞬間、シュライバーは突然グラウンドの体勢へと持ち込んだ。グラウンドならばアイブルの方が断然上なのに、なぜだろう？　すると、シュライバーはアッという間にアイブルのしょーもないヒール・ホールドに捕まりタップしてしまった。そして立ち上がると、俺の方を見てニッコリと笑った。

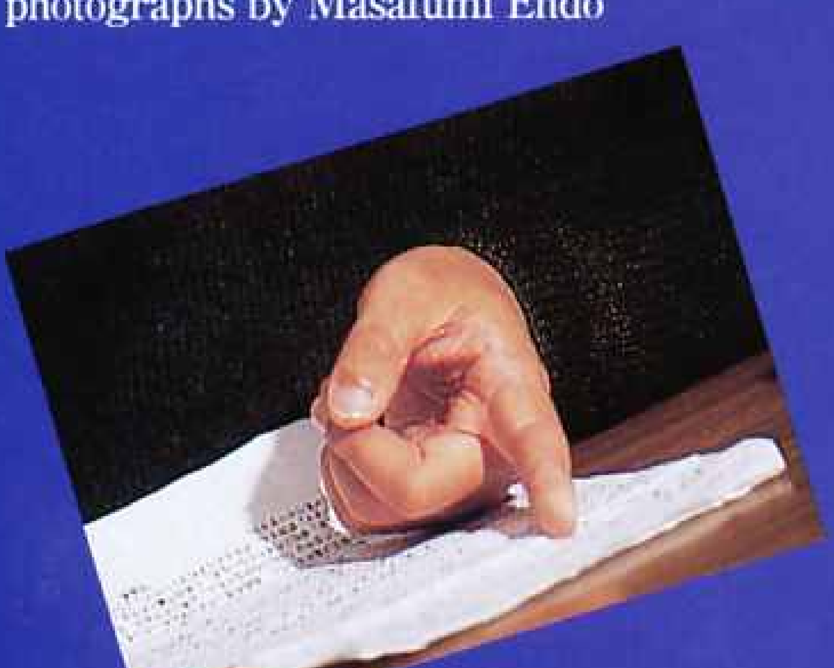
そこで、こいつはスタミナ切れでめんどくさくなって、"ああ、試合を投げたんだ"と気がついて、ついついこっちも笑ってしまった。

控室で「YOU　AER　FUCKI-N' GUTS！」とシュライバーに言うと、「サンキュー」と手をギュッと握り返してきた。そして、金髪のボウズ頭の彼女と夜の闇へと消えて行った。

ボブ・シュライバー──まるで聖なる酔っぱらいのように、あくまで人間臭く格闘技をエンジョイするナイス・ガイだった。

さて、俺もしょーもない相談でエンジョイでもしたろうかな。

構成／山口日昇
text by Noboru Yamaguchi
撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo





Q 私の夫はよく「小腹が減った！　何か作れ！」と言います。そこで私が焼きソバを作ったり、ラーメンを作ったりするのですが、「こんなに食えるか！　俺は『小腹が減った』って言っただろ！」とテーブルをひっくり返すわ、私を殴るわで大暴れするんです。もう何が何だかわかりません。前田さん、「小腹」って一体どれぐらいなんですか？
（金沢市・若尾フミフミ富美子・32歳・主婦・女）

A これは『愚かな女の話』やね！「小腹」をストレートに「小腹」と取ってどないすんねん。あのね、要するにこの亭主は八つ当たりしたいだけなのよ。

えてして男がイジけると八つ当たりに変わるもんでしょ。でね、身近な者に八つ当たりする時っていうのは〝甘え〟なわけよ。その甘えが暴力に結びついたりするわけやね。つまり、これを辿っていくと崇高なるマルキド・サドに通じてくる。「暴力によって愛情を発現する＝甘える」。SMっていうのはそういうもんやねん。コミュニケーションの道具が言葉から暴力になっただけの話や。

ボディーランゲージってあるじゃない。暴力はその発展型で、〝ハード・ボディーランゲージ〟！　俺が誰かさんの顔面を「蹴っちゃいけない」と思いながら、思いっきり蹴っちゃったりするのと一緒やね。それが中途半端になると田村（潔司）に負けたりする。これは負け惜しみじゃなくて真理をついてると思うで。

あとコミュニケーションってことでいえば、昔、ピカートっていう思想家が「愛の中には言葉よりも多くの沈黙がある。黙ってあなたの声が聞こえるように」と面白いことを言ってたんだよね。

亭主が無口になってる時なんかの沈黙はそれ自体が何かを伝えようとするコミュニケーション。だから、「外でイジメられて私に当たってるのかしら？」「ヨシヨシしてやった方がいいのかしら？」「反対にムチでシバいた方がいいのかしら？」とか臨機応変に相手の沈黙を読む、と。

でも、この女性はラッキーやね。こういう亭主に出会ったってことが。だって、こんなことで内にグズグズこもるより「なんじゃ、こりゃあ！」ってテーブルひっくり返してくれた方が健康的でええ。黙って蒸発されたり、愛人と失楽園するより数倍マシ。こういうわかりやすい野郎は手なづけるのは簡単やねん。うまく育てればモルモットのようにどうにでもなる！

男は何によって満足感を得られるか？それは「男として誰かから必要とされてる」ってことに尽きるでしょ。だから、この亭主のどの辺に〝男の根本精神〟のツボがあるのか、まず見極める。そこをくすぐれば、こんなん、すぐに子猫のようにカワイクなるで。『愚かな女』とは、そのツボを見極められない女のことをいうんやね。女性っていうのは、やっぱり戦略家にならないといけません。

相手の言葉や沈黙の裏側を読んで、先手を制する。亭主が家に帰ってきたら「毎日ご苦労さま。私はあなたの顔を見られるだけで幸せなの〜♥」ってね、手の平の上で転がしてやればええだけの話や。

それが効かない時は女王様になって試してみましょう。

Q 僕は現在21歳の学生なんですが、将来、マジで『ヒモ』として生活したいと思っています。今も、メシを食わせてくれるカノジョ、お金をくれるカノジョ、ものをくれるカノジョ、SEXさせてくれるカノジョなどに貢がせて暮らしています。街頭スカウトのバイトをしてるので、出会いには困りません。実際に、何不自由なく暮らしています。つまんない仕事を嫌々やるよりも、僕は絶対にこういう生活の方が楽しいし、正しいと思います。サラリーマンや満員電車で疲れた顔したオッサンを見ると「無理して、バカだなぁ」と心の底から思います。そこで僕は、完璧な日本一のヒモになりたいのですが、何をもって日本一のヒモなのかがわかりません。日明兄さん、日本一のヒモとは何なのでしょうか？　そして、何をすれば日本一になれるのでしょうか？
（世田谷区・コードネームジュン・22歳・大学生・男）

A これは『哀れな男の話』やね。まだ、21歳の学生だからいいとしても、こいつが70歳になったら同じではいられないやろ。ヒモって考えるよりホント大変なんだよ。

それに、何不自由なく暮らしてることに充実感を感じられるっていうのは若さの特権で、それが30歳過ぎて男性ホルモンの分泌力が安定してくると、逆に「何不自由なく」ってことが不安になってくるんやね。「何不自由なく」ってことが最大の不自由ってことに気付く。「これでいいんだろうか？」って考え始めるわけや。そういう状況になって何も考えることができなかったら、こいつは頭悪いか、も

前田日明の
WORLD MEGA-BATTLE 人生相談
人生は語らず

しくは短命なんやね。

人間っていうのは自分の感性が作ったバーチャル・リアリティーの中で暮らしてるんだよね。その中で充実感を求めて暮らすんだけども、男の充実感の根本は何かというと、"達成感"でしょ。それを突き詰めていくと「他人から正しい認識を受ける（尊敬とか）ことによって征服欲的充足感とか何かの役に立っている」ってことに落ち着いてくるんだよね。

"俺はヒモとしての生活でどんな役にたっているのだろうか"とこいつが考えるとする。そうすると"女を満足させてるはずだし、女の方も俺の世話をすることで満足してるはずだ"ってことになるんやろうけど、その中には現実の達成感がなんにもないわけや。

そうやってフッと疑問に思った時に、女が陰で「ガキの癖にいっちょ前に大人ぶってるところが可愛いの」なんて言ってるのを聞いたら、愕然として首吊りたくなるで。

結局、自分の感性が作り出したバーチャル・リアリティーと、周りの女が作ってるバーチャル・リアリティーに共通性がないわけや。共通性がないところに達成感はない！

そうすると自分の自意識が崩壊しちゃうんやね。そうなってくると男っていうのは脆い。

だから、もし日本一のヒモになりたいんだったら、30歳になる前に、そして女の本当の気持ちを知る前に自殺するこっちゃ！ ヒモ歴の一番華やかな真っ最中に、パッと咲いてパッと散る！ そうすれば女の中にも美しい思い出として残るで！

どうせだったら、いろいろ実験したいことがあるから、一度俺の実験台になってから死んでくれ。実験台冥利に尽きる達成感をその時に思いっきり感じさせたるで！ だから死ぬ時はボクに教えてね。お願い。

Q 私は腹が立っても、他人に対しては心底ムキになって怒ったことがありません。どこか醒めた目で自分をみて、気持ちをセーブしてしまいます。「ムキになったらみっともない」という気持ちが働くからだと思います。でも、ムキになれる人をみると「みっともない」と思う反面、「うらやましいなぁ」とも思います。最近は、そんな自分の気持ちを自分で封じ込める性格がとことん嫌になってきました。怒ったときはムキになって怒ってみたいんです。前田さん、怒りを他人にぶつける方法や気構えというのはあるんでしょうか？

（埼玉県・極細企業経営者・41歳・男）

A 41歳の経営者でムキになったことがないっていうのは奇跡やね。やっぱり人生を真剣に生きようと思ったら、自分の立っている場所を、自分の感覚で推し量らなきゃいけない。

その推し量る一番確実な「モノサシ」って何かって言ったら自分の感情や。戦艦大和のレーダーみたく、感情という強い電波を発射して、それが返ってくる早さによって、あるいは周囲の人の反応で、敵がどこにいるかを推し量るわけ。

例えば俺が二人の人間に「コラァッ！」って怒鳴って、ヒクソンって人間はシュンとしてるんだけど、ゴッチという人間は「何だと！」って言ってくる。そうすると、俺のレーダーは、"ヒクソンはどうってことないけど、ゴッチは怖い！"って感知するわけでしょ。そうすると、これからは「ゴッチには気を付けろ」ってことになって注意をそっちに集中できるわけやね。つまり、自らのエネルギーを効率的に有効利用できる。

反対に、ムキにならないってことは自分のエネルギーを垂れ流し状態にすることと同じで、生きてゆく限り人間は、感情というエネルギーの中で暮らしていく。それを有効利用できないってことは、ただ疲れるだけってこっちゃね。

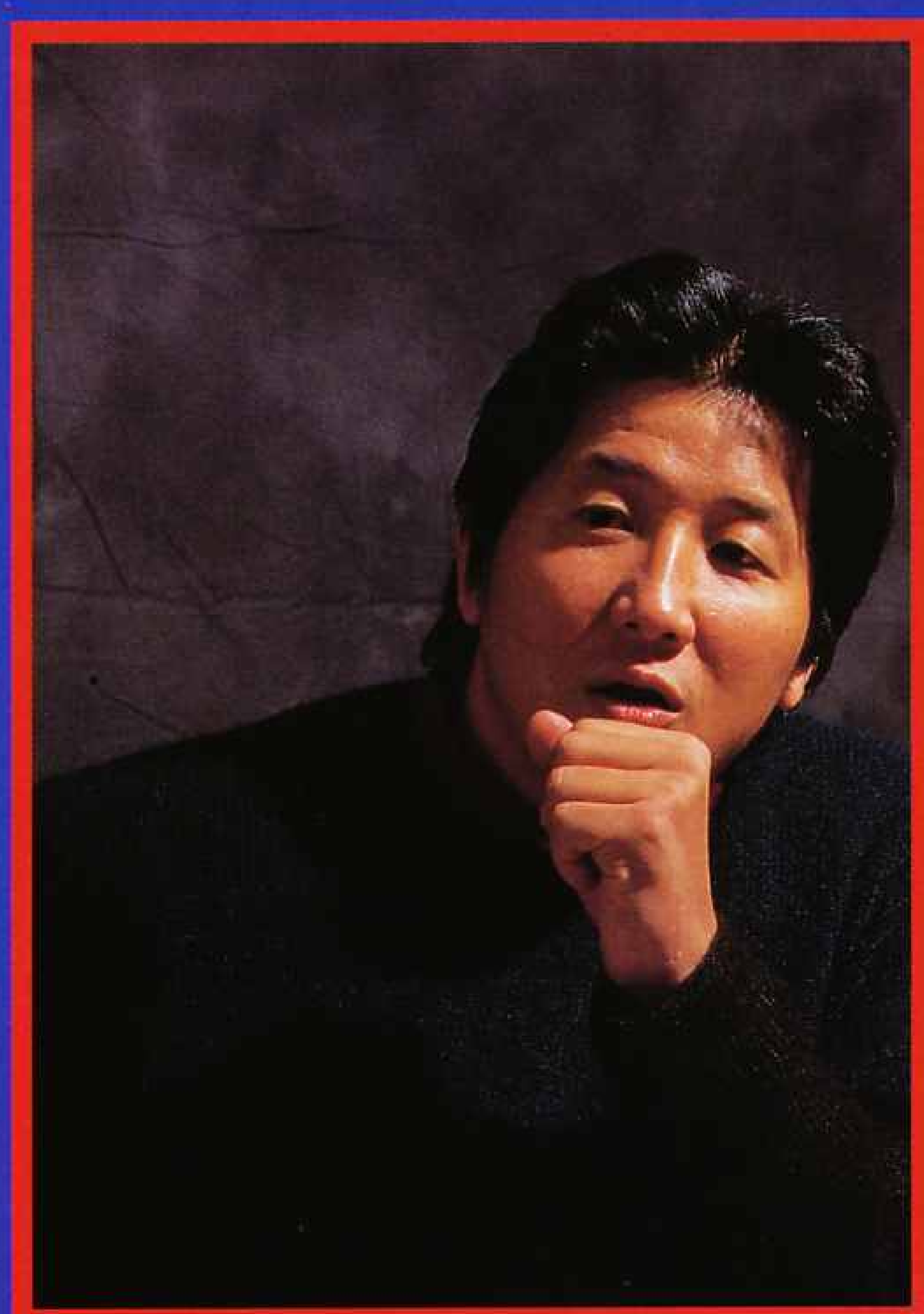
だから、オレがよく他人に怒りをぶつけるのは省エネしてるっちゅーこっちゃ。

あとね、ムキになってる人は、自分と他人との距離感をよく把握できるんだよね。自分と同じようにムキになってる奴がいるとわかる。たとえ遠くにいてもわかる。どういうことにムキになってるかっていうのも、なんとなくわかってくるんだよね。「ああ、あいつはそういうことにムキになってるのか。そうか、それは3年前の俺やな。つまり奴よりオレのが上やな」とかわかるわけですね（ゴッホン）。

ということは、ムキになるという行為は、近くにいる人に対しても、遠くにいる人に対しても、いつも自分の感覚を応用することができるわけです。要するに自分の精神的、非空間的テリトリーが広まる！ 人生が2倍、3倍充実する！

ただ、初心者の場合、怒りの爆発力をコントロールできないと思うんだよね。まあ、俺ぐらいの達人になるとわかるけど、初めは何が何だかわからない。感情という強い電波を出すと、跳ね返ってきた自分のエネルギーの大きさに驚いてしまって、余計、自分と他人の間に距離ができてしまったとか、警戒されてしまったとか、ハブンチョ（村八分、仲間はずれ）にされてしまったとか感じるんだよね。でも、本当はそうじゃない。宇宙戦艦ヤマトの波動砲みたいに、怒りを放出した後ってエネルギーが落ちるんだよ。だから、しばらくは虚無感っていうか、孤独を感じるのね。感情を露にすると孤独が待っている。それに慣れるまでが勝負やね。

それを超越すると、遠くにいる、会ったこともないようなオッサンがわめいているのを聞いても、「なかなか、あのオッサンええ奴やな。オモロイやんけ」って余裕かませるようになる。石上三年！ とりあえず3年はわめいてみることや！ 3年以上、とことんムキになってわめいていた人間の言うことだから信じなさい。



Q つきあって2カ月目の彼女に「あなたの足、鼻がモゲるほど臭い!!」と言われてしまいました。鼻がモゲるほど、だそうです。文字にするとそうでもないかもしれませんが、その単純明快な言葉の裏にある衝撃度は強烈で、いまだにボクはショックで立ち直れません。そのときの彼女の顔は、ホントーに不快そうでした。それから"臭くない足"を心がけているのですが、「ほら、もう臭くないよ」というひと言がどうしても切り出せません（また匂いを嗅いでもらう勇気もないし）。これからボクはどうやって名誉挽回すればいいのでしょうか？

（兵庫県・赤ヒゲ危機100発・18歳・高校生・男）

A 笑わせよんなぁ。でもね、彼が自信持っていいのは彼女に対して一生忘れないほどのインパクトを与えたってことやね。人間と人間の出会いの根本は何かっていったら、どれだけ自分の個性を相手の記憶にインパクトとして残せるかってことやろ。彼の場合は何もせず、何もしゃべらず、足一本で衝撃を与えることができた！　ニオイだけでできた！　これはホントにラッキーなことやで。

インパクトは記録に残るよりも記憶に残る！

それにね、我が輩自身の経験からこの子のために言ってあげるけど、足が臭いのより、マ●コが臭い方が数倍スゴイで！　1999年7月にアンゴルモアの大王が降りてきても、マ●コの臭い女を3人ぐらい並べたら間違いなく大王も逃げ出す。それぐらいスゴイ！　だから、足が臭いくらいで心配しなくてええよ。

オレも、20歳ぐらいの時には足臭かったけど、自分の靴下持って彼女を追っかけまわしたからね。ニギリっ屁もしたし。だから、俺の歴代の彼女は全員、俺の屁や足のニオイを嗅いでるで。こういうことをすると、女の子はキャーキャーと嬉しそうにして逃げ回る。こういったコミュニケーションで精神的な距離も縮まるわけや。「私たちってクサイ仲なのね。ウフ♥」ってなるねん。彼女がグジャグジャ言うようになったら、俺がニギリっ屁の秘伝を授けるから、それによって精神的距離を縮めて彼女に「ウフ♥」って気持ちを起こさせなさい。ちなみにニギリっ屁のコツは片一方の手で相手の口を押さえて、鼻だけ生かしとく。で、鼻の上に屁の入った手でフタをする（キミの場合は、臭い靴下でもええで）。

人生、こいたもん勝ちや！

Q 昨年の末、違う会社の偉い人を酒を飲んだ勢いでブン殴り、背後からウイスキーをブッかけてしまい、さらに前は短髪で後ろは長髪という変な髪形をした人だったので「それが人に説教垂れる髪形か！　てめえ、その髪を切りやがれ！　お前が切らないなら俺が切る！」などと、大変失礼なことを言ってしまいました。酒の席とはいえ、社会人1年目の僕が随分と偉そうなことをしてしまいました。それよりも酔った勢いで、普段とは違う自分が出てきたのがショックでした。僕の本性はああいった粗暴な人間だったのかと思うと実に情けないです。そのときのことを考えると、いますぐにどんな小さな穴にでも入ってしまいたくなります。日明兄さんは人生を通じて酒の席で暴れたことも多かったそうですが、酒の席での自分は本当の自分の姿なのでしょうか？　そうだとしたら、僕は自分が怖くてたまりません。日明兄さん、どうか救いの言葉をください！

（杉並区・どこに出しても恥ずかしい男・20歳・編集者・男）

A こんなの悩みにもなんにもならへんやんけ。

俺だってね、カラオケボックスの壁をブチ破ったこともあれば、包丁5～6本持ってそこらに投げたこともあるよ。

あれは新日本プロレスに入門した頃やね。花見の時に先輩に日本酒をガンガン飲まされて、気がついたら縛られて猿ぐつわハメられてたんや。あとで聞いたら、酔っ払って合宿所にあった包丁5～6本持ってそこらに投げはじめたんやって。ミスター高橋さんが止めようとしたけど、俺、手の平を刺したらしいんや。今でも傷が残ってるらしいよ。今度、見てみ、あれ、俺が付けた傷やから。

六本木でも、ウォッカに凝ってる頃によく酒乱をやったね。ウォッカで酔っ払うと、俺は前世がピエロだったんちゃうかなっていうくらいにメチャクチャ陽気になるの。でね、当時の彼女が歌ってる時に何を思ったか、俺は彼女からマイクを奪い取って、いきなりチャックを開けてね、

♪オレのチ●コはでっかいゾ～ッ、まいったか～ッて踊ったらしいんや！　わけのわからん歌を1時間、しかも振りつけ付きで。その彼女には、この世の終わりみたいな泣かれ方をされたなあ。でも、本人は全然憶えてないねん。

前田日明の
WORLD MEGA-BATTLE 人生相談
人生は語らず

それから、角田信朗の結婚式じゃ、両親に花束を渡す厳粛な場面で「オマ●コ～！」って叫んじゃったしね。

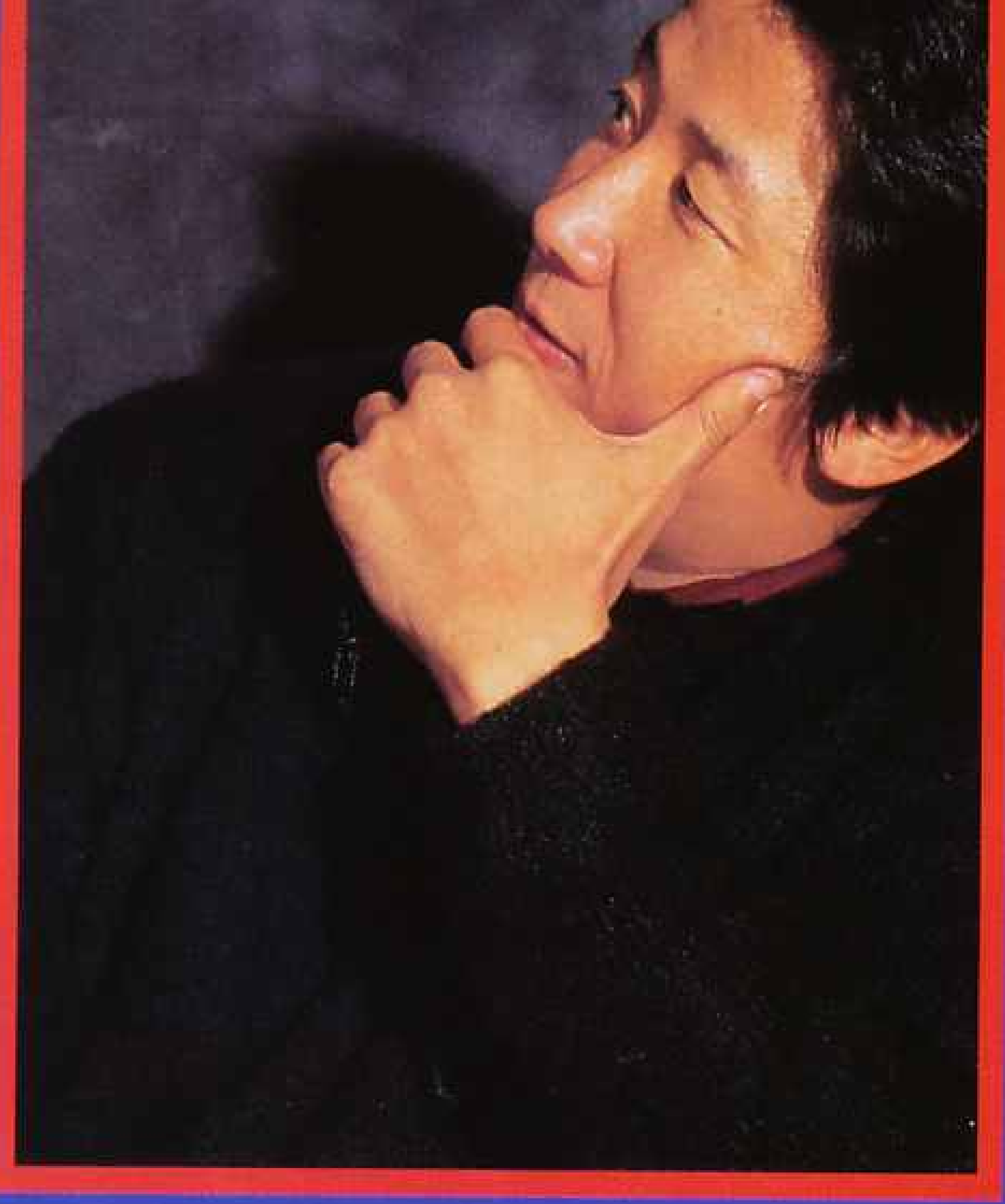
この子は「穴に入りたい」って書いてるけど、俺なんか、酒飲むとついつい穴に入れたくなるからね。でも、それはもっとも気をつけなきゃいかんことや！　朝、目が覚めたら、映画『サンダ対ガイラ』の怪獣ガイラみたいな女が横にいたことがあってね。「ウワァ！　ウワァ！　ガイラや」「ウワァ！　ウワァ！」って「ウワァ！」を3万回ぐらい繰り返したね。俺の中の『漢字TALK3・4』が完全に壊れて、それ以外言葉が出えへんのや。

「まさか俺、こんな奴としてへんよな」ってパッと下を見たら履いてない！　それで「ウワァ！」から「ギャア～！」に変わって、また「ギャア～！」を3万回叫んだこともあったね。

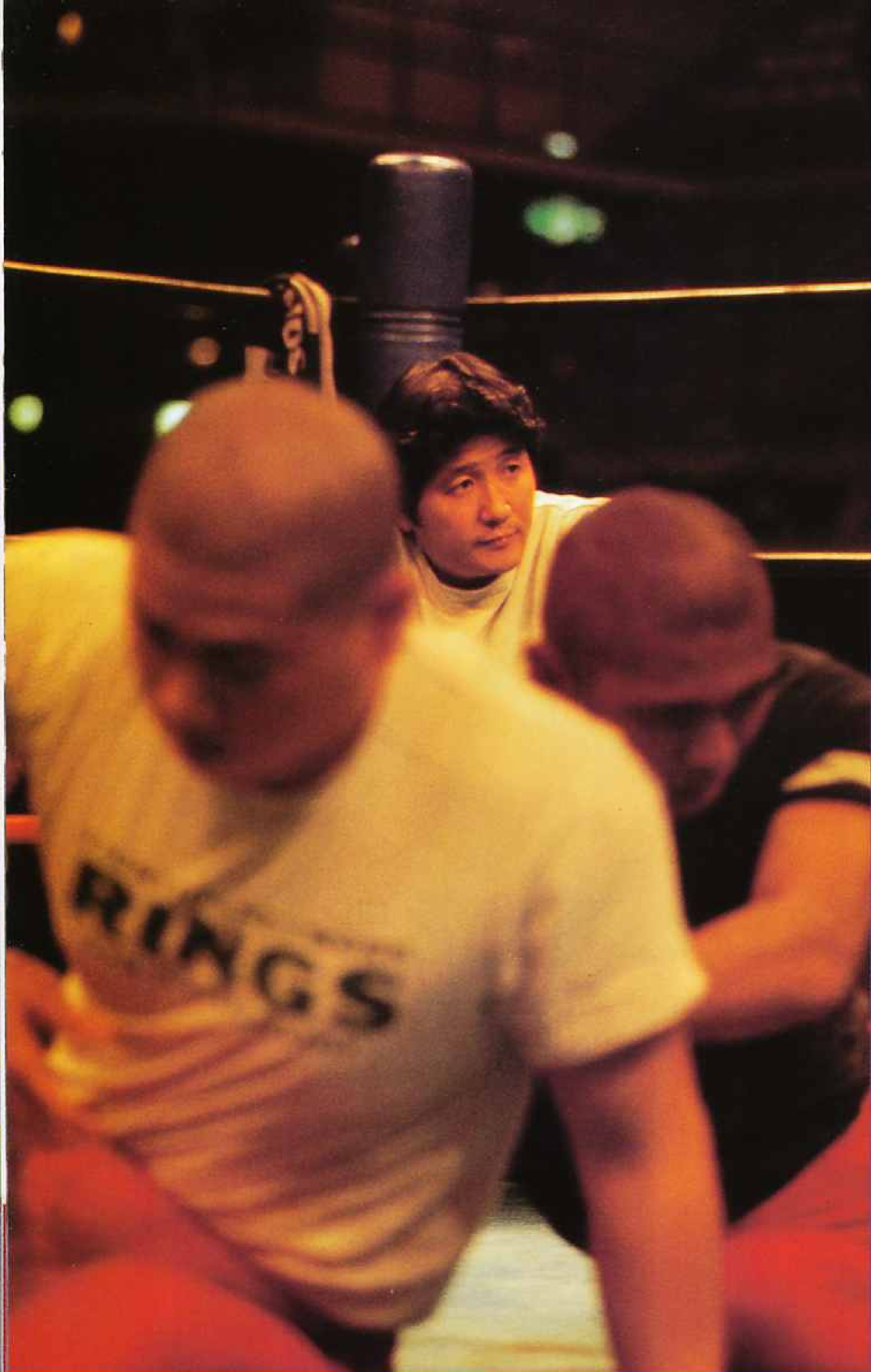
その女には「前田とやった」っていいふらされるし、俺はあの時だけは自殺しようと思った。いつ何時、どこからでも飛び降りれる覚悟はできていた。だから、酔っぱらって、わけわからずに穴に入るのだけはやめなさい。

この子の解決策はね、シラフの時に思いっきり可愛くなる。一度酒乱やってしまったんだから、普段は自然にして、自然に謝って、自然に可愛くなってね。「あんまり追及しないでね。ボク、ウサちゃんなの～。ウサちゃんだから、イジメたら死んじゃうの～！」とか「ボクはビリー・ミリガンなの。24人の人格があるの～」ってね。それでも通用しなかったら、また酒飲んで「オラオラオラァ～！」って変貌すると。そのギャップが面白いというところまで徹底的に認知させるこっちゃね。

でもね、酒乱の奴ほど結構憎めない人間が多いんだよね。今の世知辛い世の中では酒乱に対して偏見が多いけど、キミとボクで酒乱の基本的人権を守るために一緒に立ち上がろう！　そして、一緒に歌おう！　せーの、♪オレのチ●コはでっかいゾ～ッ、まいったか～ッ♪



Q 日明兄さん、こんにちは。私は24歳の新入社員です。私の友人（も新入社員）の職場は一般的にいうおカタイ仕事で、上の人から服装や髪形や生活態度などについて非常にこまごまと意見されるそうです。そのときに必ずと言っていい程出てくる言葉が「常識」だそうです。「～は常識」「服装は～が常識」と口を揃えて言われるようです。そこで質問なのですが、「常識」とは一体何なんですか？　世の中で



は多数派がやっていることが正しいのでしょうか？　学生と社会人とは違うことはわかっています。しかし、ことあるごとに「常識、常識」と連呼されても、私はどうすべきなのかわかりません。国によって、時代によって常識は違います。外国人との交流もある肉体的国際派の日明兄さんの意見をお聞かせください。私は人間社会の真実が知りたい！

（悩める若人・24歳）

A この場合の常識とはほぼ大多数の人間にとって気分が悪くならないことやな。キミがいるからボクがいる。そういうもんですよ。多数派がやってることは正しいということになっている。民主主義っていうのはそういうもんでしょ。

それに、人間が平等っていうのはウソですよ。人それぞれ能力も違うし、育った環境も違う。そんなことを真に受けたらダメです。人間はもともと平等じゃないから、じゃあどうするかって考えるわけで、そこに個々の人間の生き方とか、資質が問われてくるわけでしょ。

サルトルが昔、日本の大学に呼ばれた時に、「人生の意味とはなんでしょう？」って学生に質問されたんだって。その時、サルトルはこう答えたらしいよ。「生きていること自体は、ただの偶然にすぎない。したがって人生に意味などあるはずがない。だから人生の意味は自分で考えるしかない」ってね。

これを読んだ時に俺は、サルトルもなかなかわかってるやんけと思った。ニーチェに続いてサルトルも認めてやらなアカンと思った。実存主義もなかなか小賢しいな。

つまり人生の意味なんてものは自分でつくって自分で考えるしかないんだよね。ホントは常識だって自分で考えるべきなんだけど、一つ言えることは誰にとっても気分のいいこと、人の気分を害さないことが常識っちゅーこっちゃね。まあマナーともいうけど、だから、自分がやられてイヤなことは人にやっちゃダメなんです！　この人は24歳？　じゃあ毛が生えて10年くらいだから、まだまだこれからわかるでしょ。

やっぱりね、電通に勤めてようがヤクザやってようが、常識のない奴はおらんやんけ。常識を知ってるのと知らんのとでは、人生が全然ちゃうねん。

でね、えてして非常識なヤツに限って「俺は一匹狼だ」とか言ってその気になっているけど、本当の意味の一匹狼っていうのは、「誰にも頼らないんだけども周りにとって必要な人間だから、いつの間にかなんとかなっていく」って人のことをいうんだよね。それはなんでかっていうと、周りの人にとって、その人が役に立つからだよ。

そういう状況を作り出すのが天才的にうまい戦略家を一匹狼っていうんだよね。だけど、最近の自称・一匹狼は、独りよがりで独善的で弱いものイジメしかできない。一言で言ったら非常識！　こういう人は、さっきの相談じゃないけど、現状にムキになってないんやね。昔いたような本物の一匹狼は、状況を作り出すために虎のように雄々しくムキになってたわけよ。

みんなも一匹狼になるんなら、〝虎〟という意味での一匹狼になろう。間違った一匹狼の例は、3匹の仔ブタの家を壊したり、赤頭巾ちゃんのおばあちゃんを食べたりするような情けない狼のことです。しょせん狼は一匹でできることはそんなもん。だからみんなで〝虎〟になろう！

カンタンに虎になるには、お酒をいっぱい飲んだら「大トラ」になれます。でも責任は持ちません。自分で責任とろう。

【日明兄さんの大訓示！】

最近思うんだけど、みんな「言葉」に踊らされないように気をつけた方がいいね。芸能界やマスコミ、どこのどいつだとは言わないけど格闘技界の一部、そいつらはその世界で食っていくために、大したことのないことを、極端にイメージづけをして発信するんだよね。

マスコミでいう社会現象でも、家庭内暴力は「親子ゲンカ」、出社拒否・登校拒否は「ズル休み」、オタクは「凝り性」、うちらの子供の頃にあったものでも、マスコミがつくる言葉によって全然イメージは違ってくるわけでしょ。

いま流行りの「本当の自分とは何か？」なんて、これもみんなが踊らされてるだけ。

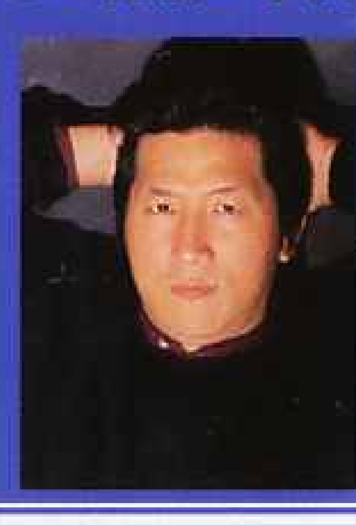
いまある自分は、全部本当の自分であって、そこから何をチョイスするのかが自分の感覚なんだよね。

例え他人のおせっかいに乗って失敗したとしても、それも本当の自分なんや。そこで責任を持てるか持てないかで人生は大きく変わってくる。

だから、自分の感覚を張り巡らせて、自分の感覚を大切にして強く生きよう。でもね、〝450戦無敗〟になるまで〝強く〟なる必要もないで。

ムキになって人生を送りたい諸君！相談、受け付けてやってもええで！

みんな、どんどん悩んでください。どんどん悩んで、どんどん相談の手紙を送ってね。そうしたら、どんどんくだらない答えを書くからね。そうしたら、俺の原稿料もどんどん増えるっちゅーこっちゃ（山口君、原稿料上げてね）〈人間破動砲・前田日明先生談〉



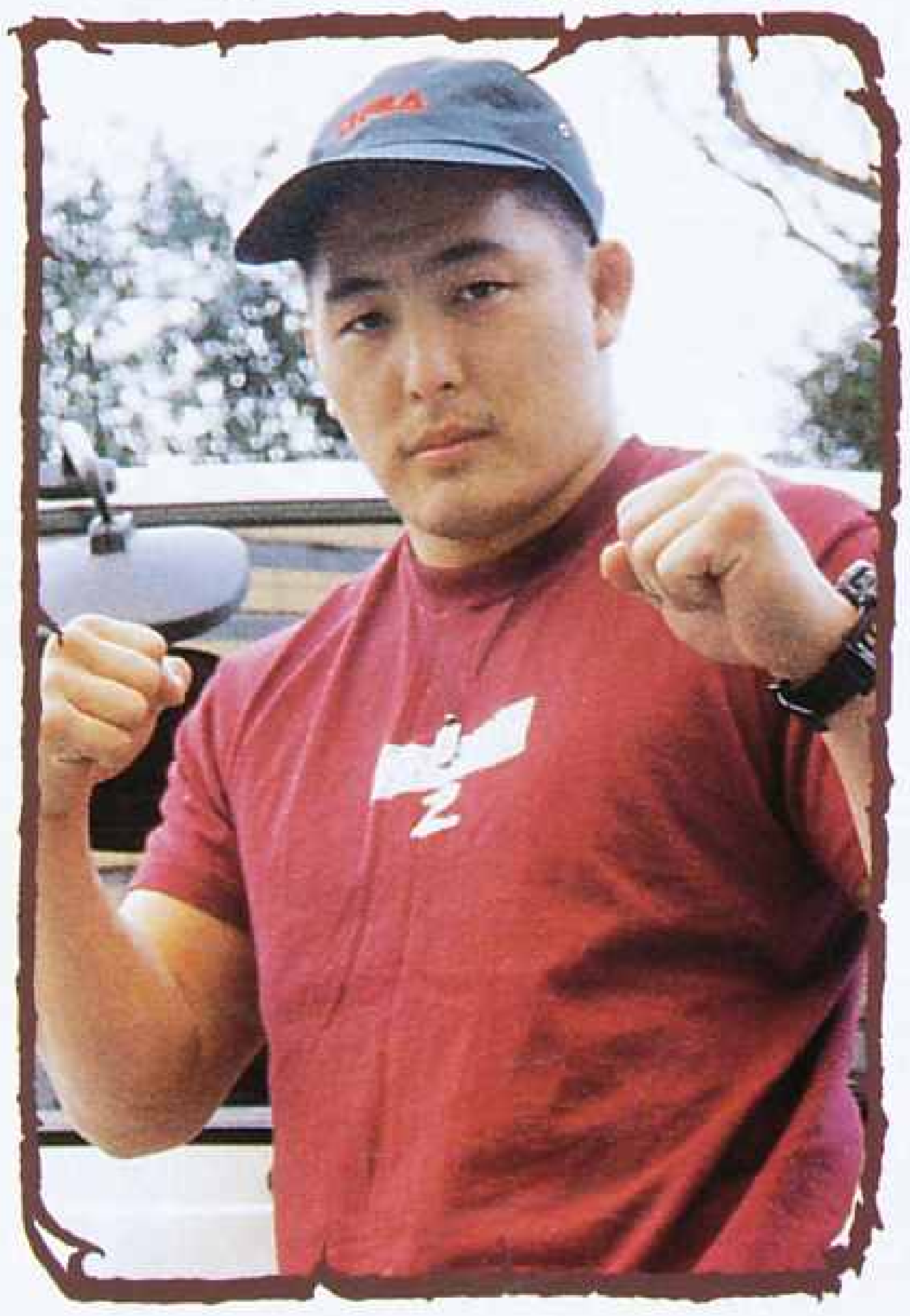
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3—11—3—702
（株）ダブルクロス　RADICAL編集部
『日明兄さんの一匹狼は雄々しい虎や』係まで。

格闘技世界大戦前夜!!

「プロレスラーはホントは強いんです記念」

格闘家から見たプロレス

本誌認定プロレスラー
No.1
エンセン井上



本誌認定プロレスラー
No.2
村浜武洋



本誌認定プロレスラー
No.3
佐藤ルミナ



格闘家 見方を変えれば プロレスラー

エンセン井上はこう言った。「プロレスと格闘技の違いは、プロレスには面白いキャラクターが多いね」と――プロレスと格闘技は敵対するものというごくごく一般的な見方をしたときには、現状のプロレス界は危機的状況であるともいえる。「格闘技側」にプロレスの一つの武器である“面白いキャラクター”を持つ選手が続々と出てきたからだ。

危うし、プロレス！

しかし、見方を変えて「プロレスも格闘技も同じ」「強くて、面白いヤツが真の“プロレスラー”」という定義をすれば、面白い格闘家たちも、また「プロレスラー」だと言える。「格闘技側」の選手たちの反発もあるだろうが、本誌は断言する！　プロレスと格闘技は地続きである！

では、その「格闘技側」の選手にプロレスは、どう映っているのだろうか？　おりしも『格闘技通信』誌上で「ガチプロは嫌いです」なる表現まで登場するご時世である。このプロレス界全体に投げかけられた問いに対し、本誌はあくまで本誌なりに検証していくつもりである。



格闘家から見たプロレス'98

プロレスラーと一緒に強くなりたい！

観光ビザで試合するシューター

エンセン井上

Enson Inoue

Interview

エンセンほど自由にプロレスと格闘技を行き来する男も珍しい……というか他にいない。修斗に所属しながらキングダムに出稽古に行き、みちプロの試合で大笑いしている。その、いい意味での呑気さがプロレスと格闘技の未来像を提示しているではないか。強くて面白いヤツはプロレスラーであるという定義にのっとるまでもなく、エンセンは『紙プロ』認定プロレスラーです！

聞き手／吉田豪＆坂井ノブ
Interview by Go Yoshida & Nobu Sakai
撮影／斉藤ユーリ
Photographs by Yuri Saito

——ハワイでジャイアント馬場さんに会ったことありますか？

エンセン　会ったことないよ。何で？

——馬場さんは、年に3回ぐらいハワイに行くんですよ。

エンセン　あ、そう。でも会っても声かけられないよ。彼は有名でしょ。たぶん私のこと知らないと思うしね。そっか、よくハワイ行くんだ。私もハワイによく行くけどね（笑）。

——さっき聞いたんですけど、いったん、ハワイに帰らないといけないみたいですね？

エンセン　そう。知らなかったけど、観光ビザじゃ、試合出来ないみたい。

——エ～ッ、観光ビザで試合してたんですか？（笑）

エンセン　そう。知らなかった。問題なってるみたいね。今度から、ビザないと出れない。今ちょっと焦ってるね。3月1日に試合あるけど（編集部注：練習中のケガにより、エンセンは欠場となった）、ビザがない、大変ね～。でも大丈夫、何とかなるよ。

——これは、書けない話ですよね？

エンセン　別に関係ないヨ。

——ガハハハハ！　豪快だなぁ（笑）。そもそもハワイでプロレスを見た事はありますか？

エンセン　あるよ。ずっと前、プロレス、ハワイにあったヨ。メチャクチャ下手だったけど。みちのくや、キングダムの試合みたいに、レベル高くない。レベルも低いし、ハワイ人ばっかりね。レスリングハワイっていう団体だった。子供のとき、よく見て盛り上がってたヨ（笑）。

——面白かったんですか？

エンセン　面白かったヨ。誰が勝つかわからないし、キャラクターが多いしね。格闘技とプロレスが違うのは、プロレスはキャラクターが凄い多いね。ヒドイ奴とか、いい奴とか、変なヨネ原人みたいな奴とか（笑）。あれは素晴らしいと思いますヨ。格闘技は、ちょっと違う世界だから、つまんない性格多いね。何も言わないとか、キャラクター全くない人が多いね。それが格闘技のウィークポイントね。

——そういう中で、エンセンさんのキャラクターは面白いですよ。

エンセン　そうね。リングの中も外も、キャラクター全くないしね。

——普段のままってことですよね？

エンセン　そうそう。冗談とかは、リングの中じゃ言えないけどね（笑）。仕事みたいな感じね。リングが終わったらリラックス出来るヨ。

——エンセンさんを見てて、佐山さんに似てるなって感じてたんですよ。

エンセン　佐山さんに最初、お世話してもらったんですヨ。シューティング入れてもらったり、色々教わりました。

——佐山さんの性格と、エンセンさんの性格って似てるんじゃないかなと思ってたんですけど。

エンセン　似てるところは、試合のとき真剣で、普段はすごい冗談ばっかりというところヨ。ただ、彼はとってもスケベ。私は真面目ね（笑）。

——ガハハハハ！

格闘技はつまんない性格多いね

エンセン　それは彼がナンバーワンね。間違いない（笑）。

——ハハハ、でも佐山さんは「エンセンは凄いよ～」って言ってましたよ。

エンセン　それは違うヨ。彼は取材だと、「エンセンがナンバーワン」って言う。でも彼は初代タイガーマスクね。それだけ言えば、もうわかる（笑）。

——わかるんですか（笑）。シューティングの選手って、真面目なイメージがあったんですけど、最近だんだん変わって来たと思うんですよ。コスチュームも発言も派手になってきましたしね。

エンセン　そうね。今はいろんなキャラクター出てるね。俺は真面目な方だけどね（笑）。（佐藤）ルミナは、何も考えてないみたいな感じで、闘いに行くっていうキャラクターになってる。朝日（昇）さんも、奇人とかいって写真撮ると変な顔するし。みんなキャラクター出て来てるヨ。でもプロレスの方がキャラクターしっかりしてる。

——佐山さんは、普段は温厚なのに、キレると無茶苦茶怖いっていうことで有名なんですけど、エンセンさんも、そういうタイプだと思うんですよ。

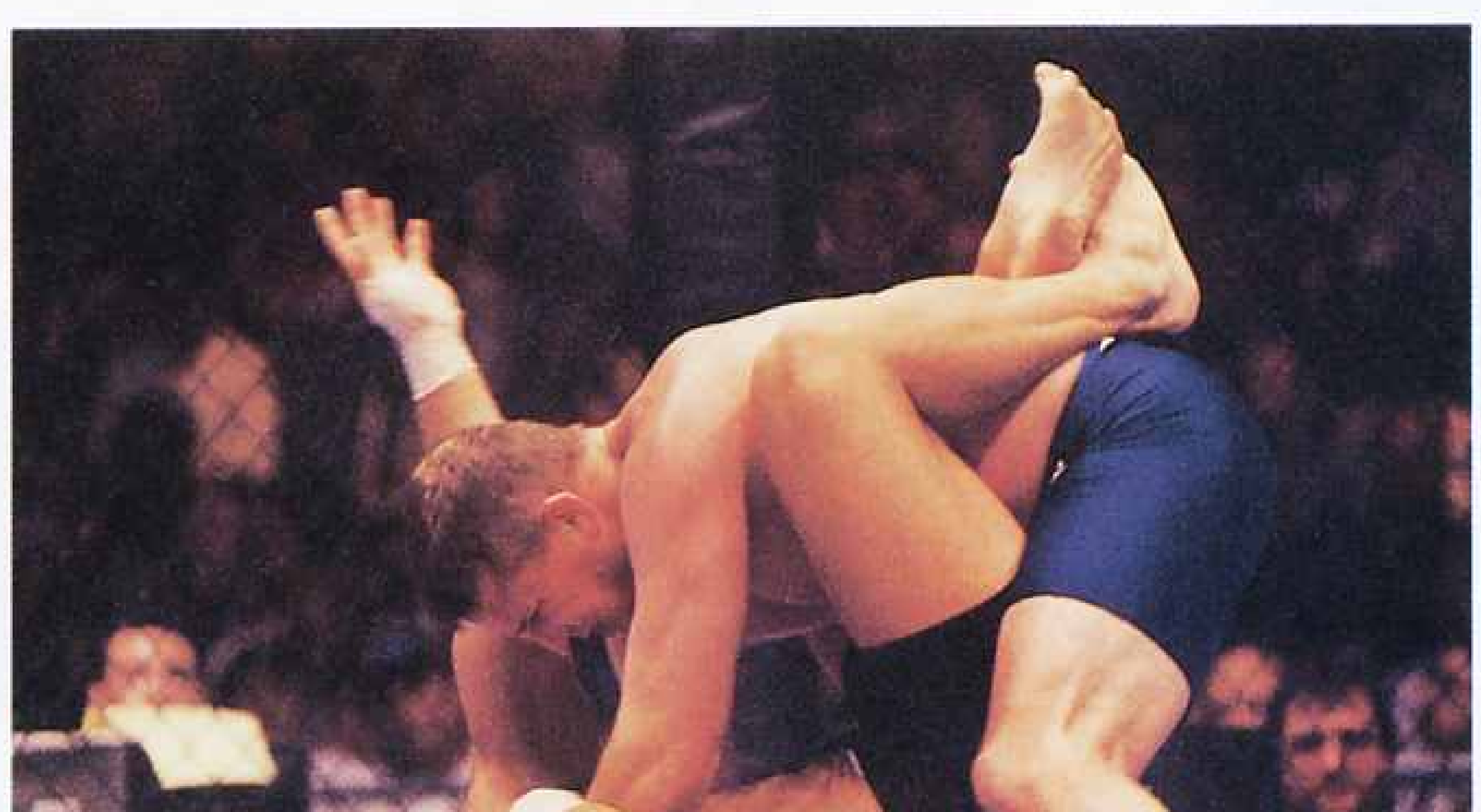
エンセン　昨日タクシーにぶつけたけど、俺はキレなかったヨ。

——エ～ッ、車ぶつけちゃったんですか？（笑）

エンセン　誰でも、キレると怖いと思うね。私はあんまりキレないけど、一旦キレたら止まらないヨ。佐山さんがキレたのは一度も見たことないけどね。一緒に出かけても、お笑いばっかりしてるヨ。

——ガハハハハ、エンセンさんと一緒だと、エンセンさんばっかりモテるんで、佐山さんも、ハワイ出身のフリをしたって話を聞いたことがあるんですけど。

エンセン　ハハハハ、そんなこともあったね（笑）。水商売のとこ行って、自分がカタコトの日本語だから目立つね。俺がハワイ人だから。ひょっとしたら変な日本人とか、頭良くない日本人って思ってるかもしれないけど（笑）。佐山さんは、俺が話すと女の子の目が



昨年、5月30日の第13回ＵＦＣ・ライト級トーナメントで、ロイス・アルジャーと闘い見事に腕十字で勝利。世界に修斗とエンセン井上の名を広めた。



ヒクソンを最も苦しめた男・スールをボコボコにしたエンセン スールがタップしても、レフェリーが止めても攻撃をやめないあたり、エスケープしても関節技を放さない猪木イズムが入ってる

チョット変わるって言うんだよね（笑）。「ハワイなの〜♥」って言われるの（笑）。次の店行って、私が「エンセンは四世」って言うと、佐山さんは「俺もハワイです。三世です」って（笑）。佐山さん、かなり英語出来るから、そういう嘘つけるんだよね。それで運が悪くてね、そこの女の子が「私も二年ぐらいハワイ住んでたの〜」っていうから、佐山さん、嘘がバレちゃったヨ（笑）。

――ガハハハハ、いいなあ（笑）。

エンセン 佐山さんとは、面白いこといっぱいしたね（笑）。

――佐山さんとそうやって、ふざけられる選手って、エンセンさんぐらいだったと思うんですよね。

エンセン そうね。他のシューティングの選手よりも、仲良かったね。もちろん、練習のときは先生だけど、終わったら全く友達ね。

――全く友達ですか（笑）。

エンセン そうそうそう。冗談が上手いんだよねぇ〜（笑）。

――それまでの選手は、佐山さんに、怖さを感じてたと思うんですよ。昔は怖かったですからね。

エンセン そうね。私も前のビデオ見て、信じられないね（笑）。凄い蹴飛ばしたり、竹刀でバーンってやったりね。その時入ってたら、今みたいに、友達みたく出来ないかもしれないね。でも、優しくなったときに、たまたま入って、自分が柔術の動き教えて上げて、佐山先生からはナンパのこと教えてもらったからね（笑）。それで技術交換ね（笑）。

――ガハハハハハ！

エンセン 俺が教えた技術より、教わった技術の方が大事。いろんなこと知ってるよ、佐山さんのこと。言えないことが多いけどね。「ピーピーピー」な話があるね（笑）。佐山先生が、どっかで俺のこと言うかもしれないから、あんまりヒドく言えないね。

――佐山さんは、一度キレたら止まんないっていう話ですけど、偉そうにしてると、ダメみたいですね？

エンセン そうそうそう。店員さんに、えばってる奴とかいたら、凄いイヤみたい。だから、優しさで怒っちゃうみたいな感じね。なんか変な感じね〜。優しいから怒っちゃう（笑）。

――エンセンさんは、どういう時にキレるんですか？

エンセン プライド大きいから、自分のプライド傷つけられたら、キレる。でも今は、プロだから手は出さないよ。（同席した友人を指して）こういうくだらない友達には、手を出すけどね（と、顔面にフックを2発叩き込む）。ハハハハハ！ 冗談だけどね（笑）。一番キレるのは、大事な女の子や、修斗クン（エンセンが飼っているピット・ブル）に失礼なことされたときね。チカンするとか、弱い者イジメとか、許せない。この間、寿司屋さんで喧嘩になりそうだったヨ。寿司を食べてたら、酔っ払ったヤクザみたいなオジサンが、女の子の身体をず〜っと睨んでるの。オッパイ見るとか。自分の目の前だよ。だから言ったの「アンタ、失礼だよ。ず〜っと女の子見て、ヒドイね」って。彼は下向いて、何も言わなかったから、何もなってないけど。もし、彼が口答えしてたら、すぐ外に連れていってたね。そんな感じね〜（笑）。自分で認めるけど、自分もヒドイ人。悪いことするし、友達のこと蹴ったりするし（笑）。でも自分よりヒドイ人は怒る。立場も逆にして、私だったら絶対しないってことをする人は、怒るよ。ヒドイ私が、しないんだったら、絶対ヒドイよ！ ヒドイでしょ？

――ガハハ、それはヒドすぎますね。ヒドイ自分がしないことを他人がするのは許せないんですね？

エンセン そうそうそう。

――ハワイの頃、一番凄かった喧嘩っていうと、どんなのがありますか？

エンセン ……いろいろあったね〜。一回、ヒドイ目に遭わせたこともあるし。死んだかどうか、わからないぐらいにヒドイこと。

プロレスはキャラクター多いね

エンセン井上

Enson Inoue

——佐山さんクラスですね（笑）。

エンセン　次の日の新聞とか、ニュース見たけど、出てなかったから、死んでないと思うけどね。いろんな喧嘩があったね。ピストルを出されたこともあったしね。1対1じゃなくて、グループ対グループで、20対20ぐらいでね。それは怖かったね。それはまた違う感じ。みんなほんとにショックで動けなかったね。魚みたい。1人が逃げると、みんな「グワァ～」ってなっちゃうね。凄くいい経験だった。

——そういうのを、乗り越えてるのは、格闘家としてハートの部分で違いますよね？

エンセン　そうね。人間は、猫みたい。猫のいいところで、人間が持ってるのは、逃げれるんだったら、逃げるっていうところ。もう一つの猫のいいところは、逃げられなかったら、喧嘩するっていうところ。私、いっぱい猫いじめたことあるけど、逃げるところなかったら、逆に「グワァ～」って掛かってくるね。それは怖かった。

——猫は、怖かったんですか？

エンセン　うん。だから、それはいいところ。ピストル出されたときも、逃げるチャンスがあれば、逃げる方がいいかも知れない（笑）。プライドはたまに捨てて。それはいい経験だったヨ。

——大山総裁も、猫や犬が怖いって言ってましたね。

エンセン　ああ、そうですか。やっぱりそうね。猫の方が怖いヨ。

——犬は、いじめないんですか？

エンセン　犬は大好きだよ！　友達はいじめるけどね（と横にいる友達の顔面にストレートを2発叩き込む）。ハハハハハハ！　プロレスの練習になるね（笑）。

——何か不思議なんですけど、強い人って、犬好きですよね？　カールゴッチさんとか、藤原組長もそうだし。

エンセン　ああ、そうだ。面白いね。

——ああいう人に限って、獰猛な犬を連れてますよね。ゴッチさんも、エンセンさんと同じ犬飼ってるんですよ。

エンセン　ああ、ピッドブル。そうなんですか？

——下手なレスラーより、全然強いでしょうからね。

エンセン　そう、不思議ね。今、修斗クンと二十四時間一緒。離れるときは、試合会場や練習中とかだけね。

——ずっと一緒なんですね。

エンセン　誰か修斗クンいじめたら、許さないね。練習終わって、疲れてても、修斗クンを抱きしめると元気になる。修斗クンいないと、こんなにハードなトレーニング出来ないと思う。とっても大事。この友達（と横にいる友達を殴る）より大事。どっちか捨てるんだったら、チョット考えるけど、たぶんすぐ捨てる（笑）。ハハハハハハ！　どうしてシューティングと犬が好きかというと、忠実だからだね。自分もシューティングには、死ぬまで忠実ですヨ。ほんとに友達になるんだったら、何でも友達のために手伝わなきゃいけない。コイツはまだ友達にまでなってないけど。なっ!?（と横にいた友人の顔面にアッパーを2発叩き込む）。ハハハハハ！

友達　痛い、痛いよ。毎日これだよ～。

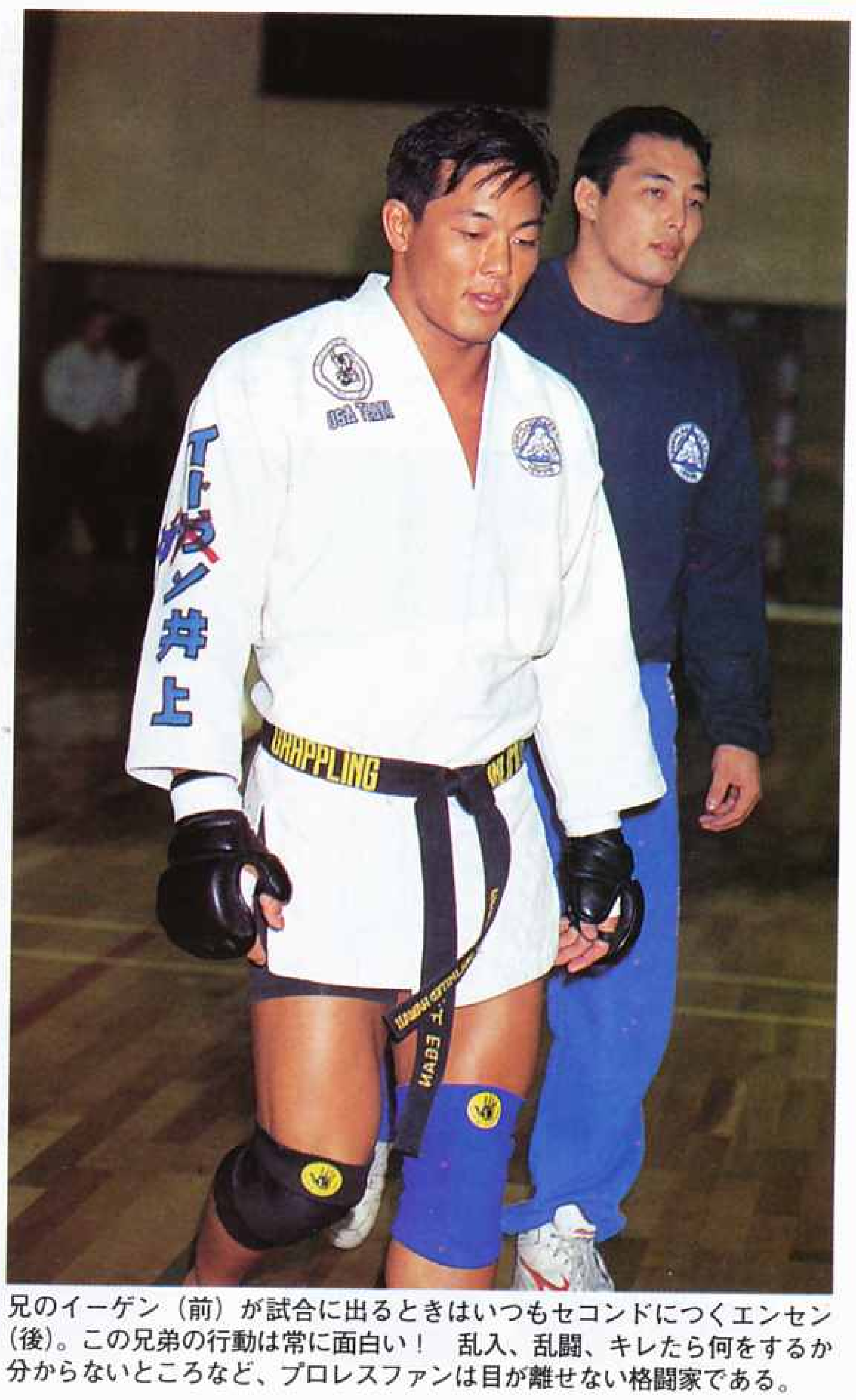
——ガハハハハ、凄い付き合いですね。で、今日の本題に入ろうと思います。エンセンさんにプロレスのことを聞きたいんです。結構、いろんな道場に出稽古に行ってますよね？

佐山さんと面白いこといっぱいしたね

エンセン　そうですね。「格闘技とプロレスは別な世界」ってみんな言ってるけど、今だったら、混ぜちゃっていいと思うよ。自分がまだプロレスに出てないのは、ルールが違うっていうことね。自分がトータル的に自信がないから出れないね。何でもありなら、やり直すとこないけどね。格闘技で一番好きなことは、人間は1回死ぬと、終わりでしょ。例えば、3回ロープエスケープ出来ると、人間は3回生きちゃうでしょ、それがおかしいね。キングダムの試合で、一番イヤな所は強い人が、絶対勝つ訳じゃないってことね。ルールを上手く利用した人が勝つね。私が、もしスパーリングして、自分が3回キャッチしても、それがロープの近くだったら、ロープエスケープにされちゃう。最後にたまたまリングの真ん中で取られちゃって、ロープに届かないんだったらそれで私の負け。自分は3回極めたのに負け。それはおかしいと思う。

——はあ、なるほどね。

エンセン　プロレスと格闘技違うのはルールだけ。格闘技は、何があっても続ける。プロレス界は、お客さんを楽しませるために、ルールがあるね。ロープエスケープとかね。試合的には、全く違うモノだけど、練習的には全く同じ。プロレスには、キックもある、レスリングもある、寝技、関節技も全てある。自分が最初に、キングダムに練習に行く前に、いろんな人が「プロレスは弱い」とか「プロレスは格闘技じゃないよ」って言ってたけど、自分がビデオとか見ると、動きも速いし、大きいし、技の細かいポイントもわかってるみたいだし、1回行ってみたいなと思ってた。もし行ってみて、弱くて練習にならなかったら、行かないと思うけど。行ってみて、金原さん、桜



兄のイーゲン（前）が試合に出るときはいつもセコンドにつくエンセン（後）。この兄弟の行動は常に面白い！　乱入、乱闘、キレたら何をするか分からないところなど、プロレスファンは目が離せない格闘家である。



昨年11月29日、バーリ・トゥード・ジャパンで、パンクラスやリングスへ参戦していたフランク・シャムロックと対戦。打撃で劣勢に立たされたところで、兄・イーゲンが乱入するという大荒れな試合展開だった。強くて面白い男たちはプロレスラーである。

格闘技世界大戦前夜!!

エンセン井上

庭さんとスパーリングしたら、スッゴイ良かった。力あるし、大きいし、お互いに勉強になったし、安達さんにレスリングも教えてもらえるし、良かったヨ。キックでも、柔術でも、柔道でも、レスリングでも、シューティングの総合格闘技に、取り入れるとこいっぱいあるよ。シューティングは、全部のいいところを取って、やってるから素晴らしい。プロレスリングの投げ技、柔術の寝技、キックボクシングの立ち技、そして、この友達ね（と横にいた友達に2発ボディーブローを叩き込む）。ハハハハハ、ちょっと違うか（笑）。全部合わせたのが、シューティング。自分も、プロレスからも勉強してるし、キックのジムにも行ってる。いろんなところで練習するのが、一番いいと思うヨ。一緒に練習してると、友達になれるしね。友達の試合もいっぱい見てるし、応援してるね。

——みちのくプロレスとかも見に行くんですか？

エンセン　そうですね。

——ああいうプロレスも好きなんですか？

エンセン　そうね。でもキングダムとか見るのとは、見方は違うけど、全部面白いヨ。みちのくは、頭からっぽにして見ると、メチャクチャ面白い。

——試合してみたいですか？

エンセン　やらない、やらない（笑）。もちろん、4代目タイガーは、個人的な友達だからね。4代目になる前から、タイガーになりたいなりたいって言っててね。でも佐山先生は、プロレス全く教えないで、ずっとシューティングの練習ばっかり教えてた。私とスパーリングして、血だらけになってたよ。

——そうらしいですね。

エンセン　1回面白いことがあったんだよ。「4代目とマススパーリングしろ」って、言われたヨ。マススパーリングって知らなかったのヨ。英語で「マス」は「全て」とか「全部オッケー」の意味ね。

——何でもありなんですね？

エンセン　そう。だいたい90%と思ってた。でも日本では、マススパーリングって軽いスパーリングみたい（笑）。知らなかった。それで最初、「4代は下手だな～」と思った。ジャブ出したら、ゴ～ンって入っちゃって、ボコボコボコって血だらけになっちゃったよ。佐山さんは、「エンセン、マススパーリングって知ってる?」って言うから「うん、知ってるよ」って言ったら「知ってるの、じゃあどうぞ」ってことで、またボコボコボコってやっちゃった（笑）。そうしたら、佐山先生は「アハハハァ～!」って大笑いしてたヨ。「エンセン、マススパーリングって言うのは軽いスパーリングのことだよ。面白い、面白～い♥」って、喜んでたヨ。

——血まみれになってる人間の横で、大喜びですか？（笑）

エンセン　そうそう。でも、タイガーとは大きさが違うし、まだデビューの前だから、気持ち的にも緊張してたし、格闘技のハートもわかってなかったからね。毎日一緒だった。みちのくに最

初行ったとき、サスケのことは知らなかったけど、4代だけ知ってた。「応援してやるぜ～」と思って見に行ったよ。見てみたら、サスケは凄く格好良かったし、ヨネ原人のキチ●イみたいなのも面白かったし（笑）。ほんとに面白かった。みちのくも見て、リングスも見るし、パンクラスも見るし、キングダムも見る。でも新日本だけ見たことない。見たいけどドね。佐山先生も出てるし、小川さんも出てるし、面白そう。

——猪木さんには、興味ありますか？

エンセン 猪木さんは、会ったことない。お互いに顔は知ってると思うけど。佐山さんの話で知ってるかも知れないしね。まあ猪木さんというと、イメージはモハメド・アリ戦ね。子供の頃、試合見たから。もし会うんだったら、頭下がる感じですよ。ほんとに偉い人だと思っています。佐山先生もスゴイ偉い人だと思ってるけど、プヨプヨだと、尊敬難しいね～（笑）。ハワイから帰ってきて、彼にチョコレートあげるでしょ。ちょっと目をそらしてて、もう一回見てみると、すぐなくなっちゃってるの。スゴイよ、ほんとに。猪木さんは厳しいみたいだね。

——食べさせてあげないみたいですよね。

エンセン そうそうそう。だから今は痩せてるの。一緒に走ったりしてるし。

——でも、いないところで食べてるんですよね？

エンセン 絶対そう。子供みたいに。絶対食べてるよ（笑）。

——一緒に山に登るときも、猪木さんの後ろで、カバンからチョコ出して食べたりしてるのをチクられて、怒られたらしいですよ。

エンセン それが佐山先生。そうそうそう（笑）。自分と性格似てるところは、かなり子供っぽいとこかな。でもそれは、いいことと思うよ。

——いいことですよね、非常に。

エンセン そうそう。性格全然合わないところは、彼、遊び人（笑）。

——ガハハハハッ！ それが合わないんですか。

エンセン 私は、真面目な人だから。遊びは難しいね（キッパリ）。まだそこまでひどくなれない（笑）。佐山先生、まだ勉強あるから、よろしくお願いします。

——ガハハハハハ！ しかしエンセンさんも、リング上でよくキレますよね？

エンセン ちょっとね。たまにね。

——止まらなくなりますよね？

エンセン 違うよ。気持ち的にタイミングが合わなかったり、なんか「パーン」で終わりたかったのに、終われないときね。ズール戦（97・4・6）はそう。ジョー・エステス戦（97・10・12）はちょっと違う。普段から、エステスは好きじゃなかった。偉そうにシューティングからファイトマネー凄い高く取って！ 凄い怒ってるのは、「エンセンは弱いから簡単に倒せるよ」って、悪口言ったこと。もう一つは、そんなに高いファイトマネーを貰うんだったら、試合の時も、それだけのモノを見せて下さいってこと。マウント取って、4発ぐらい綺麗に入ったんだけど、それでタップするのは、ひどいと思った。頭に来ちゃった。これからだと思ってたのに、タップするんだもん。気持ちが弱いって感じだった。まぁ、偏見かも知れないけどね。でもちょうどいいね、ヘビー級は日本人の相手がいないから、だいたいガイジンばっかりだからね（笑）。

——思う存分エキサイト出来るわけですね？

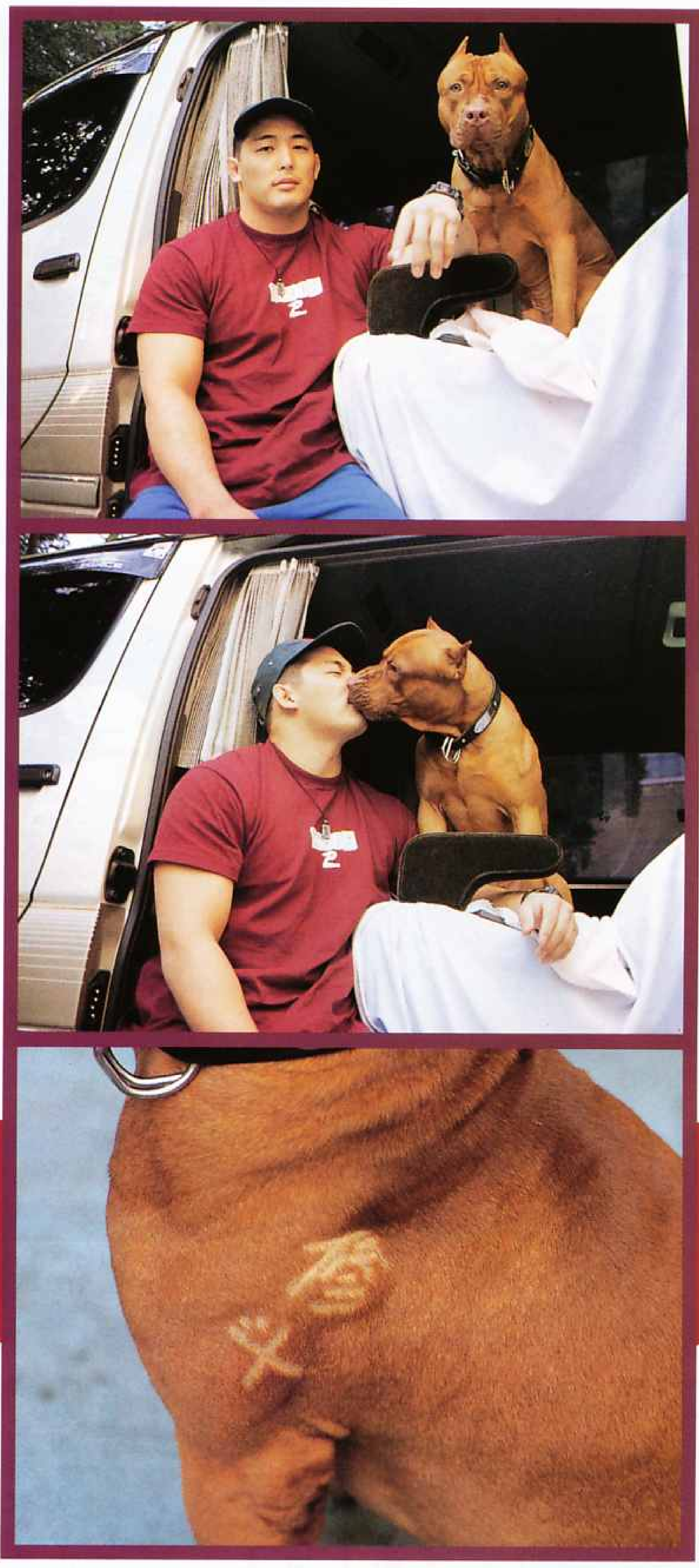
エンセン キレちゃったのは、そういうワケもあるしね。ズールはグレイシー柔術始める前に、ヒクソンと闘ってるビデオを見て、柔術始めようと思った。キチ●イみたいな黒人相手に、ヒクソンはちっちゃいのに、勝って、素晴らしいと思った。絶対勉強しなくちゃと思った。それでまさか六年後に、闘うとは思わなかったよ。ズールは怖いなと思ったけど、アルティメットとかに出たいと思ってたから、1回ズールみたいなのと闘わないとダメだと思ったね。ヒクソンは凄い冷静でしょう。自信があるから、何も怖くない。それが素晴らしいところです。いつかそうなりたいけど、私はとりあえず野蛮人。

——とりあえず野蛮人ですか？（笑）

エンセン そう。野蛮人から、いきなりヒクソンみたいに、神様みたいになれないから、賢い野蛮人になりたい。

——賢い野蛮人ですか（笑）？

エンセン それで、野蛮人から、賢い人になって、ヒクソンみたいな感じになりたいね。何十年かかるか、わかんないけど。とりあえず今度の試合は、賢い野蛮人になりたい。フランク・シ



エンセン井上■本名：Enson Shoji Inoue。1967年生まれ。ハワイ出身の日系4世だが、誰よりも大和魂を持つ男。ハワイでグレイシー柔術を学び、日本に来てシューティングのリングで大活躍。プロレス界との関わりが最も深いシューターである。

なんと現在はこのワゴンで生活しているというエンセン！ そして同居しているのはピットブルの修斗クンだ。人も余裕で殺せそうな逞しい肉体の修斗クンをエンセンは「言うこと聞かないから」との理由で2、3度ボコボコにしているという。確かに躾は必要だが……エンセン井上、すさまじい男である。

エンセン井上

ャムロックとの試合（97・11・29）は、野蛮人過ぎたね。スタミナ切れちゃって、いいとこなかったね。今30歳だけど、格闘技始めて、まだ3年しかたってないから、もし16歳で始めてたら、まだ19歳だからね。全然これからね。経験は19歳。心に大和魂を持てるように心掛けてるね。

——個人的にはお兄さん（イーゲン井上）との試合を見てみたいんですけど。

エンセン　私も、お兄さんは凄い強いと思うよ。技術的には私と全く同じぐらいね。経験は私よりないけど、スタミナあるし、センスがいい、全て持ってると思う。お兄さん、私と逆よ。お兄さんは凄い丁寧な人。私はヒドイ奴（笑）。お兄さんは、お母さんに全然苦労かけてないね。子供は、お母さんに苦労かけなきゃダメでしょ？　自分がお母さんに苦労かけなくちゃと思った（笑）。だからヒドくなったの。お兄さんはアルティメットとか、血だらけになるのが嫌い。それが私と違うね。見てみたいけど、可能性は少ないと思う。

——リングスでの試合とか面白かったですけどね。

エンセン　そうですね。この前のバーリ・トゥードで、「もし成瀬さんが出るんだったら、お兄さん出ますか？」って聞いたんだけど、「別にいいよ」って言ってた。だから、出る可能性はないと思うね。でも柔術の世界選手権が2月にあるから、それは頑張りますって言ってるよ。お兄さん、オトナ。

——オトナですか？

エンセン　でも子供の方が楽しいね。遊んだり、喧嘩したりね。

——佐山さんも未だに子供ですしね。

エンセン　彼はオトナになんないと思うね。

——ガハハハハ！

エンセン　私も、そういう感じかも知れない。死ぬまでに、佐山さんの半分ぐらいでもナンパ出来れば、嬉しいなあと思うね（笑）。ほんとに彼はナンバーワンね。それは、頭下がります。

——ガハハハハ！　仲のいい桜庭さんとは、練習するだけで一緒に遊んだりしないんですか？

エンセン　金原さんと遊ぶことが多いね。垣原さん、高山さん、桜庭さんがいる時もある。桜庭さんは話しやすいけど、一緒に出かけることはないね。金原さんは、私の先生。何の先生かは、「ピー」だね（笑）。

——ハハハ、金原さんとは馬が合うんですか？

エンセン　2人は同じ性格。ナンパ出来ない性格ね。ディスコ行っても、声かけられないし、2人で座ってる。お互いに遊んでて楽しい。面白いよ。桜庭さんも凄い面白いけどね。練習の前にあくびしたりね。試合前から「眠い〜」とか言ってるし（笑）。それで、ヘビー級のUFCチャンピオンになって、素晴らしいね。

——エンセンさんから見て、レスラーで強いと思う人って誰ですか？

エンセン　スパーリングしたことがある人で強いと思うのは、金原、桜庭。安生さんも強い。垣原も山本も、スパーリングしたことあるけど、みんな力あるよ。あの変な審判、和田さんもね（笑）。パンクラスでは、山田選手。見て強そうだと思うのは、田村さん、船木さん、あと髙阪さん。強いと思うヨ。あとは、あんまり試合見てないし、わかんない。小川（直也）さんは強いと思うヨ。柔道のオリンピック選手だからね。心はあると思うから、技を憶えれば凄いと思うよ。あと、髙橋さんも強いと思うよ。バーリ・トゥードに出てもいいと思う選手は、金原、桜庭、船木さん、髙橋さんかな。たぶん、大丈夫と思うヨ。

——それは、技術的なレベルでですか？　ハートの問題ですか？

エンセン　技術的な話ね。ハートだったら、桜庭は入んないと思う。ハートはあると思うけど、気がないね。殺す気がないね。「人、殴りたくない」って言ってた。アレ〜（笑）。金原は、そういう気があるね。田村さんもあるんじゃない？　髙橋さん、山田さんもあると思う。さっき名前出した選手はみんな、格闘技でも、何でもありでも、やれると思う。うらやましいね。プロレスも出来るし、格闘技も出来るでしょ。俺なんかプロレス出来ないヨ（笑）。俺は、格闘技しかないよ。プロレスやりたくても、ルールわかんないし、やり方もわかんないしね。

——やりたいとは思いますか？

エンセン　う〜ん、やりたい気持ちはあるね。いろんな団体のリングに上がりたい。顔も広くしたいし、自分のレベルをテストしたいしね。でも、プロレスの世界に、失礼かも知れないしね。

——『格闘技通信』誌上で、朝日さんが「パンクラスは僕達と同じ考えを持っている仲間だ」っていう発言をしてたんですけど、そういう考えは、エンセンさんにもありますか？

エンセン　ほんとに自分が思いたいのは、みんな仲間っていうこと。パンクラス、キングダム、それでリ〜ングス？　そういうのは、同じサークルに入ると思うね。パンクラスが仲間だったら、キングダムも仲間じゃない？　全く同じと思うよ。

——リングスは、ちょっと違うんですか？

エンセン　リングスも同じ（笑）。

——お兄さんの関係でいろいろあったと思いますけど。

エンセン　まぁ、いろいろね。でも、自分はアメリカ人だけど、日本人と思ってるから、日本人のために闘ってるし、アルティメットに行くと相手が白人だから、USAコールは向こうにいくしね。自分にはブーイングだし、私は日本人ってなっちゃうね。今は日本人として、ガイジン選手を倒したいもん。桜庭が優勝したときも、ムカつくとかヤキモチは、全くない。ほんとに喜んでるもん。髙橋さんも勝って、喜んだ。応援したいヨ、そういう選手は。だから、パンクラスも一緒に練習したいヨ、ほんとに。闘わなくていいから、一緒に強くなりたい。日本人同士が闘うのは意味ないと思うんですヨ。日本人同士、同じ血が流れてる感じなのにね。

——一緒に強くなって、ヒクソンを倒そうって感じですか？

エンセン　そう、それだよ！　闘うな

プロレスと格闘技　練習的に全く同じ

エンセン井上

Enson Inoue

エンセン井上

Enson Inoue

パンクラスもリングスもキングダムも同じ仲間ね

ら一緒に練習出来ないしね。今、キングダムで練習してるから、金原、桜庭とは、闘う可能性は全くないよ。金原とアルティメットでやれって言われたら、絶対断る。彼がもし、私にひどいことしたり、友達としてダメになったときは、殺しに行くけどね（笑）。でもほんとに、自分は日本に住んでるし、日本人だと思ってるから、日本人同士、家族みたいな感じで頑張りたい。でも、同じ考えの人少ないから、ちょっと難しいけどね。

——前田さんも、「UWF系の選手みんな集まって、一緒に共通の敵を倒そう」みたいなこと言ってたんですよ。

エンセン　それはいいね！　イーゲンと成瀬の試合の時（96・8・24）、イーゲンが反則したから、私とイーゲンで試合後に謝りに行ったの。「スイマセン、お疲れさまです」って。そしたら、前田さんは、「一緒に練習しよう。道場に来て」って言ってたよ。前田さんがそう言ってくれたのは、嬉しかったね。一緒に練習して、グレイシー倒すとか、そういう気持ちは私と同じ。とってもいいことだと思う。日本人が強いってことを証明したいね。

——エンセンさんみたいな考え方の人もいますけど、『格闘技通信』の1月23日号で、ルミナさんが「プロレスはプロレスでいて欲しい。格闘技に口を出さないで欲しい」って言ってましたけど、そういう人もいますよね？

エンセン　あ〜、あの人、わけわかんないことよく言うヨ（笑）。頭飛んでるね、彼（笑）。それはルミナの意見かも知れないけど。真剣勝負か、本人しか言えないでしょ。自分が見て、真剣勝負じゃないと思っても言えない。本人同士しかわかんないから。プロレスは、真剣勝負じゃないから嫌いとか、言えないヨ。真剣勝負でも、真剣勝負じゃなくても、別にいいんじゃない。格闘技ファンも、プロレスは嘘とか考えて欲しくない。プロレスも、真剣勝負が多いかも知れない。格闘技も、嘘があるかも知れない。プロレスも格闘技も、お互い様って部分もあるね。ルミナもちょっと勉強したら、そういうこと言わないと思う。まだちょっと、若いし、何でも言っちゃうって感じね。でもルミナさんは、最近個人的に友達になって、楽しい人だし、いい人だしね。そういう、ひどい人じゃないね。でも、『紙のプロレス』の取材も断ったよね？

——そうですね。

エンセン　それはちょっと、良くないと思うね（笑）。

——ルミナさんみたいな発言もあっていいと思うし、エンセンさんみたいな考えも方も好きですしね。

エンセン　格闘技界には、いろんな偏った考え方もあるし、プロレス界もそう、お互い軟らかい頭を持てればいいと思うよ。一緒に頑張りましょう。日本人は、心が素晴らしいし、技術もあるしね。日本人は、間違いなくトップレベルだよ。でも、バート・ベイルとかが、「日本人は小さい、弱い」とか言うと、頭来るよね。自分は、ホントに日本人だと思ってるから。パスポートはアメリカ人だけど（笑）。

——ガハハハハ、観光ビザで試合してたけど（笑）。

エンセン　ハワイでも、ずっと、日本人って言ってた。ただ、アメリカに住んでる日本人と思ってた。

——日本人呼ばわりされていたんですか？

エンセン　そうそう、「ジャパニーズ」って言われてたよ。それで、日本に来て1番ショックだったのは、「あなたは日本人じゃない、ガイジンよ」って言われたことね。それで、ビザも取れないし、車買うのも大変だし、家も買えないし、それですごい寂しかった。でも、格闘技ファンは、日本人のように応援してくれて、凄い嬉しかったね。日本人のために闘いたいし、日本人の選手と一緒に強くなりたいし、日本人と外人が闘うと、日本人応援するし、ホントに自分は日本人だと思ってる。心は日本人だから、日本人と結婚したいしね。でもビザがない（笑）。

——高田vsヒクソン戦では、日本人の高田を応援していたんですか？

エンセン　そうね。高田とヒクソンを比べると、立ち技では高田選手。寝技だったらヒクソン選手。一番大きいのは、気持ちだからね。高田がホントに倒しにいったら、もっといい試合出来たと思うね。金原さんや、桜庭さんと練習してるから、高田さんのこと応援したよ。どっちが勝つかって聞かれたら、寝技強い方が、どうしても有利だから、ヒクソンって答えてたけどね。

——あの試合前、高田さんとスパーリングとかしてたんですか？

エンセン　ないない。高田さんとも、練習したかったけど、金原さんとスパーリングしてたから十分と思ってた。キングダムで、やってないは高田さんだけね。ぜひ練習したいね。お互いに強くなるようにね。

——今度は高田道場を設立するみたいですからね。

エンセン　桜庭とか安達さんも行ったから、いつかお願いしてみようと思ってる。高田さんでも、桜庭でも、安達さんにでも直接、「練習お願いしま〜す」って言いたいなと思ってるヨ。

【98年1月28日、後楽園ホール近辺で収録】



格闘技世界大戦前夜!!

「ガチプロと修斗なら修斗の方がクオリティーが高いと思います」

聞き手／吉田豪＆坂井ノブ
Interview by Go Yoshida & Nobu Sakai
撮影／戸成嘉則
Photographs by Yoshinori Tonari

発言

シュートボクシングの爆弾小僧

村浜武洋 Interview

Takehiro Murahama

今回、この「格闘家から見たプロレス」という企画をやるキッカケのひとつでもある佐藤ルミナvs村浜武洋対談で（『格闘技通信』98年1月23日号）、村浜は「『ガチプロ』は嫌いです！」と言い切った。その根っこには何があるのだろうか？　プロレスと格闘技は別々なのか？　それとも格闘技を含んだものがプロレスなのか？　日本キック界フェザー級No.1のプロレス観を聞け！



（左）昨年の日本キック界のフェザー級No.1決定戦「K-1フェザー級トーナメント」（97・11・9東京ドーム）で見事優勝した村浜。長年に渡って噛みつき続けた前田憲作から3R判定で文句無しの勝利。（右）欧州最強の男と言われるギルバート・バレンティーニ（メジロジム）にも勝利。豪快なラッシュの突貫ファイトは必見。

※シュートボクシングとシューティングが友好イベントを開催！　4月26日横浜アリーナで、「Shoot the Shooto XX（DOUBLE CROSS）」と銘打って行われる。それぞれの団体のトップの選手が世界の強豪に挑む！　チケットは2月28日（土）発売。

――今回は村浜選手に、プロレスについて伺いたいと思います。もともとプロレスファンだったんですか？

村浜　もともとと言うより、今もプロレスファンですよ。ものごころついた頃からプロレスが好きで見てたんですよ。今も新日派です。

――世代的に、タイガーマスク世代ですよね。

村浜　そうですね。

――タイガー引退でプロレスから離れていく人が多かったじゃないですか。

村浜　いやぁ、自分はそんな事なかったです。みんながUWFとかに流れても、ずっと新日ファンでしたから。

――UWFは興味なかったんですか？

村浜　UWFは昔から好きじゃないんですよ。地味だから。

――なにが嫌いなんですか？

村浜　いや、地味じゃないですか（笑）。蹴り合いやって、倒れたらアキレス腱固めか逆片エビとか（笑）。

――バリエーションがないから、つまらないということなんですかね。

村浜　そうそう。技が少ないから。

――プロレスになにを求めていたんですか？　華麗さとか、強さとか色々ありますけど。

村浜　プロレスはやっぱりプロレスですよ。面白くないと。

――プロレスが格闘技的な路線になるとつまらなくなるということですか？

村浜　格闘技的路線なら、格闘技を見た方がいいと思う。今なら、U系見るんなら、シューティング見た方がいいと思う。なんか中途半端じゃないですか、U系は（笑）。

――最近、格通誌上での佐藤ルミナ選手との対談で、「ガチプロは嫌いです」って表現を使ったじゃないですか。ガチプロ発言で、結構いきり立ってるプロレス団体もあるんですよ。

村浜　「あ〜、そうですか」って感じです。あんまり関係ないですからね。

――プロレス側から、格闘技を敵視するような視線も出て来ているようなんですけど。

村浜　でもルミナ選手とかなら、やればいいんですよね、文句言うんだったら。体重差もU系の人たちの方が圧倒的に有利なわけだし。

――村浜さんは、そういう興味はないんですか？　「やってやろうじゃねえか」みたいな。

村浜　ウチらは立ち技だけじゃないですか？　ちょっと違いますね。

――やったら勝てるっていう気持ちはありますか？

村浜　そういうのは全く別なんですよ。そういう視点で見てないですから。

――ガチプロって、UWF系のプロレスということですか？

村浜　「格闘技色のプロレス」ってことです。

っても許されるんです！

――例えばパンクラスもガチプロですか？

村浜　ガチプロです。自分でプロレスって言ってるじゃないですか。だから、それでいいじゃないですか。

――リングスもプロレスとして見てるんですか？

村浜　そうですね。プロレスのリングを使ってますから、プロレスですよね。「スゲーなぁ」「デケェなぁ」そんな感じですよ。

――旧UWFからの流れは、ガチプロということですかね？

村浜　そうです。

――リングスは格闘技だって言ってますよ。

村浜　それでいいんですよ。格闘技と言えば格闘技なんですよ。プロレスの世界は言ったもん勝ちなんですよ。人気出たもん勝ちですから。

――昔は、格闘技はパワーが弱かったから、プロレスを格闘技的に見ようとすることも可能だったわけですよね？

村浜　そうですよ。でも今は、時代が違いますよ。そんな時代じゃないです。

――格闘技界がこれだけ人口が増えたのは、UWFのおかげですよね。

村浜　おかげですよねえ。

――結局、格闘技雑誌とかはUWFがなければ、誕生しなかったわけですよね。そのUWFが、格闘技界に噛みつかれるという状況が面白いんですよ。猪木さんが噛みつかれたのと同じパターンですけどね。UWFを生み出したのに、あとになって噛みつかれるという。

村浜　時代は繰り返されるんですよ（笑）。難しいですよね。

――U系の選手で、共感できる人っていますか？

村浜　どうかな〜、U系でですか？

――まぁU系に絞らないとなると、デルフィンさんとかになるんですか？

村浜　そうですね。プロレスをちゃんとプロレスとして、やってるじゃないですか。格闘技もプロレスもコンサートもサーカスも一緒なんですよ。お客さんから金を貰ってみせるんですから。どれを見て、金を出す価値があるという事になれば、自分はやっぱりみちのくプロレスです。芸術性が高いですから。クオリティーが高いんですよ。

――言わんとしてることは、凄いわかるんですよ。僕も理解できるし。でも理解できない人も、ファンの中には、半分ぐらいいると思うんですけど。

村浜　自分は、ガチプロよりシューティングの方がクオリティーは高いと思いますからね。だからそっちを見た方がいいと思う（笑）。

――もともとシュートボクシング（以下、SB）って新生UWFとリンクした部分があったじゃないですか？　それでSBの人が、U系に噛みつくっていうのが、面白い構図だなあと思うんですけど。みちプロが好きっていうのも、U系の人にとっては、「なんで？」って思うでしょうね。

村浜　そうなんですかねぇ？（笑）。俺にしたら、ごく普通の感覚なんですけどねえ。

――例えば新日にもU系スタイルを志向してる選手もいるじゃないですか。

村浜　そういう人よりも、ジュニア系とかnWoが好きなんですよ。でも、リングスも結構見ますよ。それはそれで、おもしろいですから。

村浜武洋

Takehiro Murahama



猪木と前田なら何をや

格闘技世界大戦前夜!!

村浜武洋

Takehiro Murahama

——リングスで、誰が好きとかありますか？　田村、高阪だったらいいって言う格闘技側の人っていますよね。

村浜　田村さんとかは、おもろいですね。動きが速いじゃないですか。クオリティーが高いと思います。日明兄さんは日明兄さんで、おもろいですからね。いいんですよ。前田と猪木はなにをしてもいいんです！

——ダハハハ！　猪木もオッケーなんですか？

村浜　オッケーです！　なにやってもいいです！

——みちプロぐらいしか認めない人だと思ってたんですよ。

村浜　全部認めてますよ。認めてる中で、おもろいかおもろくないかを分けてるだけですよ。それで自分は、みちプロと新日がおもろいと感じるということです。●●●●は、生理的に受け付けないですけどね。

——どういうところが受け付けないんですか？

村浜　クサイじゃないですか。「帰ってきたぜぇ～」とか、ああいうのが、嫌なんですよ。「そんなの嘘やろ～」って思っちゃいますよ（笑）。

——ダハハハハ！

村浜　●●選手とか、週4回しか練習出来ないとか言ってるじゃないですか。こっちは、週6回練習してるんですよ。1週間で2日分多いんですよ。1年間にしたら100日近く開きが出る。1年365日だったら、1／3の練習量の開きが出るじゃないですか。そんなの負けませんよ（笑）。だからこれは、同じ競技だったらってことですよ。クオリティーの高さでは負けないってことです。他のキック団体の奴には負けないです。寝技が入ると、別もんになりますから。それで強いとか弱いとか言うのはナンセンスですよ。

——そうですよね。競技もルールも違うわけですもんね。パンクラスの柳澤選手は「プロレス界では俺が打撃NO．1だ」って発言してますけど。

村浜　だから、それはナンセンスなんですって。キックを本気でやってる人に対して失礼ですよ。そんなこと言ったら、俺は「格闘技界でプロレスNO．1だぞ！」って言いますよ。それは違うでしょ？

——ええ、わかります。佐山さんが、格闘技を始めたときに、「プロには絶対しない」って言ってたじゃないですか？「アマチュアじゃないと成り立たない」と言って。

村浜　う～ん、頭がいいんで時代を先取りしすぎたんじゃないですか。ドラゴン・ボンバーズがなくなったように（笑）。部屋別制度とか言ってたじゃないですか。今は団体が細分化して、部屋別になってるようなもんじゃないですか。正しいこと言っても時代に合わなければすたれていくもんですよ。

——藤波さんは時代に全く合わないですからね、いつも（笑）。

村浜　それで「無我」にいきますからね（笑）。

——プロレスと格闘技の違いってぶっちゃけた話、なんなんですか？

村浜　う～ん。難しいですねえ。

——猪木さんは、格闘技も含めたものが

村浜武洋

Takehiro Murahama

プロレスに携わることが嬉しいっス！



挑発的な発言ばかりクローズアップされる村浜だが、スタンスとしてはプロレスを認めた上で面白いか、面白くないかを分けているだけである

プロレスってことで「キング・オブ・スポーツ」って言ってますよね。

村浜　そうですよね。プロレスって一番強いんですよ。バレーとかバスケとか幅跳びとか、相手になんないですよ（笑）。キング・オブ・スポーツですからね（笑）。

——新日派の村浜さん的には、この間の佐々木健介選手のムエタイ修業なんかは、どう思います？

村浜　いいんじゃないですか。どんどんやってくれって感じですね。

——ムエタイのイメージアップになるということですか。

村浜　そういうんじゃなくて、プロレスラーならなにをしても許されるんですよ。なんでもありなんですよ。プロレスって別もんて思ってますもん。

——ただ格闘技界に頭の固い人って多いですよね？

村浜　そうなんですよ。だから格闘技界って伸びないんですよ。もうちょっと、軟らかい頭があれば、もっと伸びると思うんですけどね。

——そういう姿勢だと、村浜さんも色々言われたりすることもあると思うんですけど。

村浜　「文句言うぐらいなら、掛かってこい」って感じですね。「俺に挑戦してこい」ということです。自分は、色々言ってるじゃないですか。でも誰も噛みついてこないんですよ。

——例えば、入場時に日本刀持ってくる人とかいますよね。

村浜　あ～あ、自分の好きじゃない奴ですね。

——ダハハハ、なんかプロレスで例えて言うと、鈴木みのる系というか。

村浜　ああいうふうに、雰囲気つくるのは嫌なんですよ。人気出ればいいっていうのが全てなら、今から役者の学校に行って雰囲気作りとかしてますよ。でも、そういう世界じゃないですから。

——人気プラス強さってことですか？

村浜　強さプラス人気です（笑）。

——まずは、強さということですか？

村浜　当然です！　だからああいうのは嫌なんですけど、格闘技っていうのは基本的に暗いイメージの方が客に受けるんです。それはわかってるんですけど。そんなストイックな奴なんて、今、いないですよ。試合見てれば練習してるか、してないかなんて、わかるんですよ。試合で見せられないくせに、カッコばっかつけてる奴とかいますからね。

——キック界で敵なしになったら、今度はプロレス界でとか考えませんか？

村浜　プロレスは難しいですからねえ。難しいっスよ。単純にプロレスラーがバーリ・トゥードやっても、まあまあ、おもろい試合出来るじゃないですか。逆に自分がプロレスやっておもろい試合出来るかっていったら、出来ないですよ、絶対。

——ガチプロだったら出来るんじゃないですか？

村浜　そんなん、ハナからする気ないですもん（笑）。

——ダハハハ！　村浜さんの言う、ガチプロ的なマットの上で、ガチンコの試合をすることは可能なわけですか？

村浜　どういうルールでですか？　例えばパンクラスだったらパンクラスルールで、ですか？

——まぁ、その中間を取ったようなルールで。

村浜　どうですかねぇ。現役の間は、やらないでしょうね。引退したら、どうかわかんないですけど。そんなの、色モンじゃないですか。

——鈴木みのるがキックルールで、モーリス・スミスとやったような試合という感じで。あれは色モノですか？

村浜　あんなの色モンですから（笑）。なんであんなことするんですかね？　絶対勝てないじゃないですか。負けていい試合ほど楽なもんはないですよ。

——でも、相手の土俵に立ってるわけですよ。

村浜　そんなのナンボでもやりますよ。そりゃ自分、曙とやれって言われたら怖いですけど。

——相撲ルールで（笑）。勝ったら儲けもん、みたいな感じですか？

村浜　勝てないですもん（笑）。有り得ないですよ。ホイラー・グレイシーと柔術やれと言われても、全然恐くないですもん。「いつでも、どこでもやってやる」って感じですよ。

——ダハハハハ、喜んで負けるぞと。

村浜　ええ（笑）。もう、1分で負けてやる（笑）。そんなの、勇気なんていらないですわ。負けていい試合ほど、楽なもんないっスよ。負けちゃいけない試合の方がよっぽど難しい。

——いろんなものを背負ってね。

村浜　そうですね。アレで負けても、みんな納得するじゃないですか。そんなん納得されたら、もう終わりですよ。そんなん思われるぐらいなら、やらない方がいいんですよ。

——キック界も含めて、クサイ奴が嫌いなんですね。

村浜　そうそうそう。生理的に嫌なんですよ。デルフィン選手みたいに、明るさを演出するのはいいんですよ。「こうしたら人気出るでしょう」ってことを計算して、雰囲気を演出するのが嫌なんです。暗い雰囲気の奴と明るい雰囲気の奴がやって、明るい方が勝った方がおもろいじゃないですか。ファンが凄いムカツクじゃないですか。

——村浜さんは、根がヒールなんでしょ

格闘技世界大戦前夜!!

うね。

村浜　じゃないですか（笑）。「あんなふざけた奴に負けた〜」って、ファンがイライラするじゃないですか。それが嬉しいんです。

――ダハハハ、気持ちいいんですか?

村浜　気持ちいいんです。

――プロレスラー向きですよね。

村浜　ハハハ、前田（憲作）と試合したとき（97・11・9）も、デルフィンポーズしたじゃないですか? これやったら「お前らみんな屈辱的でしょう?」というのを、計算してワザとやったんですよ。悔しがらせてやりゃいいんですよ。

――なんでキックの一部の選手には、牙剥き出しになるんですか?

村浜　だって、嘘っこですもん。嘘を演出してるじゃないですか。強くないですもん。そういうのが嫌なんですよ。弱いくせに!

――弱いくせに（笑）。「弱いくせに!」って言葉はいいですね。

村浜　そうですね。自分にそれを言われるんで、他の奴は自分になにも言えないんですよ。だから、威張りちらしてるんですよ、この業界では。

――なにを言っても許されると。猪木級になってるんですね。

村浜　ええ、なんでもありです。今、ルミナ、村浜はなに言っても許されるんですよ（笑）。結果出してますから。悔しかったら、掛かってこいって（笑）。レスラーって、お客さんを呼ぶことが第一じゃないですか。だから、客を呼んでる人はなにをしようとオッケーなんですよ。レスリングが上手かろうが、下手だろうが。そういうのとは、違う業界なんですよ。

――格闘技界では、客を呼べるだけではダメなんですか?

村浜　ダメですね。だから、立嶋（篤史）は大仁田と似てるんですよ（笑）。

――ダハハハ! それは新しい意見ですよ。

村浜　自分は、橋本だと思ってるんですよ。大仁田VS橋本って、見たいですけど、どっちが勝つかなんて目に見えてるじゃないですか（笑）。

――大仁田に負けるわけがないと。

村浜　橋本が、勝つのが読めるじゃないですか。

――村浜さんは破壊王なんですね（笑）。

村浜　破壊王です。ちっちゃいですけどね（笑）。

――その呑気さは破壊王に通じますよ（笑）。それで、下ネタとか連発すれば、かなり破壊王ですよ。

村浜　ハハハ!

――デルフィン選手に打撃を伝授してたじゃないですか。ああいうのは、楽しんでやっちゃう方なんですか?

村浜　いいっスね。大阪臨海アッパーが出るたびに、「ヤッタ〜! 使ってくれた〜」って思いますもん。最近、スイングDDTから、アッパーが入って、デルクラじゃないですか。だから凄い嬉しいです。

――藤波さんにボクシング特訓した、ガッツ石松さんの心境ですね。

村浜　ハハハ、でも、あんまり出てないじゃないですか（笑）。木村健悟がベニー・ユキーデに習ったように（笑）。

――ジェットセンターですね。

村浜　ええ。デルフィンは定着してますもん。だから凄い嬉しいですよ。

――これからレスラーが来れば、臨海アッパーに続く技をドンドン伝授していこうって感じですか?

村浜　ええ。ドンドン利用してくれっちゅう感じです。うれしいっスもん、プロレスに携わることができて（笑）。一ファンとして。

――結構、誤解してました。プロレスを利用してる側なのかなと、思ってたんですよ。

村浜　あ〜あ、利用してはいないですねぇ。利用してくれって感じです（笑）。

【98年1月23日、浅草シーザージムにて収録】

コスチュームにもプロレスファンとしてのこだわりを持つ村浜。これは蝶野バージョン。この他にもタイガーマスクのコスチュームでマスクを被って入場したりもしている。



村浜武洋■ＫＩＣＫ世界スーパーフェザー級、ＪＳＢＡカーディナル級のチャンピオン。昨年はＫ-１ジャパンフェザー級グランプリ97でも見事優勝。誰もが認めるSBのエース。プロレスファンとしても知られ、勝利後のデルフィン・ポーズはお馴染み。そのセニョール・ペルフェクトに「大阪臨海アッパー」を伝授したことでプロレスファンの間でも知られる。自称「小さな破壊王」。163センチ、57キロ。

本誌だからできた！
アレクサンダー大塚 vs ののもも
結婚披露宴のインサイドリポート&独占手記×2

アレク&ののもも結婚スクープには「ドッキリにもほどがある！」「またガセネタか！」など、様々なご意見&ご感想がたっぷり寄せられました。要はみんな信じてなかったってことですね。そうこうしてるうちに、あっという間に式の当日、98年1月5日になりました。結婚式&披露宴は盛大かつ「んむはぁ～」かつ「ほえぇ～？」と催されました。ここではその模様を写真で振り返りつつ、幸せいっぱい(アレク)腹いっぱい(ののもも)な2人に独占手記を書いてもらいました！ 少しは信憑性あるでしょ？



アレクが"無我"に出場した縁から、我らがドラゴン・藤波辰爾も式に出席して新婚夫婦にあたたかい言葉を送った。プロレス界のオシドリ夫婦の先駆者と言えば、ドラゴン&かおり夫人である。ののももも、かおり夫人を見習ってガンバレ！ 愛・ネバー・ギブアップ！



媒酌人をつとめたバト社長の石川雄規夫妻&Tシャツにもなった史上最年少仲人の竜馬くん。社長の力強い挨拶で大祝宴は幕を開けた



司会はバトラーツ休憩時間の一服の清涼剤コンビ、パンチ田原&宮内美穂が担当。



バト社長夫婦と共にダブル媒酌人の大役をつとめた小社バカ社長



アレクの親友かつ最愛のダーリンであるモハメド・ヨネもスピーチ。アレクのことなら全身のホクロの場所まで知り尽くしたモハが、結婚しても変わらない愛を訴えました



乾杯の音頭を取ったのは東北の英雄、GSことザ・グレート・サスケ社長。2人のために東北から駆けつけてくれました。何でも昨年の「東北ドームツアー」に参戦したアレクと、その模様を密着取材をしたののものの間を取り持ったのがサスケ社長だったとか。グレートな愛のキューピットじゃありませんか！ 「え～、スピーチは短めに……」と壇上に上がった社長、10分以上しゃべってました



たまたま近くのお寺に初詣に来ていた人生さんが2人を祝福にやってきた！ ちなみに、テーマ曲が鳴る中人生がやって来て、2人に礼をして、また去っていく様を、日明兄さんはただジーッと見つめていたそうです



これがバトバト名物、T・E・N・G・U踊りだぁ～。これは天狗のお面を身にまとい、チラチラさせながらお面を交換するという荒行。先日、デビューしたマッハ純二と土方隆司が踊りました。アレクは苦笑い、ののももは大笑いと対照的な2人。マイクを握るのは日高っちょ&岡やん。岡やん、永ちゃん入ってます！ しかし、この超豪華メンツの中で、これを踊るクソ度胸は素晴らしい！

アレクの独占手記！

アレクの結婚といっても、自分自身の中では「大塚崇が結婚しただけだよ」と思ってしまう。大塚崇が結婚しただけで、アレクサンダー大塚は何ら変わらないというか……。でも、気持ちは以前よりも前へ出てるし、人間としても成長した分レスラーとしても大きくなっているはず。そんな感じで「成長した」、「大きくなった」と少なからず思えることは良かったというわけで……。

そう、そう言えばこの前、取材で写真を撮った時、奥さんをダッコしたのだが前にダッコした時よりもさらに重くなっていた。その重みで自分が以前言った「背負うものが増えましたんで……」という言葉を思い出し、「あ～、真貴ちゃんもいる。赤ちゃんもいるんだ」と実感できた瞬間でした。今年のヤンジェネが始まる頃には、うちの家族も3人と1匹(フェレット)になり、にぎやかな家になります。というわけでアレクは今、とっても幸せです――。

あ―!! それともう1つ。人の気持ちなんて口で言うことと腹の中は違うからね～。だ・か・ら、全国のおホモ達のみんな～、夢を追い続けろ～!! きっと叶うぞ～!! うふ。

（アレク）



日明兄さんも２人の門出を祝って駆けつけた！　挨拶は結婚生活の機微に触れる含蓄のある言葉の連続だった。その一部再録すると「あんまり頑張り過ぎないように……」「インタビューのときに『気持ちいいときにシヌ～って言うよね～？』など聞いてしまい……」といったもの。ちなみにこの日は、藤波辰爾や剛竜馬と再会という貴重なシーンも







（上）悪い方の鈴木健氏（byユージ島田）とカッキーが来場。他にも『週プロ』浜部編集長と、酔っぱらってすでに赤ら顔の藤本かずまさ氏が来た。（右）なぜか志村けんも来場!?　（左）いい方の鈴木健ちゃんが『週プロ』おなじみのパネルを進呈。やったね！



ど～ですかーッ!?　アレクがタキシード着てますよ。これが結構、サマになってますね。かたやウェディングドレスに身を包んだのも姉さん。正真正銘２人の晴れ姿を本誌独占でスクープしました！　式も入籍も済ませた２人は新婚生活を始めてるそうです。生まれてくる赤ちゃんも強くて、丈夫で、よく食べるたくましい子になりそうですね！　お幸せに！（※注：『紙プロ』はドッキリ好きですが、これはパネルに顔だけはめて撮った写真ではありません。あしからず）。



バト勢も全員集合。結婚式では大ちゃんが賛美歌を熱唱した



折原とのものもは『トンパチ』制作のときに面識がある

アレクの入場テーマ曲『AOコーナー』を歌う青西高嗣さんも来場。生『AOコーナー』にみんな感激！



お笑い芸人ポカスカジャンがコントを披露。盛り上がった！



式に出席したレスラー全員で記念写真。この他にも総勢200名以上が披露宴に駆けつけた。こんなに多くの人たちに見守られて、アレク＆のものもの偽造結婚（byアレク）の披露宴は無事終了。



ワァ～オ！　元祖・邪道姫が『紙プロ』の邪道姫の結婚を祝福！って、この数日後にくどめと非道の結婚が発表されました。めでたいことは続くものです！



「昨年、みちのく巡業中のアレクと盛り上がった熱い恋はどこへ行ったの？」と切実に訴えた４代目タイガーマスク



リッキーさんも披露宴に駆けつけた！　スーツ姿が決まってる。じつはのものもリッキーの大ファンなんですよ。フゥ～！



のものもの独占手記！

ニンニキニキニキ、こんばんにゃ～。旧・のものもでーす。バトバトの裕二さんが「のものもは『紙プロ』時代のニックネームだから、新しいの考えてあげる」と、嬉しそうに付けてくれたNEWネームが「まきまき」でした。……ン～、ほえほえ～って感じ。

でも、姓が野本から大塚になってしまったからって〝のものも〟じゃなくなっちゃうのは寂しいです。まぁ、まきまきでもいいけどさ。

それより何より、これだけたくさんの人に祝福して頂けるなんて、思いもよらぬことでした。特に読者、プロレスファンの方々が、こんなに温かいなんて……（号泣）。これもひとえに『紙プロ』＆ノビーのおかげです。私をこんなに立派に育てて下さって、ホントにありがとうございました。おかげ様で「コピーすら満足に取れないヤツ」と大評判。そんなこんなで、のものもは相変わらずアチコチで大ブレイク中!!　そして体重も大幅パワーアップ!!　会場で見かけても「デブデブ」とは呼ばないでね♥　のも母さんからのお願いだよ。今、フロリダのカール（・グレコ）からTELが来たんだけど、あまりに私の英語が通じなくて、ちょっと悲しくなったよ。〝ンー、ワカラナーイ〟っていっぱい言われちゃった。それじゃ、アディ押忍！

（現在はバト事務所でお留守番・のものも）

元気が売り物!

世界プレゼント連盟

発足!

元気ですかーッ!? 今回は、世界プレゼント連盟ということで、プレゼントを通じて世界平和を目指す、読者プレゼントを通じて終生大衆に尽くす、これが私の使命である。それでは、いっちょう締めさせていただきます! 1、2、3、ヨイショ、ダ~!





紙プロだからできた スペシャル色紙プレゼント

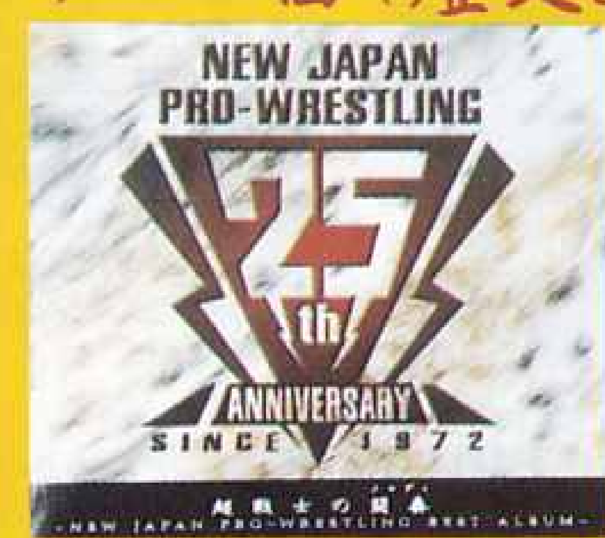
●アントニオ猪木・引退記念サイン(左) 1名

●アントニオ猪木・巻頭記念サイン(右) 1名

平成10年4月4日に引退を迎える我らがA・猪木。左は引退を記念した、引退の日付入り「元気ですかーッ!?」バージョンだ! こんな色紙は他のどの雑誌でも手に入りません! 『紙プロ』だから出来た特製サインです! 欲しけりゃハガキ出せ! 右はアントン直筆のノーマル・バージョン。燃える闘魂が詰まってます!

<ともにアントニオ猪木さん提供>

テーマ曲で歴史を聞け!

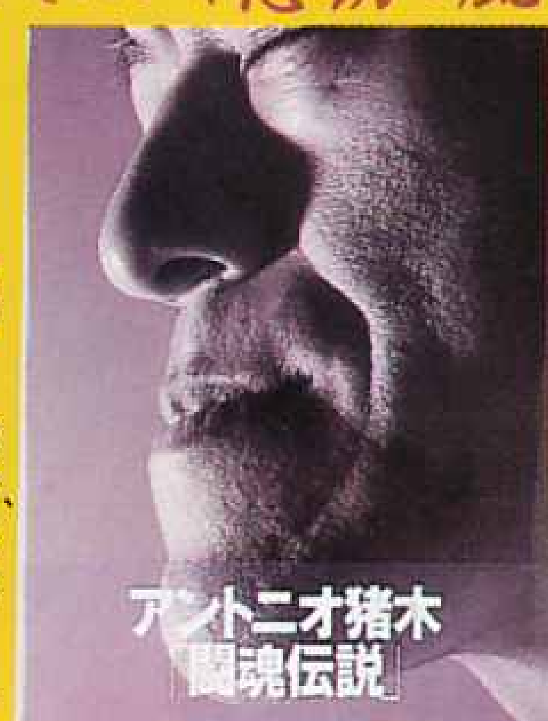


●限定2枚組アルバム『超戦士の闘奏』 5名

新日公式レーベル「ウッド・ベル」より新日25周年記念アルバムを5名に! 蝶野から坂口まで全42曲を網羅! 初回プレスのみ特殊パッケージ定価5000円(税込)で発売中!

<ウッド・ベル提供>

とにかく感動の嵐!



●アントニオ猪木写真集『闘魂伝説』 3名

伝説のパラオ・イノキ島で撮影した写真は必見! 小川、健介、越中、佐山、破壊王、小鉄のメッセージも収録。定価5500円(税抜)で絶賛発売中!

<ぶんか社提供>

維新魂よ永遠に!



●長州力引退記念アルバム『Final Blues Road』 5名

「ウッド・ベル」より1月21日に緊急発売したCD。ブルースの巨匠・近藤房之助が長州の為に書き下ろした曲を収録。長州のテーマ曲、パワーホールも様々なバージョンを収録! 3000円(税込)で発売中!

<ウッド・ベル提供>

すかーッ!?

終生大衆に尽くすコーナーというか

偉大すぎる男の 偉大すぎるカード



●新日トレーディングカード スペシャル 長州力 1名

偉大な足跡を残して引退した長州力。長州名シーンばかりを集めて20枚セットを2000円(税抜)で新発売。特製バインダーもついてる! カチ喰らわすゾ!

<バンダイ提供>

越中がめちゃイケてます!



●NINTENDO 64専用ソフト『闘魂炎導』 3名

爆発的人気ソフト。素晴らしいです! プロレスゲーム史上画期的な「全ての技を切り返す機能」「ラーニング機能」「全選手の肉声を再現」など最新機能満載!! 最高だぁ~!

<HUDSON提供>

©1998 HUDSON SOFT
©1998 YUKE'S
©1998 NewJapan Pro-Wrestling

どんぶりメシは10杯食え!



●新日本プロレス ランチグッズ 二段式ランチボックス ランチボックス プラカップ 箸セット 各4名

新日本道場では、その昔、鬼軍曹・山本小鉄が目を光らせながら若手の食事を見守っていたという。メシを食うのも練習のうち! その精神が宿ったキング・オブ・お弁当セットの登場です!

<バンダイ提供>

道場の味をあなたに!

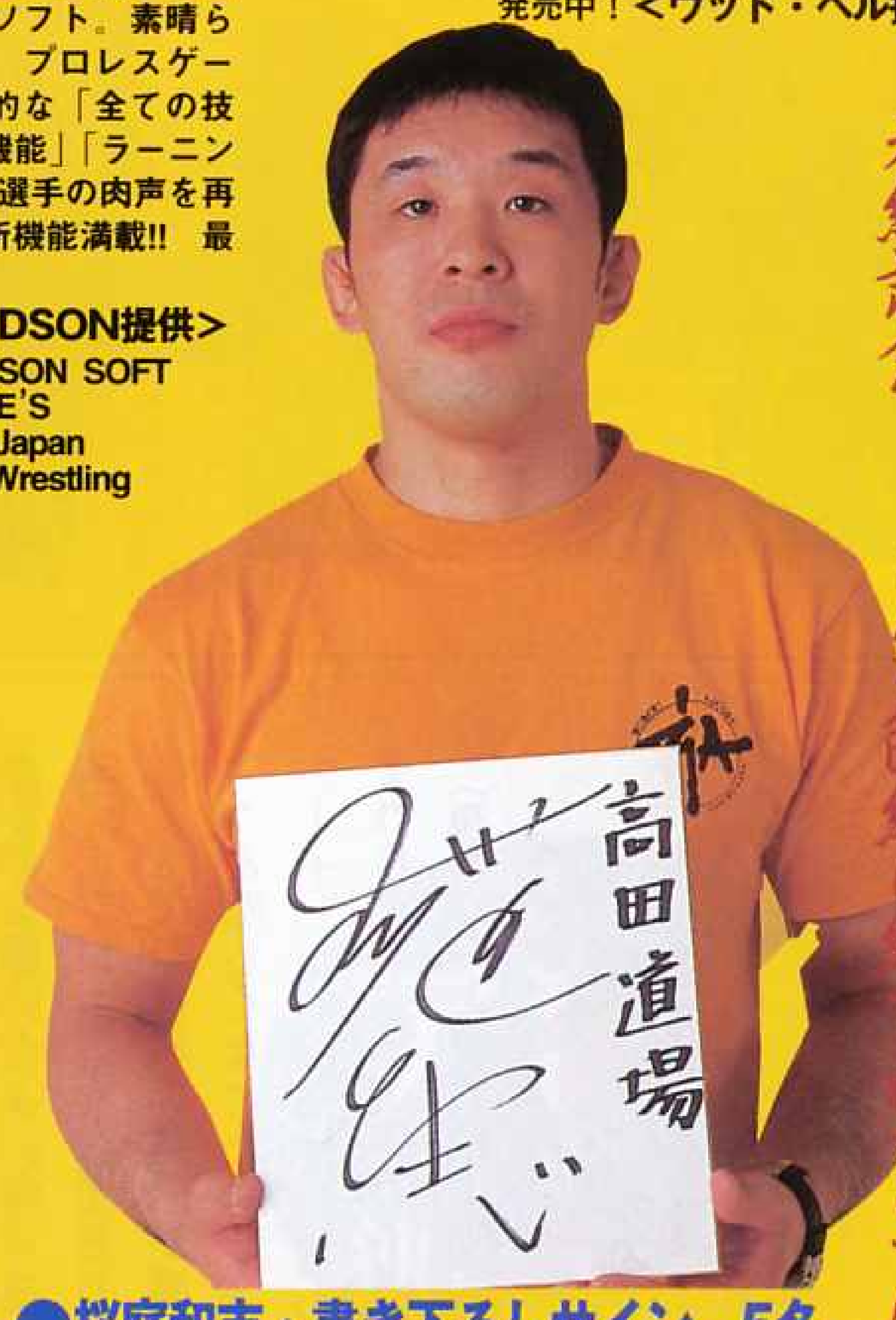


●闘魂キムチスープ 新日道場の味 30名

新日道場秘伝の味を詰め込んだキムチスープが200円(税抜)で新発売。太っ腹なバンダイさんよりドーンと30名にプレゼント! 最高だぁ~!

<バンダイ提供>

表紙記念! こんな色紙は紙プロならでは!



●桜庭和志・書き下ろしサイン 5名

この「高田道場」バージョンの他にも愛校精神が昇華した「秋商バンザイ」「ガンバレ秋商」「行け行け羽城」の各バージョン、座右の銘「努力」バージョンもある。希望のバージョンを忘れずに書いてね

<桜庭和志さん提供>

サンドバックに〜 浮かんで消える〜

●『あしたのジョー』 力石徹フィギュア 2名

梶原一騎＆ちばてつやの名作『あしたのジョー』から「サンドバックに浮かんで消える憎いあんちくしょう」力石徹が待望のフィギュア化！ コスチュームも東光特等少年院の制服とガウン＆トランクス付き！ これ見てつらい鍛錬に耐えろ。お問い合わせは、1／6計画 03-5489-3495まで

＜メディコム・トイ提供＞

©高森朝雄・ちばてつや／講談社

［対象年齢10歳以上］



OH! MY GOD HAND!

●『空手バカ一代』LDボックス パーフェクト・コレクション 1名

故・大山倍達総裁をモデルにした故・梶原一騎原作のＴＶアニメ『空手バカ一代』がＬＤで甦った！ 全12枚で全47話を収録している。そしてボックス裏面には等身大（？）ゴッド・ハンドが！ 本誌武闘派カメラマン・松永源さんも絶賛！ 定価72000円（税抜）で発売中！ 発売元：（株）メディコス お問い合わせは、メディコス 03-5410-2504まで

＜メディコス提供＞





©梶原一騎・つのだじろう／講談社・東京ムービー新社

今年もよろしく！ ダイエットブッチャーです！

●脳天砕きスウェットパンツ 1名

●格闘愛パーカー 2名

ダイエットブッチャースリムスキン（以下、ＤＢＳＳ）よりお知らせ！「ＤＢＳＳをご愛用して頂きありがとうございます。以前、ＢＡＣＫ ＤＲＯＰ ＢＯＭＢ ＵＮＩＶＥＲＳＩＴＹというカレッヂトレーナーを販売致しましたが、パンクバンドのＢＡＣＫ ＤＲＯＰ ＢＯＭＢとは一切関係ありません。プロレスがモチーフです。十分お気を付け下さい。プロレスファンの方々、お買い求め下さった方々も安心して着て下さい」とのことです。

＜ダイエットブッチャースリムスキン提供＞



元気ですかーッ！

●カタブツ君の空手着

●のものも披露宴の引出物 各1名

失踪した中村カタブツ君（34歳）と結婚したのものもから、読者のみなさんにおみやげです。胴着はvsもてぴょんのときに着てたもの。引き出物は特大から特小までいろんなサイズのタオルの詰め合わせ。どっちも鬼レア！

＜のものも＆カタブツ提供＞





好評すぎてすいません！ 毎度おなじみバンバンビガロ

●新作Ｔシャツ 各1名

右上からプリンス・トンガ（元プリ）、小鉄のスクワット（とりあえず千回）、ザンギエフ（ビクトルデスロック・リターンズ）、右下は国際軍団、ハンセン＆ブロディのＴシャツで〜す。相変わらず反則ギリギリのデザインが光ってますね。「どーしても欲しい！」という人は、お店で買ってください！ お問い合わせは、バンバンビガロ 03-3460-1145まで。

＜バンバンビガロ提供＞



元気です

プレゼントを通じて

濃い！ そして熱い！

●悶絶！ プロレス 秘宝館Vol.2 3名

本誌・吉田豪が企画段階から関わった、試合の話やレスラーが一切登場しない壮絶なプロレス本。1500円（税抜）で絶賛発売中！

＜バーン・コーポレーション提供＞



活字カマキリ拳法！

●関根勤の平成格闘王列伝 3名

格闘技フリークの関根勤が平成の格闘家18人と対談する単行本。リングス勢、パンクラス勢も登場。1200円（税抜）で発売中！

＜スコラ提供＞



野蛮人になりたい君にオススメ！

●エンセン井上トレーナー 各1名

今号に登場したエンセン井上が「これ、プレゼントね」とくれたトレーナーを放出！ 柔術バージョンと修斗くんバージョンがあります。どっちを希望か忘れずに書いてね！

〈エンセン井上さん提供〉



健全な魂は健全な肉体に宿る！



●女性ボディビルダーフィギュア 2名

レスリング世界選手権で優勝した浜口京子ちゃんも、数年前にはボディビルをやってましね。京子ちゃんとこのフィギュアは一切関係ありませんが。この女性ボディビルダーフィギュア（定価5200円）を2名にプレゼント！ どうしても欲しい人は通販もやってます！ お問い合わせは、サブ・ゼロ 03-3865-0732まで。

〈サブ・ゼロ提供〉

バックにクッションに大変身！

●クッションバッグ 5名

ＡＭ神戸で毎週金曜日20時〜21時に絶賛放送中の『電波プロレス ＷＣＲ』のロゴ入りクッションが登場！ バッグにもなるスグレもの！

＜ＡＭ神戸提供＞



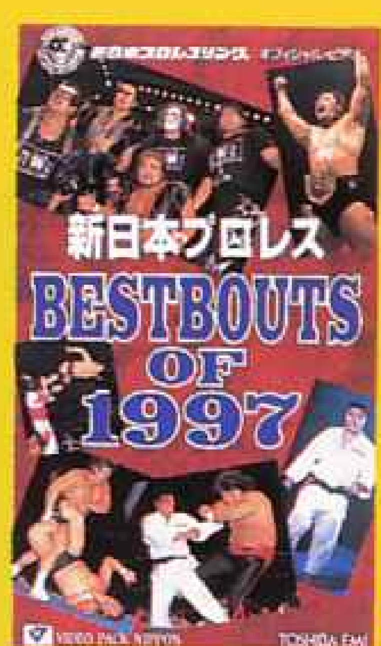
応募券8号というか

●5団体4大会場決戦『激突』2名



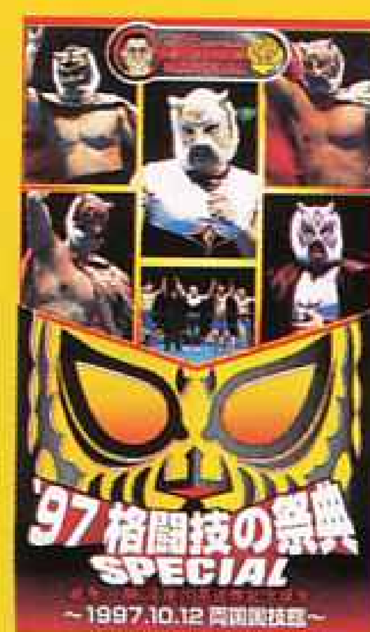
FMW×ZEN×ECW×冬木軍×米版F・M・Wが昨年末に激突した模様を収録。12・19の大仁田厚vs田中将斗も収録！ 話題です！
<東芝EMI提供>

●新日本プロレス BEST BOUTS OF 1997 2名



設立25周年でビックイベントが目白押しだった新日。その中から厳選36試合を収録。初ビデオ化の試合も多数！
<東芝EMI提供>

●梶原一騎没後10年追悼記念 '97格闘技の祭典SPECIAL 2名



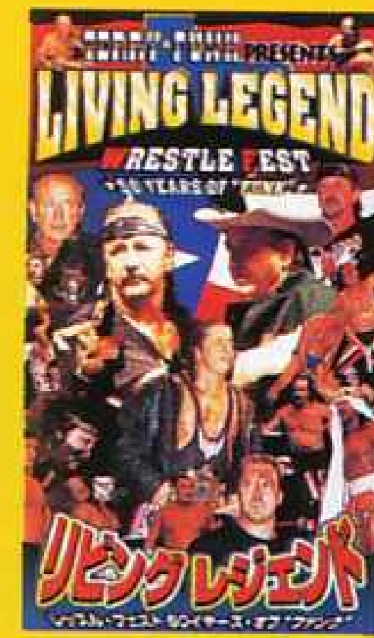
今世紀最後のドリームマッチ、「タイガーマスクフェスティバル」を完全ノーカット収録！ 藤原vs佐山も必見！
<東芝EMI提供>

●サスケからダイオキシン ～97・10・10両国国技館～ 2名



サスケとTAKAの因縁のシングル対決他、みちプロ両国大会をノーカット収録。リムジン破壊事件も完全収録！
<東芝EMI提供>

●テリー・ファンク プレゼンツ リビングレジェンド 2名



テリーが聖地アマリロで行った最後の自主興行。vsブレッド・ハートのWWFタイトルマッチ他を収録。かなり大好評！
<東芝EMI提供>

トリプル記念だ！
アントン引退&邪道姫入籍&のも姉さん結婚
スペシャル・ビッグ・プレゼント
by東芝EMI

●新日本プロレスセレクション'97 PART1&PART2セットで2名

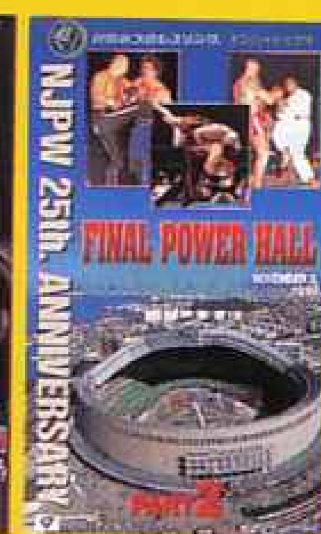




昨年は健介が大躍進した新日本。その昨年の試合の中から厳選した名勝負のタイトルマッチ&ビッグマッチをノーカットで収録。引退した長州の勇姿も多数収録！
<東芝EMI提供>

●FINAL POWER HALL in FUKUOKA DOME PART1&PART2セットで2名





昨年の新日本ドームツアーのファイナルを飾った福岡ドーム大会。長州vs健介なんて、涙なしには見れません。小川、山崎、破壊王の異種格闘技3連戦も収録！ 通だねぇ～
<東芝EMI提供>

●Ore！（オーレ！）10代のアイドル戦士たち



女子プロ界の金の卵たちがオールスターで登場！ セクシーあり、ボケあり、パジャマトークありっちゅー感じで嬉しい1本！ 千春の通学風景は必見！
<東芝EMI提供>

男なら一度は巻きたいIWGP

●IWGP列伝PART-7 1名



平成7年10月9日の高田vs武藤から平成9年5月3日の橋本vs小川までプロレスの意義を世に問う試合を多数収録！ その間にベルトのデザインも変わってます。
<ヴァリス提供>

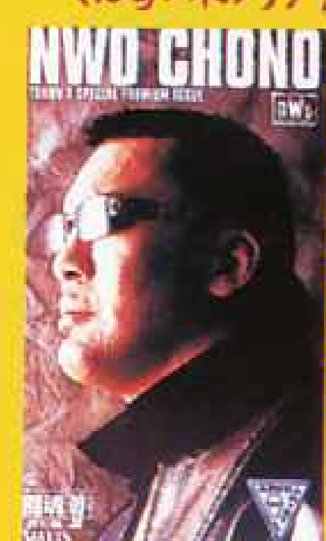
「坂口はノートン倒してみろ！」(by蝶野)記念

●闘魂Vスペシャル特別編 蝶野からnWo蝶野へ 3名



サブタイトルは「白から黒への変遷」。ヤングライオン時代から白タイツそして、黒い蝶野への変遷を収めた1本。120分とボリュームたっぷり！
<ヴァリス提供>

●闘魂Vスペシャル特別編『nWo蝶野』特集 1名



97年プロレス大賞のMVP・蝶野がドイツCWAに参戦した模様を密着取材！ プライベート映像とインタビューそして西村との密談の模様も独占収録！
<ヴァリス提供>

祝！ 全日5・1ドーム大会開催記念！

●全日本プロレス中継メモリアルファイトコレクション『激闘'97総集編』1名



97年に行われた三冠戦と世界タッグ戦をダイジェスト収録。過激なプロレスで、人間の限界に挑戦し続ける全日本・珠玉の名勝負の数々が甦る！
<バップ提供>

●全日本プロレス中継30コンプリートコレクション'97世界最強タッグ決定リーグ戦スペシャルハイライト 1名



ウルフ&スミス組、ハヤブサ&人生組、ブラックジャックスなど、初参戦のチームが大活躍！ <バップ提供>

欲しいやんけ！ でしょ？

●DVDソフト『RINGS WORLDMEGA-BATTLE TOURNAMENT 1997 1stROUND』2名



恒例のRINGSトーナメント1回戦8試合を完全収録。DVDだと試合が多角的に見れるだけでなく、試合の完全収録も可能。高阪&長井の解説も収録！
<パナソニック デジタル コンテンツ提供>

みんな仲良し！

●DVDソフト福岡晶スペシャル『La Fiesta』2名



前回キューティー特集も大好評のJWPのDVDシリーズ。今回は福岡。セブ島を舞台に迷宮のような物語が展開する！ シャワーシーンも見られるとか……
<パナソニック デジタル コンテンツ提供>

今年もやります！

●ドキュメント完全検証版『PRIDE-1の証明』3名



高田vsヒクソンの試合を両者のコメントを交えつつ振り返る検証ビデオ。ホイスなどの証言も収録。「今年こそは！」と思えるビデオ。
<メディアファクトリー/KRS>

応募方法

50 151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
「紙プロ」編集部
「電車でドン！」係まで

応募券
1.住所
2.氏名 3.年齢
4.希望商品
5.面白かった記事&理由
6.つまらなかった記事&理由
7.好きなプロレス団体
8.好きなレスラー
9.月刊化は是か？ 非か？
10.好きな関係者&嫌いな関係者を1名づつ（現役レスラーは除く）
11.やってほしい企画

住所、氏名、年齢、ご希望の商品、面白かった記事&理由、つまらなかった記事&理由、好きな団体、レスラー、月刊化は是か？ 非か？、好きな関係者&嫌いな関係者を1名づつ（現役レスラーは除く）、やってほしい企画を明記し、応募券を貼付して上記宛てに送ってください。締切は3月24日（当日消印有効）
※応募券のないものは無効となります

紙のプロレス RADICAL
No.8
1998年3月25日発行
定価：本体648円+税

発売元：株式会社ワニマガジン社
〒160-0014 東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03－3357－2911（販売・営業）
発行元：株式会社ダブルクロス
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03－3403－5188（編集・制作）

編集兼発行人：山口昇
編集スタッフ：坂井ノブ／松澤チョロQ／吉田豪／八木賢太郎（プリクラを撮るので非番）
デザイン：ツースリー（出田さん、村松さん、ヒサくん、マツ、出前持ち入江、古川ふるーる）
カメラマン：斉藤ユーリ／浜田孝一／戸成ぶつぞう／松永源さん
お勘定：林ヘックション一枝
捕獲：中村カタブツ君（もうすぐ35歳）
フィニッシュ：ツー・スリー
印刷：図書印刷株式会社

編集内容等に関するお問い合せは（株）ダブルクロスにね♥

紙のプロレス RADICAL
No.9は
4月下旬
発売予定
※地域によっては多少発売が遅れます

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK (67)
1998 No.8
格闘技世界大戦、前夜!!
平成10年3月25日発行　編集発行人／山口昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-0014 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体648円＋税

9784898295786
ISBN4-89829-578-9
C9476 ¥648E
雑誌　69861-67
©DOUBLECROSS 1998 Printed in Japan
印刷：図書印刷株式会社
1929476006486